

外国語学部 英米学科 (2006年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	日本文学 (読替科目: 文学を読む) 岩本 真理子 他	1学期	1	2	337
		1年			
	中国の漢字と文学 未定	2学期	1	2	
		1年			
	中国の人と文学 未定	1学期	1	2	
		1年			
	西洋史 (読替科目: 西洋史) 疇谷 憲洋	1学期	1	2	353
		1年			
	地中海世界の歴史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	1
		1年			
	東洋史 (読替科目: 東洋史) 内田 直文	2学期	1	2	354
		1年			
	日本史 (読替科目: 日本史) 内山 一幸	2学期	1	2	352
		1年			
	女性史 富安 兆子	2学期	1	2	2
		1年			
	女性と社会 (読替科目: ジェンダー論) 力武 由美	1学期	1	2	341
	1年				
哲学入門 (読替科目: 倫理学) 伊原木 大祐	2学期	1	2	357	
	1年				
哲学の諸問題 堺 正憲	2学期	1	2	3	
	1年				
倫理学原論 (読替科目: 現代社会と倫理) 伊原木 大祐	1学期	1	2	346	
	1年				
応用倫理学 (読替科目: 現代正義論) 重松 博之	2学期	1	2	338	
	1年				
文化と社会 (読替科目: 人間と文化) 重信 幸彦	1学期	1	2	299	
	1年				
人権の歴史 (読替科目: 民主主義とは何か) 中道 壽一	1学期	1	2	339	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	人権と社会 (読替科目：人権論) 柳井 美枝	1学期	1	2	340
	1年				
	現代と思想 (読替科目：思想と現代) 伊原木 大祐	1学期	1	2	336
	1年				
	経済と社会 (読替科目：グローバル化する経済) 前田 淳 他	1学期	1	2	350
	1年				
	現代社会と経営 (読替科目：企業と社会) 山岡 敏秀	1学期	1	2	345
	1年				
	社会学の考え方 (読替科目：社会学) 稲月 正	1学期	1	2	355
	1年				
	現代社会の解説 (読替科目：現代社会の諸問題) 山本 光英 他	2学期	1	2	347
	1年				
	社会生活と法 柴田 滋	2学期	1	2	4
	1年				
	市民と法 (読替科目：法律の読み方) 小野 憲昭 他	2学期	1	2	312
	1年				
	現代日本の政治 松田 憲忠	2学期	1	2	5
	1年				
	大衆化と政治 (読替科目：市民活動論) 西田 心平	2学期	1	2	344
	1年				
日本国憲法概論 (読替科目：日本国憲法) 植木 淳	2学期	1	2	356	
1年					
国際学入門 (読替科目：国際学入門) 伊野 憲治	1学期	1	2	300	
1年					
現代の国際関係 (読替科目：国際紛争と国連) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	349	
1年					
政策の構想 中道 壽一	2学期	1	2	6	
1年					
まちづくり論 古賀 哲矢	2学期	1	2	7	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	地域開発 三宅 博之	1学期	1	2	8
		1年			
	くらしの中の化学物質 (読替科目：くらしと化学) 竹之下 芳也	2学期	1	2	334
		1年			
	地球...その生いたち (読替科目：地球の生いたち) 長井 孝一	2学期	1	2	332
		1年			
	地球と生命 (読替科目：自然史へのいざない) 重信 幸彦 他	2学期	1	2	333
		1年			
	現代人のこころ (読替科目：現代人のこころ) 小松 佐穂子	1学期	1	2	335
		1年			
	遺伝と生命 山根 明弘	2学期	1	2	9
		1年			
	薬とくらし 森 正明	2学期	1	2	10
		1年			
	栄養とくらし (読替科目：自己管理論)	2学期	1	2	307
		1年			
	自然と社会の共生論 (読替科目：自然学のまなざし) 竹川 大介 他	1学期	1	2	331
		1年			
	国際社会と日本 (読替科目：国際社会と日本) 中野 博文	1学期	1	2	351
		1年			
現代世界の展望 (読替科目：現代の国際情勢) 金 鳳珍	1学期	1	2	348	
	1年				
支えあう世の中 (読替科目：共生の作法) 山本 光英 他	2学期	1	2	342	
	1年				
北九州を知る (読替科目：北九州学) 小野 憲昭	2学期	1	2	343	
	1年				
キャリアデザイン (将来設計と学生生活) (読替科目：キャリア・デザイン) 眞鍋 和博	1学期	1	2	308	
	1年				
キャリアデザイン (将来設計と学生生活) (読替科目：キャリア・デザイン) 見館 好隆	1学期	1	2	309	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	キャリアデザイン (将来設計と学生生活) (読替科目 : キャリア・デザイン) 真鍋 和博	1学期	1	2	310
	1年				
	キャリアデザイン (将来設計と学生生活) (読替科目 : キャリア・デザイン) 見館 好隆	1学期	1	2	311
	1年				
■情報処理教育科目	情報処理基礎 中尾 泰士	2学期	1	2	11
	1年				
	ネットワーク通信 廣渡 栄寿	1学期	1	2	12
	1年				
■健康管理教育科目	スポーツ科学 (読替科目 : フィジカル・ヘルスII) 高西 敏正	2学期	1	1	301
	1年				
	スポーツ科学 (読替科目 : フィジカル・ヘルスII) 高西 敏正	2学期	1	1	302
	1年				
	スポーツ科学 (読替科目 : フィジカル・ヘルスII) 徳永 政夫	2学期	1	1	303
	1年				
	スポーツ科学 (読替科目 : フィジカル・ヘルスII) 徳永 政夫	2学期	1	1	304
	1年				
	スポーツ科学 (読替科目 : フィジカル・ヘルスII) 加倉井 美智子	2学期	1	1	305
	1年				
	スポーツ科学 (読替科目 : フィジカル・ヘルスII) 加倉井 美智子	2学期	1	1	306
	1年				
	生涯スポーツI (サッカー) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI (サッカー)) 磯貝 浩久	1学期	1	1	313
	1年				
生涯スポーツI (テニス) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI (テニス)) 原田 守治	1学期	1	1	314	
1年					
生涯スポーツI (バスケットボール) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI (バスケットボール)) 原田 守治	1学期	1	1	315	
1年					
生涯スポーツI (バドミントン) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 美山 泰教	1学期	1	1	316	
1年					
生涯スポーツI (バレーボール) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI (バレーボール)) 美山 泰教	1学期	1	1	317	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■健康管理教育科目	生涯スポーツI (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 鯨 吉夫	1学期	1	1	318
		1年			
	生涯スポーツI (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 鯨 吉夫	1学期	1	1	319
		1年			
	生涯スポーツI (バレーボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バレーボール)) 高西 敏正	1学期	1	1	320
		1年			
	生涯スポーツI (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 徳永 政夫	1学期	1	1	321
		1年			
	生涯スポーツII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 磯貝 浩久	2学期	1	1	322
		1年			
	生涯スポーツII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 原田 守治	2学期	1	1	323
		1年			
	生涯スポーツII (バスケットボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)) 原田 守治	2学期	1	1	324
		1年			
	生涯スポーツII (バレーボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バレーボール)) 美山 泰教	2学期	1	1	325
		1年			
	生涯スポーツII (バレーボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バレーボール)) 美山 泰教	2学期	1	1	326
		1年			
	生涯スポーツII (サッカー) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (サッカー)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	327
		1年			
生涯スポーツII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	328	
	1年				
生涯スポーツII (サッカー) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (サッカー)) 磯貝 浩久	2学期	1	1	329	
	1年				
生涯スポーツII (女性のスポーツ) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ)) 加倉井 美智子	2学期	1	1	330	
	1年				
生涯スポーツIII 徳永 政夫	1学期	2	1	13	
	2年				
生涯スポーツIV 加倉井 美智子	2学期	2	1	14	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■留学生特別科目	日本語 A (読替科目 : 日本語 A) 小林 浩明	1学期 (ペア)	1	2	438
		留学生 1年			
	日本語 A (読替科目 : 日本語 A) 小林 浩明	1学期 (ペア)	1	2	439
		留学生 1年			
	日本語 B (読替科目 : 日本語 B) 則松 智子 他	1学期 (ペア)	1	2	440
		留学生 1年			
	日本語 C (読替科目 : 日本語 C) 小林 浩明 他	2学期 (ペア)	1	2	441
		留学生 1年			
	日本語 D (読替科目 : 日本語 D) 清水 順子 他	2学期 (ペア)	1	2	442
		留学生 1年			
	日本事情 (社会) A (読替科目 : 日本事情 (社会) A) 山崎 勇治	1学期	1	2	443
		留学生 1年			
日本事情 (社会) B (読替科目 : 日本事情 (社会) B) 山崎 勇治	2学期	1	2	444	
	留学生 1年				
■専門基礎教育科目	英語学概論 I (読替科目 : 英語学概論) 北峯 裕士	1学期	1	2	170
		1年			
	英語学概論 II (読替科目 : 英語史) 松崎 徹	2学期	1	2	229
		1年			
	英文法 I (読替科目 : 英文法 I) 田村 水幸	1学期	1	2	171
		1年			
	英文法 I (読替科目 : 英文法 I) 田村 水幸	1学期	1	2	172
		1年			
	英文法 II (読替科目 : 英文法 II) 野島 啓一	2学期	1	2	173
		1年			
	英文法 II (読替科目 : 英文法 II) 廣田 恵美	2学期	1	2	174
		1年			
英語文学概論 III (読替科目 : アメリカ文学概論) 新村 昭雄	1学期	1	2	156	
	1年				
英語文学概論 IV (読替科目 : アメリカの18-19世紀文学) 新村 昭雄	2学期	1	2	159	
	1年				

外国語学部 英米学科 (2006年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基礎教育科目 ■専門基礎教育科目	英米史概論I 久木 尚志	1学期	1	2	15
		1年			
	英米史概論II (読替科目 : アメリカの歴史と社会) 田宮 晴彦	1学期	1	2	160
		1年			
	英米史概論IV (読替科目 : アメリカの大衆文化) 前田 譲治	2学期	1	2	161
		1年			
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習	課題研究I クレイグ・ランバート	1・2学期 (ペア)	3	4	16
		3年			
	課題研究I 木下 善貞	1・2学期 (ペア)	3	4	17
		3年			
	課題研究I 吉川 哲郎	1・2学期 (ペア)	3	4	18
		3年			
	課題研究I 伊藤 健一	1・2学期 (ペア)	3	4	19
		3年			
	課題研究I 平野 圭子	1・2学期 (ペア)	3	4	20
		3年			
	課題研究I デニス・ジョーンズ	1・2学期 (ペア)	3	4	21
		3年			
	課題研究I 野島 啓一	1・2学期 (ペア)	3	4	22
		3年			
	課題研究I アダム・ヘイルズ	1・2学期 (ペア)	3	4	23
		3年			
課題研究I 北峯 裕士	1・2学期 (ペア)	3	4	24	
	3年				
課題研究I 山崎 和夫	1・2学期 (ペア)	3	4	25	
	3年				
課題研究I 木原 謙一	1・2学期 (ペア)	3	4	26	
	3年				
課題研究I 松田 智	1・2学期 (ペア)	3	4	27	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習	課題研究I ダニエル・ストラック	1・2学期(ペア)	3	4	28
		3年			
	課題研究I ロジャー・ウィリアムソン	1・2学期(ペア)	3	4	29
		3年			
	課題研究II 山崎 和夫	1・2学期(ペア)	4	4	30
		4年			
	課題研究II アダム・ヘイルズ	1・2学期(ペア)	4	4	31
		4年			
	課題研究II クレイグ・ランバート	1・2学期(ペア)	4	4	32
		4年			
	課題研究II 木下 善貞	1・2学期(ペア)	4	4	33
		4年			
	課題研究II ロジャー・ウィリアムソン	1・2学期(ペア)	4	4	34
		4年			
	課題研究II 吉川 哲郎	1・2学期(ペア)	4	4	35
		4年			
	課題研究II 松田 智	1・2学期(ペア)	4	4	36
		4年			
	課題研究II 伊藤 健一	1・2学期(ペア)	4	4	37
		4年			
課題研究II 野島 啓一	1・2学期(ペア)	4	4	38	
	4年				
課題研究II 北峯 裕士	1・2学期(ペア)	4	4	39	
	4年				
課題研究II デニス・ジョーンズ	1・2学期(ペア)	4	4	40	
	4年				
課題研究II ダニエル・ストラック	1・2学期(ペア)	4	4	41	
	4年				
課題研究II 木原 謙一	1・2学期(ペア)	4	4	42	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習	課題研究II - A (読替科目:異文化間コミュニケーションゼミBI) 山崎 和夫	1学期	4	2	273
		4年			
	課題研究II - A (読替科目:メディア英語ゼミBI) アダム・ヘイルズ	1学期	4	2	281
		4年			
	課題研究II - A (読替科目:英語教育ゼミBI) クレイグ・ランバート	1学期	4	2	285
		4年			
	課題研究II - A (読替科目:翻訳ゼミBI) 木下 善貞	1学期	4	2	277
		4年			
	課題研究II - A (読替科目:翻訳ゼミBI) ロジャー・ウィリアムソン	1学期	4	2	278
		4年			
	課題研究II - A (読替科目:メディア英語ゼミBI) 吉川 哲郎	1学期	4	2	282
		4年			
	課題研究II - A (読替科目:ビジネス英語ゼミBI) 松田 智	1学期	4	2	280
		4年			
	課題研究II - A (読替科目:通訳ゼミBI) 伊藤 健一	1学期	4	2	274
		4年			
	課題研究II - A (読替科目:通訳ゼミBI) 野島 啓一	1学期	4	2	275
		4年			
	課題研究II - A (読替科目:英語学ゼミBI) 北峯 裕士	1学期	4	2	284
		4年			
課題研究II - A (読替科目:アメリカ研究ゼミBI) デニス・ジョーンズ	1学期	4	2	283	
	4年				
課題研究II - A (読替科目:翻訳ゼミBI) ダニエル・ストラック	1学期	4	2	276	
	4年				
課題研究II - A (読替科目:イギリス研究ゼミBI) 木原 謙一	1学期	4	2	279	
	4年				
課題研究II - B (読替科目:異文化間コミュニケーションゼミBII) 山崎 和夫	2学期	4	2	286	
	4年				
課題研究II - B (読替科目:メディア英語ゼミBII) アダム・ヘイルズ	2学期	4	2	294	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習	課題研究II - B (読替科目 : 英語教育ゼミBII) クレイグ・ランバート	2学期	4	2	298
		4年			
	課題研究II - B (読替科目 : 翻訳ゼミBII) 木下 善貞	2学期	4	2	290
		4年			
	課題研究II - B (読替科目 : 翻訳ゼミBII) ロジャー・ウィリアムソン	2学期	4	2	291
		4年			
	課題研究II - B (読替科目 : メディア英語ゼミBII) 吉川 哲郎	2学期	4	2	295
		4年			
	課題研究II - B (読替科目 : ビジネス英語ゼミBII) 松田 智	2学期	4	2	293
		4年			
	課題研究II - B (読替科目 : 通訳ゼミBII) 伊藤 健一	2学期	4	2	287
		4年			
	課題研究II - B (読替科目 : 通訳ゼミBII) 野島 啓一	2学期	4	2	288
		4年			
	課題研究II - B (読替科目 : 英語学ゼミBII) 北峯 裕士	2学期	4	2	297
		4年			
課題研究II - B (読替科目 : アメリカ研究ゼミBII) デニス・ジョーンズ	2学期	4	2	296	
	4年				
課題研究II - B (読替科目 : 翻訳ゼミBII) ダニエル・ストラック	2学期	4	2	289	
	4年				
課題研究II - B (読替科目 : イギリス研究ゼミBII) 木原 謙一	2学期	4	2	292	
	4年				
課題研究I - A (読替科目 : 英語教育ゼミA1) クレイグ・ランバート	1学期	3	2	257	
	3年				
課題研究I - A (読替科目 : 翻訳ゼミA1) 木下 善貞	1学期	3	2	248	
	3年				
課題研究I - A (読替科目 : 翻訳ゼミA1) ロジャー・ウィリアムソン	1学期	3	2	249	
	3年				
課題研究I - A (読替科目 : 翻訳ゼミA1) ダニエル・ストラック	1学期	3	2	250	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習	課題研究I - A (読替科目 : メディア英語ゼミA1) 吉川 哲郎	1学期	3	2	252
		3年			
	課題研究I - A (読替科目 : 通訳ゼミA1) 伊藤 健一	1学期	3	2	246
		3年			
	課題研究I - A (読替科目 : 社会言語学ゼミA1) 平野 圭子	1学期	3	2	258
		3年			
	課題研究I - A (読替科目 : アメリカ研究ゼミA1) デニス・ジョーンズ	1学期	3	2	254
		3年			
	課題研究I - A (読替科目 : 通訳ゼミA1) 野島 啓一	1学期	3	2	247
		3年			
	課題研究I - A (読替科目 : メディア英語ゼミA1) アダム・ヘイルズ	1学期	3	2	253
		3年			
	課題研究I - A (読替科目 : 英語学ゼミA1) 北峯 裕士	1学期	3	2	256
		3年			
	課題研究I - A (読替科目 : 異文化間コミュニケーションゼミA1) 山崎 和夫	1学期	3	2	245
		3年			
課題研究I - A (読替科目 : イギリス研究ゼミA1) 木原 謙一	1学期	3	2	255	
	3年				
課題研究I - A (読替科目 : ビジネス英語ゼミA1) 松田 智	1学期	3	2	251	
	3年				
課題研究I - B (読替科目 : 英語教育ゼミAII) クレイグ・ランバート	2学期	3	2	271	
	3年				
課題研究I - B (読替科目 : 翻訳ゼミAII) 木下 善貞	2学期	3	2	262	
	3年				
課題研究I - B (読替科目 : 翻訳ゼミAII) ロジャー・ウィリアムソン	2学期	3	2	263	
	3年				
課題研究I - B (読替科目 : 翻訳ゼミAII) ダニエル・ストラック	2学期	3	2	264	
	3年				
課題研究I - B (読替科目 : メディア英語ゼミAII) 吉川 哲郎	2学期	3	2	266	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習	課題研究I - B (読替科目: 通訳ゼミAII) 伊藤 健一	2学期	3	2	260
	3年				
	課題研究I - B (読替科目: 社会言語学ゼミAII) 平野 圭子	2学期	3	2	272
	3年				
	課題研究I - B (読替科目: アメリカ研究ゼミAII) デニス・ジョーンズ	2学期	3	2	268
	3年				
	課題研究I - B (読替科目: 通訳ゼミAII) 野島 啓一	2学期	3	2	261
	3年				
	課題研究I - B (読替科目: メディア英語ゼミAII) アダム・ヘイルズ	2学期	3	2	267
3年					
課題研究I - B (読替科目: 英語学ゼミAII) 北峯 裕士	2学期	3	2	270	
3年					
課題研究I - B (読替科目: 異文化間コミュニケーションゼミAII) 山崎 和夫	2学期	3	2	259	
3年					
課題研究I - B (読替科目: イギリス研究ゼミAII) 木原 謙一	2学期	3	2	269	
3年					
課題研究I - B (読替科目: ビジネス英語ゼミAII) 松田 智	2学期	3	2	265	
3年					
■専攻外国語	Reading ComprehensionI (読替科目: 英語I) 安丸 雅子	1学期	1	1	358
	1 - 4				
	Reading ComprehensionI (読替科目: 英語I) 渡邊 嘉則	1学期	1	1	359
	1 - 3				
	Reading ComprehensionI (読替科目: 英語I) 杉山 智子	1学期	1	1	360
	1 - 2				
	Reading ComprehensionI (読替科目: 英語I) 伊藤 晃	1学期	1	1	361
1 - 1					
Reading ComprehensionII (読替科目: 英語III) ホセ・クルーズ	1学期	1	1	366	
1 - 1					
Reading ComprehensionII (読替科目: 英語III) デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	367	
1 - 2					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	Reading ComprehensionII (読替科目 : 英語III) ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	368
		1 - 3			
	Reading ComprehensionII (読替科目 : 英語III) ケネス・ギブソン	1学期	1	1	369
		1 - 4			
	CompositionI (読替科目 : 英作文演習 A) 山口 実	2学期	1	1	166
		1 - 1			
	CompositionI (読替科目 : 英作文演習 A) 山口 実	2学期	1	1	167
		1 - 2			
	CompositionI (読替科目 : 英作文演習 A) 山口 実	2学期	1	1	168
		1 - 3			
	CompositionI (読替科目 : 英作文演習 A) 山口 実	2学期	1	1	169
		1 - 4			
	Listening ComprehensionI (読替科目 : 英語リスニング演習 A) 平野 圭子	1学期	1	1	176
		1 - 1			
	Listening ComprehensionI (読替科目 : 英語リスニング演習 A) 平野 圭子	1学期	1	1	177
		1 - 2			
	Listening ComprehensionI (読替科目 : 英語リスニング演習 A) 平野 圭子	1学期	1	1	178
		1 - 3			
Listening ComprehensionI (読替科目 : 英語リスニング演習 A) 平野 圭子	1学期	1	1	179	
	1 - 4				
English for CommunicationI (読替科目 : 英会話演習 A) アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	162	
	1 - 1				
English for CommunicationI (読替科目 : 英会話演習 A) アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	163	
	1 - 2				
English for CommunicationI (読替科目 : 英会話演習 A) アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	164	
	1 - 3				
English for CommunicationI (読替科目 : 英会話演習 A) アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	165	
	1 - 4				
Reading ComprehensionIII (読替科目 : 英語II) Stephanie A.Houghton	2学期	1	1	362	
	1 - 1				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	Reading ComprehensionIII (読替科目 : 英語II) 渡邊 嘉則	2学期	1	1	363
		1 - 2			
	Reading ComprehensionIII (読替科目 : 英語II) 伊藤 晃	2学期	1	1	364
		1 - 3			
	Reading ComprehensionIII (読替科目 : 英語II) 杉山 智子	2学期	1	1	365
		1 - 4			
	Reading ComprehensionIV (読替科目 : 英語IV) ホセ・クルーズ	2学期	1	1	370
		1 - 1			
	Reading ComprehensionIV (読替科目 : 英語IV) デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	371
		1 - 2			
	Reading ComprehensionIV (読替科目 : 英語IV) ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	372
		1 - 3			
	Reading ComprehensionIV (読替科目 : 英語IV) ケネス・ギブソン	2学期	1	1	373
		1 - 4			
	CompositionII (読替科目 : 英作文演習B) アンデリユー・ジッツマン	2学期	1	1	207
		1 - 1			
	CompositionII (読替科目 : 英作文演習B) アンデリユー・ジッツマン	2学期	1	1	208
		1 - 2			
	CompositionII (読替科目 : 英作文演習B) アンデリユー・ジッツマン	2学期	1	1	209
		1 - 3			
CompositionII (読替科目 : 英作文演習B) アンデリユー・ジッツマン	2学期	1	1	210	
	1 - 4				
Listening ComprehensionII (読替科目 : 英語リスニング演習B) 大塚 由美子	1学期	1	1	196	
	1 - 1				
Listening ComprehensionII (読替科目 : 英語リスニング演習B) 廣田 恵美	1学期	1	1	197	
	1 - 2				
Listening ComprehensionII (読替科目 : 英語リスニング演習B) 山口 実	1学期	1	1	198	
	1 - 3				
Listening ComprehensionII (読替科目 : 英語リスニング演習B) 山口 実	1学期	1	1	199	
	1 - 4				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	English for CommunicationII (読替科目 : 英会話演習 B) デニス・ ウールブライト	2学期	1	1	180
		1 - 1			
	English for CommunicationII (読替科目 : 英会話演習 B) デニス・ ウールブライト	2学期	1	1	181
		1 - 2			
	English for CommunicationII (読替科目 : 英会話演習 B) デニス・ ウールブライト	2学期	1	1	182
		1 - 3			
	English for CommunicationII (読替科目 : 英会話演習 B) トリスタン・ ファー・ ショールズ	2学期	1	1	183
		1 - 4			
	Reading and DiscussionI (読替科目 : 英語V) 船方 浩子	1学期	2	1	374
		2 - 1			
	Reading and DiscussionI (読替科目 : 英語V) 渡邊 嘉則	1学期	2	1	375
		2 - 2			
	Reading and DiscussionI (読替科目 : 英語V) 葛西 宏信	1学期	2	1	376
		2 - 3			
	Reading and DiscussionI (読替科目 : 英語V) 永末 康介	1学期	2	1	377
		2 - 4			
	Reading and DiscussionII (読替科目 : 英語VII) デビット・ ニール・ マクレラン	1学期	2	1	382
		2 - 1			
	Reading and DiscussionII (読替科目 : 英語VII) アルバート・ オスカー・ モウ	1学期	2	1	383
		2 - 2			
Reading and DiscussionII (読替科目 : 英語VII) ダンカン・ ウォトリイ	1学期	2	1	384	
	2 - 3				
Reading and DiscussionII (読替科目 : 英語VII) アレクサンダー・ ボードナー	1学期	2	1	385	
	2 - 4				
CompositionIII (読替科目 : 日英翻訳演習) ダニエル・ ストラック	1学期	2	1	184	
	2 - 3				
CompositionIII (読替科目 : 日英翻訳演習) ダニエル・ ストラック	1学期	2	1	185	
	2 - 2				
CompositionIII (読替科目 : 日英翻訳演習) ダニエル・ ストラック	1学期	2	1	186	
	2 - 1				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	CompositionIII (読替科目 : 日英翻訳演習) ダニエル・ストラック	1学期	2	1	187
		2 - 4			
	Research and DiscussionI (読替科目 : Reading and Discussion I) クレイグ・ランバート	1学期	2	1	188
		2 - 1			
	Research and DiscussionI (読替科目 : Reading and Discussion I) クレイグ・ランバート	1学期	2	1	189
		2 - 2			
	Research and DiscussionI (読替科目 : Reading and Discussion I) 石井有希子	1学期	2	1	190
		2 - 3			
	Research and DiscussionI (読替科目 : Reading and Discussion I) 石井有希子	1学期	2	1	191
		2 - 4			
	Research and DiscussionII (読替科目 : Reading and Discussion II) クレイグ・ランバート	2学期	2	1	192
		2 - 1			
	Research and DiscussionII (読替科目 : Reading and Discussion II) クレイグ・ランバート	2学期	2	1	193
		2 - 3			
	Research and DiscussionII (読替科目 : Reading and Discussion II) 石井有希子	2学期	2	1	194
		2 - 2			
	Research and DiscussionII (読替科目 : Reading and Discussion II) 石井有希子	2学期	2	1	195
		2 - 4			
Reading and DiscussionIII (読替科目 : 英語VI) ダンカン・ウォトリイ	2学期	2	1	378	
	2 - 1				
Reading and DiscussionIII (読替科目 : 英語VI) 渡邊 嘉則	2学期	2	1	379	
	2 - 2				
Reading and DiscussionIII (読替科目 : 英語VI) 永末 康介	2学期	2	1	380	
	2 - 3				
Reading and DiscussionIII (読替科目 : 英語VI) 葛西 宏信	2学期	2	1	381	
	2 - 4				
Reading and DiscussionIV (読替科目 : 英語VIII) デビット・ニール・マクレラン	2学期	2	1	386	
	2 - 1				
Reading and DiscussionIV (読替科目 : 英語VIII) アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	387	
	2 - 2				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	Reading and DiscussionIV (読替科目 : 英語VIII) ダンカン・ウォトリイ	2学期	2	1	388
		2 - 3			
	Reading and DiscussionIV (読替科目 : 英語VIII) アレクサンダー・ボードナー	2学期	2	1	389
		2 - 4			
	CompositionIV 山内 ひさ子	2学期	2	1	43
		2 - 1			
	Research and DiscussionIII (読替科目 : Advanced Reading and Discussion) デニス・ジョーンズ	2学期	2	1	241
		2 - 1			
	Research and DiscussionIII (読替科目 : Advanced Reading and Discussion) デニス・ジョーンズ	2学期	2	1	242
		2 - 2			
	Research and DiscussionIII (読替科目 : Advanced Reading and Discussion) デニス・ジョーンズ	2学期	2	1	243
		2 - 3			
	Research and DiscussionIV (読替科目 : 英語プレゼンテーション演習) 木原 謙一	1学期	2	1	234
		2 - 1			
	Research and DiscussionIV (読替科目 : 英語プレゼンテーション演習) 木原 謙一	1学期	2	1	235
		2 - 2			
	Research and DiscussionIV (読替科目 : 英語プレゼンテーション演習) ロジャー・ウィリアムソン	1学期	2	1	236
		2 - 3			
	Research and DiscussionIV (読替科目 : 英語プレゼンテーション演習) ロジャー・ウィリアムソン	1学期	2	1	237
		2 - 4			
原書講読演習I (読替科目 : 英語リーディング演習I) 木下 善貞	1学期	3	2	204	
	3年				
原書講読演習I (読替科目 : 英語リーディング演習I) 木下 善貞	1学期	3	2	205	
	3年				
原書講読演習I (読替科目 : 英語リーディング演習I) 田吹 長彦	1学期	3	2	206	
	3年				
通訳入門I (読替科目 : 通訳基礎演習I) 伊藤 健一	1学期	3	2	219	
	3年				
通訳入門I (読替科目 : 通訳基礎演習I) 伊藤 健一	1学期	3	2	220	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	通訳入門I (読替科目：通訳基礎演習I) 津田 晶子	1学期	3	2	221
	3年				
	通訳入門I (読替科目：通訳基礎演習I) 津田 晶子	1学期	3	2	222
	3年				
	ビジネス英語演習I (読替科目：ビジネス英語研究) 松田 智	1学期	3	2	244
	3年				
	プロジェクト・ワーク (演習と講義) I (読替科目：英語スピーキング演習) デニス・ウールブライト	1学期	3	2	200
	3年				
	プロジェクト・ワーク (演習と講義) I (読替科目：英語スピーキング演習) デニス・ウールブライト	1学期	3	2	201
	3年				
	プロジェクト・ワーク (演習と講義) I (読替科目：英語スピーキング演習) デニス・ウールブライト	1学期	3	2	202
	3年				
	プロジェクト・ワーク (演習と講義) I (読替科目：英語スピーキング演習) トリスタン・ファー・ショールズ	1学期	3	2	203
	3年				
	原書講読演習II (読替科目：英語リーディング演習II) 木下 善貞	2学期	3	2	238
	3年				
	原書講読演習II (読替科目：英語リーディング演習II) 木下 善貞	2学期	3	2	239
	3年				
原書講読演習II (読替科目：英語リーディング演習II) 田吹 長彦	2学期	3	2	240	
3年					
通訳入門II (読替科目：通訳基礎演習II) 伊藤 健一	2学期	3	2	223	
3年					
通訳入門II (読替科目：通訳基礎演習II) 伊藤 健一	2学期	3	2	224	
3年					
通訳入門II (読替科目：通訳基礎演習II) 津田 晶子	2学期	3	2	225	
3年					
通訳入門II (読替科目：通訳基礎演習II) 津田 晶子	2学期	3	2	226	
3年					
プロジェクト・ワーク (演習と講義) II (読替科目：英日翻訳演習) 野島 啓一	2学期	3	2	215	
3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
		備考				
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	プロジェクト・ワーク (演習と講義) II (読替科目 : 英日翻訳演習) 野島 啓一	2学期	3	2	216	
		3年				
	プロジェクト・ワーク (演習と講義) II (読替科目 : 英日翻訳演習) 野島 啓一	2学期	3	2	217	
		3年				
	プロジェクト・ワーク (演習と講義) II (読替科目 : 英日翻訳演習) 村田 希巳子	2学期	3	2	218	
		3年				
	■兼修外国語	ドイツ語基礎I (読替科目 : ドイツ語I) 山下 哲雄	1学期	1	1	414
			英 1 年			
		ドイツ語基礎II (読替科目 : ドイツ語II) 山下 哲雄	2学期	1	1	415
		英 1 年				
ドイツ語基礎III (読替科目 : ドイツ語III) 山下 哲雄		1学期	1	1	416	
		英 1 年				
ドイツ語基礎IV (読替科目 : ドイツ語IV) 山下 哲雄		2学期	1	1	417	
		英 1 年				
ドイツ語中級I (読替科目 : ドイツ語V) 山下 哲雄		1学期	2	1	418	
		英 2 年				
ドイツ語中級II (読替科目 : ドイツ語VI) 山下 哲雄		2学期	2	1	419	
		英 2 年				
ドイツ語中級III (読替科目 : ドイツ語VII) 山下 哲雄		1学期	2	1	420	
		英 2 年				
ドイツ語中級IV (読替科目 : ドイツ語VIII) 山下 哲雄		2学期	2	1	421	
		英 2 年				
フランス語基礎I (読替科目 : フランス語I) 坂田 由紀	1学期	1	1	422		
	英 1 年					
フランス語基礎II (読替科目 : フランス語II) 坂田 由紀	2学期	1	1	423		
	英 1 年					
フランス語基礎III (読替科目 : フランス語III) 山下 広一	1学期	1	1	424		
	英 1 年					
フランス語基礎IV (読替科目 : フランス語IV) 山下 広一	2学期	1	1	425		
	英 1 年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■必修科目 ■兼修外国語	フランス語中級I (読替科目：フランス語V)	1学期	2	1	426
	中川 裕二	英 2 年			
	フランス語中級II (読替科目：フランス語VI)	2学期	2	1	427
	中川 裕二	英 2 年			
	フランス語中級III (読替科目：フランス語VII)	1学期	2	1	428
	山下 高之	英 2 年			
	フランス語中級IV (読替科目：フランス語VIII)	2学期	2	1	429
	山下 高之	英 2 年			
	スペイン語基礎I (読替科目：スペイン語I)	1学期	1	1	430
	青木 文夫	英 1 年			
	スペイン語基礎II (読替科目：スペイン語II)	2学期	1	1	431
	青木 文夫	英 1 年			
	スペイン語基礎III (読替科目：スペイン語III)	1学期	1	1	432
	辻 博子	英 1 年			
	スペイン語基礎IV (読替科目：スペイン語IV)	2学期	1	1	433
	辻 博子	英 1 年			
	スペイン語中級I (読替科目：スペイン語V)	1学期	2	1	434
	辻 光博	英 2 年			
	スペイン語中級II (読替科目：スペイン語VI)	2学期	2	1	435
	辻 光博	英 2 年			
スペイン語中級III (読替科目：スペイン語VII)	1学期	2	1	436	
辻 博子	英 2 年				
スペイン語中級IV (読替科目：スペイン語VIII)	2学期	2	1	437	
辻 博子	英 2 年				
ロシア語基礎I (読替科目：ロシア語I)	1学期	1	1	406	
芳之内 雄二	英 1 年				
ロシア語基礎II (読替科目：ロシア語II)	2学期	1	1	407	
芳之内 雄二	英 1 年				
ロシア語基礎III (読替科目：ロシア語III)	1学期	1	1	408	
ナタリア・シェスタコワ	英 1 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■兼修外国語	ロシア語基礎Ⅳ (読替科目:ロシア語Ⅳ) ナタリア・シェスタコーフ	2学期	1	1	409
		英 1 年			
	ロシア語中級Ⅰ (読替科目:ロシア語Ⅴ) 芳之内 雄二	1学期	2	1	410
		英 2 年			
	ロシア語中級Ⅱ (読替科目:ロシア語Ⅵ) 芳之内 雄二	2学期	2	1	411
		英 2 年			
	ロシア語中級Ⅲ (読替科目:ロシア語Ⅶ) ナタリア・シェスタコーフ	1学期	2	1	412
		英 2 年			
	ロシア語中級Ⅳ (読替科目:ロシア語Ⅷ) ナタリア・シェスタコーフ	2学期	2	1	413
		英 2 年			
	朝鮮語基礎Ⅰ (読替科目:朝鮮語Ⅰ) 金 貞愛	1学期	1	1	398
		英 1 年			
	朝鮮語基礎Ⅱ (読替科目:朝鮮語Ⅱ) 金 貞愛	2学期	1	1	399
		英 1 年			
	朝鮮語基礎Ⅲ (読替科目:朝鮮語Ⅲ) 金 貞淑	1学期	1	1	400
		英 1 年			
	朝鮮語基礎Ⅳ (読替科目:朝鮮語Ⅳ) 金 貞淑	2学期	1	1	401
		英 1 年			
	朝鮮語中級Ⅰ (読替科目:朝鮮語Ⅴ) 金 貞愛	1学期	2	1	402
		英 2 年			
朝鮮語中級Ⅱ (読替科目:朝鮮語Ⅵ) 金 貞愛	2学期	2	1	403	
	英 2 年				
朝鮮語中級Ⅲ (読替科目:朝鮮語Ⅶ) 金 貞淑	1学期	2	1	404	
	英 2 年				
朝鮮語中級Ⅳ (読替科目:朝鮮語Ⅷ) 金 貞淑	2学期	2	1	405	
	英 2 年				
中国語基礎Ⅰ (読替科目:中国語Ⅰ) 板谷 秀子	1学期	1	1	390	
	英 1 年				
中国語基礎Ⅱ (読替科目:中国語Ⅱ) 板谷 秀子	2学期	1	1	391	
	英 1 年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■必修科目 ■兼修外国語	中国語基礎III (読替科目：中国語III) 正野 留加	1学期	1	1	392
		英 1 年			
	中国語基礎IV (読替科目：中国語IV) 正野 留加	2学期	1	1	393
		英 1 年			
	中国語中級I (読替科目：中国語V) 有働 彰子	1学期	2	1	394
		英 2 年			
	中国語中級II (読替科目：中国語VI) 有働 彰子	2学期	2	1	395
	英 2 年				
中国語中級III (読替科目：中国語VII) 馮 雅蓮	1学期	2	1	396	
	英 2 年				
中国語中級IV (読替科目：中国語VIII) 馮 雅蓮	2学期	2	1	397	
	英 2 年				
■選択科目 ■専門科目	英語学研究各論 B-II(統語論II) (読替科目：英語学研究II(統語論)) 北峯 裕士	2学期	2	2	228
		2 年			
	英語学研究各論 D-II(社会言語学研究II) (読替科目：社会言語学研究) 平野 圭子	2学期	2	2	230
		2 年			
	英語学研究各論 E-II(意味論II) (読替科目：異文化間コミュニケーション概論) 十時 康	2学期	2	2	175
		2 年			
	英語学研究各論 F-II(ビジネス英語研究II) (読替科目：ビジネス英語演習) 松田 智	2学期	2	2	211
		2 年			
	英語学研究各論 F-II(ビジネス英語研究II) (読替科目：ビジネス英語演習) 松田 智	2学期	2	2	212
	2 年				
英語学研究各論 F-II(ビジネス英語研究II) (読替科目：ビジネス英語演習) 松田 智	2学期	2	2	213	
	2 年				
英語学研究各論 F-II(ビジネス英語研究II) (読替科目：ビジネス英語演習) 松田 智	2学期	2	2	214	
	2 年				
英語学研究各論 G-I(音声学・音韻論研究I) (読替科目：英語学研究I(音声学・音韻論)) 山内 ひさ子	1学期	2	2	227	
	2 年				
英語学研究各論 A-I(イギリス小説研究I) (読替科目：イギリスの現代文学) 高本 孝子	1学期	2	2	157	
	2 年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■専門科目	英語文学研究各論C-II(アメリカ文学研究II) (読替科目:アメリカの現代文学) 前田 譲治	2学期	2	2	158
	2年				
	英語圏研究各論A-II(アメリカ研究II) (読替科目:アメリカ研究) ダニエル・ストラック	2学期	2	2	231
	2年				
	英語圏研究各論B-I(英国・アイルランド研究I) (読替科目:イギリス研究) 木原 謙一	1学期	2	2	232
	2年				
■関連科目	人類学概論 竹川 大介	2学期	1	2	44
	1年				
	比較文化概論 (読替科目:英米文化研究) 伊藤 健一	2学期	1	2	233
	1年				
	アメリカの政治外交II (読替科目:アメリカの政治III) 田宮 晴彦	1・2学期(ペア)	3	4	149
	3年				
	アメリカの政治外交II (読替科目:アメリカの政治IV) 田宮 晴彦	1・2学期(ペア)	3	4	150
	3年				
	アメリカ経済 (読替科目:アメリカ経済) 山崎 好裕	2学期	3	2	155
	3年				
	アメリカの社会 (読替科目:アメリカの社会I) 藤永 康政	1学期	3	2	148
	3年				
	中国の社会 堀地 明	1学期	3	2	45
	3年				
	比較中国思想 連 清吉 他	集中	3	2	46
	3年				
現代日本経済入門 前田 淳	1学期(ペア)	3	4	47	
3年					
現代日本経済入門 柳井 雅人	1学期(ペア)	3	4	48	
3年					
国際マクロ経済学 末永 勝昭	1・2学期(ペア)	3	4	49	
3年					
国際関係論I (読替科目:国際関係論I) 小尾 美千代	1学期	3	2	151	
3年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■関連科目	国際関係論II (読替科目: 国際関係論II) 藤井 大輔	2学期	3	2	152
		3年			
	国際貿易論 (読替科目: 国際貿易論I) 水戸 康夫	1・2学期(ペア)	3	4	153
		3年			
	国際貿易論 (読替科目: 国際貿易論II) 水戸 康夫	1・2学期(ペア)	3	4	154
		3年			
	国際機構論 山本 直	1・2学期(ペア)	3	4	50
		3年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	51
		1年			
	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	52
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	53
		1年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	54
		3年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	2	2	55
		2年			
	英語科教育法A 山崎 和夫	1学期	3	2	56
		3年			
	英語科教育法A 山崎 和夫	1学期	2	2	57
		2年			
英語科教育法A 山崎 和夫	1学期	3	2	58	
	3年				
英語科教育法B 山崎 和夫	2学期	3	2	59	
	3年				
英語科教育法B 山崎 和夫	2学期	2	2	60	
	2年				
英語科教育法B 山崎 和夫	2学期	3	2	61	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	道徳教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	62
		2年			
	道徳教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	63
		2年			
	特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	64
		2年			
	特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	65
		2年			
	教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	66
		2年			
	教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	67
		2年			
	教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	68
		2年			
	教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	69
		2年			
	生徒指導論 楠 凡之	2学期	2	2	70
		2年			
教職総合演習 楠 凡之 他	2学期	3	2	71	
	3年				
教育実習 1 黒田 耕司 他	2学期	3	2	72	
	3年				
教育実習 2 児玉 弥生 他	1学期	4	2	73	
	4年				
教育実習 3 児玉 弥生 他	1学期	4	2	74	
	4年				
教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	75	
	2年				
■選択科目	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	76
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■選択科目	発達心理学 税田 慶昭	1学期	1	2	77
		1年			
	教育心理学 柴村 馨	2学期	2	2	78
		2年			
	教育心理学 柴村 馨	2学期	1	2	79
		1年			
	教育法規 見玉 弥生	2学期	3	2	80
		3年			
	教育法規 見玉 弥生	2学期	2	2	81
		2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	82
		2年			
	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	83
		2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	西洋文学 杉本 美穂	1学期	1	2	84
		1年			
	中国の漢字と文学 未定	1学期	1	2	
		1年			
	中国の人と文学 未定	2学期	1	2	
		1年			
	西洋史 (読替科目：西洋史) 疇谷 憲洋	1学期	1	2	500
		1年			
	東洋史 (読替科目：東洋史) 内田 直文	2学期	1	2	501
		1年			
	日本史 (読替科目：日本史) 内山 一幸	2学期	1	2	499
		1年			
	哲学入門 (読替科目：倫理学) 伊原木 大祐	2学期	1	2	503
		1年			
	応用倫理学 (読替科目：現代正義論) 重松 博之	2学期	1	2	494
		1年			
	論理学入門 堺 正憲	2学期	1	2	85
		1年			
	論理学の展開 堺 正憲	2学期	1	2	86
	1年				
文化と社会 (読替科目：人間と文化) 重信 幸彦	1学期	1	2	488	
	1年				
経済学概論 田村 大樹	2学期	1	2	87	
	1年				
経済と社会 (読替科目：グローバル化する経済) 前田 淳 他	1学期	1	2	497	
	1年				
社会学の考え方 (読替科目：社会学) 稲月 正	1学期	1	2	502	
	1年				
現代社会の解読 (読替科目：現代社会の諸問題) 山本 光英 他	2学期	1	2	496	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	大衆化と政治 (読替科目：市民活動論) 西田 心平	2学期	1	2	495
		1年			
	国家と法 植木 淳	1学期	1	2	88
		1年			
	国際社会と法 二宮 正人	2学期	1	2	89
		1年			
	国際学入門 (読替科目：国際学入門) 伊野 憲治	1学期	1	2	489
		1年			
	企業活動と法 今泉 恵子	1学期	1	2	90
		1年			
	暮らしの中の化学物質 (読替科目：暮らしと化学) 竹之下 芳也	2学期	1	2	492
		1年			
	現代人のこころ (読替科目：現代人のこころ) 税田 慶昭	1学期	1	2	493
		1年			
人間と宇宙観 岡本 良治	2学期	1	2	91	
	1年				
自然と人間のエコロジー 真鍋 徹	2学期	1	2	92	
	1年				
自然と社会の共生論 (読替科目：自然学のまなざし) 日高 京子	1学期	1	2	491	
	1年				
国際社会と日本 (読替科目：国際社会と日本) 中野 博文	1学期	1	2	498	
	1年				
■情報処理教育科目	情報処理基礎 中尾 泰士	2学期	1	2	93
		1年			
■健康管理教育科目	生涯スポーツII (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 徳永 政夫	2学期	1	1	490
		1年			
■専門基礎教育科目	英語学概論I (読替科目：英語学概論) 北峯 裕士	1学期	1	2	453
		1年			
	英語学概論II (読替科目：英語史) 松崎 徹	2学期	1	2	466
		1年			

外国語学部 英米学科 (2006年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基礎教育科目 ■専門基礎教育科目	英文法I (読替科目: 英文法I) 田村 水幸	1学期	1	2	454
		1年			
	英語文学概論I (読替科目: イギリス文学概論) 田部井 世志子	1学期	1	2	449
		1年			
	英語文学概論II (読替科目: イギリスの18-19世紀文学) 杉本 美穂	2学期	1	2	450
		1年			
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習	課題研究I 野島 啓一	1・2学期(ペア)	3	4	94
		3年			
	課題研究I 木下 善貞	1・2学期(ペア)	3	4	95
		3年			
	課題研究I デニス・ジョーンズ	1・2学期(ペア)	3	4	96
		3年			
	課題研究I 平野 圭子	1・2学期(ペア)	3	4	97
		3年			
	課題研究II 北峯 裕士	1・2学期(ペア)	4	4	98
		4年			
	課題研究II 吉川 哲郎	1・2学期(ペア)	4	4	99
		4年			
	課題研究II ロジャー・ウィリアムソン	1・2学期(ペア)	4	4	100
		4年			
	課題研究II クレイグ・ランバート	1・2学期(ペア)	4	4	101
	4年				
課題研究II - A (読替科目: 英語学ゼミBI) 北峯 裕士	1学期	4	2	480	
	4年				
課題研究II - A (読替科目: メディア英語ゼミBI) 吉川 哲郎	1学期	4	2	481	
	4年				
課題研究II - A (読替科目: 翻訳ゼミBI) ロジャー・ウィリアムソン	1学期	3	2	482	
	4年				
課題研究II - A (読替科目: 英語教育ゼミBI) クレイグ・ランバート	1学期	3	2	483	
	4年				

外国語学部 英米学科 (2006年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習	課題研究II - B (読替科目 : 英語学ゼミBII) 北峯 裕士	2学期	4	2	484
	4年				
	課題研究II - B (読替科目 : メディア英語ゼミBII) 吉川 哲郎	2学期	4	2	485
	4年				
	課題研究II - B (読替科目 : 翻訳ゼミBII) ロジャー・ウィリアムソン	2学期	3	2	486
	4年				
	課題研究II - B (読替科目 : 英語教育ゼミBII) クレイグ・ランバート	2学期	3	2	487
	4年				
	課題研究I - A (読替科目 : 翻訳ゼミAI) 木下 善貞	1学期	3	2	472
	3年				
	課題研究I - A (読替科目 : 通訳ゼミAI) 野島 啓一	1学期	3	2	473
	3年				
	課題研究I - A (読替科目 : アメリカ研究ゼミAI) デニス・ジョーンズ	1学期	3	2	474
	3年				
	課題研究I - A (読替科目 : 社会言語学ゼミAI) 平野 圭子	1学期	3	2	475
3年					
課題研究I - B (読替科目 : 翻訳ゼミAII) 木下 善貞	2学期	3	2	476	
3年					
課題研究I - B (読替科目 : 通訳ゼミAII) 野島 啓一	2学期	3	2	477	
3年					
課題研究I - B (読替科目 : アメリカ研究ゼミAII) デニス・ジョーンズ	2学期	3	2	478	
3年					
課題研究I - B (読替科目 : 社会言語学ゼミAII) 平野 圭子	2学期	3	2	479	
3年					
■専攻外国語	Reading ComprehensionI (読替科目 : 英語I) 伊藤 晃	1学期	1	1	504
	1 - 5				
	Reading ComprehensionII (読替科目 : 英語III) アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	506
1 - 5					
	CompositionI (読替科目 : 英作文演習A) 吉川 哲郎	2学期	1	1	452
1年夜間主					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	Listening ComprehensionI (読替科目 : 英語リスニング演習 A) 平野 圭子	1学期	1	1	455
		1年夜間主			
	English for CommunicationI (読替科目 : 英会話演習 A) ロジャー・ウィリアムソン	1学期	1	1	451
		1年夜間主			
	Reading ComprehensionIII (読替科目 : 英語II) 杉山 智子	2学期	1	1	505
		1 - 5			
	Reading ComprehensionIV (読替科目 : 英語IV) アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	507
		1 - 5			
	CompositionII (読替科目 : 英作文演習 B) 村田 希巳子	2学期	1	1	462
		1年夜間主			
	Listening ComprehensionII (読替科目 : 英語リスニング演習 B) 江口 雅子	1学期	1	1	459
		1年夜間主			
	English for CommunicationII (読替科目 : 英会話演習 B) 村田 希巳子	2学期	1	1	456
		1年夜間主			
	Reading and DiscussionI (読替科目 : 英語V) 漆原 朗子	1学期	2	1	508
		2 - 5			
	Reading and DiscussionII (読替科目 : 英語VII) クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	510
		2 - 5			
	Research and DiscussionI (読替科目 : Reading and Discussion I) 大塚 由美子	1学期	2	1	457
		2年夜間主			
Research and DiscussionII (読替科目 : Reading and Discussion II) 大塚 由美子	2学期	2	1	458	
	2年夜間主				
Reading and DiscussionIII (読替科目 : 英語VI) 漆原 朗子	2学期	2	1	509	
	2 - 5				
Reading and DiscussionIV (読替科目 : 英語VIII) クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	511	
	2 - 5				
CompositionIV 江口 雅子	2学期	2	1	102	
	2 - 5				
Research and DiscussionIII (読替科目 : Advanced Reading and Discussion) 山内 ひさ子	2学期	2	1	470	
	2 - 5				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	原書講読演習I (読替科目: 英語リーディング演習I) 田吹 長彦	1学期	3	2	461
		3年			
	通訳入門I 津田 晶子	1学期	3	2	103
		3年			
	ビジネス英語演習I (読替科目: ビジネス英語研究) 松田 智	1学期	3	2	471
		3年			
プロジェクト・ワーク(演習と講義)I (読替科目: 英語スピーキング演習) アダム・ヘイルズ	1学期	3	2	460	
	3年				
原書講読演習II 田吹 長彦	2学期	3	2	104	
	3年				
通訳入門II 津田 晶子	2学期	3	2	105	
	3年				
■兼修外国語	ドイツ語基礎I (読替科目: ドイツ語I) 山下 哲雄	1学期	1	1	512
		英夜1年			
	ドイツ語基礎II (読替科目: ドイツ語II) 山下 哲雄	2学期	1	1	513
		英夜1年			
	ドイツ語基礎III (読替科目: ドイツ語III) 山下 哲雄	1学期	1	1	514
		英夜1年			
	ドイツ語基礎IV (読替科目: ドイツ語IV) 山下 哲雄	2学期	1	1	515
		英夜1年			
	ドイツ語中級I 岩本 真理子	1学期	2	1	106
		英夜2年			
ドイツ語中級II 岩本 真理子	2学期	2	1	107	
	英夜2年				
ドイツ語中級III 岩本 真理子	1学期	2	1	108	
	英夜2年				
ドイツ語中級IV 岩本 真理子	2学期	2	1	109	
	英夜2年				
フランス語基礎I (読替科目: フランス語I) 山下 高之	1学期	1	1	516	
	英夜1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■必修科目 ■兼修外国語	フランス語基礎II (読替科目：フランス語II) 山下 高之	2学期	1	1	517
		英夜 1年			
	フランス語基礎III (読替科目：フランス語III) 水本 弘文	1学期	1	1	518
		英夜 1年			
	フランス語基礎IV (読替科目：フランス語IV) 水本 弘文	2学期	1	1	519
		英夜 1年			
	フランス語中級I 水本 弘文	1学期	2	1	110
		英夜 2年			
フランス語中級II 水本 弘文	2学期	2	1	111	
	英夜 2年				
フランス語中級III 水本 弘文	1学期	2	1	112	
	英夜 2年				
フランス語中級IV 水本 弘文	2学期	2	1	113	
	英夜 2年				
■選択科目 ■専門科目	英語学研究各論B-II(統語論II) (読替科目：英語学研究II(統語論)) 北峯 裕士	2学期	2	2	465
		2年			
	英語学研究各論F-II(ビジネス英語研究II) (読替科目：ビジネス英語演習) 松田 智	2学期	2	2	463
		2年			
	英語学研究各論G-I(音声学・音韻論研究I) (読替科目：英語学研究I(音声学・音韻論)) 山内 ひさ子	1学期	2	2	464
		2年			
英語圏研究各論A-II(アメリカ研究II) (読替科目：アメリカ研究) 江口 雅子	2学期	2	2	467	
	2年				
英語圏研究各論B-I(英国・アイルランド研究I) (読替科目：イギリス研究) 石井有希子	1学期	2	2	468	
	2年				
■関連科目	比較文化概論 (読替科目：英米文化研究) 伊藤 健一	2学期	1	2	469
		1年			
	英米思想研究 八尋 春海	1・2学期(ペア)	3	4	114
	3年				
国際マクロ経済学 末永 勝昭	1・2学期(ペア)	3	4	115	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■関連科目	国際経済論 (読替科目：国際経済論I) 魏 芳	1・2学期(ペア)	3	4	447
		3年			
	国際経済論 (読替科目：国際経済論II) 魏 芳	1・2学期(ペア)	3	4	448
		3年			
	国際貿易論 (読替科目：国際貿易論I) 立石 揚志	1・2学期(ペア)	3	4	445
		3年			
	国際貿易論 (読替科目：国際貿易論II) 立石 揚志	1・2学期(ペア)	3	4	446
		3年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	116
		1年			
	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	117
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	118
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	119
		1年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	120
		3年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	2	2	121
		2年			
	道德教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	122
		2年			
	道德教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	123
		2年			
特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	124	
	2年				
特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	125	
	2年				
教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	126	
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	教育方法学	2学期	2	2	127
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	128
	大塚 一徳	2年			
	教育工学	2学期	2	2	129
	大塚 一徳	2年			
	生徒指導論	2学期	2	2	130
	楠 凡之	2年			
	教職総合演習	2学期	3	2	131
	楠 凡之 他	3年			
	教育実習 1	2学期	3	2	132
	黒田 耕司	3年			
	教育実習 1	2学期	3	2	133
	黒田 耕司	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	134
	見玉 弥生	4年			
	教育実習 2	1学期	4	2	135
	見玉 弥生	4年			
	教育実習 3	1学期	4	2	136
	見玉 弥生	4年			
教育実習 3	1学期	4	2	137	
見玉 弥生	4年				
教育相談	1学期	2	2	138	
楠 凡之	2年				
教育相談	1学期	2	2	139	
楠 凡之	2年				
英語科教育法C	1学期	2	2	140	
山崎 和夫	2年				
英語科教育法D	2学期	2	2	141	
山崎 和夫	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■選択科目	発達心理学	1学期	2	2	142
	税田 慶昭	2年			
	発達心理学	1学期	1	2	143
	税田 慶昭	1年			
■教科または教職に関する科目	障害児の心理と指導	2学期	2	2	144
	税田 慶昭	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	145
	税田 慶昭	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	146
	弓野 勝族	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	147
	弓野 勝族	2年			

地中海世界の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description
 地中海世界の形成と展開をみながら、自然環境と歴史、文明・文化の交流と衝突の諸相を理解し、現代の世界をその基層から問い直すことを目的とします。

教科書 /Textbooks
 適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 (【 】 はキーワード
 1回～2回 地中海世界の風土【地中海性気候】【都市】
 3回～4回 都市と帝国①：都市国家の形成と展開【エーゲ文明】【ポリス】
 5回 都市と帝国②：ヘレニズムの展開【アレクサンドロス】【ギリシャ語】
 6回～8回 都市と帝国③：ローマ帝国の形成と展開【パックス・ロマーナ】【街道】
 9回 三つの地中海①：一神教と「三つの地中海」【キリスト教】【イスラム教】
 10回～11回 三つの地中海②：ビザンツ帝国【コンスタンティノポリス/イスタンブル】
 12回 三つの地中海③：中世シチリア王国【ノルマン人】
 13回～14回 三つの地中海④：マグリブとアンダルス【コルドバ】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
 (小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

女性史【昼】

担当者名 /Instructor 富安 兆子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

日本における女性通史を概観、時に諸外国の女性の状況と対比させながら、日本の女性の現況とその問題点をさぐります。このような作業を通して、女性・男性を問わず、地球規模の変化に対応できる生き方を選択し、人類の未来にとっての望ましい社会創造に貢献し得る行動を生み出す指針となれば、と思います。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず、毎回、レジュメを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

L.S.スタヴリアーノス著、猿谷 要訳『新・世界の歴史、環境・男女関係・社会・戦争から見た世界史』桐原書店。F.エンゲルス著、村井ほか訳『家族・私有財産および国家の起源』大月書店。
 高群逸枝著『女性の歴史 上・下』講談社学芸文庫。辻村みよ子・金城清子著『女性の権利の歴史』岩波書店。水田珠枝著『女性解放思想の歩み』岩波新書。V.クライン著、水田珠枝訳『女とは何か・イデオロギーの歴史』新泉社。M.ウルストンクラフト著、白井亮子訳『女性の権利の擁護』未来社。
 シモーヌ・D・ポーヴォワール著、生島 遼訳『第二の性』岩波文庫。古庄ゆき子編『資料・女性史論争』ドメス出版。石月ほか編『女性史を学ぶ人へ』世界思想社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①女性史を学ぶことの意味
- ②原始共同体における女性
- ③「イ工」無き時代の婚姻・出産・育児・母系社会
- ④文明の開幕と私有財産制
- ⑤国家の成立と「女性の世界史的敗北」
- ⑥古代ギリシャの女性とアジア的社会的な女性
- ⑦市民社会の出現-都市の発生と女性の性的商品化
- ⑧封建制と女性の従属
- ⑨近代社会の成立と女性のめざめ
- ⑩女性論の展開と黎明期の女性たち
- ⑪明治政権と女性政策
- ⑫家父長制の再編と明治民法
- ⑬青鞜・新しい女・婦選運動
- ⑭第二次世界大戦前後の女性
- ⑮女性問題の世界的動向

成績評価の方法 /Assessment Method

出席点(毎回のミニレポートで、内容把握のレベルと出席を確認)、および、レポート(期末提出)による総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

哲学の諸問題 【昼】

担当者名 /Instructor 堺 正憲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

西田幾多郎著『哲学概論』を参考にしながら、「愛知」としての哲学が探求する「知」について理解するとともに、「認識論」と「存在論」の諸問題を考える。講義全体のキーワードは、愛知、認識論、存在論である。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しませんが、必要に応じて参考文献を紹介し、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 哲学とは何か【philosophia】【愛知】
 - 2回 西田幾多郎の哲学の定義(1)
 - 3回 西田幾多郎の哲学の定義(2)
 - 4回 認識論の問題【認識論】
 - 5回 真理の概念(1)
 - 6回 真理の概念(2)
 - 7回 真理の概念(3)
 - 8回 認識の起源(1)
 - 9回 認識の起源(2)
 - 10回 認識の妥当(1)
 - 11回 認識の妥当(2)
 - 12回 存在論【存在論】【形而上学】
 - 13回 存在の量
 - 14回 存在の質
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の授業で出てきた用語や事柄で理解できない点があれば、質問をしたり、自分で調べたりしてその都度問題を解決しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会生活と法 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

現代社会法は、労働法、社会保障法、衛生法などの法分野を包摂し、日本国憲法25条の生存権の具体化と関連の深い法分野である。現代社会における広範な人々の生活の向上のために、社会法が果たしている役割と、そのために開発されてきた社会法独自の法的方法を理解することを目的とするとともに、それぞれの法分野の役割と方法の特徴を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

ワープロで作成したテキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

河野正輝他編「社会保障論」法律文化社、浜村彰他著「ベーシック労働法」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会法とは
- 2回 市民法から社会法へ 近代法の変容と社会立法の発生 [工場法、救貧法、労働者保険]
- 3回 近代法原理と20世紀的憲法 [契約自由、市場原理、公共の福祉]
- 4回 社会法の意義と役割 [朝日訴訟、労働権、社会保障制度審議会勧告]
- 5回 社会法の体系と法的特徴 [公的規制、公的給付、特別私法]
- 6回 福祉国家の公法と私法の社会性 [積極国家、民法1条、社会サービスの法律関係]
- 7回 現代社会と貧困 [ワーキングプア、見えない貧困、非正規労働者、ホームレス]
- 8回 労働法の体系と目的 [労働条件の最低基準、団結権]
- 9回 所得保障法の体系と目的 [生活費の保障、特別費用の保障]
- 10回 社会サービス法の体系と目的 [医療・介護・福祉サービス]
- 11回 衛生法の体系と目的 [医事法、予防衛生、環境衛生]
- 12回 社会権の保護と救済 [権利擁護、審査請求、労働審判]
- 13回 経済社会的背景の転換と社会法の変容 [規制緩和、給付削減]
- 14回 諸外国の社会法改革の動向 [アクティベーション、プライバティゼーション]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講前に参考文献の関係箇所を一読しておく、講義内容が解りやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本の政治【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の政治に関する基礎的な知識と、今日一般に指摘されている問題点や改革論議に対する社会科学的視点を、受講生の皆さんが習得することです。まず日本の政策決定過程についての全般的な説明を行います。つぎに具体的事例として租税政策の決定過程に着目します。さらに政策決定過程の中心的アクターである議員の選出方法を取り上げ、日本の選挙制度の特徴や問題点等を考察します。講義全体のキーワードは「これまでの政治とこれからの政治」です。

教科書 /Textbooks

講義ノート（担当教員のウェブサイトからダウンロード・プリントアウトしてください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田浩・松田憲忠編(2009)『現代日本の政治-政治過程の理論と実際』ミネルヴァ書房。
 その他、第1回講義で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 政策決定過程-基礎①: 政治制度とアクター
- 3回 政策決定過程-基礎①: 政治制度とアクター
- 4回 政策決定過程-基礎②: 政治制度とインターアクション
- 5回 政策決定過程-基礎②: 政治制度とインターアクション
- 6回 政策決定過程-応用①: 税制の政治(理論)
- 7回 政策決定過程-応用①: 税制の政治(理論)
- 8回 政策決定過程-応用②: 税制の政治(事例)
- 9回 政策決定過程-応用②: 税制の政治(事例)
- 10回 政策決定過程-応用②: 税制の政治(事例)
- 11回 政策決定過程-応用②: 税制の政治(事例)
- 12回 選挙制度①: 今日の選挙制度
- 13回 選挙制度①: 今日の選挙制度
- 14回 選挙制度②: 首相公選制
- 15回 総括

※受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (学期末試験では、本講義で提供された知識の習得、社会科学的思考の実践、社会問題や政治状況等についての日常的な観察といった多様な側面からの評価が行われます)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には、講義ノートの該当箇所を持参してください。
 日本の政治機構については「憲法機構論」、日本の行政については「日本行政論」、政治過程全般については「政治過程論」、政治制度全般については「政治学」の受講をお勧めいたします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策の構想 【昼】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

様々な政策を立案する際に前提とすべき価値や思想について検討しながら、近・未来の政治社会のありうべき姿について考察する。そのために、まず、政治と政策にかかわる基礎知識について論述し、次に、政策構想の具体例の分析を行う。

教科書 /Textbooks

中道『政治のデザイン-政策構想論序説』（南窓社）。レジュメを配布し、理解の深化を目指す。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、毎回、講義中に示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 政治と政治状況について【権力】【正当性】【組織化】【諸価値の配分】
- 第 2回 政治と政策について【方針】【政策の諸定義】【政策科学】
- 第 3回 政治と政策研究について【政策分析】【政策過程】【政策構想の必要性】
- 第 4回 新しい政策研究と政策の諸局面【政策マインド】【政策価値】
- 第 5回-6回 政策価値の変化【夜警国家の政策価値】【福祉国家の政策価値】
- 第 7回-8回 政策型思考について【目的・手段的認識】【循環的発想】【システムの発想】
- 第 9回-10回 市民の政策構想について【参加革命】【参加民主主義】
- 第 11回-13回 政治のデザインについて【古典モデル】【社会デザイン】
- 第 14回 市民による政策構想について【トレードオフ】【諸価値の共生】【熟議民主主義】
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出：有（任意）出席点加味：有 平常授業中の小テスト：有（添削および問題解説）
 期末試験：有。評価は総合して行う。
 出席... 10% 小テスト... 10% 試験... 80% レポート：十分評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

まちづくり論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

激変する日本社会の中で、地方自治体は、住民・企業・団体等の様々なニーズに応じて都市機能を高め、住民福祉の向上や地域経済の活性化を図る財政運営を行っている。都市を取り巻く世界や日本の動きを理解した上で、地方自治体の財政がどのような仕組みで運営されているのか、その課題は何かを学ぶ。併せて、企業活動にどのような変化が出てきているのかを知り、都市経済の活性化のためにどのような政策が必要かを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
 (大学のホームページから受講者がダウンロードすること)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 和田八束ほか編『現代の地方財政(第3版)』(2004)有斐閣ブックス
- 神野直彦編著『地方財政改革』自治体改革8(2004)ぎょうせい
- 森一夫著『日本の経営-会社と人間のあるべき関係』(2004)日経文庫
- 寺本義也ほか著『技術経営の挑戦』(2004)ちくま新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経済論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 日本の経済状況と地方自治体の財政状況
- 4回 地方財政制度の概要
- 5回 国家財政と地方財政
- 6回 地方自治体の予算制度
- 7回 地方財政の収入構造
- 8回 地方税制度と課題
- 9回 地方交付税制度と課題
- 10回 その他の歳入と課題、自治体の歳出構造
- 11回 地方財政制度の課題と今後の方向
- 12回 都市における企業活動の変化と都市経済
- 13回 技術経営の変化
- 14回 技術移転
- 15回 レポート作成・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞の経済記事などを丹念に読み、日々の経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域開発【昼】

基礎教育科目
 共通基礎教育科目
 教養教育科目
 社会科目

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるの？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもちえてません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてもらいたいのは、環境問題の原点とも言われる水俣病です。そのことも毎年実施している私のゼミ及び「政策科学入門I」の環境学習研修旅行の記録を通して学習します。環境教育アクティビティを多用します。

教科書 /Textbooks

その都度資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 栗原彬『証言 水俣病』岩波新書、2000年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成19年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣病講義』日本評論社、2004年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「都市環境論」の授業内容とねらいの説明：：簡単な環境意識度チェック 【環境意識】
- 第2回 環境教育とESD 【ESD】
- 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告 【環境学習旅行】
- 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 【水俣病】
- 第5回 - 7回 環境政策（北九州市を含む）と廃棄物管理 【北九州市】【廃棄物管理】
- 第8回 - 10回 下水処理・上水道：：（アクティビティ=きき水比べ） 【水質汚濁】
- 第11回 - 12回 大気汚染：： 樹木の蒸散と二酸化炭素吸収度の算定 【大気汚染】
- 第13回 - 14回 環境保全・環境教育に取り組む人々 = エコツーリズムに関わろう！
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 20 % 小課題の提出 ... 10 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

遺伝と生命【昼】

担当者名 /Instructor 山根 明弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「遺伝子」と「生命」のかかわりについて、基礎的なものから最先端の話題まで、わかりやすく解説します。生命科学の技術が飛躍的に進み、遺伝子に関する話題や情報がメディア等に氾濫するなか、遺伝子DNAとはなにか？生命とは？倫理的問題点も含めて理解してもらうことを目的としています。文系の受講者を対象としていますので、専門的な知識をより深くというよりも、人間社会との関わりになるべく重点を置いて進めてゆくつもりです。また「自然史」に関する話題も毎回講義に組入れて、身の回りの生き物の世界とDNAとの深いつながりを意識してもらうつもりです。

教科書 /Textbooks

増補新訂版「サイエンスビュー生物総合資料」実教出版株式会社（このテキストは、絶対に必要というわけではありませんが、持っているが大変便利です。値段も安く、たくさんの写真や資料が載っています。生物学に興味がある方には特におすすめです）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最近のTVニュースや新聞を見ていると「遺伝子」や「DNA」に関する話題が頻繁に取り上げられるようになってきています。この科目の前半では、「遺伝子DNA」「遺伝のメカニズム」「生命の進化」の基礎的な知識やメカニズムをわかりやすく解説し、後半では遺伝子技術と人間社会との接点やその成果について、同時に生じる社会的・倫理的問題点をも含めて紹介していきたいと思います。

(【】内はキーワード)

第1回～第8回：遺伝子DNA、遺伝の法則、生命についての基礎知識

【DNAって何?】【DNA情報からタンパク質の合成】【生物学のセントラルドグマ】【早すぎた発見、メンデルの遺伝の法則】【遺伝子突然変異】【遺伝病】【三毛猫はメス】【BSE問題】

第9回～第15回：遺伝子技術とわたしたち

【バイオテクノロジー】【遺伝子組み換え作物】【食の安全】【DNA鑑定法】【遺伝子診断】【遺伝子治療】【オーダーメイド医療】【クローン技術と倫理】【個人の遺伝子情報の保護】【iPS細胞】【再生医療】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の修学態度(出席を含む) 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学期末試験(論述方式)の結果で成績評価を行います。どれだけ全体像が理解できているかが評価のポイントです。出題内容の一部は、講義の早い段階から教えますので、各自アンテナをたてて情報を収集してください。また、受講者の努力量をより公平に評価するために、出席も重視したいと思っています。従って、毎回出席をとるようにしています。遅刻してきた人は講義を受けることができない場合もあります。総合評価は、出席点40点、筆記試験点60点の100点満点で行います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

薬と暮らし【昼】

担当者名 /Instructor 森 正明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

- ①医薬品と生命体との関わりが理解できるように平易に説明する。
- ②遺伝子検査に基づくオーダーメイドの薬物療法の現状について概説する。
- ③医薬品の虚偽・誇大な情報の流布；サプリメントの氾濫；薬害多発の背景と課題についても考察する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。配布レジュメに基づいて授業する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①知っておきたいくすりのQ&A (全日本民医連・編：新日本出版社：2005年)
- ②くすりの効き方は人によって違うの？ (鎌滝 哲也・監：丸善：平成15年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 薬の歴史
- 3回 薬はどのようにして創られるのか
- 4回 薬害と副作用の違い
- 5回 遺伝子とは何か
- 6回 医薬品の創製におけるDNA技術の応用
- 7回 薬の吸収・代謝・分布・排泄について
- 8回 薬物代謝酵素とその遺伝子について
- 9回 薬の効き方の個人差と遺伝子検査
- 10回 生体の恒常性と疾病について；免疫とは何か
- 11回 薬はどのようにして効果を発揮するのか
- 12回 健康食品・サプリメントの功罪
- 13回 麻薬・覚せい剤・大麻等の危険性について
- 14回 オーダーメイドの薬物療法とは
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストを含む)・・・30% 期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメをよく読んでおくこと。また、授業中に指示したことを自己学習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報処理基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。初心者をも対象とした基礎的な授業です。本講義の目的は、コンピュータを道具として使いこなす訓練を行いつつ、自分自身の思考を的確に表現する能力を習得することです。
 講義全体のキーワードは、Word、インターネット、学内グループウェアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パソコンの基礎操作1【書式設定】、【印刷】、【保存】
- 2回 パソコンの基礎操作2【ヘルプ】、【ハンガアップ】
- 3回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 4回 情報倫理1【ネチケット】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 情報倫理2【セキュリティ対策】、【SSL】
- 6回 パソコンの基礎知識1【ID】、【パスワード】
- 7回 パソコンの基礎知識2【拡張子】、【書式設定】
- 8回 文書作成1【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 9回 文書作成2【表の作成】
- 10回 文書作成3【図形処理】
- 11回 文書作成実習
- 12回 文書作成・まとめ
- 13回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 14回 インターネット演習【情報検索】、【WWW】、【URL】、【ドメイン名】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% (Wordの活用 ... 25%、インターネット演習 ... 25%)、積極的な授業参加 (タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で、学内グループウェアを利用しながら、その利用方法やネチケットに対する実践的な学習を行います。グループウェアの利用方法、特に、電子メールの利用方法について確認しておくこと、受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ネットワーク通信【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、特別なソフトウェアを用いずに、HTMLによるWebサイト作成演習を行います。また、WWWを利用して、情報検索演習も行います。Webページ作成未経験者や情報検索初心者を対象とした基礎的な授業です。本講義の目的は、ネットワーク通信技術とネットワーク社会の現状を理解し、国際社会・情報社会に適応した、インターネットによる情報収集能力、情報発信能力を習得することです。講義全体のキーワードは、WWW、URL、HTML、情報検索、情報探索、情報発信です。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ネットワーク【インターネット】、【電子メール】、【WWW】
- 2回 ネットワーク【ドメイン名】、【IPアドレス】、【DNS】
- 3回 情報検索【ブラウザ】、【URL】、【キーワード検索】
- 4回 情報検索実習 1
- 5回 情報検索実習 2
- 6回 情報検索実習 3
- 7回 HTMLによるWebページ作成方法 1【HTML】、【タグ】
- 8回 HTMLによるWebページ作成方法 2【ハイパーリンク】
- 9回 HTMLによるWebページ作成方法 3【企画書】、【著作権】
- 10回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 11回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 12回 HTMLによるWebページ作成実習 3
- 13回 情報発信【著作権】、【ネチケット】
- 14回 WWWを利用した情報探索【テーマ調査】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

情報検索実習 ... 25%、Webページ作成実習 ... 25%、その他の課題 ... 25%、積極的な授業参加... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に学内グループウェアを利用して情報交換を行い、電子メールの利用マナーやネチケットに対する実践的な学習を行います。「情報処理基礎」の内容を把握しておくこと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯スポーツⅢ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

生涯スポーツⅡをふまえて、運動・スポーツの楽しさを体験し、継続することの重要性、身体を動かすことの重要性を認識させ、さらなる運動習慣の獲得に向けての授業を目指す。

種目については、年齢や体力に応じて参加できるニュースポーツも加え、興味・関心のある種目を毎時間各自が選択して行う。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ニュースポーツ(1)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 3回 ニュースポーツ(2)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 4回 ニュースポーツ(3)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 5回 団体種目(バスケットボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 6回 団体種目(バスケットボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 7回 団体種目(バレーボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 8回 団体種目(バレーボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 9回 ニュースポーツ(4)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 10回 ニュースポーツ(5)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 11回 団体種目(バスケットボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 12回 団体種目(バスケットボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 13回 団体種目(バレーボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 14回 団体種目(バレーボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル確認テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分の体力や体調などを考え、種目を決めて実施する。運動のできる服装と体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯スポーツⅣ【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

生涯スポーツⅡ-IIをふまえて、運動・スポーツの楽しさを体験し、継続することの重要性、身体を動かすことの重要性を認識させ、さらなる運動習慣の獲得に向けての授業を目指す。

種目については、年齢や体力に応じて参加できるニュースポーツも加えて行う中で、興味・関心のある種目を見つけ、今後の生涯スポーツとしての体力・技術の維持向上を図る。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ソフトバレーボールとバレーボール(選択)①
- 3回 ソフトバレーボールとバレーボール(選択)②
- 4回 室内サッカー(フットサル)とトレーニング、ランニング、ウォーキング(選択)①
- 5回 室内サッカー(フットサル)とトレーニング、ランニング、ウォーキング(選択)②
- 6回 バドミントン①
- 7回 バドミントン②
- 8回 バスケットボールと卓球(選択)①
- 9回 バスケットボールと卓球(選択)②
- 10回 ショートテニス①
- 11回 ショートテニス②
- 12回 選択種目①
- 13回 選択種目②
- 14回 選択種目③
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み … 70% スキル獲得テスト … 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

設定された種目のどちらかを選択して行う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米史概論I【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、アメリカ等も含む英語圏の文化を幅広く検討する。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライドを適宜用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 英米文化への接近方法【英米文化】【コミュニケーション】
- 第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ・サクソン】【ノルマン征服】
- 第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主政】【マグナ・カルタ】
- 第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
- 第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
- 第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる【伝統の創造】【帝国】
- 第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
- 第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない【政教分離】【国教会】
- 第10回 アイルランドは「ケルト」ではない(1)【アイルランド】【カソリック】
- 第11回 アイルランドは「ケルト」ではない(2)【アイルランド】【北アイルランド問題】
- 第12回 ホワイトハウスが白いのはイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
- 第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
- 第14回 イギリスの家族関係は危機にある【王室】【フーリガン】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究I【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ
ア) 授業形態 /Class Format クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究I【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ
ア) 授業形態 /Class Format クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
	○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究I【昼】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究I【昼】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究I【昼】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究I【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(ハ授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究I【昼】

担当者名 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究I【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究I【昼】

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ
ア) 授業形態 /Class Format クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
	○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究I【昼】

担当者名 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究I【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 3年次 /Year 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ / Class Format ア) クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究I【昼】

担当者名 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究I【昼】

担当者名 /Instructor ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究I【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究II 【昼】

担当者名 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究II 【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ / Class Format ア) クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究II 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期 (ベ 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期 (ベ ア) 授業形態 /Class Format クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究II 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期 (ベ 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究II 【昼】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究II 【昼】

担当者名 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究II 【昼】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究II 【昼】

担当者名 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期 (ベ ア) 授業形態 /Class Format クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究II 【昼】

担当者名 /Instructor ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(ベ 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究II 【昼】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

CompositionIV 【昼】

担当者名 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

レトリック(修辞学)に基づく英文の構造を学び、さまざまなタイプの説明文の作成方法を習得する。パラグラフ作成を練習した後、エッセイへと発展的に作文作成を行う。書きなおしを行うことにより、語彙の運用能力および、文法力も合わせて養成する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書を持参すること

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction パラグラフの構造
- 2回 Topic Sentence と Supporting Sentences
- 3回 Time Orderのパラグラフ(1)
- 4回 Time Orderのパラグラフ(2)
- 5回 Comparison のパラグラフ
- 6回 Contrastのパラグラフ
- 7回 エッセイの構造、Comparison & Contrast のエッセイ
- 8回 Definitionのパラグラフ(1)
- 9回 Definitionのパラグラフ(2)
- 10回 Classificationのパラグラフ
- 11回 DefinitionとClassificationのエッセイ
- 12回 Cause & Effectのパラグラフ(1)
- 13回 Cause & Effectのパラグラフ(2)
- 14回 Cause & Effectのエッセイ
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、課題作文の提出 60% 期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人類学概論【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

いきなりだけど、今までに「自己」と「他者」の謎について考えてみたことはあるだろうか。自分と他人は、異なる身体を持ち、異なる価値観を持ち、異なる時間を生きているにもかかわらず、共感することができたり、相手のいうことが理解できたりするのはなぜだろう。「他人のことなんてわかるはずはない」といいながら、そんな他人を信じて毎日生きられるのは、とても不思議だ。人類学では、理解できるはずのない他人に果敢にもフィールドワークという手法をつかって近づいていく。ちょっと難しいかもしれないけど、講義の中で人間の文化の多様性と他者認知や自己認知の普遍性について考えを巡らしながら、恋だの政治だの常識だの、みんなが大好きな人間関係のパワーゲームについて分析し、いろいろと回り道をしようと思う。そうすれば他人を知ることは自分を知ることであるという異文化理解のもっとも基本的な道筋が見えてくるはずだ。
ビデオ・スライドをみながら異文化をイメージする

教科書 /Textbooks

「フィールドワークへの挑戦-“実践”人類学入門」菅原 和孝(編集)
『うぬぼれる脳-「鏡のなかの顔」と自己意識』ジュリアン・ポール キーナン(著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 文化とはなにか
- 第2講 近代とはなにか
- 第3講 共感とはなにか
- 第4講 他者とはなにか
- 第5-6講 交換とはなにか
- 第7講 社会とはなにか
- 第8講 政治とはなにか
- 第9-10講 信じるとはなにか
- 第11-12講 自然とはなにか
- 第13-15講 わかるとはなにか

成績評価の方法 /Assessment Method

自己と他者について考察する準備が整うこと	...	30%
異文化を相対的に考えられること	...	30%
人類学的な実践に興味を持ちなにかをはじめること	...	40%
試験は6講目あたりでおこなう		

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

勉強したい人だけ受講すること。
自分で考えるために、本を読んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国の社会【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

中国の社会に関して、伝統-変革-変容の視点から理解を深める。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業中に随時紹介する。

- 1回 中国の社会へのアプローチ
- 2回 伝統的中国社会①-家族と宗族のその1
- 3回 同上の続き
- 2回 伝統的中国社会②-日中社会の比較
- 5回 同上の続き
- 6回 伝統的中国社会③-都市と同業同郷団体
- 7回 伝統的中国社会④-農村社会と国家権力、華北の事例
- 8回 伝統的中国社会の変革①-中国共産党の土地改革
- 9回 同上の続き
- 10回 伝統的中国社会の変革②-農業集団化とその終焉
- 11回 同上の続き
- 12回 伝統的中国社会の変革③-都市
- 13回 現代中国社会の変容①-国有企業改革と労働市場・社会保障制度の変容
- 14回 現代中国社会の変容②-経済成長と格差
- 15回 中国の時事問題に関する討論

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...% 期末レポート...%
必要に応じて数回レポートを課す。期末レポートで成績評価を予定しているが、授業時に正式に通知する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較中国思想 【昼】

担当者名 /Instructor 連 清吉 / 北方キャンパス 非常勤講師, 連 清吉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

日本の古代から近代にかけて中国文化の受容を平易に説明し、日本的中国学理解の在り方を究明する。講義では京都の中国研究者の主張を説明しながら中国文明の本質を明白にしようとする。

教科書 /Textbooks

配付資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

古川幸次郎編『東洋学の創始者たち』講談社、1976年10月
礪波護編『京大東洋学の百年』京都大学出版会、2002年5月

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (「 」はキーワード)
- 1回 授業説明：日本における中国文化の受容「受容」「選別」「融合」「創出」
 - 2回 中国文化は漢字文化(宮崎市定)「漢字」「漢字文化」
 - 3回 漢字と漢字文化圏「六書」「当用漢字」「漢字文化圏」
 - 4回 中国文学は中国文明の核(狩野直喜)「儒雅」「風神」
 - 5回 文字の魔術：詩文のリズム、メロディー、ハーモニー(古川幸次郎)「韻律」「対句」
 - 6回 唐詩の世界：中国人の心象風景の描写「賦比興」「緻密」「飛躍」
 - 7回 戦国は中国思想の黄金時代(貝塚茂樹)「百家争鳴」「稷下論議」「布衣卿相」
 - 8回 儒家と道家は中国思想の二本柱(金谷治)「人間社会」「人間学」「自然凝視」
 - 9回 孔子の思想：論語字義「仁」「学」「君子」
 - 10回 子所雅言：儒家の人間学「古典素養」「社会実用」
 - 11回 自然無為：老子の発想の転換「自然無為」「水」「柔弱」
 - 12回 万物斉同：荘子説話の主人公「自然凝視」「本来の生き方」「再生」「多様性」
 - 13回 小国寡民：東洋の理想郷「安居楽俗」「桃源郷」「山水画」「原風景」「終身雇用」
 - 14回 通変史観：中国人の歴史意識(内藤湖南)「通」「変」「独断」
 - 15回 史記の世界：身振りの文学(宮崎市定)「都市文化」「事実と物語」

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況：50% 期末試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回授業で配付する資料をよく読み込んでおくこと。また、授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本経済入門【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

1学期では、第二次世界大戦後から1970年代までの日本経済の発展の歴史を学ぶ。また、その学習を通して、今日の日本経済がどのように形作られ、どのような特徴を持つに至ったのかを説明する。2学期では、現代の日本経済が抱える問題点について平易に解説していく。日本経済と日本企業が直面しているシステム転換の実相を明らかにしていく。

教科書 /Textbooks

橋本寿朗他著『現代日本経済 新版』有斐閣、2006年アルマ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 現代日本経済をみる眼と戦後改革	2回 経済復興
3回 高度成長のメカニズムについての概説	4回 産業政策の効果
5回 メインバンク・システム	6回 安定株主化
7回 建造高世界一の造船業	8回 輸出世界一の鉄鋼業
9回 「民族大移動」と大量消費社会の出現	10回 エネルギー革命
11回 石油危機と経済構造の転換についての概説	12回 赤字国債
13回 下請制	14回 生産台数世界一の自動車産業
15回 まとめ	
16回 インタロダクション	
17回 日本経済のトレンド(1)【安定成長】【バブル経済】【中国市場】	
18回 日本経済のトレンド(2)【グローバル化】【企業統治】【IT革命】	
19回 日本企業の国際競争力【東アジア市場】【電機産業】【自動車産業】	
20回 日本企業のアジア展開【アジア間ネットワーク】【対外開放】	
21回 流通革命と情報化のインパクト【IT革命】【サプライチェーン】【大規模小売店】	
22回 1~5回の復習とまとめ	
23回 トヨタイズムと地域経済【ジャストインタイム】【自動車クラスター】	
24回 不良債権問題【債権大国】【バブル経済の崩壊と再生】	
25回 規制緩和と企業制度改革【日本型企业システム】【構造改革】	
26回 日本企業の組織改革【フラット化】【ICT】	
27回 6~10の復習とまとめ	
28回 企業の新規事業展開(各論)【イノベーション】【クラスター】	
29回 日本経済のシステム転換【新日本型ハイブリッド】【分権化】	
30回 全体のまとめと復習	

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10~20%、期末試験...80~90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本経済入門【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

1学期では、第二次世界大戦後から1970年代までの日本経済の発展の歴史を学ぶ。また、その学習を通して、今日の日本経済がどのように形作られ、どのような特徴を持つに至ったのかを説明する。2学期では、現代の日本経済が抱える問題点について平易に解説していく。日本経済と日本企業が直面しているシステム転換の実相を明らかにしていく。

教科書 /Textbooks

橋本寿朗他著『現代日本経済 新版』有斐閣、2006年アルマ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--|-------------------|
| 1回 現代日本経済をみる眼と戦後改革 | 2回 経済復興 |
| 3回 高度成長のメカニズムについての概説 | 4回 産業政策の効果 |
| 5回 メインバンク・システム | 6回 安定株主化 |
| 7回 建造高世界一の造船業 | 8回 輸出世界一の鉄鋼業 |
| 9回 「民族大移動」と大量消費社会の出現 | 10回 エネルギー革命 |
| 11回 石油危機と経済構造の転換についての概説 | 12回 赤字国債 |
| 13回 下請制 | 14回 生産台数世界一の自動車産業 |
| 15回 まとめ | |
| 16回 インタロダクション | |
| 17回 日本経済のトレンド(1)【安定成長】【バブル経済】【中国市場】 | |
| 18回 日本経済のトレンド(2)【グローバル化】【企業統治】【IT革命】 | |
| 19回 日本企業の国際競争力【東アジア市場】【電機産業】【自動車産業】 | |
| 20回 日本企業のアジア展開【アジア間ネットワーク】【対外開放】 | |
| 21回 流通革命と情報化のインパクト【IT革命】【サプライチェーン】【大規模小売店】 | |
| 22回 1~5回の復習とまとめ | |
| 23回 トヨタイズムと地域経済【ジャストインタイム】【自動車クラスター】 | |
| 24回 不良債権問題【債権大国】【バブル経済の崩壊と再生】 | |
| 25回 規制緩和と企業制度改革【日本型企業システム】【構造改革】 | |
| 26回 日本企業の組織改革【フラット化】【ICT】 | |
| 27回 6~10の復習とまとめ | |
| 28回 企業の新規事業展開(各論)【イノベーション】【クラスター】 | |
| 29回 日本経済のシステム転換【新日本型ハイブリッド】【分権化】 | |
| 30回 全体のまとめと復習 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10~20%、期末試験...80~90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際マクロ経済学【昼】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況の中で、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合のマクロ経済(オープン・マクロ経済)について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。

教科書 /Textbooks

* 後日、講義の中で指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

* 伊藤元重著『ゼミナール国際経済入門』日本経済新聞社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：世界経済と日本
- 第2回 経済のグローバル化と日本経済の動向
- 第3回～第4回 国際マクロ経済の基本的分析視点(1)
- マクロ経済学の基本的枠組み(基礎概念) -
- 第5回～第6回 国際マクロ経済の基本的分析視点(2)
- 国際マクロ経済の分析枠組み(基礎理論) -
- 第7回～第8回 国際収支表と国際収支の諸概念 【貿易収支】【資本収支】【外貨準備】
- 第9回～第10回 国際収支と日・米経済関係 【貿易黒字】【貿易赤字】
- 第11回～第12回 国際通貨制度とその変遷 【金本位制度】【管理通貨制度】【IMF体制】
- 第13回～第14回 外国為替取引と為替レート 【円建て】【ドル建て】
- 第15回 外国為替制度：固定相場制度と変動相場制度
- 第16回 外国為替レートの決定メカニズム
- 第17回～第18回 変動為替相場(フロート)制度 【円高】【円安】
- 第19回 固定為替相場制度 【介入】【平価】
- 第20回～第22回 外国為替レートの決定要因 【フロー・アプローチ】
【アセット・アプローチ】【購買力平価説】
- 第23回 外国為替レートとマクロ経済政策の効果 【財政政策】【金融政策】【資本移動】
- 第24回 固定相場制と政策効果 【IS曲線】【LM曲線】【BP曲線】
- 第25回 変動相場制と政策効果 同上
- 第26回～第27回 グローバル経済化と資本移動 【マンデル＝フレミング・モデル】
【ポリシーミックス】
- 第28回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス(I)
- 第29回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス(II)
【経常収支の黒字】【債権大国：日本】【経常収支の赤字】【債務大国：アメリカ】
- 第30回 まとめ：世界経済の動向と今後の展望

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(学期末試験)の結果と講義の履修状況(出席etc)を考慮した総合点で評価する。
出席 ... 20% 学期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学部の学生は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
世界経済の動向を載せた新聞や雑誌にも目を通しておくと、授業がより効果的である。
授業を受けるにあたっては、授業中に配布する資料をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際機構論 【昼】

専門教育科目
選択科目
関連科目

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の理論的側面（第二言語習得理論、外国語教育の方法論など）を授業での応用を重視しながら概括する。

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

D.Larsen-Freeman, Techniques and Principles in Language Teaching Oxford
高橋正夫『英語教育学概論』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 外国語教育の目的論①Jespersen、「平泉-渡部論争」
- 3回 外国語教育の目的論②文科省の中学、高校の指導要領
- 4回 外国語教育の目的論③小学校からの早期教育における目的論を分析し、個人でしっかりと意識を持たせる。
- 5回 New Methods ①Old Methodと対比させてDirect Methodsを概括
- 6回 ②Direct Methodsの集大成であるOral Methodを概括。
- 7回 Oral Approach (Audio-Lingual Method) の特質を
①O.M. 目的、指導原理との相違の観点から概括する。
- 8回 ②Pattern Practice の実践的活用から概括する。
- 9回 Oral Approach (AL-M) への批判的立場から
①CCLを概括する。
- 10回 ②CLLを概括する。
- 11回 ③Input Hypothesisを概括する。
- 12回 コミュニカティブ・アプローチの諸相を
①Notional/Functional Syllabus
- 13回 ②Communicative Competenceの内容と習得の原理
- 14回 ③中学教科書のコミュニケーション重視への変遷の観点から概括
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加度 30% 期末試 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、事前（当該授業の1～2回前）に配布する英文の資料をよく読み込んでおくこと。
授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の理論的側面（第二言語習得理論、外国語教育の方法論など）を授業での応用を重視しながら概括する。

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

D.Larsen-Freeman, Techniques and Principles in Language Teaching Oxford
高橋正夫『英語教育学概論』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 外国語教育の目的論 ①Jespersen、「平泉-渡部論争」
- 3回 外国語教育の目的論 ②文科省の中学、高校の指導要領
- 4回 外国語教育の目的論 ③小学校からの早期教育における目的論を分析し、個人でしっかりした意識を持たせる。
- 5回 New Methods ①Old Methodと対比させてDirect Methodsを概括
- 6回 ②Direct Methodsの集大成であるOral Methodを概括。
- 7回 Oral Approach (Audio-Lingual Method) の特質を
①O.M. 目的、指導原理との相違の観点から概括する。
- 8回 ②Pattern Practice の実践的活用から概括する。
- 9回 Oral Approach (AL-M) への批判的立場から
①CCLを概括する。
- 10回 ②CLLを概括する。
- 11回 ③Input Hypothesisを概括する。
- 12回 コミュニカティブ・アプローチの諸相を
①Notional/Functional Syllabusから概括
- 13回 ②Communicative Competenceの内容と習得の原理から概括
- 14回 ③中学教科書のコミュニケーション重視への変遷の観点から概括
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加度 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、事前（当該授業の1～2回前）に配布する英文の資料をよく読み込んでおくこと。
授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の理論的側面（第二言語習得理論、外国語教育の方法論など）を授業での応用を重視しながら概括する。

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

D.Larsen-Freeman, Techniques and Principles in Language Teaching Oxford
高橋正夫『英語教育学概論』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 外国語教育の目的論 ①Jespersen、「平泉-渡部論争」
- 3回 外国語教育の目的論 ②文科省の中学、高校の指導要領
- 4回 外国語教育の目的論 ③小学校からの早期教育における目的論を分析し、個人でしっかりした意識を持たせる。
- 5回 New Methods ①Old Methodと対比させてDirect Methodsを概括
- 6回 ②Direct Methodsの集大成であるOral Methodを概括。
- 7回 Oral Approach (Audio-Lingual Method) の特質を
①O.M. 目的、指導原理との相違の観点から概括する。
- 8回 ②Pattern Practice の実践的活用から概括する。
- 9回 Oral Approach (AL-M) への批判的立場から
①CCLを概括する。
- 10回 ②CLLを概括する。
- 11回 ③Input Hypothesisを概括する。
- 12回 コミュニカティブ・アプローチの諸相を
①Notional/Functional Syllabusから概括
- 13回 ②Communicative Competenceの内容と習得の原理から概括
- 14回 ③中学教科書のコミュニケーション重視への変遷の観点から概括
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加度 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、事前（当該授業の1～2回前）に配布する英文の資料をよく読み込んでおくこと。
授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の実践的側面（教科書、教材の分析、授業の展開、教案の作成）の指導をする。

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫『英語教育学概論』金星堂
望月・山田 編著 『私の英語授業』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 コースワークの説明
 - 2回 教科書及び教材の分析
 - 3回 英語教育教材論その変遷、問題点を明らかにする。【教師に求められる英語力】
 - 4回 授業の展開・運営について次の点を中心にして、実践的技術をビデオ教材などを利用して指導を行う。
 - ①授業の展開の全体像
 - 5回
 - ②「新出事項導入」
 - 6回
 - ③Practice 【オーラル・インタラクション】
 - 7回 特に次の技術の授業での習得の具体的方策を学ぶ。①Listening、
 - 8回
 - ②Reading
 - 9回
 - ③Task 【指導技術の習得】
 - 10回 「指導教案」の書き方指導。①教案の基本スタイル
 - 11回
 - ②教案の作成 【教案の形式と指導過程の記述】
 - 12回 各技能における評価の仕方、留意点。英語ALTとの授業の形態について観察する。
 - 13回 模擬授業(中学校)
 - 14回 模擬授業(高校)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動... 40%、課題... 10% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。教壇に立つ立場を踏まえて授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の実践的側面（教科書、教材の分析、授業の展開、教案の作成）の指導をする

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫『英語教育学概論』金星堂
望月・山田 編著 『私の英語授業』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 コースワークの説明
 - 2回 教科書及び教材の分析
 - 3回 英語教育教材論その変遷、問題点を明らかにする。【教師に求められる英語力】
 - 4回 授業の展開・運営について次の点を中心に、実践的技術をビデオ教材などを利用して指導を行う。①授業の展開の全体像
 - 5回 ②「新出事項導入」
 - 6回 ③Practice 【オーラル・インタラクション】
 - 7回 特に次の技術の授業での習得の具体的方策を学ぶ。①Listening、
 - 8回 ②Reading
 - 9回 ③Task 【指導技術の習得】
 - 10回 「指導教案」の書き方指導。①教案の基本スタイル
 - 11回 ②教案の作成 【教案の形式と指導過程の記述】
 - 12回 各技能における評価の仕方、留意点。英語ALTとの授業の形態について観察する。
 - 13回 模擬授業(中学校)
 - 14回 模擬授業(高校)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動... 30%、課題... 20%、期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。教壇に立つ立場を踏まえて授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の実践的側面（教科書、教材の分析、授業の展開、教案の作成）の指導をする

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫『英語教育学概論』金星堂
望月・山田 編著 『私の英語授業』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 コースワークの説明
 - 2回 教科書及び教材の分析
 - 3回 英語教育教材論その変遷、問題点を明らかにする。【教師に求められる英語力】
 - 4回 授業の展開・運営について次の点を中心に、実践的技術をビデオ教材などを利用して指導を行う。①授業の展開の全体像
 - 5回 ②「新出事項導入」
 - 6回 ③Practice 【オーラル・インタラクション】
 - 7回 特に次の技術の授業での習得の具体的方策を学ぶ。①Listening、
 - 8回 ②Reading
 - 9回 ③Task 【指導技術の習得】
 - 10回 「指導教案」の書き方指導。①教案の基本スタイル
 - 11回 ②教案の作成 【教案の形式と指導過程の記述】
 - 12回 各技能における評価の仕方、留意点。英語ALTとの授業の形態について観察する。
 - 13回 模擬授業(中学校)
 - 14回 模擬授業(高校)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動...30%、課題...20%、期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。教壇に立つ立場を踏まえて授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 - ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 - ③子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 - ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 - ③子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒指導論【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 今日の思春期の子どもたちの「生きづらさ」や内的葛藤を見童虐待や家族内葛藤を中心にしながら検討し、子どもたちの内面に寄り添う生徒指導の課題について、検討していくこと。
- ② 高機能自閉症、アスペルガー症候群の問題を中心にしながら、「特別なニーズを持つ子どもに対する理解と援助」の問題を検討していくこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。

本授業のキーワードは「特別なニーズ」、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その1(アスペルガー症候群)
- 5回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その2(高機能自閉症)
- 6回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その3(ADHD)
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5,6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職総合演習 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は大きくは次の三点である。
 1. グローバルエデュケーションに関する参加型学習の方法について、体験的に学習すること。
 2. テーマを自分たち自身で設定し、プレゼンテーションを行なうことを通じて、共同学習のあり方、プレゼンテーションのあり方を学習すること。
 本授業のキーワードはグローバルエデュケーション、参加型学習の方法などである。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献 環境教育指導者育成マニュアル 角田尚子・ERIC国際理解教育センター著他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 参加型教育実践の実際
- 2回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その1
- 3回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その2
- 4回 グローバルエデュケーションのワークショップ その1 - マジカルバナナ
- 5回 グローバルエデュケーションのワークショップ その2 - 地球家族のワークショップ
- 6回 グローバルエデュケーションのワークショップ その3 - 難民問題のワークショップ
- 7回 ニート・フリーター問題に関するグループワーク
- 8回 貧困問題に関するグループワーク
- 9回 グループ決めとグループのテーマの決定
- 10回 グループごとのリサーチ
- 11回 グループごとのプレゼンテーションの準備
- 12回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その1
- 13回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その2
- 14回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート、プレゼンテーション) 60% 期末レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループのプレゼンテーションではかなりの授業時間外の準備が必要なことを覚悟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】
3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 子どもの問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【子どもの理解】
6回 授業観察の方法	【観察記録】 【観察方法】
7回 学級経営について	【学習指導要領】 【チームサポート】
8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ	【体験学習】 【働きかけ】
9回 子どもの人権と教育 材研究】 【学習指導案】	【人権】 【自尊感情】
10回 教材研究と授業構想	【刻々の教
11回 模擬授業①(中学・高校別)	【授業構成】 【導入】
12回 模擬授業②(中学・高校別)	【指導技術】 【発問】
13回 模擬授業③(中学・高校別)	【指導技術】 【説明】
14回 模擬授業④(中学・高校別)	【指導技術】 【指示・助言】
15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備	【教師の資質】 【事前準備】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 4年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習3 【昼】

担当者名 /Instructor
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、① 一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当する部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規(1) 【校則】
 - 2回 生徒指導と教育法規(2) 【懲戒】
 - 3回 組織としての学校と教員(1) 【教職員の人事】
 - 4回 組織としての学校と教員(2) 【校務分掌】
 - 5回 教員の指導力をめぐって(1) 【指導力不足教員】
 - 6回 教員の指導力をめぐって(2) 【研修制度】
 - 7回 教育課程 【補助教材・著作権】
 - 8回 教育情報の取り扱い(1) 【個人情報】
 - 9回 教育情報の取り扱い(2) 【情報公開】
 - 10回 学校の保健・安全(1) 【学校の危機対策】
 - 11回 学校の保健・安全(2) 【学校事故】
 - 12回 地方教育行政と学校 【教育委員会と学校との関係】
 - 13回 保護者・地域と学校 【教育トラブル・クレーム】
 - 14回 保護者・地域の教育参加・連携 【学校評議員・学校運営協議会】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等、参加型の授業を予定している。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規(1) 【校則】
 - 2回 生徒指導と教育法規(2) 【懲戒】
 - 3回 組織としての学校と教員(1) 【教職員の人事】
 - 4回 組織としての学校と教員(2) 【校務分掌】
 - 5回 教員の指導力をめぐって(1) 【指導力不足教員】
 - 6回 教員の指導力をめぐって(2) 【研修制度】
 - 7回 教育課程 【補助教材・著作権】
 - 8回 教育情報の取り扱い(1) 【個人情報】
 - 9回 教育情報の取り扱い(2) 【情報公開】
 - 10回 学校の保健・安全(1) 【学校の危機対策】
 - 11回 学校の保健・安全(2) 【学校事故】
 - 12回 地方教育行政と学校 【教育委員会と学校との関係】
 - 13回 保護者・地域と学校 【教育トラブル・クレーム】
 - 14回 保護者・地域の教育参加・連携 【学校評議員・学校運営協議会】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等、参加型の授業を予定している。それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋文学【夜】

担当者名 /Instructor 杉本 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義では、シェイクスピアの劇作品を紹介する。シェイクスピアは語りつくされた、と思う人は、シェイクスピアを知らない人である。現在もなお、新説が次々に提唱され、シェイクスピア観は常に新しく変貌し続けている。
 近年はまた、新しい解釈にもとづく映画化がつつぎ、日本の若者世代にも広く認知されている。講義では、テキストと映像を通して作品に触れ、英国の文化、社会、宗教、制度、加えて、大陸文化との交流に関する認識を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

河合 祥一郎 編著『シェイクスピアは誘う』 小学館
 * 最初の授業はテキストを持参のうえ、聴講することを義務とする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序
- 第2回 初期歴史劇 『リチャード三世』
- 第3回 初期喜劇 『じゃじゃ馬馴らし』
- 第4回 宮内大臣一座創立期 『ロミオとジュリエット』
- 第5回 宮内大臣一座創立期 『夏の夜の夢』
- 第6回 宮内大臣一座創立期 『ヴェニスの商人』
- 第7回 円熟喜劇 『十二夜』
- 第8回 四大悲劇 『ハムレット』
- 第9回 『ハムレット』
- 第10回 四大悲劇 『オセロオー』
- 第11回 四大悲劇 『リア王』
- 第12回 『リア王』
- 第13回 四大悲劇 『マクベス』
- 第14回 口マンズ劇 『テンベスト』
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の出席状況、小テストと提出物、定期試験の成績で総合的に評価する。
 20 % 20 % 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* テキストの指定された箇所を毎回熟読してくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理学入門【夜】

基礎教育科目
共通基礎教育科目
教養教育科目
人文科目

担当者名 /Instructor 堺 正憲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業では演繹的論証について考察しますが、先ず、命題論理学の基本的な事柄を学び、その後、述語論理学に話を広げます。講義全体のキーワードは、演繹的論証です。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

クワイン『論理学の方法』、ヒルベルト/アッケルマン『記号論理学の基礎』などの定評ある論理学教科書が図書館にそれぞれ数部ずつ用意してあります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名辞
- 2回 命題
- 3回 論証
- 4回 演繹的論証の妥当性(1)
- 5回 演繹的論証の妥当性(2)
- 6回 真理値表(1)
- 7回 真理値表(2)
- 8回 論理式
- 9回 恒真式(トートロジー)
- 10回 真理分析と推論(1)
- 11回 真理分析と推論(2)
- 12回 論理回路
- 13回 命題関数
- 14回 量化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には継続して出席し、復習をよくしておくことが大切です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理学の展開 【夜】

担当者名 /Instructor 堺 正憲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業では帰納的論証について考察しますが、先ず、演繹的論証の特徴と帰納的論証の特徴の違いを理解して、その後、帰納的一般化の最も単純な種類、類推、因果関係に基づく推論、仮説、などについて考察します。講義全体のキーワードは、帰納的論証です。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

W.C.サモン著/山下正男訳『論理学 三訂版』(培風館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 論証
- 2回 演繹的論証の特徴と帰納的論証の特徴
- 3回 帰納における正しさ
- 4回 枚挙による帰納
- 5回 不十分な統計
- 6回 かたよった統計
- 7回 統計的三段論法
- 8回 権威に基づく論証
- 9回 類推
- 10回 因果関係に基づく論証
- 11回 ミルの方法(1)
- 12回 ミルの方法(2)
- 13回 因果関係に関する虚偽と対照実験
- 14回 仮説
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% 課題...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には継続して出席し、復習をよくしておくことが大切です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学概論【夜】

基礎教育科目
共通基礎教育科目
教養教育科目
社会科目

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

もともと、経済を形成しているのは普通の人々の日常生活である。しかし今日、我々が経済について耳にする情報は、日々の生活感覚からは程遠いものとして聞こえてくる。そこで、両者を結び付ける役割を期待されているのが経済学の体系のはずなのであるが、実際にはかえって一般の人々の理解を遠ざけているというのが実状であろう。

本講義は、経済学専攻以外の学生を対象としたものであり、「経済学入門」ではない。理論体系の解説ではなく、社会における経済的領域と非経済的領域の境界線を散見することによって、日常感覚と経済現象との間のある種の断絶を埋める試みである。「市場社会」という用語をキーワードに、経済学的な社会観のようなものを示し、最終的には今日喧しい「マーケット」の問題について言及することになる。身近で当たり前と思われるような経済現象の中に、時々刻々と変動している国際経済の広がりを見出すことが目標である。

教科書 /Textbooks

テーマに応じて適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード)
- 1回 経済学概論概説 (講義の概要)
 - 2回～3回 市場社会とは【経済】【政治】【文化】
 - 4回～6回 市場社会の基礎理論【分業】【富】【知識】
 - 7回～8回 市場社会の形成【産業革命】【交換】
 - 9回～10回 市場社会の転換【大恐慌】【フォーディズム】
 - 11回～13回 市場社会の現在【IT革命】
 - 14回 21世紀の市場社会
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業が始まるまでに、「経済」についての関心を育てておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国家と法【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」を中心として判例を研究する。受講者が少人数になることが予想されるため、受講者の興味・関心を斟酌して、素材を決定する。受講者の人数によっては、受講者自身が判例報告をする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第4版)』(岩波書店・2007年)
- 長谷部恭男『憲法(第4版)』(新世社・2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス - 公法判例の読み方
- 第2回 判例①
- 第3回 判例②
- 第4回 判例③
- 第5回 判例④
- 第6回 判例⑤
- 第7回 判例⑥
- 第8回 判例⑦
- 第9回 判例⑧
- 第10回 判例⑨
- 第11回 判例⑩
- 第12回 判例⑪
- 第13回 判例⑫
- 第14回 総括 - 講義を踏まえたうえで憲法状況に関して概説する
- 第15回 総括 - 講義を踏まえたうえで憲法状況について概説する

成績評価の方法 /Assessment Method

報告(あるいはレポート) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と法 【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

この講義は、国家、国際機構や個人によって織りなされる国際関係が、どのような法によって規律されているのかを体系的に理解してもらうことを目的とします。国際関係を規律する主要な法体系としての国際法に加え、個別事例や特定テーマをもとに、当該事案の一般的な理解のために必要とされる、国際機構法、関連国内法令にも言及し、学生に包括的な取り組みの重要性を訴えます。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際法入門』（有斐閣・2004）
 ○国連憲章（以下のサイト<http://www.unic.or.jp/know/kensyo.htm>にあります。各自、それを印刷し、毎回、授業のときに持って来てください。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の理解に必要な参考資料は、適宜、配布します。参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
 第I部「安全保障」
 第2回 国連 激動の60年 第3回 新たなる脅威と安全保障
 第4回 国連安全保障理事会の改革 第5回 中間試験①
 第6回 解説と講評&個別指導
 第II部「人権・人道 難民」
 第7回 世界の難民問題の現状 第8回 難民の定義と難民問題の恒久的解決
 第9回 難民問題についての日本の対応 第10回 中間試験②
 第11回 解説と講評&個別指導
 第III部「二極化された世界 環境・貿易・開発」
 第12回 グローバリゼーションの光と影 第13回 地球温暖化 ポスト京都へ向けた動き
 第14回 政府開発援助(O DA)のあり方 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験①②および学期末試験で評価します。
 中間試験①...16.7% 中間試験②...16.7% 学期末試験...66.7%
 なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業活動と法 【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』中の「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題をいくつか取り上げ、これらにつき解説をすることです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。六法については、平成22年度版であることが必要です。毎回、必ず持参してください。なお、期末試験実施時には、「判例つき」の六法の持ち込みは認められませんので、十分注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順で進みますが、受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。

(【】はキーワード)

- 1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 2回 民法に対する商法の特色は？【営利性】【外観主義】【公示主義】
- 3回~4回 商人とは？商行為とは？【絶対的商行為】【相対的商行為】【附属的商行為】
- 5回 企業形態と武装手段 【会社の種類】【政治献金】【会社制度の濫用】
- 6回~8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール【商号・商標】
- 9回~11回 会社と従業員との関係—【商業使用人】【雇用】
- 12回~13回 会社と消費者との関係—【普通取引約款の利用】【消費者保護法】
- 14回 営業・事業に関する重要事項の「公示」はどのように行われるべきか？【商業登記】
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義が対象とする「商法」は、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、民法の財産法に関わる科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と宇宙観 【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 良治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「星」、「宇宙」など、慣れた言葉への思い込みや誤解を解きほぐし、ものごとを考える判断基準系の批判的検証を通じて、自己と外界の相互関係について複眼的思考力の養成に資する一助とすること。(前半)宇宙観がどのように誕生、変化してきたか、また宇宙における人類の位置付けがどのように変化してきたかを概観する。(後半)日本や東アジアの宇宙観、宗教における宇宙観、言語・文学と宇宙観、音楽と宇宙観など宇宙と人間との多面的な関わり合いを考察する。

教科書 /Textbooks

講義プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

村上陽一郎「宇宙像の変遷」(講談社, 学術文庫, 1996年)
 C.セーガン「コスモス(上, 下)」(朝日新聞社, 朝日文庫, 1984年)
 佐藤文隆「宇宙論への招待」(岩波新書, 1988年)
 荒川 紘「東西の宇宙観(上)東洋の宇宙観」(紀伊国屋書店, 2005年)
 荒川 紘「東西の宇宙観(下)西洋の宇宙観」(紀伊国屋書店, 2005年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回宇宙観の進化【宇と宙、コスモス、ユニバース、進化する宇宙】
- 第2回古代の宇宙観【神話的、哲学的宇宙観】
- 第3回地球中心モデル【プトレマイオス、円軌道、等速運動】
- 第4回中世の宇宙観【地球中心、有限、不変、存在の連鎖】
- 第5回近代の宇宙観1【太陽中心宇宙、楕円軌道】
- 第6回近代の宇宙観2【無限宇宙、万有引力、地上と天界の統一】
- 第7回現代の宇宙観1【天国と地獄としての太陽系、星の誕生と進化】
- 第8回現代の宇宙観2【ハッブルの法則、ビッグバン宇宙】
- 第9回現代の宇宙観3【インフレーション宇宙、宇宙の進化】
- 第10回日本の伝統的宇宙観【恐れと恵みの自然、花鳥風月、安藤昌益、三浦梅園、合理性】
- 第11回宗教的宇宙観【キリスト教、ヒンドウ教、仏教、儒教】
- 第12回言語・文学と宇宙観【宇と宙、世界】
- 第13回音楽と宇宙観【ピタゴラスと和音、自由七科、ケプラー、バッハ、ベートベン】
- 第14回時間と空間【時間意識の4つの形態、状態変化と時間、運動と空間】
- 第15回宇宙と人間【宇宙における生命、自然の階層構造、宇宙原理と人間原理】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回講義の要約または感想(20%)
 出席回数は3分の2以上を原則とする。
 前半レポート(40%)、後半レポート(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然と人間のエコロジー【夜】

担当者名 真鍋 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

自然の仕組みを理解するための道具としての『生態学』の基礎知識を解説する。これを踏まえ、現在の主要な環境問題である「生物多様性」をめぐる諸問題や、ヒトとの関わり合いを通じて形成・維持されてきた「二次的自然」の意義等を紹介する。これらの講義をとおして、自然の特質や自然とヒトとの関係を自ら分析し判断できる素地を形成することを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用せず。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本生態学会(編)「生態学入門」東京化学同人、を推薦する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード)
- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 自然界の捉え方 【分類学】【生態学】【5界説】【環境】【適応】
 - 第3～6回 生態学の基礎1 【生活史】【個体群】【群集】【生態遷移】【生物間相互作用】【環境形成作用】【ニッチ】【攪乱】
 - 第7～10回 生態学の基礎2 【生態系】【生態ピラミッド】【物質循環】【食物網】【景観構成要素】【生態系機能】【生態系サービス】
 - 第11～13回 生物多様性を考える
【二次的自然】【外来種】【里地里山】【絶滅危惧種】【自然再生】
 - 第14回 生態学的にみた北九州の自然
【大陸系生物】【二次林】【二次草原】【溜池】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%
 (ノート・参考書持参可の試験を実施する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報処理基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。初心者をも対象とした基礎的な授業です。本講義の目的は、コンピュータを道具として使いこなす訓練を行いつつ、自分自身の思考を的確に表現する能力を習得することです。
 講義全体のキーワードは、Word、インターネット、学内グループウェアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パソコンの基礎操作1【書式設定】、【印刷】、【保存】
- 2回 パソコンの基礎操作2【ヘルプ】、【ハンガアップ】
- 3回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 4回 情報倫理1【ネチケット】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 情報倫理2【セキュリティ対策】、【SSL】
- 6回 パソコンの基礎知識1【ID】、【パスワード】
- 7回 パソコンの基礎知識2【拡張子】、【書式設定】
- 8回 文書作成1【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 9回 文書作成2【表の作成】
- 10回 文書作成3【図形処理】
- 11回 文書作成実習
- 12回 文書作成・まとめ
- 13回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 14回 インターネット演習【情報検索】、【WWW】、【URL】、【ドメイン名】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% (Wordの活用 ... 25%、インターネット演習 ... 25%)、積極的な授業参加 (タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で、学内グループウェアを利用しながら、その利用方法やネチケットに対する実践的な学習を行います。グループウェアの利用方法、特に、電子メールの利用方法について確認しておくこと、受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究I【夜】

担当者名 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究I【夜】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ
ア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
	○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究I【夜】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究I【夜】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(ベ 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期 (ベア) 授業形態 /Class Format クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究II 【夜】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究II 【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

課題研究II 【夜】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ
ア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
	○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

CompositionIV 【夜】

担当者名 /Instructor 江口 雅子 / EGUCHI MASAKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 5

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

4つのエッセイ・パターン（①意見サポート型、②比較列挙型、③直線的展開型、④多面的展開型）の英文エッセイを読み、その論理構成を使って英文エッセイを書く訓練をさせる。日本語と英語のエッセイの書き方の違いに着目する。

教科書 /Textbooks

Skills for Better Writing (Revised Edition) (南雲堂)
By Yumiko Ishitani, Emma Andrews

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要なものは授業中に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Conclusions / Reasons
- 3回 Analysis
- 4回 Theory / Proof
- 5回 Controversy
- 6回 Comparison / Contrast
- 7回 Classification
- 8回 Instructions
- 9回 Chronological Order (History)
- 10回 Cause & Effect
- 11回 Process
- 12回 Explanation (New Product)
- 13回 Definition
- 14回 Explanation (Statistics)
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・30% 期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容の十分な理解を得るために、予習、復習を必須とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳入門I【夜】

担当者名 /Instructor 津田 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原書講読演習II 【夜】

担当者名 /Instructor 田吹 長彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

テーマ: 「イギリス・ロマン派とスイス」
風光明媚なスイスを背景に、Lord Byronを中心とするイギリス・ロマン派の作家の動向を探索する。産業革命・フランス革命・ナポレオン戦争といった激動の時代を経てスイスを旅した人たちの中にByron、P.B.Shelley、Mary Shelley、William Polidoriなどがいる。テキストの背景は、スイスのBaselから入国、同国内各地を旅してイタリアとの国境にあるSimplon峠まで、現在の観光地をほぼ網羅する。内容には名所旧蹟・風物・歴史・文化なども含む。
「英語リーディング演習II」では主にスイスのLeman湖北東岸、Golden Pass、Bernese Oberland、Leman湖南西岸Geneveからイタリア国境Simplon峠を背景とする部分の動向について精読する。

教科書 /Textbooks

Elma Dangerfield: Byron and the Romantics in Switzerland.
テキストについては授業の冒頭で説明する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和書
○ 上杉文世 『バイロン研究』 研究社
○ 楠本哲夫 『永遠の巡礼詩人バイロン』 三省堂
○ 阿部知二 『バイロン』 研究社
○ 田吹長彦 『ヨーロッパ夢紀行、詩人バイロンの旅—ベルギー・ライン河・スイス編』
丸善出版サービスセンター
原書は多数あるが授業で必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のテキストを精読。各種の映像・地図などを必要に応じて随時活用する予定。
テキストは全部で約100ページ(挿入画等を含む)あるが、「英語リーディング演習II」では、その後半を授業コマ数に分けて精読する予定。読破の場合は、スイスに関するバイロンの他の教材を追加して読む。

語学力増強のために、授業の確実な予習をすること。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(出席率・欠席回数・遅刻回数・予習・積極性・理解度を含む)...30% 期末試験...70%。なお授業開講回数の2 / 3 以上の出席回数がないと単位認定作業ができないので十分注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳入門II【夜】

担当者名 /Instructor 津田 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語中級I【夜】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ドイツ語ビデオ教材を用いて、様々な状況での実用的ドイツ語表現を身に付ける。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前を尋ねる
- 2回 職業を尋ねる
- 3回 具合を尋ねる
- 4回 何をしていますか?
- 5回 nehmenの使い方
- 6回 ドイツ語で何といえますか?
- 7回 ~したいのですが
- 8回 明日の予定を尋ねる
- 9回 道を尋ねる
- 10回 値段を尋ねる
- 11回 時刻を尋ねる
- 12回 所有者を尋ねる
- 13回 趣味を尋ねる
- 14回 申し出を断る
- 15回 昨日は何をしましたか?

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独和辞書(出版社は問わない)を準備しておくこと。電子辞書でも可。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語中級II 【夜】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ドイツ語ビデオ教材を用いて、様々な状況での実用的ドイツ語表現を身に付ける。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族を紹介する
- 2回 趣味を説明する
- 3回 道の尋ね方
- 4回 道の教え方
- 5回 本を注文する
- 6回 休暇旅行での会話
- 7回 食品を買う
- 8回 体調の表現
- 9回 レストランでの注文
- 10回 感想の言い方
- 11回 列車での会話
- 12回 切符を持っていますか？
- 13回 服を買う
- 14回 値段の尋ね方
- 15回 電話をかける

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独和辞書(出版社は問わない)を準備しておくこと。電子辞書でも可。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語中級III 【夜】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ドイツ語のコミカルなドラマのビデオ教材を用いて、実用的ドイツ語表現を身に付ける。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 お礼の言い方
- 2回 ~を知っていますか?
- 3回 どうしたんですか?
- 4回 もっといい写真はないの?
- 5回 あれは彼じゃない
- 6回 心配いりません
- 7回 ~してください
- 8回 どこで降りればいい?
- 9回 道を尋ねる
- 10回 ~に~を見せる
- 11回 気分は良くなりましたか?
- 12回 職業は何ですか?
- 13回 ~だといいなあ
- 14回 何を飲みたい?
- 15回 忘れちゃいなさいよ!

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独和辞書(出版社は問わない)を準備しておくこと。電子辞書でも可。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語中級Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ドイツ語中級Ⅱの続き。ドイツ語のコミカルなドラマのビデオ教材を用いて、実用的ドイツ語表現を身に付ける。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 予約はしていますか?
- 2回 1時間貸してください
- 3回 ~するのがいちばん良い
- 4回 おいしいですか?
- 5回 申し訳ありません
- 6回 ~が欲しいのですが
- 7回 喉が渴きました
- 8回 すぐに戻りなさい
- 9回 ~を持っていません
- 10回 dass文章の使い方
- 11回 何事ですか?
- 12回 ~できます
- 13回 ~は私のいちばんの趣味です
- 14回 今度はうまく行くぞ
- 15回 ちょっとしたプレゼント

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独和辞書(出版社は問わない)を準備しておくこと。電子辞書でも可。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語中級I【夜】

担当者名
/Instructor

水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 英夜2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
	○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

1年次で学習したフランス語の知識を復習しながらさらに発展させるのがねらいです。レベルは実用フランス語技能検定試験(仏検)3級程度。6月あるいは11月の仏検で3級に合格できる力をつけることを目指します。
キーワード・・・ 仏検3級

教科書 /Textbooks

『エム・ヴ・ラ・フランス?(4訂版)』(小倉孝誠他著、第三書房)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは全13課。進度の目安は2回で1課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 1課 - 1
- 2回 1課 - 2
- 3回 2課 - 1
- 4回 2課 - 2
- 5回 3課 - 1
- 6回 3課 - 2
- 7回 4課 - 1
- 8回 4課 - 2
- 9回 5課 - 1
- 10回 5課 - 2
- 11回 6課 - 1
- 12回 6課 - 2
- 13回 7課 - 1
- 14回 7課 - 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%

※履修中に仏検で3級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語中級II【夜】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、1年次で学習したフランス語の知識を復習しながらさらに発展させるのがねらいです。レベルは実用フランス語技能検定試験(仏検)3級程度。6月あるいは11月の仏検で3級に合格できる力をつけることを目指します。
キーワード・・・ 仏検3級

教科書 /Textbooks

『エム・ ヴ・ ラ・ フランス? (4訂版)』(小倉孝誠他著、第三書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは1学期に終わったところ、予定8課から。進度の目安は2回で1課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 8課 - 1
- 2回 8課 - 2
- 3回 9課 - 1
- 4回 9課 - 2
- 5回 10課 - 1
- 6回 10課 - 2
- 7回 11課 - 1
- 8回 11課 - 2
- 9回 12課 - 1
- 10回 12課 - 2
- 11回 13課 - 1
- 12回 13課 - 2
- 13回 復習1
- 14回 復習2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%
※履修中に仏検で3級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語中級III 【夜】

担当者名
/Instructor

水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 英夜2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
	○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

1年次で学習したフランス語の知識を復習しながらさらに発展させるのがねらいです。レベルは実用フランス語技能検定試験(仏検)3級程度。6月あるいは11月の仏検で3級に合格できる力をつけることを目指します。
キーワード・・・ 仏検3級

教科書 /Textbooks

『アミカルマン<ビス>』(澤田直之他著、駿河台出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは全10課。進度の目安は3回で1課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 1課 - 1
- 2回 1課 - 2
- 3回 1課 - 3
- 4回 2課 - 1
- 5回 2課 - 2
- 6回 2課 - 3
- 7回 3課 - 1
- 8回 3課 - 2
- 9回 3課 - 3
- 10回 4課 - 1
- 11回 4課 - 2
- 12回 4課 - 3
- 13回 5課 - 1
- 14回 5課 - 2
- 15回 5課 - 3

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%

※履修中に仏検で3級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語中級Ⅳ【夜】

担当者名 水本 弘文 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英夜2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、1年次で学習したフランス語の知識を復習しながらさらに発展させるのがねらいです。レベルは実用フランス語技能検定試験(仏検)3級程度。6月あるいは11月の仏検で3級に合格できる力をつけることを目指します。
キーワード・・・ 仏検3級

教科書 /Textbooks

『アミカルマン<ビス>』(澤田直之他著、駿河台出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは1学期に終わったところ、予定6課から。進度の目安は3回で1課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 6課 - 1
- 2回 6課 - 2
- 3回 6課 - 3
- 4回 7課 - 1
- 5回 7課 - 2
- 6回 7課 - 3
- 7回 8課 - 1
- 8回 8課 - 2
- 9回 8課 - 3
- 10回 9課 - 1
- 11回 9課 - 2
- 12回 9課 - 3
- 13回 10課 - 1
- 14回 10課 - 2
- 15回 10課 - 3

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%
※履修中に仏検で3級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米思想研究 【夜】

担当者名 八尋 春海 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(ベ 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

英米社会における具体的な事象を分析しながら、その根底に流れる英米思想を考察する。

教科書 /Textbooks

『映画の中の星条旗』フォーイン

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本で手に入る英字新聞

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード
- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 回人種差別【黒人】 | 2 回人種差別【ヒスパニック】 |
| 3 回人種差別【アジア系】 | 4 回犯罪(銃規制) |
| 5 回犯罪【マフィア】 | 6 回大統領【選挙】 |
| 7 回大統領【危機管理】 | 8 回大統領【二大政党】 |
| 9 回スポーツ【3大スポーツ】 | 10 回スポーツ【スポーツ代理人】 |
| 11 回司法【陪審員制度】 | 12 回司法【弁護士】 |
| 13 回司法【懲罰的賠償】 | 14 回音楽【ロック】 |
| 15 回音楽【ジャズ】 | 16 回犯罪捜査【FBI】 |
| 17 回犯罪捜査【CIA】 | 18 回家族【離婚】 |
| 19 回家族【シングル】 | 20 回家族【核家族】 |
| 21 回ビジネス【買収】 | 22 回ビジネス【日系企業】 |
| 23 回マスコミ【テレビ】 | 24 回【通信社】 |
| 25 回マスコミ【自由化】 | 26 回環境問題【温暖化】 |
| 27 回環境問題【遺伝子組み換え】 | 28 回宗教【ユダヤ教】 |
| 29 回宗教【キリスト教】 | 30 回まとめ |
- 特になし

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 30% テスト... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際マクロ経済学【夜】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況の中で、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合のマクロ経済(オープン・マクロ経済)について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。

教科書 /Textbooks

* 後日、講義の中で指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

* 伊藤元重著『ゼミナール国際経済入門』日本経済新聞社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：世界経済と日本
- 第2回 経済のグローバル化と日本経済の動向
- 第3回～第4回 国際マクロ経済の基本的分析視点(1)
- マクロ経済学の基本的枠組み(基礎概念) -
- 第5回～第6回 国際マクロ経済の基本的分析視点(2)
- 国際マクロ経済の分析枠組み(基礎理論) -
- 第7回～第8回 国際収支表と国際収支の諸概念 【貿易収支】【資本収支】【外貨準備】
- 第9回～第10回 国際収支と日・米経済関係 【貿易黒字】【貿易赤字】
- 第11回～第12回 国際通貨制度とその変遷 【金本位制度】【管理通貨制度】【IMF体制】
- 第13回～第14回 外国為替取引と為替レート 【円建て】【ドル建て】
- 第15回 外国為替制度：固定相場制度と変動相場制度
- 第16回 外国為替レートの決定メカニズム
- 第17回～第18回 変動為替相場(フロート)制度 【円高】【円安】
- 第19回 固定為替相場制度 【介入】【平価】
- 第20回～第22回 外国為替レートの決定要因 【フロー・アプローチ】
【アセット・アプローチ】【購買力平価説】
- 第23回 外国為替レートとマクロ経済政策の効果 【財政政策】【金融政策】【資本移動】
- 第24回 固定相場制と政策効果 【IS曲線】【LM曲線】【BP曲線】
- 第25回 変動相場制と政策効果 同上
- 第26回～第27回 グローバル経済化と資本移動 【マンデル=フレミング・モデル】
【ポリシーミックス】
- 第28回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス(I)
- 第29回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス(II)
【経常収支の黒字】【債権大国：日本】【経常収支の赤字】【債務大国：アメリカ】
- 第30回 まとめ：世界経済の動向と今後の展望

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(学期末試験)の結果と講義の履修状況(出席etc)を考慮した総合点で評価する。
出席 ... 20% 学期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学部の学生は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
世界経済の動向を載せた新聞や雑誌にも目を通しておくと、授業がより効果的である。
授業を受けるにあたっては、授業中に配布する資料をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。
 ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 ③子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。
 ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喩・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒指導論【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 今日の思春期の子どもたちの「生きづらさ」や内的葛藤を見童虐待や家族内葛藤を中心にしながら検討し、子どもたちの内面に寄り添う生徒指導の課題について、検討していくこと。
- ② 高機能自閉症、アスペルガー症候群の問題を中心にしながら、「特別なニーズを持つ子どもに対する理解と援助」の問題を検討していくこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。

本授業のキーワードは「特別なニーズ」、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その1(アスペルガー症候群)
- 5回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その2(高機能自閉症)
- 6回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その3(ADHD)
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5,6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職総合演習 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は大きくは次の三点である。
 1. グローバルエデュケーションに関する参加型学習の方法について、体験的に学習すること。
 2. テーマを自分たち自身で設定し、プレゼンテーションを行なうことを通じて、共同学習のあり方、プレゼンテーションのあり方を学習すること。
 本授業のキーワードはグローバルエデュケーション、参加型学習の方法などである。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献 環境教育指導者育成マニュアル 角田尚子・ERIC国際理解教育センター著他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 参加型教育実践の実際
- 2回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その1
- 3回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その2
- 4回 グローバルエデュケーションのワークショップ その1 - マジカルバナナ
- 5回 グローバルエデュケーションのワークショップ その2 - 地球家族のワークショップ
- 6回 グローバルエデュケーションのワークショップ その3 - 難民問題のワークショップ
- 7回 ニート・フリーター問題に関するグループワーク
- 8回 貧困問題に関するグループワーク
- 9回 グループ決めとグループのテーマの決定
- 10回 グループごとのリサーチ
- 11回 グループごとのプレゼンテーションの準備
- 12回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その1
- 13回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その2
- 14回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート、プレゼンテーション) 60% 期末レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループのプレゼンテーションではかなりの授業時間外の準備が必要なことを覚悟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- | | | |
|---------------------------|--------------------|---------------|
| 1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か | 【教育実習】 【実習校】 | |
| 2回 教育実習の1日 | 【教育実習の実態】 | |
| 3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 5回 子どもの問題状況と生徒指導 | 【生徒指導】 【子どもの理解】 | |
| 6回 授業観察の方法 | 【観察記録】 【観察方法】 | |
| 7回 学級経営について | 【学習指導要領】 【チームサポート】 | |
| 8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ | 【体験学習】 【働きかけ】 | |
| 9回 子どもの人権と教育 | 【人権】 【自尊感情】 | 10回 教材研究と授業構想 |
- 【刻々
の教材研究】 【学習指導案】
- | | |
|---------------------------|----------------|
| 11回 模擬授業①(中学・高校別) | 【授業構成】 【導入】 |
| 12回 模擬授業②(中学・高校別) | 【指導技術】 【発問】 |
| 13回 模擬授業③(中学・高校別) | 【指導技術】 【説明】 |
| 14回 模擬授業④(中学・高校別) | 【指導技術】 【指示・助言】 |
| 15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備 | 【教師の資質】 【事前準備】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- | | | |
|---------------------------|--------------------|---------------|
| 1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か | 【教育実習】 【実習校】 | |
| 2回 教育実習の1日 | 【教育実習の実態】 | |
| 3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 5回 子どもの問題状況と生徒指導 | 【生徒指導】 【子どもの理解】 | |
| 6回 授業観察の方法 | 【観察記録】 【観察方法】 | |
| 7回 学級経営について | 【学習指導要領】 【チームサポート】 | |
| 8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ | 【体験学習】 【働きかけ】 | |
| 9回 子どもの人権と教育 | 【人権】 【自尊感情】 | 10回 教材研究と授業構想 |
- 【刻々
の教材研究】 【学習指導案】
- | | |
|---------------------------|----------------|
| 11回 模擬授業①(中学・高校別) | 【授業構成】 【導入】 |
| 12回 模擬授業②(中学・高校別) | 【指導技術】 【発問】 |
| 13回 模擬授業③(中学・高校別) | 【指導技術】 【説明】 |
| 14回 模擬授業④(中学・高校別) | 【指導技術】 【指示・助言】 |
| 15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備 | 【教師の資質】 【事前準備】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1 回 ; オリエンテーション	【勤務】 【連絡】
第 2 回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】 【中学生への支援】
第 3 回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】 【高校生への支援】
第 4 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15 回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; オリエンテーション	【勤務】 【連絡】
第 2 回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】 【中学生への支援】
第 3 回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】 【高校生への支援】
第 4 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15 回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 4年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 4年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、①一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、① 一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法C【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国語教育における主要な方法論について概観し、具体的な教室のなかでの作業に置き換えることを念頭に置き、検討する。

教科書 /Textbooks

下記の文献から抜粋したプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫 『英語教育学概論』 (金星堂) 望月編著 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 (大修館書店) 田崎 (編集) 『現代英語教授法総覧』 (大修館書店) 片山、末畑、他 (編注) Readings on Teaching English as a Foreign Language (大修館書店) 「中学校学習指導要領：外国語(英語)」
「高等学校学習指導要領：外国語(英語)」 『英語教育学概論』 付属ビデオ (金星堂) 『公開授業 教育実習生』 (ジャパンライム)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 TESLとTEFLの概念
- 第2回 中学校学習指導要領の解説と解説
- 第3回 高等学校学習指導要領の解説と解説
- 第4回 The Grammar-Translation Method、
- 第5回 Cognitive Code Learning
- 第6回 The Direct Method、
- 第7回 The Oral Method
- 第8回 The Audio-Lingual Methodの理論的側面
- 第9回 The Audio-Lingual Methodのこれまでの方法論との差異
- 第10回 CCL, CA,(Communicative Language Teaching)のA-LMとの差異
- 第11回 The Audio-Lingual Methodの訓練法の実践的側面
- 第12回 CLL, の訓練法の実践的側面
- 第13回 CLTの訓練法の実践的側面
- 第14回 方法論の変遷のまとめ
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加度40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法D 【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教育現場で多用されているAudio-Lingual Method、CAの諸手法を中心に、授業展開のあり方を学び、その手法を取得する。

教科書 /Textbooks

下記の文献からの抜粋プリント配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫 『英語教育学概論』(金星堂)、望月編著 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』(大修館書店) 望月・山田 編著 『私の英語授業』(大修館書店)、
E.W.Stevick "Teaching Languages A Way and Ways" (Newbury House)、
「中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領：外国語(英語)」 『英語教育学概論』付属ビデオ(金星堂) 『授業の構成と進め方 中学校の部』-授業編、解説編『(JAPAN LAIM)』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースワークの説明
- 第2回 テキスト教材配列について
- 第3回 教材研究(副教材の作成など)
- 第4回 インプット重視の指導、アウトプット重視の指導
- 第5回 タスク活動と文法指導
- 第6回 教案の作成と授業の展開の把握
- 第7回 評価(テスト、絶対評価)
- 第8回 ALTとの活動、および国際理解教育
- 第9回 中学校教育指導作成の指導
- 第10回 提出用の教育指導作成の指導
- 第11回 模擬授業(中学：1、2年)
- 第12回 模擬授業(中学：2年、3年)
- 第13回 模擬授業(高校：1年、2年)
- 第14回 模擬授業(高校：2年、3年)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動(模擬授業を含む)30%、課題(教案を含む)20%、期末テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考えていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導 【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考えていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの社会I【昼】

担当者名 藤永 康政 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の人種民族関係について、主に黒人の経験に焦点をあてながら歴史的に概観する。また、歴史的現象のみならず、おおよそ一か月に一回の割合で今日のアメリカの政治社会問題について、それがいかなる歴史的経験に基づいているものなのかを考察しながら、アメリカ社会をより深く理解することを目指す。授業では、適宜映像資料を用いる。また、参考文献や映画等の映像については授業にて指示するが、受講者は機会を見てそれらに触れあっておくことが望ましい。

教科書 /Textbooks

本田創造『アメリカ黒人の歴史』（岩波文庫、1991年）：マイケル・エリック・ダイソン著『カトリーナが洗い流せなかった貧困のアメリカ 格差社会で起きた最悪の災害』（P-Vine Books、2008）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

バラク・オバマ『マイ・ドリームーバラク・オバマ自伝』（ダイヤモンド社、2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション
- 2回：アメリカにおける黒人の歴史【概説】
- 3回：比較奴隷制史と社会構築論入門
- 4回：アメリカ時事問題1：現代アメリカの社会政治問題解説
- 5回：アメリカ憲法と政治制度
- 6回：アンテベラム南部と南北戦争
- 7回：南部再建期
- 8回：理解度総点検（これまでの総復習：質問とそれらへの応答）
- 9回：アメリカ時事問題2：現代アメリカの社会政治問題解説
- 10回：デュボイス・ワシントン論争～黒人進歩の「戦略」
- 11回：第一次世界大戦と黒人の「生活圏」の変容
- 12回：公民権運動
- 13回：ブラック・ナショナリズムと第三世界
- 14回：「バラク・オバマ」という現象～黒人大統領誕生の歴史的意味
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート... 60% 小レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜小レポートを求められることがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの政治Ⅲ【昼】

担当者名 田宮 晴彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ外交の特徴は何か，国際政治にアメリカはどのような影響と役割を果たしてきたのか，こうした問題を，建国期から19世紀前半までのアメリカ外交の展開を中心に，外交思想，政策決定過程，人物に焦点をあてて概説する

教科書 /Textbooks

講義ごとにプリントを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 - 4回 外交とは何か、ヨーロッパの「古典」外交、アメリカ外交とイデオロギー
- 5回 - 7回 アメリカ外交の原型 - 反英抗争と独立革命 -
- 8回 - 10回 ジャクソン期における政治転換
- 9回 - 12回 孤立主義と膨張主義の形成
- 13回 - 14回 南北戦争への道
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題・小テスト含む)...40% テスト...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの政治Ⅳ【昼】

専門教育科目
選択科目
米地域・国際科目群

担当者名 /Instructor 田宮 晴彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ外交の特徴は何か、国際政治にアメリカはどのような影響と役割を果たしてきたのか、こうした問題を、19世紀半ばからのアメリカ外交の展開を中心に、外交思想、政策決定過程、人物に焦点をあてて概説する。またその際、我が国との関わりについても、折に触れて考察する。

教科書 /Textbooks

講義ごとにプリントを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 - 3回 19世紀アメリカ外交の「二つの顔」
- 4回 - 6回 日米外交の黎明
- 7回 対ラテンアメリカ外交
- 8回 - 9回 世界強国への道
- 10回 - 12回 20世紀のアメリカ外交への視点 - 第一次世界大戦とウィルソンの国際主義 -
- 13回 - 14回 第2次世界大戦
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題・小テスト含む)...40% テスト...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第1学期に、「アメリカの政治Ⅲ」を受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係論I【昼】

担当者名 /Instructor 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の特徴を国内社会との相違から位置付け、国際関係の変遷や主要な課題に焦点をあてつつ、リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムを中心とする国際関係の主要な理論について学習する。国際関係を分析する上で基本的かつ重要な概念を理解し、各自が国際関係を多様な角度からとらえられるような分析視角を習得することがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

主に以下の文献を利用する。
山田高敬・大矢根聡(編)『グローバル社会の国際関係論』有斐閣、2006年。
原彬久(編)『国際関係学 講義 (第3版)』有斐閣、2006年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○John Baylis and Steve Smith (eds.) The Globalization of World Politics: An Introduction to International Relations, 4th ed. Oxford University Press, 2008.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際関係学の誕生と展開【理想主義】、【現実主義】、【理論】
- 2回 国際社会の特徴【政治】、【アナーキー】、【主権国家】
- 3回 国際関係の分析視角【リベラリズム】、【リアリズム】、【コンストラクティビズム】
- 4回 国際政治体制の変遷【冷戦】、【歴史の終焉】、【文明の衝突】、【ポスト冷戦】
- 5回 政治体制と国際安全保障【安全保障のジレンマ】、【相互確証破壊】
- 6回 安全保障問題(1)：大量破壊兵器の管理【NPT】、【PTBT】、【CTBT】
- 7回 安全保障問題(2)：人間の安全保障【人道的介入】、【国際テロ】
- 8回 リアリズム【パワー】、【勢力均衡】、【集団安全保障】
- 9回 ネオ・リアリズム【ウォルツ】、【囚人のジレンマ】、【相対利得問題】
- 10回 リベラリズムとネオ・リベラリズム【国際レジーム】、【民主主義平和論】
- 11回 国際経済体制【ブレトンウッズ体制】、【IMF】、【IBRD】、【GATT】、【WTO】
- 12回 国際協力をめぐる理論【サミット】、【G7/8/20】
- 13回 コンストラクティビズム【観念的要素】、【社会構造】、【相互構築性】
- 14回 地域統合・地域経済協力【EU】、【FTA】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト・参考文献の講読は授業内容を理解する上で必要不可欠である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係論II 【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 大輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会が抱える様々な課題を取りあげ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を概観する。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的側面からも分析する。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養う。

教科書 /Textbooks

宮脇昇・庄司真理子編著『グローバル公共政策(改訂版)』晃洋書房、2010年。
池尾靖志編著『平和学をつくる』晃洋書房、2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

細谷千博監修、滝田賢治・大芝亮編『国際政治経済—「グローバル・イシュー」の解説と資料』
有信堂高文社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を示すキーワード

- 第1回 暴力と平和【直接的暴力】、【構造的暴力】、【文化的暴力】
- 第2回 国際システムの展開【集団安全保障】【集団的自衛権】
- 第3回 ポスト冷戦期の国際システム【国内紛争】
- 第4回 9・11後の世界【テロとの戦い】
- 第5回 大量兵器不拡散レジーム【核不拡散レジーム】、【包括的核実験禁止条約】
- 第6回 小型武器問題とNGOの活躍【クラスター爆弾禁止条約】、【対地雷禁止条約】
- 第7回 累積債務問題【石油危機】、【構造調整】
- 第8回 貧困問題【南北問題】、【人間開発】
- 第9回 持続可能な開発【ブルントラント委員会】、【リオ・サミット】
- 第10回 地球温暖化防止レジーム【京都議定書】、【ポスト京都議定書】
- 第11回 人権の主流化【国連人権理事会】
- 第12回 国際人道法違反とそれへの対応【民族浄化】、【国際刑事裁判所】
- 第13回 ジェンダーの視点で捉える暴力【ジェンダー・エンパワーメント】
- 第14回 私たちの暮らしと国際関係【フェア・トレード】、【100円ショップ】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際関係を学ぶ上で最低限必要な心構えとして、日頃からネット上ではなく、紙媒体の新聞に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在の日本で、輸入品と関係なしに暮らすことはできない。このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考え方を持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のものは使用しないよう努力する。講義全体のキーワードは、自由貿易と保護貿易である。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社，2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 自由貿易への批判
- 3回 自由貿易の必要性
- 4回 自由貿易の歴史【A.スミス】【D.リカード】【穀物法】
- 5回 重商主義の問題点
- 6回 絶対優位【A.スミス】【2国2財1生産要素モデル】
- 7回 比較優位【D.リカード】【2国2財1生産要素モデル】
- 8回 比較優位成立の確認
- 9回 貿易利益：計算を用いて
- 10回 貿易利益：図を用いて【無差別曲線】【生産可能性曲線】
- 11回 ヘクシャー＝オリー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 12回 リプチンスキー定理【2国2財2生産要素モデル】
- 13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 14回 ストルパー＝サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論1において講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。講義に参加された人に対して、直接投資に関してどのような選択をするのか尋ねた後、みなさんの先輩方に対して行なった実験結果を紹介し、海外進出先国選択において偏りが見られることを紹介していきたい。講義全体のキーワードは、合理的な選択と非合理的な選択である。

ゲーム理論を紹介するので、算数レベルのものに対してアレルギーのある人は避けた方が良いかもしれないが、苦手レベルであれば、ついていけるような講義を目指す。

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社，2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 行動経済学を紹介【行動経済学】
- 3回 ゲーム理論紹介【ゲーム理論】
- 4回 ゲーム理論の解き方【ゲーム理論】
- 5回 直接投資理論の紹介【直接投資理論】
- 6回 チキンゲーム【ゲーム理論】【標準偏差】【中央値】
- 7回 3状況提示【意思決定原理】
- 8回 認識と選択
- 9回 ストライキリスクと地震リスク【コンジョイント分析】
- 10回 ライバル参入リスク【コンジョイント分析】
- 11回 「対日感情」と「親近感」【コンジョイント分析】
- 12回 模倣リスク【コンジョイント分析】
- 13回 低確率リスク：SARS反日感情
- 14回 反日感情(中国での反日デモ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ経済 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

サブプライム・ローン問題に端を発する世界金融危機とその後の実体経済の悪化から、オバマ政権下のゼロ金利政策、量的緩和政策もあって回復を遂げたアメリカ経済。日本とも貿易や金融の面で関係の深いアメリカですし、世界最大の経済ですから、それを学ぶことの意味は大きいと言えます。でも、そもそもアメリカって...? 経済って...?

授業では、研究者としてアメリカに住んでいたときや毎年の学会出席時の私の体験談、また、南北戦争マニアの私ならではの歴史上のエピソードもたっぷりとお伝え、楽しくアメリカについて学びます。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤井英彦『オバマのアメリカ - 次なる世界経済の行方』東洋経済新報社、2009年2月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 アメリカの産業と所得 | 2 アメリカの所得分配と社会保障 |
| 3 アメリカ家計の消費と貯蓄 | 4 アメリカの社会階層と失業 |
| 5 アメリカ企業と収益 | 6 アメリカ企業と投資 |
| 7 アメリカ政府と税制 | 8 アメリカの政府支出と財政 |
| 9 アメリカの通貨制度 | 10 アメリカの金融システム |
| 11 アメリカ経済と金利 | 12 アメリカの国際収支 |
| 13 アメリカ経済と為替レート | 14 アメリカ経済と物価 |
| 15 アメリカの経済成長と景気 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績を8割、レポートを2割で評価します。定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が1問出題されます。レポートはアメリカ経済についてのプリントを読んでまとめてもらい、自分の感想・見解と一緒に2000字程度にまとめてもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講すれば、みんなの頭にアメリカのはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じるはず。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文学概論 【昼】

担当者名 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず、現代の世界大戦後の荒廃を【ロスト・ジェネレーション】の世代として虚無と戦ったHemingway、そして【ユダヤ系文学】、【黒人文学】、【ポストモダニズムの文学】を読んでアメリカ文学への理解を深めたい。

教科書 /Textbooks

Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 『日はまた昇る』(岩波文庫)
F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 『グレート・ギャツビー』(新潮文庫)
J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 『ライ麦畑でつかまえて』(白水Uブックス)
Richard Wright: Native Son、【ユダヤ系文学】、【黒人文学】、【ポストモダニズム】の作品等

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらにまた、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 【国籍離脱者Exile】 【Hard-boiled】
- 2回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 【ロスト・ジェネレーション】
- 3回 パリ、スペイン・パンプローナ「牛追い祭」と闘牛のシーン(映画・ビデオ)で鑑賞。
- 4回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 【The Jazz Age】
- 5回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 【Gatsby's Dream】
- 6回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 【American Dream】日本の【成金】との比較
- 7回 映画「華麗なるギャツビー」の鑑賞。
- 8回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【ユダヤ系作家】 【Soft-boiled】
- 9回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【禅仏教】 【Angry Young Men】
- 10回 Richard Wright: Native Son 【黒人作家】 【エリソン】 【ボールドウィンら黒人作家】
- 11回 Richard Wright: Native Son 【Black Power】 【旧約聖書・ヨブ記】
- 12回 Ken Kesey: One Flew Over the Cuckoo's Nest 【サイケデリック・カルチャー】
- 13回 Joseph Heller: Catch-22 【ギラン・バレー症候群】 【Catch-22の状況とは】
- 14回 ポストモダニズムの文学(1) 【シュールリアリズム】
- 15回 ポストモダニズムの文学(2) 【ブラックユーモア】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(20%)、レポート(50%)と学期末試験(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で準備することは、テキストを読むこと、さらに、授業中指示した参考書等を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの現代文学 【昼】

担当者名 /Instructor 高本 孝子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリスの代表的な現代小説を数編取り上げ、テーマなどを分析し、各々の小説およびその作家の特徴を考える。読書の課題を課すことにより、なるだけ多くの作品に触れてほしいと考えている。授業を通じて小説を読む醍醐味を一緒に楽しみたい。

教科書 /Textbooks

『ホテル・ワールド』アリ・スミス著・丸洋子訳 (DHC)
Ali Smith, Hotel World (Penguin, 2002)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 『日の名残り』 「1日目・2日目」
- 2回 『日の名残り』 「3日目・4日目」
- 3回 『日の名残り』 「5日目・6日目」
- 4回 『贖罪』 Part 1
- 5回 『贖罪』 Part 2
- 6回 『贖罪』 Part 3
- 7回 『贖罪』 まとめ
- 8回 Hotel World “Past”
- 9回 Hotel World “Present Historic”
- 10回 Hotel World “Future Conditional”
- 11回 Hotel World “Perfect”
- 12回 Hotel World “Future in the Past”
- 13回 Hotel World “Present”
- 14回 Hotel Worldのまとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況および課題提出により評価する。試験は行わない。

課題

(1) 毎回の授業につき6～10行程度の感想文などを書いて提出(課題内容は授業中に指示する)。(40%)

(2) Hotel Worldの各章につき、あらずじ400～500字程度、好きな文章(原文)の抜き出し2箇所以上及び簡単な感想を書いて提出(6月第2週の授業時に提出)。(30%)

(3) Hotel Worldまたは参考文献の作品どれか1つについて、何か1つテーマを選び、2,000字程度のレポートを書いて提出。重要だと思われる文を適宜引用しながら、作品のテーマについて自分なりの解釈を述べる内容のものが望ましい。(最後の授業時に提出) (30%)

全出席および(1),(2),(3)の課題を全部提出した時点で内容の良し悪しにかかわらず70点として評価する。

上記の課題とは別に小説や英語の原文(小説の一部で良い)を読んで自由レポート(あらずじなど)を提出した場合には、必要に応じて加点する(ボーダーに点が少し不足する場合など。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業時に指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの現代文学 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代アメリカ文学を代表する小説家、ジョン・スタインベックの代表作を、具体的に読んでいく。その作業を通して、文学作品を客観的かつ分析的に読解する能力を身につける。また、作品がアメリカ人の価値観や美意識をどのように反映しているかを詳しく考察していく。その作業を通して、文学作品が社会や文化の独自性、特殊性を映し出す鏡となっていることを理解してもらう。他国の文学を読むことが、他国の文化を学ぶことに連なることを実感してもらいたい。

教科書 /Textbooks

John・Steinbeck The Grapes of Wrath 新潮文庫 (大久保康雄訳)
必要に応じて、レジュメと英語資料の抜粋を配布する。
参考文献は、初回、授業時にリストを配布して紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション、参考文献の紹介
- 2 回複数の作品に共通して見られる現代アメリカ文学の特徴についてI
- 3 回複数の作品に共通して見られる現代アメリカ文学の特徴についてII
- 4 回現代アメリカ文学の特徴と、アメリカ文化・社会の特殊性との関連性I
- 5 回現代アメリカ文学の特徴と、アメリカ文化・社会の特殊性との関連性II
- 6 回ビデオによる映画版の鑑賞I
- 7 回ビデオによる映画版の鑑賞II
- 8 回担当教員の視点からの作品分析：女性像の背後に潜む作者の意図
- 9 回担当教員の視点からの作品分析：手作業の描写とアメリカ文化との関連性I
- 10 回担当教員の視点からの作品分析：手作業の描写とアメリカ文化との関連性II
- 11 回担当教員の視点からの作品分析：国営キャンプ描写とアメリカ文化との関連性
- 12 回担当教員の視点からの作品分析：自然描写とアメリカ文化との関連性
- 13 回担当教員の視点からの作品分析：銃の描写とアメリカ文化との関連性
- 14 回担当教員の視点からの作品分析：権力描写とアメリカ文化との関連性
- 15 回まとめ (絶対に欠席しないこと)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100% テキスト、配布プリント、自筆ノート持ち込み可で試験を行う。(コピーはすべて持ち込み不可)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り、テキストを事前に読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの18-19世紀文学 【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学の古典である、アメリカ植民地時代の【ピューリタニズム】【アメリカの独立】を見事に描いたNathaniel Hawthorneの文学、【アメリカ民主主義】の讃歌と西洋文明の挽歌を歌ったHerman Melville、民主主義アメリカの新しい、【独立心】の強い女を描いたHenry JamesのDaisy MillerやThe Portraite of a Ladyを読んでアメリカ文学への理解を深めていきたい。

教科書 /Textbooks

Nathaniel Hawthorne: Short Stories 『ホーソン短編集』（岩波文庫）
The Scarlet Letter 『緋文字』（岩波文庫）
Herman Melville: Moby Dick or the white whale 『白鯨』（新潮文庫）
Henry James: Daisy Miller 『デイジー・ミラー』（新潮文庫）
The Portraite of a Lady 『ある婦人の肖像』（岩波文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらにまた、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【大英帝国植民地】 【マサチューセッツ・ボストン】
- 2回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【ピューリタニズム】
- 3回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【自由主義思想】 【Salem魔女裁判】
- 4回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 【ピューリタニズム】 【啓蒙主義思想】の文学
- 5回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 【超絶主義】の文学
- 6回 NHKグレートブックス・シリーズ「緋文字」のビデオを観て「緋文字」の現代的意味を探る。
- 7回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【アメリカ民主主義】 【バーバリズム】
- 8回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【ゾロアスター教】 【拝火教】
- 9回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【白鯨とは何なのか】 【ヨブ記】 【異端】
- 10回 Henry James: Daisy Miller 【19世紀の女性】 【Independent】 【自由とは】
- 11回 Henry James: Daisy Miller 【慣習】 【因習】 【しきたり】 【Freedom】 【自由恋愛】
- 12回 Henry James: The Portraite of a Lady 【民主主義アメリカの新しい女性】 【自立した女性】
- 13回 Henry James: The Portraite of a Lady 【旧世界の因習】 【選択】 【人生の苦しみ】
- 14回 Henry James: The Portraite of a Lady 【結婚・離婚と自己責任】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (30%)、レポート (40%) と学期末試験 (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備としてテキストを読むこと、授業次に指示した参考書等を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの歴史と社会【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor 田宮 晴彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国では、結婚や日常生活といった私的領域から政治や外交、教育に至る公的領域にわたり、宗教が大きな影響を及ぼしている。一方、欧米世界ではごく初期に政教分離を法制化し、「自由」「平等」「民主主義」といったアメリカの理念を標榜し、世界にその影響を及ぼしている。本講義では、こうしたアメリカの宗教事情を理解するため、建国期から現在にまでの幅広い歴史的視野に立ち、アメリカ社会と宗教の関係について考察する。

教科書 /Textbooks

講義ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 - 3回 ニューイングランドの建設と「選民」思想
- 4回 - 6回 独立革命と宗教
- 7回 - 9回 政教分離の原則
- 10回 - 12回 選挙と政治
- 13回 - 14回 社会的規範と宗教
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・課題等含む)...40% テスト...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの大衆文化 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

誰もがなじみの深いハリウッド映画を題材として取りあげ、映画にアメリカ人の精神性や、美意識、価値観がいかなる形で投映されているかを考察する。その過程を通して、映画とアメリカ文化との関連性に対する理解を深める。アメリカ文化を、映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。この作業を通してアメリカ人の価値観や美意識の特殊性への理解を深めたい。また、ハリウッド映画を文化的な文脈の中で分析的に鑑賞する視点を、授業を通して体得してもらおうことができたら幸いである。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 『ビッグ』をビデオで鑑賞
- 3回 『ビッグ』の子供描写の特徴
- 4回 アメリカ映画の子供の描き方の概観
- 5回 アメリカ映画の子供の描き方の特徴と、アメリカ史の関係
- 6回 『フェイス / オフ』、『ターミネーター 2、3』、『マスク』の中の変身描写の特徴
- 7回 アメリカ映画に登場する変装描写の特徴
- 8回 アメリカ映画の変身・変装へのこだわりと、アメリカ文化との関係
- 9回 『プラダを着た悪魔』に読み取れる金銭感覚の特徴
- 10回 『フォレスト・ガンプ』、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』に読み取れる金銭感覚
- 11回 映画に読み取れる金銭感覚と、アメリカ文化との関係
- 12回 『スタンド・バイ・ミー』、『シスの復讐』の銃の描写の特徴
- 13回 映画の銃の描き方と、アメリカ史との関係
- 14回 全体のまとめ、補足説明
- 15回 まとめ(絶対に欠席しないこと)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100% 試験は、自筆ノート持ち込み可(コピーは不可)で行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げる映画は前もって伝えますので、出来るだけ見ておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will build students' oral and aural English skills through a task-based, English for Specific Purposes approach. Students' practice will focus on the language of tourism and the tourism industry. The class will help students enrich their experiences traveling in countries where they need to communicate in English. The class will also prepare students who may be interested in working in travel or travel related fields. The course will also be useful for developing general listening proficiency and speaking fluency in English.

教科書 /Textbooks

Travel English: For Tourism Industry Professionals. Fujita, R.eiko. Macmillan LanguageHouse. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – Tour Booking
- 2 回 Taking a Holiday Booking
- 3 回 Taking Your Group to Destinations – Tour Escort
- 4 回 Yokoso Japan: Guiding Your Customers
- 5 回 Receiving Flight Reservations
- 6 回 Giving Information on Flights
- 7 回 At the Airport Check-in Counter
- 8 回 At the Boarding Gate
- 9 回 On Board
- 1 0 回 CIQ Information
- 1 1 回 Inquiry Call to a Hotel
- 1 2 回 At the Hotel Front Desk
- 1 3 回 At the Concierge Desk
- 1 4 回 Dealing with Guests' Problems
- 1 5 回 Checking Your Guests Out

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week. Learn the glossary words for the coming unit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will build students' oral and aural English skills through a task-based, English for Specific Purposes approach. Students' practice will focus on the language of tourism and the tourism industry. The class will help students enrich their experiences traveling in countries where they need to communicate in English. The class will also prepare students who may be interested in working in travel or travel related fields. The course will also be useful for developing general listening proficiency and speaking fluency in English.

教科書 /Textbooks

Travel English: For Tourism Industry Professionals. Fujita, R.eiko. Macmillan LanguageHouse. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – Tour Booking
- 2 回 Taking a Holiday Booking
- 3 回 Taking Your Group to Destinations – Tour Escort
- 4 回 Yokoso Japan: Guiding Your Customers
- 5 回 Receiving Flight Reservations
- 6 回 Giving Information on Flights
- 7 回 At the Airport Check-in Counter
- 8 回 At the Boarding Gate
- 9 回 On Board
- 1 0 回 CIQ Information
- 1 1 回 Inquiry Call to a Hotel
- 1 2 回 At the Hotel Front Desk
- 1 3 回 At the Concierge Desk
- 1 4 回 Dealing with Guests' Problems
- 1 5 回 Checking Your Guests Out

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week. Learn the glossary words for the coming unit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will build students' oral and aural English skills through a task-based, English for Specific Purposes approach. Students' practice will focus on the language of tourism and the tourism industry. The class will help students enrich their experiences traveling in countries where they need to communicate in English. The class will also prepare students who may be interested in working in travel or travel related fields. The course will also be useful for developing general listening proficiency and speaking fluency in English.

教科書 /Textbooks

Travel English: For Tourism Industry Professionals. Fujita, R.eiko. Macmillan LanguageHouse. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – Tour Booking
- 2 回 Taking a Holiday Booking
- 3 回 Taking Your Group to Destinations – Tour Escort
- 4 回 Yokoso Japan: Guiding Your Customers
- 5 回 Receiving Flight Reservations
- 6 回 Giving Information on Flights
- 7 回 At the Airport Check-in Counter
- 8 回 At the Boarding Gate
- 9 回 On Board
- 1 0 回 CIQ Information
- 1 1 回 Inquiry Call to a Hotel
- 1 2 回 At the Hotel Front Desk
- 1 3 回 At the Concierge Desk
- 1 4 回 Dealing with Guests' Problems
- 1 5 回 Checking Your Guests Out

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week. Learn the glossary words for the coming unit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will build students' oral and aural English skills through a task-based, English for Specific Purposes approach. Students' practice will focus on the language of tourism and the tourism industry. The class will help students enrich their experiences traveling in countries where they need to communicate in English. The class will also prepare students who may be interested in working in travel or travel related fields. The course will also be useful for developing general listening proficiency and speaking fluency in English.

教科書 /Textbooks

Travel English: For Tourism Industry Professionals. Fujita, R.eiko. Macmillan LanguageHouse. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – Tour Booking
- 2 回 Taking a Holiday Booking
- 3 回 Taking Your Group to Destinations – Tour Escort
- 4 回 Yokoso Japan: Guiding Your Customers
- 5 回 Receiving Flight Reservations
- 6 回 Giving Information on Flights
- 7 回 At the Airport Check-in Counter
- 8 回 At the Boarding Gate
- 9 回 On Board
- 1 0 回 CIQ Information
- 1 1 回 Inquiry Call to a Hotel
- 1 2 回 At the Hotel Front Desk
- 1 3 回 At the Concierge Desk
- 1 4 回 Dealing with Guests' Problems
- 1 5 回 Checking Your Guests Out

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week. Learn the glossary words for the coming unit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 実 /YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①与えられた日本語に相当する英文を作成するトレーニングを行う。受講者にはその時点で持っている英語の知識をフルに使って、正確な英文を書くことが求められる。
- ②基礎的な英語力を高め、英単語や構文や文法的な事柄に関する正確な知識を出来るだけ増やし、英作文に使える英語の「引き出し」を増やす。
- ③日本語の文章が、フォーマルなものか、インフォーマルなものか、カジュアルなものかにより、英作文をする際、訳し分ける。なお、教職を目指す学生が、一定数存在していることも考慮し、牧雅夫早稲田大学名誉教授の下記の教科書を選んだ。

教科書 /Textbooks

牧雅夫著 大学応用英作文 (北星堂) ※変更の可能性あり

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記の教科書を、毎回1章ずつ進む予定である。

- 1回 導入
- 2回 第一章。【動詞+方位語】
- 3回 第二章。【動詞+方位語+目的語】
- 4回 第三章。【be+方位語】
- 5回 第四章。【be+不定詞to...】
- 6回 第五章。【「・・・するために」の不定詞to...】
- 7回 第六章。【名詞+不定詞to...】
- 8回 第七章。【関係代名詞who / which】
- 9回 第八章。【関係代名詞what】
- 10回 第九章。【関係副詞where】
- 11回 第十章。【「・・・に足りるほどの(数量・程度)」enough】
- 12回 第十一章。【過度→不可能のtoo】
- 13回 第十二章。【同・不同の言い方】
- 14回 第十三章。【比較級と最上級】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をやること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①与えられた日本語に相当する英文を作成するトレーニングを行う。受講者にはその時点で持っている英語の知識をフルに使って、正確な英文を書くことが求められる。
- ②基礎的な英語力を高め、英単語や構文や文法的な事柄に関する正確な知識を出来るだけ増やし、英作文に使える英語の「引き出し」を増やす。
- ③日本語の文章が、フォーマルなものか、インフォーマルなものか、カジュアルなものかにより、英作文をする際、訳し分ける。なお、教職を目指す学生が、一定数存在していることも考慮し、牧雅夫早稲田大学名誉教授の下記の教科書を選んだ。

教科書 /Textbooks

牧雅夫著 大学応用英作文 (北星堂) ※変更の可能性あり

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記の教科書を、毎回1章ずつ進む予定である。

- 1回 導入
- 2回 第一章。【動詞+方位語】
- 3回 第二章。【動詞+方位語+目的語】
- 4回 第三章。【be+方位語】
- 5回 第四章。【be+不定詞to...】
- 6回 第五章。【「・・・するために」の不定詞to...】
- 7回 第六章。【名詞+不定詞to...】
- 8回 第七章。【関係代名詞who / which】
- 9回 第八章。【関係代名詞what】
- 10回 第九章。【関係副詞where】
- 11回 第十章。【「・・・に足りるほどの(数量・程度)」enough】
- 12回 第十一章。【過度→不可能のtoo】
- 13回 第十二章。【同・不同の言い方】
- 14回 第十三章。【比較級と最上級】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をやること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①与えられた日本語に相当する英文を作成するトレーニングを行う。受講者にはその時点で持っている英語の知識をフルに使って、正確な英文を書くことが求められる。
- ②基礎的な英語力を高め、英単語や構文や文法的な事柄に関する正確な知識を出来るだけ増やし、英作文に使える英語の「引き出し」を増やす。
- ③日本語の文章が、フォーマルなものか、インフォーマルなものか、カジュアルなものかにより、英作文をする際、訳し分ける。なお、教職を目指す学生が、一定数存在していることも考慮し、牧雅夫早稲田大学名誉教授の下記の教科書を選んだ。

教科書 /Textbooks

牧雅夫著 大学応用英作文 (北星堂) ※変更の可能性あり

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記の教科書を、毎回1章ずつ進む予定である。

- 1回 導入
- 2回 第一章。【動詞+方位語】
- 3回 第二章。【動詞+方位語+目的語】
- 4回 第三章。【be+方位語】
- 5回 第四章。【be+不定詞to...】
- 6回 第五章。【「・・・するために」の不定詞to...】
- 7回 第六章。【名詞+不定詞to...】
- 8回 第七章。【関係代名詞who / which】
- 9回 第八章。【関係代名詞what】
- 10回 第九章。【関係副詞where】
- 11回 第十章。【「・・・に足りるほどの(数量・程度)」enough】
- 12回 第十一章。【過度→不可能のtoo】
- 13回 第十二章。【同・不同の言い方】
- 14回 第十三章。【比較級と最上級】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をやること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 実 /YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①与えられた日本語に相当する英文を作成するトレーニングを行う。受講者にはその時点で持っている英語の知識をフルに使って、正確な英文を書くことが求められる。
- ②基礎的な英語力を高め、英単語や構文や文法的な事柄に関する正確な知識を出来るだけ増やし、英作文に使える英語の「引き出し」を増やす。
- ③日本語の文章が、フォーマルなものか、インフォーマルなものか、カジュアルなものかにより、英作文をする際、訳し分ける。なお、教職を目指す学生が、一定数存在していることも考慮し、牧雅夫早稲田大学名誉教授の下記の教科書を選んだ。

教科書 /Textbooks

牧雅夫著 大学応用英作文 (北星堂) ※変更の可能性あり

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記の教科書を、毎回1章ずつ進む予定である。

- 1回 導入
- 2回 第一章。【動詞+方位語】
- 3回 第二章。【動詞+方位語+目的語】
- 4回 第三章。【be+方位語】
- 5回 第四章。【be+不定詞to...】
- 6回 第五章。【「・・・するために」の不定詞to...】
- 7回 第六章。【名詞+不定詞to...】
- 8回 第七章。【関係代名詞who / which】
- 9回 第八章。【関係代名詞what】
- 10回 第九章。【関係副詞where】
- 11回 第十章。【「・・・に足りるほどの(数量・程度)」enough】
- 12回 第十一章。【過度→不可能のtoo】
- 13回 第十二章。【同・不同の言い方】
- 14回 第十三章。【比較級と最上級】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 期末試験 ...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をやること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 英語学に関する基礎知識の習得。

教科書 /Textbooks
 『英語学概論 - 三大文法の流れと特徴 - 』朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 K. Takami(1992)等。講義中に別途指示、またはプリントを配布する。
 『英語学へのファーストステップ』有村 (他) 英宝社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 文は単語の配列で構成されているが、単語と単語の関係は線の順序だけではなく、階層的關係が存在することを理解してもらう。

- 1回 ガイダンス
- 2回 言語学の諸分野
- 3回 歴史比較言語学によるインド=ヨーロッパ祖語の再構築及び英語史の概略説明
- 4回 英文法の歴史の概略説明 (規範文法から記述文法への流れ)
- 5回 音声と音素
- 6回 語と形態素
- 7回 アメリカ構造主義による複数個の形態素から成り立つ語のIC分析
- 8回 伝統文法、アメリカ構造主義、生成文法における、それぞれの語の分類方法
- 9回 統語論その1 (品詞の分類に基づいた伝統文法における統語構造の分析方法とアメリカ構造主義における統語構造のIC分析の欠点、利点)
- 10回 統語論その2 (生成文法における統語構造の分析方法)
- 11回 意味論 (オグデン、リチャーズの意味の三角形の概略説明等)
- 12回 認知言語学の概略説明
- 13回 S. Kuno等が提案している機能文法の概略説明 (前置詞残留現象を例に取り)
- 14回 述語が持つ項構造 (不定詞等に見られる発音されない意味上の主語を仮定する根拠の概略説明)
- 15回 まとめ

10回程度、講義の終わりに小テストを行う。

成績評価の方法 /Assessment Method
 試験40% 小テスト20% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 田村 水幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 1・2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に英語教育を目指す人を対象に、英語の仕組みそのものを平易な切り口で理解してもらうことを目的とする。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal著 Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Types of sentences
- 3 回 Clause types
- 4 回 The verb element, The subject element
- 5 回 The object element, The complement element
- 6 回 The adverbial element
- 7 回 Verb phrase structure
- 8 回 Finite and nonfinite
- 9 回 Auxiliary verbs
- 1 0 回 The moods of the verb phrase
- 1 1 回 Active and passive
- 1 2 回 Verb tenses
- 1 3 回 Verb aspects
- 1 4 回 Modal meanings
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 80% 参加状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法I【昼】

担当者名 /Instructor 田村 水幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3・4

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に英語教育を目指す人を対象に、英語の仕組みそのものを平易な切り口で理解してもらうことを目的とする。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal著 Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Types of sentences
- 3 回 Clause types
- 4 回 The verb element, The subject element
- 5 回 The object element, The complement element
- 6 回 The adverbial element
- 7 回 Verb phrase structure
- 8 回 Finite and nonfinite
- 9 回 Auxiliary verbs
- 1 0 回 The moods of the verb phrase
- 1 1 回 Active and passive
- 1 2 回 Verb tenses
- 1 3 回 Verb aspects
- 1 4 回 Modal meanings
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 80% 参加状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法II 【昼】

担当者名 野島 啓一 / nojima keiichi / 英米学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1 - 1・2
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「英文法の体系を習得することを目的に、文法的事象の分析や整理の仕方を具体的に学習する。英文法の習得には日本語文法との比較対象が有効であるとの前提に立ち、学習の一助とする。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal著 Longman
 教材プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針と成績評価の仕方に関する説明。
- 2回 The Noun Phrase : Noun Phrase Structure: Nouns: Common and proper nouns
- 3回 The Noun Phrase : Count and noncount nouns: Variable vs invariable nouns
- 4回 The Noun Phrase : Gender: Case: Determiners: Modifications: Relative clauses
- 5回 Pronouns : Types of pronouns: Personal pronouns: Pronoun case: Pronoun gender
- 6回 Adjectives : The functions of the adjectives: Adjective comparisons
- 7回 Adverbs and adverbials : Adverbial positions: Adjuncts: Subjuncts: Disjuncts
- 8回 Prepositions : Simple and complex prepositions: Prepositional meanings
- 9回 Reducing and expanding sentences : Multiple sentences: Coordination: Subordination
- 10回 Reducing and expanding sentences : Comment clauses: Reporting speech
- 11回 The information structure of the sentence : Sentence information: Existential sentence
- 12回 Above the sentence : Sentence connections: Grammar in texts
- 13回 Related issues : Word formation
- 14回 Related issues: : Prosody: Punctuations
- 15回 要約とまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...30% + 試験...70%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門基礎教育科目の「英文法I」や「英語学概論」とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法II 【昼】

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3・4

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「英文法の体系を習得することを目的に、文法的事象の分析や整理の仕方を具体的に学習する。英文法の習得には日本語文法との比較対象が有効であるとの前提に立ち、学習の一助とする。」

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal著 Longman
 教材プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針と成績評価の仕方に関する説明。
- 2回 The Noun Phrase : Noun Phrase Structure: Nouns: Common and proper nouns
- 3回 The Noun Phrase : Count and noncount nouns: Variable vs invariable nouns
- 4回 The Noun Phrase : Gender: Case: Determiners: Modifications: Relative clauses
- 5回 Pronouns : Types of pronouns: Personal pronouns: Pronoun case: Pronoun gender
- 6回 Adjectives : The functions of the adjectives: Adjective comparisons
- 7回 Adverbs and adverbials : Adverbial positions: Adjuncts: Subjuncts: Disjuncts
- 8回 Prepositions : Simple and complex prepositions: Prepositional meanings
- 9回 Reducing and expanding sentences : Multiple sentences: Coordination: Subordination
- 10回 Reducing and expanding sentences : Comment clauses: Reporting speech
- 11回 The information structure of the sentence : Sentence information: Existential sentence
- 12回 Above the sentence : Sentence connections: Grammar in texts
- 13回 Related issues : Word formation
- 14回 Related issues: : Prosody: Punctuations
- 15回 要約とまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...30% + 試験...70%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門基礎教育科目の「英文法I」や「英語学概論」とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション概論 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースは異文化間コミュニケーションに関する諸理論・概念を学習する。受講生には次の「力」をつけてほしい。①日常生活の中に「異文化」を発見する力、②異文化を排除するのではなく受容する力、③自文化を相対化する力。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 東照二『社会言語学入門』研究社
- 鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション入門』丸善ライブラリー

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回イントロダクション (成績評価の説明、授業の進め方等)
- 2 回文化 (1) : 文化を定義する
- 3 回文化 (2) : 「異文化」とは
- 4 回コミュニケーション・モデル
- 5 回コミュニケーション・スタイル
- 6 回非言語コミュニケーション
- 7 回ポライトネス・ストラテジー
- 8 回中間のまとめ
- 9 回言葉と文化
- 10 回ジェンダーとコミュニケーション
- 11 回ステレオタイプ
- 12 回パーセプション・ギャップ
- 13 回表象される「異文化」
- 14 回多文化社会
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 60%、 学期末試験 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義ではミニレポートも課すので、論理的に説明する方法も意識してほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習 A 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

オーディオ教材を利用してリスニングスキルの上達を目的とした授業を行う。ニュースの映像を扱ったDVD教材を用い、語彙、表現、聴き取り等の練習を行なう。特に必要な情報を聴き取る練習に重点を置く。

教科書 /Textbooks

Yukitoshi Watanabe他著『CBS News Flash on DVD2』(成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Chapter 1 Security for inauguration
- 3 回 Chapter 2 President's first day
- 4 回 Chapter 3 Auto sales
- 5 回 Chapter 4 Leading by example
- 6 回 Chapter 5 Behind Wall Street bonuses
- 7 回 Chapter 6 Six years later in Iraq
- 8 回 Chapter 7 Giving
- 9 回 Chapter 8 Rising rivers
- 1 0 回 Chapter 9 Commercial real estate
- 1 1 回 Chapter 10 China's economy
- 1 2 回 Chapter 11 Emergency room visits
- 1 3 回 Chapter 12 Looking up
- 1 4 回 Chapter 13 Selling gold
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習 A 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

オーディオ教材を利用してリスニングスキルの上達を目的とした授業を行う。ニュースの映像を扱ったDVD教材を用い、語彙、表現、聴き取り等の練習を行なう。特に必要な情報を聴き取る練習に重点を置く。

教科書 /Textbooks

Yukitoshi Watanabe他著『CBS News Flash on DVD2』(成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Chapter 1 Security for inauguration
- 3 回 Chapter 2 President's first day
- 4 回 Chapter 3 Auto sales
- 5 回 Chapter 4 Leading by example
- 6 回 Chapter 5 Behind Wall Street bonuses
- 7 回 Chapter 6 Six years later in Iraq
- 8 回 Chapter 7 Giving
- 9 回 Chapter 8 Rising rivers
- 1 0 回 Chapter 9 Commercial real estate
- 1 1 回 Chapter 10 China's economy
- 1 2 回 Chapter 11 Emergency room visits
- 1 3 回 Chapter 12 Looking up
- 1 4 回 Chapter 13 Selling gold
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習 A 【昼】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

オーディオ教材を利用してリスニングスキルの上達を目的とした授業を行う。ニュースの映像を扱ったDVD教材を用い、語彙、表現、聴き取り等の練習を行なう。特に必要な情報を聴き取る練習に重点を置く。

教科書 /Textbooks

Yukitoshi Watanabe他著『CBS News Flash on DVD2』(成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Chapter 1 Security for inauguration
- 3 回 Chapter 2 President's first day
- 4 回 Chapter 3 Auto sales
- 5 回 Chapter 4 Leading by example
- 6 回 Chapter 5 Behind Wall Street bonuses
- 7 回 Chapter 6 Six years later in Iraq
- 8 回 Chapter 7 Giving
- 9 回 Chapter 8 Rising rivers
- 1 0 回 Chapter 9 Commercial real estate
- 1 1 回 Chapter 10 China's economy
- 1 2 回 Chapter 11 Emergency room visits
- 1 3 回 Chapter 12 Looking up
- 1 4 回 Chapter 13 Selling gold
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習 A 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

オーディオ教材を利用してリスニングスキルの上達を目的とした授業を行う。ニュースの映像を扱ったDVD教材を用い、語彙、表現、聴き取り等の練習を行なう。特に必要な情報を聴き取る練習に重点を置く。

教科書 /Textbooks

Yukitoshi Watanabe他著『CBS News Flash on DVD2』(成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Chapter 1 Security for inauguration
- 3 回 Chapter 2 President's first day
- 4 回 Chapter 3 Auto sales
- 5 回 Chapter 4 Leading by example
- 6 回 Chapter 5 Behind Wall Street bonuses
- 7 回 Chapter 6 Six years later in Iraq
- 8 回 Chapter 7 Giving
- 9 回 Chapter 8 Rising rivers
- 1 0 回 Chapter 9 Commercial real estate
- 1 1 回 Chapter 10 China's economy
- 1 2 回 Chapter 11 Emergency room visits
- 1 3 回 Chapter 12 Looking up
- 1 4 回 Chapter 13 Selling gold
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor デニス・ウールブライト / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

To teach students the process of communication through discussion
To have students experience and practice key communications skills
To help students express their own ideas and values

教科書 /Textbooks

Impact Issues 3 (New Edition) by Richard R. Day, Joseph Shaules and Junko Yamanaka
Pearson Longman Publishing 2009

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction: Cosmetic Surgery-Friends or Lovers
- 2回 I Don't Care, Rules
- 3回 Plagiarism
- 4回 Housework
- 5回 The Unborn Child
- 6回 Earning Money
- 7回 Adult Children- Body Art
- 8回 Sexual Harassment
- 9回 Home-Career Choice
- 10回 Save Our Country
- 11回 High Tech Toys
- 12回 A Woman's Place
- 13回 One Sided Love
- 14回 Can War Make Peace
- 15回 My Spit Family-Divorce

成績評価の方法 /Assessment Method

Evaluation will be based on a combination of attendance, participation and a final assignment.
Students are required to prepare material for each class as homework.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor デニス・ウールブライト / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

To teach students the process of communication through discussion
To have students experience and practice key communications skills
To help students express their own ideas and values

教科書 /Textbooks

Impact Issues 3 (New Edition) by Richard R. Day, Joseph Shaules and Junko Yamanaka
Pearson Longman Publishing 2009

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction: Cosmetic Surgery-Friends or Lovers
- 2回 I Don't Care, Rules
- 3回 Plagiarism
- 4回 Housework
- 5回 The Unborn Child
- 6回 Earning Money
- 7回 Adult Children- Body Art
- 8回 Sexual Harassment
- 9回 Home-Career Choice
- 10回 Save Our Country
- 11回 High Tech Toys
- 12回 A Woman's Place
- 13回 One Sided Love
- 14回 Can War Make Peace
- 15回 My Spit Family-Divorce

成績評価の方法 /Assessment Method

Evaluation will be based on a combination of attendance, participation and a final assignment.
Students are required to prepare material for each class as homework.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor デニス・ウールブライト / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

To teach students the process of communication through discussion
To have students experience and practice key communications skills
To help students express their own ideas and values

教科書 /Textbooks

Impact Issues 3 (New Edition) by Richard R. Day, Joseph Shaules and Junko Yamanaka
Pearson Longman Publishing 2009

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction: Cosmetic Surgery-Friends or Lovers
- 2回 I Don't Care, Rules
- 3回 Plagiarism
- 4回 Housework
- 5回 The Unborn Child
- 6回 Earning Money
- 7回 Adult Children- Body Art
- 8回 Sexual Harassment
- 9回 Home-Career Choice
- 10回 Save Our Country
- 11回 High Tech Toys
- 12回 A Woman's Place
- 13回 One Sided Love
- 14回 Can War Make Peace
- 15回 My Spit Family-Divorce

成績評価の方法 /Assessment Method

Evaluation will be based on a combination of attendance, participation and a final assignment.
Students are required to prepare material for each class as homework.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習B 【昼】

担当者名 /Instructor トリスタン・ファー・ショールズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2 - 4 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コミュニケーション能力は英語学習においてなくてはならない要素です。ここではコミュニケーションとはどういうことかを探究していきます。英語を興味深い一連の謎解きとし、積極的に携わり、パターンを探し出していきます。学んだことを活かし自分が表現したいことを発信しそれによって更に習得していくことが重要です。また、言いたいことを簡潔化し、描写により理解すること、会話のパートナーと積極的に影響し合うことにより、訳そうとするのではなく思考も英語で行うことに重点をおきます。

教科書 /Textbooks

Paul, David. Communicate, Book 1. MacMillan, 1994.
Paul, David. Communicate, Workbook 1. MacMillan, 1994.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions; classroom language
- 2 回 Introductions; classroom language
- 3 回 Introductions; classroom language
- 4 回 Likes and dislikes; Adjectives
- 5 回 Likes and dislikes; Adjectives
- 6 回 Likes and dislikes; Adjectives
- 7 回 Locations; Telephoning 1
- 8 回 Locations; Telephoning 1
- 9 回 Directions; Imperatives
- 10 回 Directions; Imperatives
- 11 回 There is/There are; Quantities
- 12 回 There is/There are; Quantities
- 13 回 Have/Want/Would like; Shopping
- 14 回 Have/Want/Would like; Shopping
- 15 回 Have/Want/Would like; Shopping

成績評価の方法 /Assessment Method

(1) 40% 授業への参加態度・努力 (2) 40% 宿題 (3) 20% 試験結果
*単位取得には上記三項目それぞれすべて60%以上の評価が求められます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業は必ずノートに取る。課題のプリントを順に綴るバインダーを準備する。また、英語で国名や主要都市名を調べる等インターネットや手持ちの必要な資料等を用いることも求められる。
授業及び試験への辞書の持ち込みは不可。宿題の際は活用して構いません。

コミュニケーション能力は、意欲的な練習・経験により効果的に築き上げることができます。このコースにおいての参加態度は特に重要となります。評価は、どれだけ英語を使い、積極的にクラスに参加しているかに基づいて行われます。90分間は全て英語で話すことが要求されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、基礎的な英語力をつける講義ではない。あくまで、英語の表現力を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account. (Okayama: University Education Press, 2007)
プリントを必要に応じて配布する。
適切な和英辞典或いは電子辞典 (辞典の選択は各自判断の上)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
第2回～第14回 講義、グループ・ディスカッション、翻訳練習課題
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、基礎的な英語力をつける講義ではない。あくまで、英語の表現力を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account. (Okayama: University Education Press, 2007)
プリントを必要に応じて配布する。
適切な和英辞典或いは電子辞典(辞典の選択は各自判断の上)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
第2回～第14回 講義、グループ・ディスカッション、翻訳練習課題
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、基礎的な英語力をつける講義ではない。あくまで、英語の表現力を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account. (Okayama: University Education Press, 2007)
プリントを必要に応じて配布する。
適切な和英辞典或いは電子辞典 (辞典の選択は各自判断の上)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
第2回～第14回 講義、グループ・ディスカッション、翻訳練習課題
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 30% 小テスト : 0% 期末試験 : 35% 課題 : 22% 態度 : 13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学生は毎回その日のリーディング (英語) を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、基礎的な英語力をつける講義ではない。あくまで、英語の表現力を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account. (Okayama: University Education Press, 2007)
プリントを必要に応じて配布する。
適切な和英辞典或いは電子辞典 (辞典の選択は各自判断の上)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
第2回～第14回 講義、グループ・ディスカッション、翻訳練習課題
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 2 - 1 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners with a range of idiomatic expressions with their socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, they will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

The text to be read each term will be chosen each semester by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 5 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 6 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 7 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 8 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 9 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 0 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 1 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 5 回 Review of the key elements of the work in preparation for the final examination

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly homework 35% Weekly participation 15% Final examination 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read at least 10 pages of authentic English each week and complete the accompanying homework assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Reading and Discussion I 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners with a range of idiomatic expressions with their socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, they will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

The text to be read each term will be chosen each semester by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 5 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 6 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 7 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 8 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 9 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 0 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 1 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 5 回 Review of the key elements of the work in preparation for the final examination

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly homework 35% Weekly participation 15% Final examination 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read at least 10 pages of authentic English each week and complete the accompanying homework assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Reading and Discussion I 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・他 クラス 2 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners with a range of idiomatic expressions with their socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, they will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

The text to be read each term will be chosen each semester by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 5 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 6 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 7 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 8 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 9 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 0 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 1 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 5 回 Review of the key elements of the work in preparation for the final examination

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly homework 35% Weekly participation 15% Final examination 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read at least 10 pages of authentic English each week and complete the accompanying homework assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Reading and Discussion I 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・他 クラス 2 - 4 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners with a range of idiomatic expressions with their socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, they will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

The text to be read each term will be chosen each semester by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 5 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 6 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 7 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 8 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 9 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 0 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 1 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 5 回 Review of the key elements of the work in preparation for the final examination

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly homework 35% Weekly participation 15% Final examination 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read at least 10 pages of authentic English each week and complete the accompanying homework assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Reading and Discussion I 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・他
クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners with a range of idiomatic expressions with their socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, they will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

The text to be read each term will be chosen each semester by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 5 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 6 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 7 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 8 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 9 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 0 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 1 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 5 回 Review of the key elements of the work in preparation for the final examination

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly homework 35% Weekly participation 15% Final examination 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read at least 10 pages of authentic English each week and complete the accompanying homework assignments.

Reading and Discussion II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・他
クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners with a range of idiomatic expressions with their socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, they will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

The text to be read each term will be chosen each semester by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 5 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 6 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 7 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 8 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 9 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 0 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 1 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 5 回 Review of the key elements of the work in preparation for the final examination

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly homework 35% Weekly participation 15% Final examination 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read at least 10 pages of authentic English each week and complete the accompanying homework assignments.

Reading and Discussion II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・他
クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners with a range of idiomatic expressions with their socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, they will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

The text to be read each term will be chosen each semester by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 5 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 6 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 7 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 8 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 9 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 0 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 1 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 5 回 Review of the key elements of the work in preparation for the final examination

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly homework 35% Weekly participation 15% Final examination 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read at least 10 pages of authentic English each week and complete the accompanying homework assignments.

Reading and Discussion II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・他 クラス 2 - 4 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners with a range of idiomatic expressions with their socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, they will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

The text to be read each term will be chosen each semester by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 5 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 6 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 7 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 8 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 9 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 0 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 1 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 5 回 Review of the key elements of the work in preparation for the final examination

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly homework 35% Weekly participation 15% Final examination 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read at least 10 pages of authentic English each week and complete the accompanying homework assignments.

Reading and Discussion II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国のObama大統領の3つの演説、即ち「民主党大会基調演説」、大統領選の「勝利演説」それに「大統領就任演説」を題材に、リスニング力を強化することを目的とします。さらにObama大統領のスピーチを、内容を理解した上で、声に出して練習し暗誦します。

教科書 /Textbooks

渡辺幸俊 / 伊藤由紀子他編
Major Speeches of Barack Obama: The Resurrection of America 南雲堂、2010年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 Introduction

Keynote Address, 2004 Democratic National Convention

- 2回 "The Audacity of Hope" Part 1
- 3回 "The Audacity of Hope" Part 2
- 4回 "The Audacity of Hope" Part 3
- 5回 "The Audacity of Hope" Part 4
- 6回 "The Audacity of Hope" Part 5
- 7回 Recitation

Victory Speech

- 8回 "Change Has Come to America" Part 1
- 9回 "Change Has Come to America" Part 2

The Swearing In of Barack Obama as 44th U.S. President

- 10回 Inaugural Address Part 1
- 11回 Inaugural Address Part 2
- 12回 Inaugural Address Part 3
- 13回 Inaugural Address Part 4
- 14回 Recitation
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テスト含む) ... 20% 課題 ... 20% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、日常生活でのやりとりから報道番組・大学の講義まで、幅広いジャンルの英語をナチュラルなスピードで、しかもある程度のもとまった内容を聞き取れるようになることを目標とします。また随所で音声ルールやアクセント・イントネーションなど、話す際にも知っておきたい内容が盛り込まれているので、それも併せて学習していくつもりです。

教科書 /Textbooks

David Party他 『LISTENING Here and There』 (マクミラン)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する予定

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODククション・授業に関するガイダンス
- 2回 UNIT 1 English at School
- 3回 UNIT 2 English Overheard
- 4回 UNIT 3 Media English
- 5回 UNIT 4 English with Tourists
- 6回 UNIT 5 Lectures in English (1) 【講義の英語】
- 7回 UNIT 5 Lectures in English (2) 【相手とのやりとり】
- 8回 UNIT 6 A Party
- 9回 UNIT 7 Traveling to and in America
- 10回 UNIT 8 English in the Home
- 11回 UNIT 9 English in the Neighborhood
- 12回 UNIT 10 English on Campus
- 13回 UNIT 11 English around Town
- 14回 UNIT 12 English at Leisure
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況等 (小テスト含む) ... 40 % 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業時は必ず辞書を持参すること。また日ごろからテレビやインターネット等を活用して、リスニング力向上を図ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 実 /YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

三井物産の国際ビジネスマンとして20数年世界を雄飛した講師と共に、英語の歌やオバマ米国大統領の演説等の名文や映画や報道などの視聴覚教材を駆使して、聴く耳を育てる。また、それらの教材を音読することで正しい発音の仕方と基礎を覚え、国際社会でのEnglish Communicationに耐えられるListening 能力を体得する。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

インターネットやDVDを活用。「感動する英語」 近江誠著 文芸春秋

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 スタンダード曲(What a wonderful worldなど)から英語発音の基礎を学ぶ
- 3 回 名文(ヘレンケラーのThe Story of My Lie)の朗読を聴き、音読する
- 4 回 オバマ大統領の就任演説を視聴し、国際社会の未来を考えながら読み返す
- 5 回 オバマ大統領の東京演説を視聴し、その背景や考えを理解しながら読み返す
- 6 回 映画「不都合な真実」のゴア元米国副大統領の流麗な英語に親しむ。
- 7 回 映画「Stewart Little」を視聴し、Natural Speedの英会話に慣れる
- 8 回 映画「Casablanca」を視聴し、シナリオを主人公になりきって音読する
- 9 回 映画「Walk the line」から生きた英語を学び、聴く耳を鍛える
- 1 0 回 Up-to-dateな国際ニュースを繰り返し聴き音読し、そのスピードに慣れる
- 1 1 回 Up-to-dateな国際ニュースを繰り返し聴き音読し、そのスピードに慣れる
- 1 2 回 Up-to-dateな国際ニュースを繰り返し聴き音読し、そのスピードに慣れる
- 1 3 回 BBCニュースを繰り返し聴き音読し、そのスピードに慣れる
- 1 4 回 BBCニュースを繰り返し聴き音読し、そのスピードに慣れる
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・50%、 課題30%、 期末試験20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習として名文の音読や演説の視聴。教材として使われたシナリオの音読し、復習すること。
BBCやNY Timesのホームページを適宜チェックし、視聴すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

三井物産の国際ビジネスマンとして20数年世界を雄飛した講師と共に、英語の歌やオバマ米国大統領の演説等の名文や映画や報道などの視聴覚教材を駆使して、聴く耳を育てる。また、それらの教材を音読することで正しい発音の仕方と基礎を覚え、国際社会でのEnglish Communicationに耐えられるListening 能力を体得する。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

インターネットやDVDを活用。「感動する英語」 近江誠著 文芸春秋

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 スタンダード曲(What a wonderful worldなど)から英語発音の基礎を学ぶ
- 3回 名文(ヘレンケラーのThe Story of My Lie)の朗読を聴き、音読する
- 4回 オバマ大統領の就任演説を視聴し、国際社会の未来を考えながら読み返す
- 5回 オバマ大統領の東京演説を視聴し、その背景や考えを理解しながら読み返す
- 6回 映画「不都合な真実」のゴア元米国副大統領の流麗な英語に親しむ。
- 7回 映画「Stewart Little」を視聴し、Natural Speedの英会話に慣れる
- 8回 映画「Casablanca」を視聴し、シナリオを主人公になりきって音読する
- 9回 映画「Walk the line」から生きた英語を学び、聴く耳を鍛える
- 10回 Up-to-dateな国際ニュースを繰り返し聴き音読し、そのスピードに慣れる
- 11回 Up-to-dateな国際ニュースを繰り返し聴き音読し、そのスピードに慣れる
- 12回 Up-to-dateな国際ニュースを繰り返し聴き音読し、そのスピードに慣れる
- 13回 BBCニュースを繰り返し聴き音読し、そのスピードに慣れる
- 14回 BBCニュースを繰り返し聴き音読し、そのスピードに慣れる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・50%、 課題30%、 期末試験20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習として名文の音読や演説の視聴。教材として使われたシナリオの音読し、復習すること。
BBCやNY Timesのホームページを適宜チェックし、視聴すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語スピーキング演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor デニス・ウールブライト / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語スピーキング演習 aims to develop speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English language patterns and using them to generate accurate and efficient spoken personal expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

David Paul, Further Communication Strategies (Thomson, 2004)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Attitudes
- 2回 Money
- 3回 Health
- 4回 Education
- 5回 Crime
- 6回 The Environment
- 7回 Aliens
- 8回 History
- 9回 Women in Society
- 10回 The Developing World
- 11回 Violence
- 12回 Politics
- 13回 Economics
- 14回 Happiness
- 15回 Globalization

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework Assignments (60%) Oral Presentation (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語スピーキング演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor デニス・ウールブライト / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語スピーキング演習 aims to develop speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English language patterns and using them to generate accurate and efficient spoken personal expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

David Paul, Further Communication Strategies (Thomson, 2004)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Attitudes
- 2回 Money
- 3回 Health
- 4回 Education
- 5回 Crime
- 6回 The Environment
- 7回 Aliens
- 8回 History
- 9回 Women in Society
- 10回 The Developing World
- 11回 Violence
- 12回 Politics
- 13回 Economics
- 14回 Happiness
- 15回 Globalization

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework Assignments (60%) Oral Presentation (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語スピーキング演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor デニス・ウールブライト / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語スピーキング演習 aims to develop speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English language patterns and using them to generate accurate and efficient spoken personal expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

David Paul, Further Communication Strategies (Thomson, 2004)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Attitudes
- 2回 Money
- 3回 Health
- 4回 Education
- 5回 Crime
- 6回 The Environment
- 7回 Aliens
- 8回 History
- 9回 Women in Society
- 10回 The Developing World
- 11回 Violence
- 12回 Politics
- 13回 Economics
- 14回 Happiness
- 15回 Globalization

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework Assignments (60%) Oral Presentation (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語スピーキング演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名
/Instructor

トリストラン・ファー・ショールズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義・演習

クラス 3 - D
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語スピーキング演習 aims to develop speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English language patterns and using them to generate accurate and efficient spoken personal expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

David Paul, Further Communication Strategies (Thomson, 2004)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Attitudes
- 2回 Money
- 3回 Health
- 4回 Education
- 5回 Crime
- 6回 The Environment
- 7回 Aliens
- 8回 History
- 9回 Women in Society
- 10回 The Developing World
- 11回 Violence
- 12回 Politics
- 13回 Economics
- 14回 Happiness
- 15回 Globalization

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework Assignments (60%) Oral Presentation (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Anthony TrollopeのBarchester Towersを扱う。

①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、以上2点がねらいである。

教科書 /Textbooks

必要な者はAnthony Trollope: Barchester Towers (Penguin Classics)を購入する。

授業はこのテキストのコピーを適宜プリントして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 授業の進め方。1回に8頁ずつ読んでいく。担当となった受講生は授業日の2日前までに1頁の翻訳を木下に添付ファイルで提出する。授業では全員8頁を当然読んできているものとして訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックする。

- 2回 167-174頁の翻訳
- 3回 175-182頁の翻訳
- 4回 183-190頁の翻訳
- 5回 191-198頁の翻訳
- 6回 199-206頁の翻訳
- 7回 207-214頁の翻訳
- 8回 215-222頁の翻訳
- 9回 223-230頁の翻訳
- 10回 231-238頁の翻訳
- 11回 239-246頁の翻訳
- 12回 247-254頁の翻訳
- 13回 255-262頁の翻訳
- 14回 167-210頁の翻訳仕上げ
- 15回 211-254頁の翻訳仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 20% 課題... 40% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当頁の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Anthony TrollopeのBarchester Towersを扱う。

①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、以上2点がねらいである。

教科書 /Textbooks

必要な者はAnthony Trollope: Barchester Towers (Penguin Classics)を購入する。

授業はこのテキストのコピーを適宜プリントして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 授業の進め方。1回に8頁ずつ読んでいく。担当となった受講生は授業日の2日前までに1頁の翻訳を木下に添付ファイルで提出する。授業では全員8頁を当然読んできているものとして訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックする。

- 2回 167-174頁の翻訳
- 3回 175-182頁の翻訳
- 4回 183-190頁の翻訳
- 5回 191-198頁の翻訳
- 6回 199-206頁の翻訳
- 7回 207-214頁の翻訳
- 8回 215-222頁の翻訳
- 9回 223-230頁の翻訳
- 10回 231-238頁の翻訳
- 11回 239-246頁の翻訳
- 12回 247-254頁の翻訳
- 13回 255-262頁の翻訳
- 14回 167-210頁の翻訳仕上げ
- 15回 211-254頁の翻訳仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 20% 課題... 40% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当頁の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 田吹 長彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ: 「イギリス・ロマン派とスイス」
風光明媚なスイスを背景に、Lord Byronを中心とするイギリス・ロマン派の作家の動向を探索する。産業革命・フランス革命・ナポレオン戦争といった激動の時代を経てスイスを旅した人々の中にByron、P.B.Shelley、Mary Shelley、William Polidoriなどがいる。テキストの背景は、スイスのBaselから入国、同国内各地を旅してイタリアとの国境にあるSimplon峠まで、現在の観光地をほぼ網羅する。内容には名所旧蹟・風物・歴史・文化なども含む。「英語リーディング演習I」では主にスイス・レマン湖畔西部およびChamonix-Mont-Blanc地方を背景とする部分の動向について精読する。

教科書 /Textbooks

Elma Dangerfield: Byron and the Romantics in Switzerland.
テキストについては授業の冒頭で説明する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和書
○ 上杉文世 『バイロン研究』 研究社
○ 楠本哲夫 『永遠の巡礼詩人バイロン』 三省堂
○ 阿部知二 『バイロン』 研究社
○ 田吹長彦 『ヨーロッパ夢紀行、詩人バイロンの旅—ベルギー・ライン河・スイス編』 丸善出版サービスセンター
原書は多数あるが授業で必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のテキストを精読。各種の映像・地図などを必要に応じて随時活用する予定。
テキストは全部で約100ページ(挿入画等を含む)があるが、「英語リーディング演習I」では、その前半を授業コマ数に分けて精読する予定。
語学力増強のために、各授業の確実な予習をすること。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(出席率・欠席回数・遅刻回数・予習・積極性・理解度を含む)...30% 期末試験...70%。
なお授業開講回数の2 / 3以上の出席回数がないと単位認定作業ができないので十分注意して下さい

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習B 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop students' practical writing skills. Develop basic skills in essay writing in preparation for writing academic papers. Starting with paragraphs of various types, we will work up to full essays.

教科書 /Textbooks

Success with College Writing: From Paragraphs to Essay. Zemach & Rumisek. Macmillan LanguageHouse. 2003.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – Writing Methods
- 2 回 Punctuation and Grammar Review
- 3 回 Pre-writing: Gathering Ideas and Narrowing a Topic
- 4 回 Paragraph Structure
- 5 回 Paragraph Development
- 6 回 Descriptive and Process Paragraphs
- 7 回 Opinion Paragraphs
- 8 回 Comparison / Contrast Paragraphs
- 9 回 Problem / Solution Paragraphs
- 10 回 Essay Structure
- 11 回 Outlining an Essay: Purpose and Style
- 12 回 Introductions and Conclusions: Purpose and Information Types
- 13 回 Essay Unity: Creating Coherence
- 14 回 Essays for Examinations
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40 % Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review previous week's material. Read the introductory material for the coming week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習B 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop students' practical writing skills. Develop basic skills in essay writing in preparation for writing academic papers. Starting with paragraphs of various types, we will work up to full essays.

教科書 /Textbooks

Success with College Writing: From Paragraphs to Essay. Zemach & Rumisek. Macmillan LanguageHouse. 2003.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – Writing Methods
- 2 回 Punctuation and Grammar Review
- 3 回 Pre-writing: Gathering Ideas and Narrowing a Topic
- 4 回 Paragraph Structure
- 5 回 Paragraph Development
- 6 回 Descriptive and Process Paragraphs
- 7 回 Opinion Paragraphs
- 8 回 Comparison / Contrast Paragraphs
- 9 回 Problem / Solution Paragraphs
- 10 回 Essay Structure
- 11 回 Outlining an Essay: Purpose and Style
- 12 回 Introductions and Conclusions: Purpose and Information Types
- 13 回 Essay Unity: Creating Coherence
- 14 回 Essays for Examinations
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40 % Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review previous week's material. Read the introductory material for the coming week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習B 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop students' practical writing skills. Develop basic skills in essay writing in preparation for writing academic papers. Starting with paragraphs of various types, we will work up to full essays.

教科書 /Textbooks

Success with College Writing: From Paragraphs to Essay. Zemach & Rumisek. Macmillan LanguageHouse. 2003.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – Writing Methods
- 2 回 Punctuation and Grammar Review
- 3 回 Pre-writing: Gathering Ideas and Narrowing a Topic
- 4 回 Paragraph Structure
- 5 回 Paragraph Development
- 6 回 Descriptive and Process Paragraphs
- 7 回 Opinion Paragraphs
- 8 回 Comparison / Contrast Paragraphs
- 9 回 Problem / Solution Paragraphs
- 10 回 Essay Structure
- 11 回 Outlining an Essay: Purpose and Style
- 12 回 Introductions and Conclusions: Purpose and Information Types
- 13 回 Essay Unity: Creating Coherence
- 14 回 Essays for Examinations
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40 % Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review previous week's material. Read the introductory material for the coming week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名
/Instructor

アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態 演習
/Class Format

演習

クラス 3 - D
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop students' practical writing skills. Develop basic skills in essay writing in preparation for writing academic papers. Starting with paragraphs of various types, we will work up to full essays.

教科書 /Textbooks

Success with College Writing: From Paragraphs to Essay. Zemach & Rumisek. Macmillan LanguageHouse. 2003.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – Writing Methods
- 2 回 Punctuation and Grammar Review
- 3 回 Pre-writing: Gathering Ideas and Narrowing a Topic
- 4 回 Paragraph Structure
- 5 回 Paragraph Development
- 6 回 Descriptive and Process Paragraphs
- 7 回 Opinion Paragraphs
- 8 回 Comparison / Contrast Paragraphs
- 9 回 Problem / Solution Paragraphs
- 1 0 回 Essay Structure
- 1 1 回 Outlining an Essay: Purpose and Style
- 1 2 回 Introductions and Conclusions: Purpose and Information Types
- 1 3 回 Essay Unity: Creating Coherence
- 1 4 回 Essays for Examinations
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40 % Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review previous week's material. Read the introductory material for the coming week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語演習【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of cross-cultural communication as a businessperson, and (2) to help you develop your business presentation in English.

教科書 /Textbooks

Mary Munter. "Cross-Cultural Communication for Managers". Business Horizons.
(当方で配布します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Harvard Business essentials. "Business Communication".
Edward T. Hall. "Hidden Differences" Anchor Books.
八代京子他. "異文化コミュニケーションワークブック". 三修社
Mary Munter. "Guide to Managerial communication". Prentice Hall.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: setting communication objective
Session 3: choosing a communication style
Session 4: assenting and enhancing credibility
Session 5: selecting and motivating audiences
Session 6: setting a message strategy
Session 7: overcoming language difficulties
Session 8: using appropriate nonverbal behaviors
Session 9: mid-term quiz
Session10: presentation competition: country presentation1
Session11: presentation competition: country presentation2
Session12: negotiations role-play: transnational manager assignment1
Session13: negotiations role-play: transnational manager assignment2
Session14: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China1
Session15: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China2

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation:(weight 20%): class participation will be evaluated on attendance and attentive.
Class quiz:(weight 30%): this will occur midway through the course.
Presentation:(weight 40%):you will be assigned make a presentation on cross-cultural management and case of negotiation.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グローバルに活躍する多国籍企業に興味を持っていただき、他の企業、経営関係の科目を受講していれば、この講義をさらに深く理解できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語演習【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of cross-cultural communication as a businessperson, and (2) to help you develop your business presentation in English.

教科書 /Textbooks

Mary Munter. "Cross-Cultural Communication for Managers". Business Horizons.
(当方で配布します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Harvard Business essentials. "Business Communication".
Edward T. Hall. "Hidden Differences" Anchor Books.
八代京子他. "異文化コミュニケーションワークブック". 三修社
Mary Munter. "Guide to Managerial communication". Prentice Hall.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: setting communication objective
Session 3: choosing a communication style
Session 4: assenting and enhancing credibility
Session 5: selecting and motivating audiences
Session 6: setting a message strategy
Session 7: overcoming language difficulties
Session 8: using appropriate nonverbal behaviors
Session 9: mid-term quiz
Session10: presentation competition: country presentation1
Session11: presentation competition: country presentation2
Session12: negotiations role-play: transnational manager assignment1
Session13: negotiations role-play: transnational manager assignment2
Session14: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China1
Session15: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China2

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation:(weight 20%): class participation will be evaluated on attendance and attentive.
Class quiz:(weight 30%): this will occur midway through the course.
Presentation:(weight 40%):you will be assigned make a presentation on cross-cultural management and case of negotiation.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グローバルに活躍する多国籍企業に興味を持っていただき、他の企業、経営関係の科目を受講していれば、この講義をさらに深く理解できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語演習【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of cross-cultural communication as a businessperson, and (2) to help you develop your business presentation in English.

教科書 /Textbooks

Mary Munter. "Cross-Cultural Communication for Managers". Business Horizons.
(当方で配布します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Harvard Business essentials. "Business Communication".
Edward T. Hall. "Hidden Differences" Anchor Books.
八代京子他. "異文化コミュニケーションワークブック". 三修社
Mary Munter. "Guide to Managerial communication". Prentice Hall.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: setting communication objective
Session 3: choosing a communication style
Session 4: assenting and enhancing credibility
Session 5: selecting and motivating audiences
Session 6: setting a message strategy
Session 7: overcoming language difficulties
Session 8: using appropriate nonverbal behaviors
Session 9: mid-term quiz
Session10: presentation competition: country presentation1
Session11: presentation competition: country presentation2
Session12: negotiations role-play: transnational manager assignment1
Session13: negotiations role-play: transnational manager assignment2
Session14: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China1
Session15: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China2

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation:(weight 20%): class participation will be evaluated on attendance and attentive.
Class quiz:(weight 30%): this will occur midway through the course.
Presentation:(weight 40%):you will be assigned make a presentation on cross-cultural management and case of negotiation.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グローバルに活躍する多国籍企業に興味を持っていただき、他の企業、経営関係の科目を受講していれば、この講義をさらに深く理解できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語演習【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of cross-cultural communication as a businessperson, and (2) to help you develop your business presentation in English.

教科書 /Textbooks

Mary Munter. "Cross-Cultural Communication for Managers". Business Horizons.
(当方で配布します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Harvard Business essentials. "Business Communication".
Edward T. Hall. "Hidden Differences" Anchor Books.
八代京子他. "異文化コミュニケーションワークブック". 三修社
Mary Munter. "Guide to Managerial communication". Prentice Hall.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: setting communication objective
Session 3: choosing a communication style
Session 4: assenting and enhancing credibility
Session 5: selecting and motivating audiences
Session 6: setting a message strategy
Session 7: overcoming language difficulties
Session 8: using appropriate nonverbal behaviors
Session 9: mid-term quiz
Session10: presentation competition: country presentation1
Session11: presentation competition: country presentation2
Session12: negotiations role-play: transnational manager assignment1
Session13: negotiations role-play: transnational manager assignment2
Session14: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China1
Session15: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China2

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation:(weight 20%): class participation will be evaluated on attendance and attentive.
Class quiz:(weight 30%): this will occur midway through the course.
Presentation:(weight 40%):you will be assigned make a presentation on cross-cultural management and case of negotiation.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グローバルに活躍する多国籍企業に興味を持っていただき、他の企業、経営関係の科目を受講していれば、この講義をさらに深く理解できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英日翻訳演習 【昼】

担当者名 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語への翻訳で最も基本的な戦略と想定する原理、Context-driven Principle of Translation に拠って色々な範疇の英語文の翻訳の技術を実践的に学ぶ。更に、授業を通して、必要な英文法の知識、日本語文法の知識、専門分野での知識データの整理方法等を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『翻訳入門 英日編』 氏木道人他著 大阪教育図書
『翻訳表現の特徴』 私家版編集教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針+Context-driven Principle of Translationの考え方+授業評価の説明。
- 2回 翻訳に必要な知識。論理構造の違い。演習課題。
- 3回 翻訳のポイントと専門知識。演習課題。
- 4回 英文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 5回 国文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 6回 説明・解説文の翻訳。演習課題。
- 7回 評論文・論文の翻訳。演習課題。
- 8回 小説の翻訳。演習課題。
- 9回 絵本・映画・歌詞の翻訳。演習課題。
- 10回 テクニカルライティング・カタログ。演習課題。
- 11回 ビジネス文書・契約書の翻訳。演習課題。
- 12回 新聞・ニュース放送の翻訳。演習課題。
- 13回 翻訳実務の実際の工程。演習課題。
- 14回 機械翻訳・音声による翻訳・文字による翻訳。演習課題。
- 15回 まとめと要約。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...35% + 試験...65%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日英翻訳演習の授業を履修しておくことと日本語と英語の発想の違い等に分れることになり、参考になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英日翻訳演習 【昼】

担当者名 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語への翻訳で最も基本的な戦略と想定する原理、Context-driven Principle of Translation に拠って色々な範疇の英語文の翻訳の技術を実践的に学ぶ。更に、授業を通して、必要な英文法の知識、日本語文法の知識、専門分野での知識データの整理方法等を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『翻訳入門 英日編』 氏木道人他著 大阪教育図書
『翻訳表現の特徴』 私家版編集教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針+Context-driven Principle of Translationの考え方+授業評価の説明。
- 2回 翻訳に必要な知識。論理構造の違い。演習課題。
- 3回 翻訳のポイントと専門知識。演習課題。
- 4回 英文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 5回 国文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 6回 説明・解説文の翻訳。演習課題。
- 7回 評論文・論文の翻訳。演習課題。
- 8回 小説の翻訳。演習課題。
- 9回 絵本・映画・歌詞の翻訳。演習課題。
- 10回 テクニカルライティング・カタログ。演習課題。
- 11回 ビジネス文書・契約書の翻訳。演習課題。
- 12回 新聞・ニュース放送の翻訳。演習課題。
- 13回 翻訳実務の実際の工程。演習課題。
- 14回 機械翻訳・音声による翻訳・文字による翻訳。演習課題。
- 15回 まとめと要約。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...35% + 試験...65%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日英翻訳演習の授業を履修しておくことと日本語と英語の発想の違い等に分れることになり、参考になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英日翻訳演習 【昼】

担当者名 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語への翻訳で最も基本的な戦略と想定する原理、Context-driven Principle of Translation に拠って色々な範疇の英語文の翻訳の技術を実践的に学ぶ。更に、授業を通して、必要な英文法の知識、日本語文法の知識、専門分野での知識データの整理方法等を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『翻訳入門 英日編』 氏木道人他著 大阪教育図書
『翻訳表現の特徴』 私家版編集教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針+Context-driven Principle of Translationの考え方+授業評価の説明。
- 2回 翻訳に必要な知識。論理構造の違い。演習課題。
- 3回 翻訳のポイントと専門知識。演習課題。
- 4回 英文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 5回 国文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 6回 説明・解説文の翻訳。演習課題。
- 7回 評論文・論文の翻訳。演習課題。
- 8回 小説の翻訳。演習課題。
- 9回 絵本・映画・歌詞の翻訳。演習課題。
- 10回 テクニカルライティング・カタログ。演習課題。
- 11回 ビジネス文書・契約書の翻訳。演習課題。
- 12回 新聞・ニュース放送の翻訳。演習課題。
- 13回 翻訳実務の実際の工程。演習課題。
- 14回 機械翻訳・音声による翻訳・文字による翻訳。演習課題。
- 15回 まとめと要約。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...35% + 試験...65%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日英翻訳演習の授業を履修しておくことと日本語と英語の発想の違い等に分れることになり、参考になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英日翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語への翻訳で最も基本的な戦略と想定する原理、Context-driven Principle of Translation に拠って色々な範疇の英語文の翻訳の技術を実践的に学ぶ。更に、授業を通して、必要な英文法の知識、日本語文法の知識、専門分野での知識データの整理方法等を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『翻訳入門 英日編』 氏木道人他著 大阪教育図書
『翻訳表現の特徴』 私家版編集教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針+Context-driven Principle of Translationの考え方+授業評価の説明。
- 2回 翻訳に必要な知識。論理構造の違い。演習課題。
- 3回 翻訳のポイントと専門知識。演習課題。
- 4回 英文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 5回 国文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 6回 説明・解説文の翻訳。演習課題。
- 7回 評論文・論文の翻訳。演習課題。
- 8回 小説の翻訳。演習課題。
- 9回 絵本・映画・歌詞の翻訳。演習課題。
- 10回 テクニカルライティング・カタログ。演習課題。
- 11回 ビジネス文書・契約書の翻訳。演習課題。
- 12回 新聞・ニュース放送の翻訳。演習課題。
- 13回 翻訳実務の実際の工程。演習課題。
- 14回 機械翻訳・音声による翻訳・文字による翻訳。演習課題。
- 15回 まとめと要約。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...35% + 試験...65%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日英翻訳演習の授業を履修しておくことと日本語と英語の発想の違い等に分れることになり、参考になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

もしあなたが明日、アメリカから日本にやってくるプロ野球選手の通訳をしなければならなくなったとしたら、あなたは今日、何をしますか？英語の勉強でしょうか？それより緊急にしなければならないことは、その選手について、その選手が属していた球団やリーグについて、さらにはアメリカの野球界と日本の野球界の違いについて調べ、記者会見でどんなことが訊かれるのかを想定して準備しておくことが必要となるのではないのでしょうか。そう考えてみると、通訳は、ことばを移し変えるだけではないことがよく分かります。自分が理解できない話題について通訳することはできないからです。その上で、英語力や日本語表現力といった力が必要になってくるわけです。この通訳基礎演習（入門）Iでは、英語をきちんと正しく聞き取れるようになるための訓練を基本としながら、多様な話題を教材に用いることにより、知識も身につけてもらえるよう工夫したいと思います。

教科書 /Textbooks

『Welcome to BBC on DVD』（成美堂）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、折に触れて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション：通訳とはどのような行為なのかを考えます。
- 2回 英語音声の聞き取りのこつ
- 3回～5回 シャドーイングを中心に
- 6回～10回 リテンション、スラッシュリーディングを中心に
- 11回～14回 通訳に挑戦
- 15回 総合演習と1学期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験の成績のみで評価します。ただし、欠席が極端に多い、あるいは授業時間数の半分以上欠席の人は不可、もしくは極端に低い評価とします。逆にすべて、もしくはほとんどすべて出席している人には、ボーナス点を加点します。したがって、割合では表示しにくいのですが、出席を非常に重視していると理解して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、授業の時だけの練習では実力はつきません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

もしあなたが明日、アメリカから日本にやってくるプロ野球選手の通訳をしなければならなくなったとしたら、あなたは今日、何をしますか？英語の勉強でしょうか？それより緊急にしなければならないことは、その選手について、その選手が属していた球団やリーグについて、さらにはアメリカの野球界と日本の野球界の違いについて調べ、記者会見でどんなことが訊かれるのかを想定して準備しておくことが必要となるのではないのでしょうか。そう考えてみると、通訳は、ことばを移し変えるだけではないことがよく分かります。自分が理解できない話題について通訳することはできないからです。その上で、英語力や日本語表現力といった力が必要になってくるわけです。この通訳基礎演習（入門）Iでは、英語をきちんと正しく聞き取れるようになるための訓練を基本としながら、多様な話題を教材に用いることにより、知識も身につけてもらえるよう工夫したいと思います。

教科書 /Textbooks

『Welcome to BBC on DVD』（成美堂）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、折に触れて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション：通訳とはどのような行為なのかを考えます。
- 2回 英語音声の聞き取りのこつ
- 3回～5回 シャドーイングを中心に
- 6回～10回 リテンション、スラッシュリーディングを中心に
- 11回～14回 通訳に挑戦
- 15回 総合演習と1学期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験の成績のみで評価します。ただし、欠席が極端に多い、あるいは授業時間数の半分以上欠席の人は不可、もしくは極端に低い評価とします。逆にすべて、もしくはほとんどすべて出席している人には、ボーナス点を加点します。したがって、割合では表示しにくいのですが、出席を非常に重視していると理解して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、授業の時だけの練習では実力はつきません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 津田 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

通訳基礎演習Ⅰでは、日本語・英語の語彙を増強しつつ、英語通訳に必要な基本的スキルの向上を目的とする。実用英検準1級程度以上の英語力がある学生の受講が望ましい。

前期は、テーマを決めて、個人・またはグループで、通訳やその他の英語を使う仕事について、リサーチをし、プレゼンテーションを予定している。

教科書 /Textbooks

- 1) 世界一便利な単語帳 デビッド・セイン IBCパブリッシング
- 2) 実践 英語スピーチ通訳-式辞あいさつからビジネス場面まで (単行本) 大修館書店 (2005/06)
ISBN 10: 4469245062

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

* 参考文献は授業中に紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(予定。スケジュールは開講日のオリエンテーションで詳細に説明する)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 英語学習法・リサーチの方法
- 3回 多読・多聴
- 4回 ディクテーション
- 5回 スラッシュ・リーディング(精読)
- 6回 シャドウイング
- 7回 ノートテイキング
- 8回 クイックリスポンス (日英単語の置き換え)
- 9回 ~ 13回 リサーチ&プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テスト... 60 % リサーチ、プレゼンテーション... 20 %
期末レポート ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学生参加型の授業です。毎回、授業の初めに単語のテストをするため、遅刻をしないこと。なお、単位取得には原則として授業回数の2/3以上の出席が必要です。

このクラスの受講者には、通訳を初めとした英語を使う仕事を得るのに有利な英語資格試験の受験をお勧めします。(受講期間中に、各英語資格試験を受験したのものには、受験報告書 (受験票を添付) を提出すれば、評価に加味します)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 津田 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

通訳基礎演習Ⅰでは、日本語・英語の語彙を増強しつつ、英語通訳に必要な基本的スキルの向上を目的とする。実用英検準1級程度以上の英語力がある学生の受講が望ましい。

前期は、テーマを決めて、個人・またはグループで、通訳やその他の英語を使う仕事について、リサーチをし、プレゼンテーションを予定している。

教科書 /Textbooks

- 1) 世界一便利な単語帳 デビッド・セイン IBCパブリッシング
- 2) 実践 英語スピーチ通訳-式辞あいさつからビジネス場面まで (単行本) 大修館書店 (2005/06)
ISBN 10: 4469245062

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

* 参考文献は授業中に紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(予定。スケジュールは開講日のオリエンテーションで詳細に説明する)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 英語学習法・リサーチの方法
- 3回 多読・多聴
- 4回 ディクテーション
- 5回 スラッシュ・リーディング(精読)
- 6回 シャドウイング
- 7回 ノートテイキング
- 8回 クイックリスポンス (日英単語の置き換え)
- 9回 ~ 13回 リサーチ&プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テスト... 60 % リサーチ、プレゼンテーション... 20 %
期末レポート ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学生参加型の授業です。毎回、授業の初めに単語のテストをするため、遅刻をしないこと。なお、単位取得には原則として授業回数の2/3以上の出席が必要です。

このクラスの受講者には、通訳を初めとした英語を使う仕事を得るのに有利な英語資格試験の受験をお勧めします。(受講期間中に、各英語資格試験を受験したものには、受験報告書 (受験票を添付) を提出すれば、評価に加味します)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

もしあなたが明日、アメリカから日本にやってくるプロ野球選手の通訳をしなければならなくなったとしたら、あなたは今日、何をしますか？英語の勉強でしょうか？それより緊急にしなければならないことは、その選手について、その選手が属していた球団やリーグについて、さらにはアメリカの野球界と日本の野球界の違いについて調べ、記者会見でどんなことが訊かれるのかを想定して準備しておくことが必要となるのではないのでしょうか。そう考えてみると、通訳は、ことばを移し変えるだけではないことがよく分かります。自分が理解できない話題について通訳することはできないからです。その上で、英語力や日本語表現力といった力が必要になってくるわけです。通訳基礎演習（入門）IIでは、応用編として、より高度な英語聴解力の養成を軸にすえ、さまざまな音源を教材に訓練を行ないます。知識を増やす努力も継続して行ないたいと思います。

教科書 /Textbooks

『What's on Japan 4』（金星堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、折に触れて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション：通訳とその関連形態について確認をします。
- 2回～4回 さまざまな通訳訓練法を概観し、翻訳と通訳の違いと共通点を確認します。
- 5回～7回 ニュース英語の通訳演習を行なうとともに放送翻訳についても学びます。
- 8回～10回 ノートテキングの要領をしっかりと学びながら通訳演習を続けます。
- 11回 役割演習をしながらより実践的な演習を行ないます。
- 12回～14回 総合演習と2学期のまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験の成績のみで評価します。ただし、欠席が極端に多い、あるいは授業時間数の半分以上欠席の人は不可、もしくは極端に低い評価とします。逆にすべて、もしくはほとんどすべて出席している人には、ボーナス点を加点します。したがって、割合では表示しにくいのですが、出席を非常に重視していると理解して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、授業の時だけの練習では実力はつきません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

もしあなたが明日、アメリカから日本にやってくるプロ野球選手の通訳をしなければならなくなったとしたら、あなたは今日、何をしますか？英語の勉強でしょうか？それより緊急にしなければならないことは、その選手について、その選手が属していた球団やリーグについて、さらにはアメリカの野球界と日本の野球界の違いについて調べ、記者会見でどんなことが訊かれるのかを想定して準備しておくことが必要となるのではないのでしょうか。そう考えてみると、通訳は、ことばを移し変えるだけではないことがよく分かります。自分が理解できない話題について通訳することはできないからです。その上で、英語力や日本語表現力といった力が必要になってくるわけです。通訳基礎演習（入門）IIでは、応用編として、より高度な英語聴解力の養成を軸にすえ、さまざまな音源を教材に訓練を行ないます。知識を増やす努力も継続して行ないたいと思います。

教科書 /Textbooks

『What's on Japan 4』（金星堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、折に触れて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション：通訳とその関連形態について確認をします。
- 2回～4回 さまざまな通訳訓練法を概観し、翻訳と通訳の違いと共通点を確認します。
- 5回～7回 ニュース英語の通訳演習を行なうとともに放送翻訳についても学びます。
- 8回～10回 ノートテキングの要領をしっかりと学びながら通訳演習を続けます。
- 11回 役割演習をしながらより実践的な演習を行ないます。
- 12回～14回 総合演習と2学期のまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験の成績のみで評価します。ただし、欠席が極端に多い、あるいは授業時間数の半分以上欠席の人は不可、もしくは極端に低い評価とします。逆にすべて、もしくはほとんどすべて出席している人には、ボーナス点を加点します。したがって、割合では表示しにくいのですが、出席を非常に重視していると理解して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、授業の時だけの練習では実力につきません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳基礎演習II 【昼】

担当者名 津田 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

通訳入門IIでは、日本語・英語の語彙を増強しつつ、英語通訳に必要な基本的スキルの向上を目的とする。実用英検準1級程度以上の英語力がある学生の受講が望ましい。
後期は実践編のため、通訳入門Iを受講していない場合は、初回に相談すること。

教科書 /Textbooks

- 1) 世界一便利な単語帳 デビッド・セイン IBCパブリッシング
- 2) はじめてのウイスパリング同時通訳(単行本) 南雲堂 柴田 バネッサ清美(著) ISBN-10: 4523264457

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

* 参考文献は授業中に紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(予定。スケジュールは開講日のオリエンテーションで詳細に説明する)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 英語学習法・リサーチの方法
- 3回 多読・多聴
- 4回 テイクテーション
- 5回 スラッシュ・リーディング(精読)
- 6回 シャドウイング
- 7回 ノートテイキング
- 8回 クイックリスポンス(日英単語の置き換え)
- 9回~13回 リサーチ&プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テスト... 60 % リサーチ、プレゼンテーション... 20 %
期末レポート ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学生参加型の授業です。毎回、授業の初めに単語のテストをするため、遅刻をしないこと。なお、単位取得には原則として授業回数の2/3以上の出席が必要です。

このクラスの受講者には、通訳を初めとした英語を使う仕事を得るのに有利な英語資格試験の受験をお勧めします。(受講期間中に、各英語資格試験を受験したのものには受験報告書(受験票を添付)を提出すれば、評価に加味します)

通訳基礎演習II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳基礎演習II 【昼】

担当者名 津田 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

通訳入門IIでは、日本語・英語の語彙を増強しつつ、英語通訳に必要な基本的スキルの向上を目的とする。実用英検準1級程度以上の英語力がある学生の受講が望ましい。
後期は実践編のため、通訳入門Iを受講していない場合は、初回に相談すること。

教科書 /Textbooks

- 1) 世界一便利な単語帳 デビッド・セイン IBCパブリッシング
- 2) はじめてのウイスパリング同時通訳(単行本) 南雲堂 柴田 バネッサ清美(著) ISBN-10: 4523264457

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

* 参考文献は授業中に紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(予定。スケジュールは開講日のオリエンテーションで詳細に説明する)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 英語学習法・リサーチの方法
- 3回 多読・多聴
- 4回 テイクテーション
- 5回 スラッシュ・リーディング(精読)
- 6回 シャドウイング
- 7回 ノートテイキング
- 8回 クイックリスポンス(日英単語の置き換え)
- 9回~13回 リサーチ&プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テスト... 60 % リサーチ、プレゼンテーション... 20 %
期末レポート ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学生参加型の授業です。毎回、授業の初めに単語のテストをするため、遅刻をしないこと。なお、単位取得には原則として授業回数の2/3以上の出席が必要です。

このクラスの受講者には、通訳を初めとした英語を使う仕事を得るのに有利な英語資格試験の受験をお勧めします。(受講期間中に、各英語資格試験を受験したのものには受験報告書(受験票を添付)を提出すれば、評価に加味します)

通訳基礎演習II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究I (音声学・音韻論) 【昼】

担当者名 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

音声学・音韻論の基礎知識を学ぶとともに、実践的な訓練により、英語の正しい発音を習得する。
英語の強勢、リズム、イントネーションについても学び、英語らしい英語の音声について明らかにする。

教科書 /Textbooks

堀口俊一監修、加賀屋弘司、矢田裕士、野田哲雄著 『現代英語音声学』 英潮社ファニックス

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてプリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction 音声学・音韻論の定義、IPA
- 2回 発声メカニズム、母音の種類(1)
- 3回 母音の種類(2)、二重母音
- 4回 子音の種類(1)鼻音、閉鎖音
- 5回 子音の種類(2)摩擦音
- 6回 子音の種類(3)破擦音、側音、半母音
- 7回 紛らわしい子音、紛らわしい母音
- 8回 音の強勢
- 9回 音の縮小、同時調音
- 10回 リズム
- 11回 イントネーション(1)
- 12回 イントネーション(2)
- 13回 音響音声学
- 14回 音変化
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、提出物 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

カセットテープおよびUSBメモリを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究II (統語論) 【昼】

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語と英語の統語構造の違い。

教科書 /Textbooks

特に無し。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 英語と日本語の統語構造の違い
- 3回 英語と日本語の統語構造の違い
- 4回 理論的背景の概要
- 5回 語彙範疇①
- 6回 語彙範疇②
- 7回 語彙範疇③
- 8回 機能範疇①
- 9回 機能範疇②
- 10回 機能範疇③
- 11回 語彙範疇と機能範疇の違い
- 12回 英語と日本語の統語構造の違いの理論的説明
- 13回 英語と日本語の統語構造の違いの理論的説明
- 14回 理論的説明における問題点等の指摘
- 15回 まとめ

全講義回数の8割程度の割合で、講義終了前に小テストを行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 40 % 小テスト... 20% レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語史【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

担当者名 /Instructor 松崎 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講座では、国際語としての地位を確立したといえる英語の、その誕生（5世紀）から近世（16世紀）に至るまでの歴史を概観する。特に、他のヨーロッパ諸言語と比べて現代英語の際立った特徴とされる（1）語彙の豊富さ（2）語尾変化の少なさ、の2点に焦点を当て、こうした特徴がフランス語を中心とした諸外国語の影響によるものが大きいことを、具体例を通して概観し、英語の発達の歴史はいわば異質の言語・文化との交流の歴史であることを学んでいく。

教科書 /Textbooks

見馬修『ファンダメンタル英語史』ひつじ書房、1996年、1500円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバス配布 & 英語史導入問題の解答と解説
- 2回 はしがき & はじめに【外面史】、【内面史】
- 3回 英語史の概観（1）【アングロサクソン人】
- 4回 英語史の概観（2）【ケルト人】
- 5回 印欧祖語（1）【ウィリアム・ジョーンズ】
- 6回 印欧祖語（2）【印欧語族】
- 7回 古英語の文献・特殊文字（1）【ルーン文字】、【ローマンアルファベット】
- 8回 古英語の文献・特殊文字（2）【古英語】
- 9回 海賊と英語（1）【ヴァイキング】
- 10回 海賊と英語（2）【借用語】
- 11回 海賊と英語（3）【地名】
- 12回 ノルマン人の征服と英語（1）【ノルマン人の征服】
- 13回 ノルマン人の征服と英語（2）【英語の危機】
- 14回 ノルマン人の征服と英語（3）【フランス語借用語】
- 15回 まとめ～英語史を学んで～

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎講義の冒頭に前回の講義内容に関する質問を受講生に口頭でおこなうので、講義開始時までに前回の講義内容を復習しておくこと。この口頭質問は重要なクラス活動と位置づけるので、平常点として成績評価の対象とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会言語学研究【昼】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語は様々な要因によって影響を受けます。どのような要因がどのような影響を与えるのか、また私たちはその言語をどのように駆使しているのかを、社会言語学の視点から考えます。言語と社会との関係、そこに生じる諸問題を理解することがこの授業の狙いです。今年度は「ことばのバリエーション」、「方言接触」、「言語接触」に焦点を当てます。

教科書 /Textbooks

ハンドアウト

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 東 照二. (1997). 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』 研究社出版.
- 飯野公一・恩村由香子・杉田洋・森吉直子. (2003). 『新世代の言語学』 ころしお出版.
- 田中春美・田中幸子. (1996). 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』 ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会言語学とは
- 2回 ことばのバリエーション
地域方言
- 3回 社会方言
- 4回 方言接触
- 5回 アコモデーション理論(1)
- 6回 アコモデーション理論(2)
- 7回 第二方言習得
- 8回 方言接触とコイネ化
- 9回 植民地独立後の方言形成
- 10回 言語接触
ピジンとクリオール・ダイグロシア
- 11回 コードスイッチング
- 12回 外来語
- 13回 言語のシフトと維持
- 14回 言語の死
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100% (欠席が3分の1を越える場合は、学期末試験を受けられません。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究 【昼】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義はアメリカ文化を様々な視点から検討します。独立宣言、政治演説など、多数の歴史的資料を取り上げることを通して、アメリカが辿って来た道、そして現代における意義を検証していきます。

教科書 /Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction
- 2 回 The New World
- 3 回 The Original Colonies
- 4 回 British Influence
- 5 回 Early Expansion to the Mississippi
- 6 回 The Moving Frontier
- 7 回 【The Civil War】 and the 【Civil Rights Movement】
- 8 回 The US System of 【Government】
- 9 回 The Second World War
- 1 0 回 The 1960s Counterculture
- 1 1 回 Economic Values
- 1 2 回 Lifestyle
- 1 3 回 Popular Culture
- 1 4 回 Continuing 【Immigration】
- 1 5 回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：60% 課題：0% 態度：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The course will be taught using a combination of English and Japanese. Lecture notes will be provided to aid student review.
The examination will be in Japanese but will include some English vocabulary.
Students are expected to read the English-language textbook chapter relating to each week's topic to gain historical background information so as to fully appreciate the lecture.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

映画や文学、新聞を中心にイギリスの文化を読み解く。階級、ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティ、宗教、王室等をキーワードとして、歴史的な視点、現代的な視点の両方から考えてみたい。

教科書 /Textbooks

特に中心とするテキストはないが、必要に応じてプリント資料を用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

担当教員が、各テーマ毎に参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 映画『キンキーブーツ』を題材に、ジェンダー / セクシュアリティとイギリス経済について考える。(その1) ジェンダーとセクシュアリティー
【ジェンダー】【セクシュアリティ】【ファッション】【市場経済】
- 2回 映画『キンキーブーツ』を題材にジェンダー / セクシュアリティとイギリス経済について考える。(その2) ファッション
【ジェンダー】【セクシュアリティ】【ファッション】【市場経済】
- 3回 映画『キンキーブーツ』を題材に、ジェンダー / セクシュアリティとイギリス経済について考える。(その3) 経済
- 4回 イギリスにおける宗教その歴史と現代。
(その1) カトリックと中世
【プロテスタント】【カトリック】【イスラム】【資本主義】【中世】【近代】【現代】
- 5回 イギリスにおける宗教その歴史と現代。
(その2) プロテスタントと資本主義
【プロテスタント】【カトリック】【イスラム】【資本主義】【中世】【近代】【現代】
- 6回 イギリスにおける宗教その歴史と現代。
(その3) エスニックマイノリティーとイスラム教
【プロテスタント】【カトリック】【イスラム】【資本主義】【中世】【近代】【現代】
- 7回 『プラス!』(あるいは『リトルダンサー』)を題材にイギリスの炭鉱問題、労働者問題について考える。(その1) 階級
【炭鉱経済】【労働者】【階級】【言語】
- 8回 『プラス!』(あるいは『リトルダンサー』)を題材にイギリスの炭鉱問題、労働者問題について考える。(その2) 労働者と言語
【炭鉱経済】【労働者】【階級】【言語】
- 9回 『プラス!』(あるいは『リトルダンサー』)を題材にイギリスの炭鉱問題、労働者問題について考える。(その3) 石炭経済
【炭鉱経済】【労働者】【階級】【言語】
- 10回 イギリスの王室とメディアについて考える。
【王室】【大衆】【新聞】【テレビ】
- 11回 「ロンドンに世界を集めること」の意味について考える。
(その1) ロンドンオリンピック、ロンドン万博
【オリンピック】【万博】【デパート】【動植物園】【図鑑】
- 12回 「ロンドンに世界を集めること」の意味について考える。
(その2) デパート、ロンドン動物園、キューガーデン、図鑑
【オリンピック】【万博】【デパート】【動植物園】【図鑑】
- 13回 映画『ベッカムに恋して』を題材にイギリス社会とエスニシティの問題について考える。(その1) エスニシティ
【エスニシティ】【ホモソーシャルボンド】【ジェンダー】
- 14回 映画『ベッカムに恋して』を題材にイギリス社会とエスニシティの問題について考える。(その2) ホモソーシャルボンド
【エスニシティ】【ホモソーシャルボンド】【ジェンダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業コメント含む)... 25% 課題... 0-25% 期末試験... 50-75%

イギリス研究 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英米学科の教育の柱として、「語学力の養成」、「英語のこころを学ぶ」、「英語の先にある世界を学ぶ」を挙げることができます。この授業は、このうち「英語のこころ」を学ぶために用意されたものです。まずは比較文化学の方法論を踏まえ、異文化を読み解くにはどのようなことに注意を払えばよいのかを確認します。それに続いて、英語文化の背後にあるイギリス、アメリカの文化を見つめ、さらに英米以外の英語圏の国々についても理解を深めたいと思います。最後に、それによってあきらかとされてきた日本文化のさまざまな特質を、英語で語る練習をしてみたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。授業の中でプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で折に触れて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文化を読み解くとは？3つの「赤ずきんちゃん」を比較します。
- 2回 イギリスとアメリカの素顔を知る。
- 3回 マザーグースと児童文学
- 4回 中世演劇に見るユーモア精神
- 5回～ 6回 シェイクスピア
- 7回～ 8回 アメリカ音楽の系譜
- 9回～ 10回 イギリス音楽の系譜
- 11回 聖地デイズニーランド
- 12回～ 13回 英語圏諸国の素顔
- 14回 日本文化を英語で語ろう。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験の成績のみで評価します。ただし、欠席が極端に多い、あるいは授業時間数の半分以上欠席の人は不可、もしくは極端に低い評価とします。逆にすべて、もしくはほとんどすべて出席している人には、ボーナス点を加点します。したがって、割合では表示しにくいのですが、出席を非常に重視していると理解して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この授業は、予習を前提に考えていませんので、特に何か準備をして臨んでいただく必要はありません。しかし、復習は十分にしてくださいと思います。授業の中で配布するプリントを読み直し、できればそれをもとに、自分なりにさらにリサーチを続けていただければと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語プレゼンテーション演習【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語で情報を発信する技術を身につけることを目的とする。まず英語でプレゼンテーションをする際の基本的な方法や知識を学ぶ。原則としてパワーポイントを用いる方法を紹介するが、必ずしもパワーポイントを用いなければならないというものではない。最初の数回で、すぐれたプレゼンテーションの例をいくつか紹介、分析し、英語プレゼンテーションをする際の重要なポイント、注意すべき事などを学ぶ。4回目からは、学生自身によるプレゼンテーションの実践によって演習を進める。英語圏で、何かを語るときにまず必要なのは、自国の文化についての知識である。そういうわけで、本演習では日本と英語圏の文化について比較考察しうるようなテーマを自ら設定し、十分にサーチしたものをプレゼンテーションする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
英語プレゼンテーションの基本
- 第2回 プレゼンの技術
パワーポイント等を使用した、プレゼンテーションの基本技術について
- 第3回 すぐれたプレゼンテーションから学ぶ
いくつかのすぐれたプレゼンテーションの例のいくつかをビデオで見て、それについて分析、解説する。
- 第4回～プレゼンの実践
毎回2～3名ずつ、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの後、英語による全体でのディスカッションを行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語プレゼンテーション演習【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語で情報を発信する技術を身につけることを目的とする。まず英語でプレゼンテーションをする際の基本的な方法や知識を学ぶ。原則としてパワーポイントを用いる方法を紹介するが、必ずしもパワーポイントを用いなければならないというものではない。最初の数回で、すぐれたプレゼンテーションの例をいくつか紹介、分析し、英語プレゼンテーションをする際の重要なポイント、注意すべき事などを学ぶ。4回目からは、学生自身によるプレゼンテーションの実践によって演習を進める。英語圏で、何かを語るときにまず必要なのは、自国の文化についての知識である。そういうわけで、本演習では日本と英語圏の文化について比較考察しうるようなテーマを自ら設定し、十分にサーチしたものをプレゼンテーションする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
英語プレゼンテーションの基本
- 第2回 プレゼンの技術
パワーポイント等を使用した、プレゼンテーションの基本技術について
- 第3回 すぐれたプレゼンテーションから学ぶ
いくつかのすぐれたプレゼンテーションの例のいくつかをビデオで見て、
それについて分析、解説する。
- 第4回～プレゼンの実践
毎回2～3名ずつ、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの後、英語による全体でのディスカッションを行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語プレゼンテーション演習【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語で情報を発信する技術を身につけることを目的とする。まず英語でプレゼンテーションをする際の基本的な方法や知識を学ぶ。原則としてパワーポイントを用いる方法を紹介するが、必ずしもパワーポイントを用いなければならないというものではない。最初の数回で、すぐれたプレゼンテーションの例をいくつか紹介、分析し、英語プレゼンテーションをする際の重要なポイント、注意すべき事などを学ぶ。4回目からは、学生自身によるプレゼンテーションの実践によって演習を進める。英語圏で、何かを語るときにまず必要なのは、自国の文化についての知識である。そういうわけで、本演習では日本と英語圏の文化について比較考察しうるようなテーマを自ら設定し、十分にサーチしたものをプレゼンテーションする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
 英語プレゼンテーションの基本
- 第2回 プレゼンの技術
 パワーポイント等を使用した、プレゼンテーションの基本技術について
- 第3回 すぐれたプレゼンテーションから学ぶ
 いくつかのすぐれたプレゼンテーションの例のいくつかをビデオで見て、
 それについて分析、解説する。
- 第4回～プレゼンの実践
 毎回2～3名ずつ、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの後、英語による全体 でのディスカッションを行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語プレゼンテーション演習【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3 - D
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語で情報を発信する技術を身につけることを目的とする。まず英語でプレゼンテーションをする際の基本的な方法や知識を学ぶ。原則としてパワーポイントを用いる方法を紹介するが、必ずしもパワーポイントを用いなければならないというものではない。最初の数回で、すぐれたプレゼンテーションの例をいくつか紹介、分析し、英語プレゼンテーションをする際の重要なポイント、注意すべき事などを学ぶ。4回目からは、学生自身によるプレゼンテーションの実践によって演習を進める。英語圏で、何かを語るときにまず必要なのは、自国の文化についての知識である。そういうわけで、本演習では日本と英語圏の文化について比較考察しうるようなテーマを自ら設定し、十分にサーチしたものをプレゼンテーションする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
英語プレゼンテーションの基本
- 第2回 プレゼンの技術
パワーポイント等を使用した、プレゼンテーションの基本技術について
- 第3回 すぐれたプレゼンテーションから学ぶ
いくつかのすぐれたプレゼンテーションの例のいくつかをビデオで見て、
それについて分析、解説する。
- 第4回～プレゼンの実践
毎回2～3名ずつ、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの後、英語による全体 でのディスカッションを行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習II【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Anthony TrollopeのBarchester Towersを扱う。

①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、以上2点がねらいである。

教科書 /Textbooks

必要な者はAnthony Trollope: Barchester Towers (Penguin Classics)を購入する。
授業はこのテキストのコピーを適宜プリントして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 授業の進め方。1回に8頁ずつ読んでいく。担当となった受講生は授業日の2日前までに1頁の翻訳を木下に添付ファイルで提出する。授業では全員8頁を当然読んできているものとして訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックする。

- 2回 267-274頁の翻訳
- 3回 275-282頁の翻訳
- 4回 283-290頁の翻訳
- 5回 291-298頁の翻訳
- 6回 299-306頁の翻訳
- 7回 307-314頁の翻訳
- 8回 315-322頁の翻訳
- 9回 323-330頁の翻訳
- 10回 331-338頁の翻訳
- 11回 339-346頁の翻訳
- 12回 347-354頁の翻訳
- 13回 355-362頁の翻訳
- 14回 267-314頁の翻訳仕上げ
- 15回 315-362頁の翻訳仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 20% 課題... 40% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当頁の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習II【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Anthony TrollopeのBarchester Towersを扱う。

①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、以上2点がねらいである。

教科書 /Textbooks

必要な者はAnthony Trollope: Barchester Towers (Penguin Classics)を購入する。

授業はこのテキストのコピーを適宜プリントして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 授業の進め方。1回に8頁ずつ読んでいく。担当となった受講生は授業日の2日前までに1頁の翻訳を木下に添付ファイルで提出する。授業では全員8頁を当然読んできているものとして訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックする。

- 2回 267-274頁の翻訳
- 3回 275-282頁の翻訳
- 4回 283-290頁の翻訳
- 5回 291-298頁の翻訳
- 6回 299-306頁の翻訳
- 7回 307-314頁の翻訳
- 8回 315-322頁の翻訳
- 9回 323-330頁の翻訳
- 10回 331-338頁の翻訳
- 11回 339-346頁の翻訳
- 12回 347-354頁の翻訳
- 13回 355-362頁の翻訳
- 14回 267-314頁の翻訳仕上げ
- 15回 315-362頁の翻訳仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 20% 課題... 40% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当頁の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習II【昼】

担当者名 /Instructor 田吹 長彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ: 「イギリス・ロマン派とスイス」
風光明媚なスイスを背景に、Lord Byronを中心とするイギリス・ロマン派の作家の動向を探索する。産業革命・フランス革命・ナポレオン戦争といった激動の時代を経てスイスを旅した人たちの中にByron, P.B.Shelley, Mary Shelley, William Polidoriなどがいる。テキストの背景は、スイスのBaselから入国、同国内各地を旅してイタリアとの国境にあるSimplon峠まで、現在の観光地をほぼ網羅する。内容には名所旧蹟・風物・歴史・文化なども含む。
「英語リーディング演習II」では主にスイスのLeman湖北東岸、Golden Pass、Bernese Oberland、Leman湖南西岸Geneveからイタリア国境Simplon峠を背景とする部分の動向について精読する。

教科書 /Textbooks

Elma Dangerfield: Byron and the Romantics in Switzerland.
テキストについては授業の冒頭で説明する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和書
○ 上杉文世 『バイロン研究』 研究社
○ 楠本哲夫 『永遠の巡礼詩人バイロン』 三省堂
○ 阿部知二 『バイロン』 研究社
○ 田吹長彦 『ヨーロッパ夢紀行、詩人バイロンの旅—ベルギー・ライン河・スイス編』
丸善出版サービスセンター
原書は多数あるが授業で必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のテキストを精読。各種の映像・地図などを必要に応じて随時活用する予定。
テキストは全部で約100ページ(挿入画等を含む)あるが、「英語リーディング演習II」では、その後半を授業コマ数に分けて精読する予定。読破の場合は、スイスに関するバイロンの他の教材を追加して読む。

語学力増強のために、授業の確実な予習をすること。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(出席率・欠席回数・遅刻回数・予習・積極性・理解度を含む)...30% 期末試験...70%。なお授業開講回数の2 / 3 以上の出席回数がないと単位認定作業ができないので十分注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced Reading and Discussion 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Aim of this course is further development of reading and discussion skills. Newspaper articles, essays, short fiction will be used to increase reading speed, expand vocabulary, and improve discussion skills. Reading, comprehension, & speaking exercises are conducted on individual basis, as well as in pair and work-group format. Exercises are designed to help students prepare for reading sections of standardized tests (TOEIC & TOEFL).

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 "Man and Animal; Are We Still Evolving?"
- 3 回 "Intelligent Machines"
- 4 回 Forster, "The Machine Stops"
- 5 回 The Modern Community
- 6 回 Carver, "Neighbors"
- 7 回 Couples
- 8 回 Hemingway, "The Cat in the Rain"
- 9 回 Essay "Is the Earth Drying Up?"
- 1 0 回 Media and Privacy
- 1 1 回 Cheever, "The Enormous Radio"
- 1 2 回 Cheever, (continued)
- 1 3 回 Generations
- 1 4 回 O'Connor, "Everything That Rises Must Converge"
- 1 5 回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 30% Homework ... 30 % Tests ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced Reading and Discussion 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Aim of this course is further development of reading and discussion skills. Newspaper articles, essays, short fiction will be used to increase reading speed, expand vocabulary, and improve discussion skills. Reading, comprehension, & speaking exercises are conducted on individual basis, as well as in pair and work-group format. Exercises are designed to help students prepare for reading sections of standardized tests (TOEIC & TOEFL).

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 "Man and Animal; Are We Still Evolving?"
- 3 回 "Intelligent Machines"
- 4 回 Forster, "The Machine Stops"
- 5 回 The Modern Community
- 6 回 Carver, "Neighbors"
- 7 回 Couples
- 8 回 Hemingway, "The Cat in the Rain"
- 9 回 Essay "Is the Earth Drying Up?"
- 1 0 回 Media and Privacy
- 1 1 回 Cheever, "The Enormous Radio"
- 1 2 回 Cheever, (continued)
- 1 3 回 Generations
- 1 4 回 O'Connor, "Everything That Rises Must Converge"
- 1 5 回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 30% Homework ... 30 % Tests ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced Reading and Discussion 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Aim of this course is further development of reading and discussion skills. Newspaper articles, essays, short fiction will be used to increase reading speed, expand vocabulary, and improve discussion skills. Reading, comprehension, & speaking exercises are conducted on individual basis, as well as in pair and work-group format. Exercises are designed to help students prepare for reading sections of standardized tests (TOEIC & TOEFL).

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 "Man and Animal; Are We Still Evolving?"
- 3 回 "Intelligent Machines"
- 4 回 Forster, "The Machine Stops"
- 5 回 The Modern Community
- 6 回 Carver, "Neighbors"
- 7 回 Couples
- 8 回 Hemingway, "The Cat in the Rain"
- 9 回 Essay "Is the Earth Drying Up?"
- 1 0 回 Media and Privacy
- 1 1 回 Cheever, "The Enormous Radio"
- 1 2 回 Cheever, (continued)
- 1 3 回 Generations
- 1 4 回 O'Connor, "Everything That Rises Must Converge"
- 1 5 回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 30% Homework ... 30 % Tests ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語研究【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ビジネスの初歩的な外書を講読する事で、ビジネス、経済用語に慣れ、さらに高いレベルのビジネス関係洋書を読む為の準備とする。3年次以降に国際金融、国際貿易、国際経済を受講する予定の方はこのコースを強く勧める。

教科書 /Textbooks

Daniel R. Fusfeld. "The Age of the Economist". 洋版出版
(テキストはこちらで用意します)
授業で適宜通知する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: fundamentals of Economics1
Session 3: fundamentals of Economics2
Session 4: fundamentals of Economics3
Session 5: fundamentals of Economics4
Session 6: chapter 1 of The Age of Economist
Session 7: chapter 2 of The Age of Economist
Session 8: chapter 3 of The Age of Economist
Session 9: chapter 4 of The Age of Economist
Session 10:chapter 5 of The Age of Economist
Session 11:chapter 6 of The Age of Economist
Session 12:chapter 7 of The Age of Economist
Session 13:chapter 8 of The Age of Economist
Session 14:chapter 9 of The Age of Economist
Session 15:chapter 10 of The Age of Economist

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 10 Presentation:30 Midterm quiz:20 Final examination : 40

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミA1【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

(I)事例研究を通して日英語話者のコミュニケーション・スタイルまた、そのギャップを探り、文化的背景に迫る。(II) 英語の表現能力(発表、エッセイ)の促進

教科書 /Textbooks

Samovar & Porter, Communication between Cultures Wardsworth Publishing Co.
『異文化間コミュニケーション入門』松柏社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明 異文化コミュニケーションの領域
- 2回 異文化コミュニケーション・ギャップの事例と文化的背景
- 3回 異文化コミュニケーション・ギャップの記述
- 4回 クリティカルインシデントの観察・記述
- 5回 クリティカルインシデントの作成
- 6回 文化の下位範疇化とコミュニケーション
- 7回 第1章 Cultural Patterns and Communication: Foundations 前半
- 8回 第1章 Cultural Patterns and Communication: Foundations 後半
- 9回 第2章 Cultural Patterns and Communication: Taxonomies 前半
- 10回 第2章 Cultural Patterns and Communication: Taxonomies 後半
- 11回 第3章 Intercultural Competence in Interpersonal Relationships 前半
- 12回 第3章 Intercultural Competence in Interpersonal Relationships 後半
- 13回 ホフステードの価値観を基にした第1章～第3章の整理、疑問点の解明
- 14回 ホフステードの価値観を基にしたクリティカルインシデントの解明
- 15回 疑問点の提示とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動 60 % アサインメント 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当した文献の解説；①著者の意図通りに理解、②疑問点の提示、③批判的な意見の提示、を心がけること。毎回の授業では必ず、各自疑問点、批判的なコメントを出して討議のい参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミAI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この通訳ゼミでは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切であると言えます。また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していただけるゼミにしていきたいと思っています。3年次前期は、時事英語に習熟し、とくに政治経済に関する語彙力を磨いていくことを目標に取り組みます。

教科書 /Textbooks

『速読速聴・英単語Core1900ver.3』（Z会）
※この他、オリジナル教材を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、折に触れて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ゼミ・オリエンテーション	
2回～5回	基礎的な通訳トレーニングを通して、スキルアップと必要な知識や語彙力を	身につけます。
6回～9回	より実践的な通訳トレーニングを行ない、あわせて中間発表会を行ないます。	
10回～13回	実践的な通訳トレーニングを継続して行ない、最終プレゼンテーションを	目指して準備していきます。
14回～15回	まとめと1学期の総括としての実技発表会をします。	

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% 実技...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。通訳は英語力があればできると簡単に考えてはいけません。日本語をどんな英語に訳していけばよいかを常に考えながら生活していきい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミAI 【昼】

担当者名 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分の考え等を表現する領域（話し言葉・書き言葉を含む）に関する知識・技術の獲得に関することを目標にする。通訳訓練に関する一般的な技術にふれた後、関連する科目との融合・強化について説明して、実習等を通して自分の経験則をつくることも目的とする。
メディア機器との連携を通して、字幕翻訳や音声録音の方法など実際に英語が利用されている場面を想定して総合的な学習を念頭におく。原則として3年次のゼミは毎回の授業は教材を用いた解説・練習のセクションとトピック毎の実演デモのセクションの二部構成からなる。

教科書 /Textbooks

『ウイスパリング同時通訳』 柴田バネッサ著 南雲堂
『通訳・翻訳』 月間誌 イカロス出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Lesson 1+英語ニュースの口頭要約（日本語）練習
- 2回 Lesson 2+英語ニュースの口頭要約（英語文）練習
- 3回 Lesson 3+reproduction, retentionの説明と練習
- 4回 Lesson 4+summarizing, paraphrasingの説明と練習
- 5回 Lesson 5+「発想」の違いの発見的学習の説明と練習
- 6回 Lesson 6+Shadowingの説明と練習
- 7回 Lesson 7+Whisperingの説明と練習
- 8回 同時通訳もしくは逐次通訳講演会の見学とその課題検討
- 9回 Lesson 8, 9+デジタル録音による訳文吹き込みの実演と課題検討
- 10回 Lesson 10+日本の文化用語の英語による説明の練習
- 11回 Lesson 11+制限時間枠での英語原文のrewritingの説明と練習
- 12回 Lesson 12+BS放送を聴きながらのnote takingの方法と練習
- 13回 Lesson 13+note takingと英文速記の違いと練習
- 14回 Lesson 14+テープ録音（日本語）を聞いてのnumbering方式の要約の練習
- 15回 まとめとプロジェクト（夏休み用）の説明及び前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト課題...40% + 試験...60%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『英語プレゼンテーション演習』などの表現を扱う専門科目を同時か前もって履修しておく
学習効果があがる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミ AI 【昼】

担当者名 木下 善貞 / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学テキストの翻訳を体得する。
Anthony TrollopeのFramley Parsonageを翻訳する。
①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③視点的人物を意識した主語の統一、④読みやすい、理解しやすい、こなれた文体の確立、⑤訳註箇所適切な選定、以上5点がねらいである。

教科書 /Textbooks

Anthony Trollope: Framley Parsonage (Penguin Classics) をテキストとする。
その他適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方。全体の各章1人の担当者が翻訳を授業の2日前までに木下に提出する。
訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックし、プレゼンし、ゼミ生全員でそれを検討する。
- 2回 1章
- 3回 2章
- 4回 3章
- 5回 4章
- 6回 5章
- 7回 6章
- 8回 7章
- 9回 8章
- 10回 9章
- 11回 10章
- 12回 1 - 3章の翻訳仕上げ
- 13回 4 - 6章の翻訳仕上げ
- 14回 7 - 10章の翻訳仕上げ
- 15回 前期全体の翻訳仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% 課題...80% 期末試験...しない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当章の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミ A I 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The first semester of this seminar will focus on the social and cultural nuances behind words and phrases. Our goal will be the realization of problems in translating from Japanese to English followed by the application of methods for solution. The first step of this process is to focus on differences in grammar, culture, communication and writing styles.

教科書 /Textbooks

Mona Baker, In Other Words: A Coursebook on Translation (Routledge, 1992)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Instructor-led discussions on differences in grammar.
- 3 回 Student-led discussion and presentation.
- 4 回 Instructor-led discussions on differences in culture.
- 5 回 Student-led discussion and presentation.
- 6 回 Instructor-led discussions on differences in communication.
- 7 回 Student-led discussion and presentation.
- 8 回 Workshop and discussion on differences in writing styles.
- 9 回 Workshop on individual materials for analysis and presentation.
- 1 0 回 Student presentations.
- 1 1 回 Student presentations.
- 1 2 回 Student presentations.
- 1 3 回 Student presentations
- 1 4 回 Student presentations
- 1 5 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students should choose materials for translations from Japanese to English and make presentations in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials and translations in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミ AI 【昼】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義はアメリカ文化を様々な視点から検討します。独立宣言、政治演説など、多数の歴史的資料を取り上げることを通して、アメリカが辿ってきた道、そして現代における意義を検証していきます。

教科書 /Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要なものは授業中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction
- 2 回 The New World
- 3 回 The Original Colonies
- 4 回 British Influence
- 5 回 Early Expansion to the Mississippi
- 6 回 The Moving Frontier
- 7 回 【The Civil War】 and the 【Civil Rights Movement】
- 8 回 The US System of 【Government】
- 9 回 The Second World War
- 1 0 回 The 1960s Counterculture
- 1 1 回 Economic Values
- 1 2 回 Lifestyle
- 1 3 回 Popular Culture
- 1 4 回 Continuing 【Immigration】
- 1 5 回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：60% 課題：0% 態度：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The course will be taught using a combination of English and Japanese. Lecture notes will be provided to aid student review.
The examination will be in Japanese but will include some English vocabulary.
Students are expected to read the English-language textbook chapter relating to each week's topic to gain historical background information so as to fully appreciate the lecture.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミAI 【昼】

担当者名 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of basic economic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your economic vocabularies in English.

教科書 /Textbooks

アメリカの高校生が読んでいる「経済の教科書」アспект

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回scarcity
- 2 回incentive
- 3 回economic choice
- 4 回trade and money
- 5 回labor
- 6 回tax
- 7 回entrepreneur
- 8 回productivity
- 9 回market price
- 1 0 回demand curve
- 1 1 回supply curve
- 1 2 回financial intermediaries
- 1 3 回the rate of interests
- 1 4 回personal finance
- 1 5 回international trade

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation... 20% Mid-quizzes... 40% Final test... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミAI 【昼】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカのミュージカル映画研究が目的である。資料の分析と発表が主体になる。

教科書 /Textbooks

プリントが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 ミュージカル映画成立以前～1940年代まで
- 3回 1950年代のミュージカル映画【アイクの時代】【保守主義】【アメリカ的生活様式】
- 4回 1950年代のミュージカル映画【ファム・アンファンI】
- 5回 1950年代のミュージカル映画【ファム・アンファンII】
- 6回 1950年代のミュージカル映画【ファム・アンファンIII】
- 7回 1950年代のミュージカル映画【MGMミュージカル】
- 8回 1950年代のミュージカル映画【MGMミュージカルの終焉】
- 9回 1950年代のミュージカル映画【ロカビリーとエルヴィス・プレスリー】
- 10回 1950年代のミュージカル映画【ティーン文化の開花】
- 11回 1950年代のミュージカル映画【レナード・バーンスタインのアメリカ】
- 12回 1950年代のミュージカル映画【ディズニーのアニメーション】
- 13回 予備回
- 14回 予備回
- 15回 結び

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...50% エッセー...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンの時は、万全の準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミA1【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture
メディア英語ゼミA1 offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回-4回 Instructor-led classes
- 5回-14回 Student-led classes (presentation + discussion)
- 15回 Final discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 2000-word essay ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究ゼミAI 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The American Studies Seminar offers an opportunity to conduct research on topics related to American history, culture, literature, and media, including film and television. Range of topics include immigrants, race & ethnicity; role of religion; family, gender & rise of feminism; influence of media and the arts; subcultures & dissident movements.

Background readings and discussion in the 1st semester focus on the relation between America today and early history, beginning with period of discovery and exploration and first settlements. significant events and figures, and will consider origin and place of American ideals (freedom, individualism, equality, pioneering) as Americans emerged as nation.

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – America today
- 2 回 Europe and the Americas – era of discovery and exploration
- 3 回 Settlement
- 4 回 Colonization
- 5 回 Religion and early ideals
- 6 回 Native Americans
- 7 回 African Americans
- 8 回 Growing Diversity
- 9 回 A New People?
- 1 0 回 Presentations and discussion
- 1 1 回 Presentations and discussion
- 1 2 回 Presentations and discussion
- 1 3 回 Presentations and discussion
- 1 4 回 Presentations and discussion
- 1 5 回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 30 % Preparation ... 30 % Presentation & Final essay ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究ゼミAI 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

当ゼミでは「文字で書かれたイギリス文化」を研究対象とする。つまりこのゼミで扱うイギリス研究とは文字で書かれたイギリス文化というぐらゐの意味になる。というわけで、研究対象には当然ミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス文学の作家も入るが、その他マザーグース(イギリス伝承童謡)、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学も入る。また、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることがある。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。すべて英語で行う。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回ぐらゐの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、発表、ディスカッションへの参加

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

理論的思考を養う。

教科書 /Textbooks

プリントを配布するが、2学期では、テキストを購入してもらう。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 理論的背景の説明
- 3回 語彙範疇
- 4回 名詞句の構造
- 5回 形容詞句の構造
- 6回 動詞句の構造
- 7回 前置詞句の構造
- 8回 機能範疇
- 9回 DP仮説
- 10回 節の構造
- 11回 名詞句と節の平行性
- 12回 虚辞①
- 13回 虚辞②
- 14回 数量詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

修学態度... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will provide learners with a practical introduction to task-based language teaching. The rationale and motivation for the approach will be discussed in terms of second language acquisition processes and a foundation for designing tasks to develop second language skills will be provided.

教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Teaching language as content vs. Teaching language as skill
- 2 回 Communicative language teaching vs. Task-based language teaching
- 3 回 Naturalistic language development and the role of instruction
- 4 回 Referential communication tasks: the role of the learners
- 5 回 Task performance and second language acquisition
- 6 回 Intervention points in task-based language teaching
- 7 回 Task selection and task sequencing (referent similarity & referent familiarity)
- 8 回 Providing new language within the context of L2 skill development
- 9 回 Planning time and task repetition
- 1 0 回 Learner personal investment and involvement in SLA
- 1 1 回 Task conditions: information distribution and goal-orientation
- 1 2 回 Classroom procedures: grouping, instructions, monitoring and feedback
- 1 3 回 Project presentations and discussions
- 1 4 回 Project presentations and discussions
- 1 5 回 Project presentations and discussions

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation 50% Final report 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will be responsible for weekly homework, a presentation and a final report

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミ A1【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期では言葉の変化とバリエーションを扱う代表的な研究（英語、日本語、その他）を紹介・解説し、変化や変異を引き起こす社会的要因や言語的要因を学びます。また方法論にも重点を置き、インフォ・マントの選定、データ収集の方法、データの分析方法、結果の提示方法など、実際に言語調査を行うための基礎知識を学びます。

教科書 /Textbooks

○中尾俊夫他. (1997). 『社会言語学概論-日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』くろしお出版.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○田中春美他. (1996). 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 社会言語学とは
- 3回～4回 イギリス英語のバリエーション
- 5回～6回 アメリカ英語のバリエーション
- 7回 オーストラリア英語のバリエーション
- 8回 調査方法
- 9回 会話データ収集
- 10回 会話データ書き起こし
- 12回 データのコーディング・分析
- 13回 アンケート作成
- 14回 ディスカッション
- 15回 レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表50%、ゼミ論文50%。出席・授業への参加状況も考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『社会言語学研究』を既に受講した場合は、本ゼミの理解がより深いものとなる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミAII【昼】

担当者名 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (I) コミュニケーションの理論、(語用論、ディスコース分析)を基に丁寧行動の差異を探る
(II) メディア、広告に現れた日米の差異、また翻訳に関わる問題を取り上げ、文化的、社会的側面から考察する。(III) 各自の卒論のテーマ

教科書 /Textbooks

Kenji Kitao
Intercultural Communication between Japan and The United States 英潮社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 言葉と文化の関わり - 言語相対説を巡って
- 3回 コミュニケーションギャップの事例研究(「欧米人が沈黙するとき」)
- 4回 コミュニケーションギャップの事例研究(日米コミュニケーションギャップ)
- 5回 研究法の確立(バーンランド「日本人の表現構造」)
- 6回 広告における日英の差異
- 7回 翻訳における異文化
- 8回 マスメディアにおける異文化
- 9回 会話の原則とコミュニケーション
- 10回 Brown & Robinsonのポライトネスと文化の差
- 11回 ディスコース分析と日英語話者の差異(メイナード泉子「会話分析」)
- 12回 各テーマによるプレゼンテーション(3名1グループ)
- 13回 各テーマによるプレゼンテーション(3名1グループ)
- 14回 各テーマによるプレゼンテーション(3名1グループ)
- 15回 まとめ(疑問点の解説など)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動60% アサインメント40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当した文献の解説; ①著者の意図通りに理解、②疑問点の提示、③批判的な意見の提示、を心がけること。毎回の授業では必ず、各自疑問点、批判的なコメントを出して討議のい参加すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミAII 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この通訳ゼミでは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切であると言えます。また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していけるゼミにしていきたいと思っています。3年次2学期は、さまざまなトピックの英語を聞き取り、通訳できる実力養成を目標に取り組みます。

教科書 /Textbooks

大杉正明 『大杉正明のCross-Cultural Seminar』 (DHC)
※この他、オリジナル教材を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で折に触れて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ・オリエンテーション
- 2回～5回 通訳トレーニングと併用して、プレゼンテーションやディベートなども実践することにより、背景知識を深めていけるよう努力します。
- 6回～9回 より実践的なトレーニングを行ない、あわせて中間発表会を行ないます。
- 10回～13回 実践的な通訳トレーニングを継続して行ない、最終プレゼンテーションを目指して準備していきます。
- 14回～15回 まとめと2学期の総括としての実技発表会を行ないます。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% 実技...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。通訳は英語力があればできると簡単に考えてはいけません。日本語をどんな英語に訳していけばよいかを常に考えながら生活して行って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミAII 【昼】

担当者名 野島 啓一 / nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分の考え等を表現する領域（話し言葉・書き言葉を含む）に関する知識・技術の獲得に関することを目標とする。通訳訓練に関する一般的な技術にふれた後、関連する科目との融合・強化について説明して、実習等を通して自分の経験則をつくることも目的とする。
メディア機器との連携を通して、字幕翻訳や音声録音の方法など実際に英語が利用されている場面を想定して総合的な学習を念頭におく。原則として、3年次のゼミは、毎回の授業が教材を用いた解説・練習のセクションと実演・デモのセクションの二部構成でなされる。

教科書 /Textbooks

『ウイスバリング同時通訳』 柴田バネッサ著 南雲堂
『通訳・翻訳』 月間誌 イカロス出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Lesson 15+テープ録音（英語）を聞いてnumbering方式に要約する練習
- 2回 Lesson 16+ビジネス文書（Eメール文を含む）の説明と練習
- 3回 Lesson 17+指定された課題文に対する質問事項の設定の仕方と練習
- 4回 Lesson 18+presentationの方法の解説と練習(1)
- 5回 Lesson 19+presentationの方法の解説と練習(2)
- 6回 Presentationの実習とその反省課題の検討
- 7回 Lesson 20+「テープ起し」の説明と練習
- 8回 音声教材を用いた「区切り聞き」と「区切り訳」の説明と練習
- 9回 工夫した語彙の増やし方（vocabulary building）の説明と練習
- 10回 readingの各種練習の説明と実習（速読、黙読、音読の比較）
- 11回 映像翻訳の説明と練習(1)
- 12回 映像翻訳の説明と練習(2)
- 13回 listeningの各種練習と実習（voice over, shadowing, whisperingの比較）
- 14回 TOEIC, TOEFL, 英検 1級、通訳ガイド試験の対策の立て方の構築について
- 15回 春休みのプロジェクト課題の説明および後期内容の要約

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト課題...40% + 試験...60%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『英語プレゼンテーション演習』などの表現をあらかじめ専門科目を同時か前もって履修しておくこと学習効果があがる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミ AII 【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Anthony TrollopeのFramley Parsonageを翻訳する。
①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③視点的人物を意識した主語の統一、④読みやすい、理解しやすい、こなれた文体の確立、⑤訳註箇所の適切な選定、以上5点がねらいである。

教科書 /Textbooks

Anthony Trollope: Framley Parsonage (Penguin Classics) をテキストとする。
その他適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方。全体の各章1人の担当者が翻訳を授業の2日前までに木下に提出する。
訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックし、プレゼンし、ゼミ生全員でそれを検討する。
- 2回 1 1章
- 3回 1 2章
- 4回 1 3章
- 5回 1 4章
- 6回 1 5章
- 7回 1 6章
- 8回 1 7章
- 9回 1 8章
- 10回 1 9章
- 11回 2 0章
- 12回 1 1 - 1 3章の翻訳仕上げ
- 13回 1 4 - 1 6章の翻訳仕上げ
- 14回 1 7 - 2 0章の翻訳仕上げ
- 15回 前期全体の翻訳仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 20% 課題... 80% 期末試験... しない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当章の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In the second semester of this seminar we will translate literature, current periodicals and media that demonstrate the fundamental differences in grammar, culture, communication and writing styles. Creativity is an important element of this process as direct translations often result in the loss of not only content but also cultural implications. Thus, another goal will be to nurture cultural and communicative competence through fieldwork exercises with exchange students and members of the international community

教科書 /Textbooks

Mona Baker, In Other Words: A Coursebook on Translation (Routledge, 1992)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and return of papers.
- 2回 Paper-related discussions.
- 3回 Paper-related discussions.
- 4回 Paper-related discussions.
- 5回 Instructor-led discussion and workshop.
- 6回 Instructor-led discussion and workshop.
- 7回 Instructor-led discussion and workshop.
- 8回 Student presentations and discussion.
- 9回 Student presentations and discussion.
- 10回 Student presentations and discussion.
- 11回 Student presentations and discussion.
- 12回 Student presentations and discussion.
- 13回 Student presentations and discussion.
- 14回 Student presentations and discussion.
- 15回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students should choose materials for translations from Japanese to English and make presentations in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials and translations in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this seminar will be to give students practical experience in translating an entire literary text from Japanese to English and give students insights into the process of translation and the challenges faced by professional translators.

教科書 /Textbooks

To be determined after consultation with participants.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Seminar introduction
- 2回～3回 Discussion of professional translation standards
- 4～14回 【Translation】 of selected literary work
- 15回 Semester wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：40% 小テスト：0% 期末試験：0% 課題：40% 態度：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to translate extended passages from the chosen text between 3 and 6 times a semester depending on the number of participants. Students will be expected to bring copies of their translation for each participant whenever they present. Approximately 6 pages of text will be translated in each class. After each class, students will be expected to make corrections to their translated section and send them to the instructor by e-mail for compilation into the master document and further editing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of basic economic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your economic vocabularies in English.

教科書 /Textbooks

Essentials of Economics, N. Gregory Mankiw (arranged by instructor)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ten principles
- 2 回thinking like an Economist
- 3 回interdependence and the Gains from Trade
- 4 回the market forces of Supply and Demand
- 5 回consumers, producers, and the efficiency of markets
- 6 回measuring national income
- 7 回measuring the cost of living
- 8 回production and growth
- 9 回saving, investment, and the financial system
- 1 0 回the basic tool of finance
- 1 1 回unemployment
- 1 2 回the money system
- 1 3 回money growth and inflation
- 1 4 回fiscal policy and financial policy
- 1 5 回final test

成績評価の方法 /Assessment Method

participation ...20% presentation... 20% final test... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミAll 【昼】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカのミュージカル映画研究が目的である。資料の分析と発表が主体になる。

教科書 /Textbooks

プリントが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 1960年代のミュージカル映画【ケネディの時代】【ヴェトナム戦争の時代】
- 3回 1960年代のミュージカル映画【『ウエスト・サイド・ストーリー』の周辺】
- 4回 1960年代のミュージカル映画【『マイ・フェア・レディ』の周辺】
- 5回 1960年代のミュージカル映画【『サウンド・オブ・ミュージック』の周辺】
- 6回 1960年代のミュージカル映画【プリティッシュ・インヴェイジョン】
- 7回 1960年代のミュージカル映画【ザ・ビートルズI】
- 8回 1960年代のミュージカル映画【ザ・ビートルズII】
- 9回 1960年代のミュージカル映画【パーミッシヴ・ソサイエティ】
- 10回 1960年代のミュージカル映画【人種の垣塙から人種のサラダへ】
- 11回 1960年代のミュージカル映画【ロック文化】
- 12回 1960年代のミュージカル映画【ロック・ミュージカル】
- 13回 予備回
- 14回 予備回
- 15回 結び

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン... 50% エッセー... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンの時は、万全の準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミAII 【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture
メディア英語ゼミAII follows on from メディア英語ゼミAI. The course offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Developing Research Skills
- 2回-4回 Instructor-led classes
- 5回-14回 Student-led classes (presentation + discussion)
- 15回 Final discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 2000-word essay ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究ゼミAll 【昼】

担当者名 /Instructor
デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The American Studies Seminar offers students opportunity to conduct research in wide range of subjects related to American history and culture: the role of immigration; ethnicity; race; religion; education; political system; family, gender & rise of feminism; impact of technology; the arts, literature, media (movies, television, music); leisure and sports; impact of violence; subcultures.
2nd Semester: Readings and discussion focus on Revolution, westward movement, conflict between North and South, Civil War, technology and news media, and growing role of the United States in global context.

教科書 /Textbooks

For background discussion printed materials will be provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Revolution
- 3回 A New Nation
- 4回 The Age of Jackson
- 5回 North and South
- 6回 The Civil War
- 7回 Industrialization
- 8回 Immigration
- 9回 Expansionism
- 10回 Presentations and discussion
- 11回 Presentations and discussion
- 12回 Presentations and discussion
- 13回 Presentations and discussion
- 14回 Presentations and discussion
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 30% Preparation ... 30% Presentation & Essay ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究ゼミAII 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

当ゼミでは「文字で書かれたイギリス文化」を研究対象とする。つまりこのゼミで扱うイギリス研究とは文字で書かれたイギリス文化というぐらゐの意味になる。というわけで、研究対象には当然ミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス文学の作家も入るが、その他マザーグース(イギリス伝承童謡)、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学も入る。また、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることがある。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。すべて英語で行う。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回ぐらゐの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、発表、ディスカッションへの参加

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一学期に引き続き理論的思考を養う。

教科書 /Textbooks

Radford(2004) Cambridge UP.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 束縛
- 3回 wh疑問文
- 4回 multiple wh疑問文①
- 5回 multiple wh疑問文②
- 6回 multiple wh疑問文③
- 7回 multiple wh疑問文④
- 8回 multiple wh疑問文⑤
- 9回 quantifier floating①
- 10回 quantifier floating②
- 11回 multiple quantifiers①
- 12回 multiple quantifiers②
- 13回 受講者の卒論指導①
- 14回 受講者の卒論指導②
- 15回 受講者の卒論指導③

成績評価の方法 /Assessment Method

修学態度... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will provide learners with a practical introduction to global issues in educational planning as it pertains to second language course design. Learners will be able to identifying learning needs, writing course goals and objectives, plan goal-directed lesson and assess learners' achievement.

教科書 /Textbooks

Materials will be supplied by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Overview of the language curriculum
- 2回 Needs analysis
- 3回 Goals and Objectives (part 1)
- 4回 Goals and Objectives (part 2)
- 5回 Testing (part 1)
- 6回 Testing (part 2)
- 7回 Materials Planning (part 1)
- 8回 Materials Planning (part 2)
- 9回 Effective Teaching Procedures
- 10回 Review
- 1 1回 Project Presentations and Discussion
- 1 2回 Project Presentations and Discussion
- 1 3回 Project Presentations and Discussion
- 1 4回 Project Presentations and Discussion
- 1 5回 Project Presentations and Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation 50% Final report 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will be responsible for weekly homework, a presentation and a final report

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミ AII 【昼】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期で言葉の変化とバリエーションを扱う代表的な研究や方法論を学んだ上で、後期は学生が各自テーマを決め、自分達で言語調査を行ないます。授業時に言語データの収集方法や分析方法、調査結果を発表し、その内容について全員で議論します。

教科書 /Textbooks

○中尾俊夫他. (1997). 『社会言語学概論-日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』くろしお出版.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○田中春美他. (1996). 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 3年後期の言語調査プロジェクト
- 3回 研究発表の仕方
- 4回 文献検索
- 5回 プロジェクトのテーマ発表
- 6回～7回 学生による研究発表(第1回)
- 8回 日本語の論文を読む
- 9回～10回 学生による研究発表(第2回)
- 11回 レポートの書き方
- 12回～13回 学生による研究発表(第3回)
- 14回 ディスカッション
- 15回 まとめ、ゼミレポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表50%、ゼミ論文50%。出席・授業への参加状況も考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『社会言語学研究』を既に受講した場合は、本ゼミの理解がより深いものとなる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (I)事例研究、文化論などの論文を参考に論文の書き方、論の進め方を習得する。
(II)卒業論文のテーマの決定、論文の資料収集の仕方を習得する

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 翻訳と異文化に関する文献の解読
- 3回 非言語と異文化に関する文献の解読
- 4回 広告と異文化に関する文献の解読
- 5回 価値観と異文化に関する文献の解読
- 6回 各自の課題研究に関する文献の発表
- 7回 各自の課題研究に関する文献の発表
- 8回 各自の課題研究に関する文献の発表
- 9回 各自の課題研究に関する文献の発表
- 10回 各自の課題研究に関する文献の発表
- 11回 『異文化理解の語用論』第2章 ラポールマネジメント
- 12回 『異文化理解の語用論』第3章 非難にどう対処するか
- 13回 『異文化理解の語用論』第5章 否定的見解をどうつたえるか
- 14回 第2章～第5章までのディスカッションの項を討議
- 15回 課題研究への展望を探る

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動60% アサインメント40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当した文献の解読；①著者の意図通りに理解、②疑問点の提示、③批判的な意見の提示、を心がけること。毎回の授業では必ず、各自疑問点、批判的なコメントを出して討議に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この通訳ゼミでは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切であると言えます。また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をとともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していただけるゼミにしていきたいと思っています。4年次1学期は、さまざまなトピックの英語を聞き取り、通訳できる実力養成を目標に取り組みます。卒業課題を視野に入れて、総仕上げをしていきましょう。

教科書 /Textbooks

中澤幸夫『テーマ別英単語ACADEMIC中級：人文・社会科学編』（Z会）
※この他、オリジナル教材を使用します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で折に触れて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 セミ・オリエンテーション
- 2回～5回 通訳トレーニングと併用して、プレゼンテーションやディベートなども実践することにより、背景知識を深めていけるよう努力します。
- 6回～9回 より高度なトレーニングを行ない、あわせて中間発表会を行ないます。
- 10回～13回 高度な通訳トレーニングを継続して行ない、最終プレゼンテーションを目指して準備していきます。
- 14回～15回 まとめと1学期の総括としての実技発表会を行ないます。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% 実技...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。通訳は英語力があればできると簡単に考えてはいけません。日本語をどんな英語に訳していけばよいかを常に考えながら生活していきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミBI【昼】

担当者名 野島 啓一 / nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

通訳ゼミの最終目標は英語または日本語で自分の意見を表現する能力の育成である。三年次では「読む」・「聞く」の領域を意識したプログラムを作成しているが、四年次では「話す」「書く」の領域を体系的に強化する事を念頭におく。更に、卒論指導も兼ねて着想の仕方、議論の組み立て方、英語論文の作成についても学習課題にする。

教科書 /Textbooks

『英語通訳への道』 日本通訳協会著 大修館書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針と卒論の書き方の解説
- 2回 第一章(同時通訳・逐次通訳+英語表現の方法(1)英語ニュースの5W1H方式での作文方法
- 3回 第一章(放送同時通訳・時差通訳+英語表現の方法(2)editorialのキーワード中心の作文方法
- 4回 第一章(司法通訳・ガイド通訳)+英語表現の方法(3)ニュース記事を一文にまとめる作文方法
- 5回 第一章(ボランテニア通訳)+英語表現の方法(4)パラグラフライティング方式による作文方法
- 6回 第二章(語彙構築+英語表現の方法(5) 課題議題のpro側con側からの議論構成
- 7回 第二章(quick response+英語表現の方法(6) 英文表現の基準とその実践
- 8回 第二章(transcription)+英語表現の方法(7) 指定語彙範囲でのparaphrasing
- 9回 第二章(slash reading)+英語表現の方法(8) 取材トピックに対する質問用英文の作成
- 10回 第二章(技術訓練の実際(1))+口頭表現の方法(1) 「訳し下り」による逐文訳の録音
- 11回 第二章(技術訓練の実際(2))+口頭表現の方法(2) 「訳し下り」による同時役の録音
- 12回 第三章(時差通訳)+口頭表現の方法(3) 単文通訳から複文通訳の説明と実践
- 13回 口頭表現の方法(4) 講演会聴取+テープ起し+英語による意見の口頭発表
- 14回 第三章(コミュニティ通訳)+口頭表現の方法(5)指定課題の意見発表の実習と評価基準による検証
- 15回 review+自己表現と使用言語との関りについての考察と議論、夏休みのプロジェクトの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時のperformance...50% 課題プロジェクト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this seminar will be to give students practical experience in translating an entire literary text from Japanese to English and give students insights into the process of translation and the challenges faced by professional translators.

教科書 /Textbooks

To be determined after consultation with participants.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Seminar introduction
- 2回～3回 Discussion of professional translation standards
- 4～14回 【Translation】 of selected literary work
- 15回 Semester wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：40% 小テスト：0% 期末試験：0% 課題：40% 態度：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to translate extended passages from the chosen text between 3 and 6 times a semester depending on the number of participants. Students will be expected to bring copies of their translation for each participant whenever they present. Approximately 6 pages of text will be translated in each class. After each class, students will be expected to make corrections to their translated section and send them to the instructor by e-mail for compilation into the master document and further editing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学テキストの翻訳を体得する。
Anthony TrollopeのDr Thorneを翻訳する。
①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③視点の人物を意識した主語の統一、④読みやすい、理解しやすい、こなれた文体の確立、⑤訳註箇所の適切な選定、以上5点がねらいである。

教科書 /Textbooks

Anthony Trollope: Dr Thorne (Penguin Classics) をテキストとする。
その他適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方。全体の各章1人の担当者が翻訳を授業の2日前までに木下に提出する。 訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックし、プレゼンし、ゼミ生全員でそれを検討する。
- 2回 2 1章
3回 2 2章
4回 2 3章
5回 2 4章
6回 2 5章
7回 2 6章
8回 2 7章
9回 2 8章
10回 2 9章
11回 3 0章
12回 2 1 - 2 3章の翻訳仕上げ
13回 2 4 - 2 6章の翻訳仕上げ
14回 2 7 - 3 0章の翻訳仕上げ
15回 前期全体の翻訳仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 20% 課題... 80% 期末試験... しない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当章の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBI 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

. Students will continue research and analysis of the social and cultural implications of words and phrases in making translations. Our goal will be an even deeper realization of problems in translating from Japanese to English followed by the application of methods for solution. Students will continue to focus on differences in grammar, culture, communication and writing styles while pursuing their research themes.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Instructor-led discussions.
- 3 回 Instructor-led discussions.
- 4 回 Instructor-led discussions.
- 5 回 Student-led discussion and presentation.
- 6 回 Workshop on individual materials for analysis and presentation.
- 7 回 Student-led discussion and presentation.
- 8 回 Student-led discussion and presentation.
- 9 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 0 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 1 回 Student-led discussion and presentation..
- 1 2 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 3 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 4 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 5 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students should choose materials for translations from Japanese to English and make presentations in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials and translations in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究ゼミBI 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

当ゼミでは「文字で書かれたイギリス文化」を研究対象とする。つまりこのゼミで扱うイギリス研究とは文字で書かれたイギリス文化というぐらゐの意味になる。というわけで、研究対象には当然ミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス文学の作家も入るが、その他マザーグース(イギリス伝承童謡)、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学も入る。また、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることがある。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。すべて英語で行う。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回ぐらゐの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、発表、ディスカッションへの参加

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of the course are: (1) to help you develop an understanding of basic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your business vocabularies in English. Also, you can learn the advanced tools in spread sheet(PC) to solve business problems.

教科書 /Textbooks

Learning MBA Basics in English
Masatsugu Fuji, Richard Sheehan,
NHK publishing
(英語で学ぶMBAベーシックス、NHK出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

I Marketing (session 1-session6)
session1: What is Marketing?
Session2: Marketing Analysis- 3C's
session3: Segmentation, Targeting, Positioning
II Accounting and Finance(session 7-session13)
session1: The Income Statement
session2: The Balance Sheet
session3: The Cash Flow Statement
session4: The Time Value of Money

session14: presentation on financial analysis of companies1
session15: presentation on financial analysis of companies2

成績評価の方法 /Assessment Method

participation... 20% class quizzes ...30% presentation...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミBI 【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture

メディア英語ゼミBI offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回-4回 Instructor-led classes
- 5回-14回 Student-led classes (presentation + discussion)
- 15回 Final discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 2000-word essay ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミBI 【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカのミュージカル映画研究が目的である。資料の分析と発表が主体になる。

教科書 /Textbooks

プリントが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 ミュージカル映画成立以前～1940年代まで
- 3回 1950年代のミュージカル映画【アイクの時代】【保守主義】【アメリカ的生活様式】
- 4回 1950年代のミュージカル映画【ファム・アンファンI】
- 5回 1950年代のミュージカル映画【ファム・アンファンII】
- 6回 1950年代のミュージカル映画【ファム・アンファンIII】
- 7回 1950年代のミュージカル映画【MGMミュージカル】
- 8回 1950年代のミュージカル映画【MGMミュージカルの終焉】
- 9回 1950年代のミュージカル映画【ロカビリーとエルヴィス・プレスリー】
- 10回 1950年代のミュージカル映画【ティーン文化の開花】
- 11回 1950年代のミュージカル映画【レナード・バーンスタインのアメリカ】
- 12回 1950年代のミュージカル映画【ディズニーのアニメーション】
- 13回 予備回
- 14回 予備回
- 15回 結び

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...50% エッセー...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンの時は、万全の準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor
デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The American Studies seminar will focus on 20th American culture and politics, in particular factors contributing to rise of the United States as a global power. Background discussion covers First World War, Jazz Age, Great Depression, World War II, the Cold War, postwar affluence, Civil Rights movement, and the 1960s.

教科書 /Textbooks

Texts for background discussion provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Key themes: America on the global stage
- 2回 First World War; Disillusionment; the Jazz Age
- 3回 The Depression and Coming of War (selection of research topics)
- 4回 Second World War and its impact (consultations)
- 5回 The Cold War; arms race; the new domesticity (consultations)
- 6回 Postwar affluence--television, Disneyland, and the rise of rock'n'roll
- 7回 The 1950s (consultations)
- 8回 Emerging Dissent
- 9回 Vietnam and the 1960s
- 10回 Student presentations and discussion
- 11回 Student presentations and discussion
- 12回 Student presentations and discussion
- 13回 Student presentations and discussion
- 14回 Student presentations and discussion
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 30% Preparation ... 30% Presentation & Essay ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学ゼミBI【昼】

担当者名 北峯 裕士 / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

個別に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者の研究経過を発表してもらう。そのため、具体的記載不能。

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究経過の発表①
- 3回 研究経過の発表②
- 4回 研究経過の発表③
- 5回 研究経過の発表④
- 6回 研究経過の発表⑤
- 7回 研究経過の発表⑥
- 8回 研究経過の発表⑦
- 9回 研究経過の発表⑧
- 10回 研究経過の発表⑨
- 11回 研究経過の発表⑩
- 12回 研究経過の発表⑪
- 13回 研究経過の発表⑫
- 14回 研究経過の発表⑬
- 15回 研究経過の発表⑭

成績評価の方法 /Assessment Method

研究経過... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語教育ゼミBI 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will provide learners with an advanced treatment of key issues in task-based language teaching as they apply to effective teaching practice.

教科書 /Textbooks

Van den Branden, Bygate and Norris. 2009. Task-Based Language Teaching: A Reader

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Approaches to second language syllabus design
- 2回 Giving the learner space to acquire the language
- 3回 Project presentations and discussions
- 4回 Project presentations and discussions
- 5回 Project presentations and discussions
- 6回 The interactive demands of tasks
- 7回 Information distribution and goal orientation
- 8回 Research on pre-task planning time
- 9回 Research on task repetition
- 10回 Task repetition in a Japanese context
- 11回 Project presentations and discussions
- 12回 Project presentations and discussions
- 13回 Project presentations and discussions
- 14回 Learner contributions to task design
- 15回 Research on personal investment in task design

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations 50% Final report 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will be responsible for weekly homework, two presentation and a final report

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業課題論文の作成の指導

教科書 /Textbooks

プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 各自の論文のレジユメの発表
- 3回 各自の論文のレジユメの発表
- 4回 各自の論文のレジユメの発表
- 5回 論の展開の仕方の指導
- 6回 論の展開の仕方の指導
- 7回 論の展開の仕方の指導
- 8回 統計的処理の指導
- 9回 文献の引用、注の処理の仕方の指導
- 10回 論の推敲
- 11回 論の推敲
- 12回 論の推敲
- 13回 完成した課題研究の発表、討議
- 14回 完成した課題研究の発表、討議
- 15回 完成した課題研究の発表、討議

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動 80% アサインメント 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究論文の作成のために自分の興味を持つ分野を明確に持つこと。実践的な作業、(アンケート調査、ビデオ、authentic materialによる調査)が必要になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミBII 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この通訳ゼミでは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切であると言えます。また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していただけるゼミにしていきたいと思っています。4年次2学期は、英語スピーチを教材に英語の論理展開に習熟するとともに、日本語の英文への通訳にも重点的に取り組みます。卒業課題に向けてラストスパートです。

教科書 /Textbooks

『オバマ大統領演説集』（南雲堂）
※この他、オリジナル教材を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で折に触れて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～5回 通訳トレーニングと併用して、ディスカッションにより、背景知識を深めていけるよう努力します。
- 6回～9回 より実践的なトレーニングを行ない、あわせて中間発表会を行ないます。
- 10回～13回 実践的な通訳トレーニングを継続して行ない、卒業課題を目指して準備していきます。
- 14回～15回 2年間のゼミの集大成として、卒業発表会を行ないます。この時の録音（録画）は、卒業課題として提出してもらおうものとなります。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% 実技...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。通訳は英語力があればできると簡単に考えてはいけません。日本語をどんな英語に訳していけばよいかを常に考えながら生活していきなさい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミBII【昼】

担当者名 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

通訳ゼミの最終目標は英語または日本語で自分の意見を表現する能力の育成である。三年次では「読む」・「聞く」の領域を意識したプログラムを作成しているが、四年次では「話す」「書く」の領域を体系的に強化する事を念頭におく。更に、卒論指導も兼ねて着想の仕方、議論の組み立て方、英語論文の作成についても学習課題にする。

教科書 /Textbooks

『英語で意見を論理的に述べる技術とトレーニング』 植田一三・妻鳥千鶴子著 ベレ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針と卒論の書き方の解説
- 2回 第一章(日本時ライティングの問題点(1))+「結起論結」方式の議論のまとめ方と実践
- 3回 第二章(日本人ライティングの問題点(2))+論文トピックの見つけ方
- 4回 第三章(表現カトレーニング)+データ収集の仕方と整理方法
- 5回 第三章(文法カトレーニング)+議論構築の方法と実際例
- 6回 第四章ライティングカアップの実際(1)+参考文献と著作権の説明
- 7回 第四章ライティングカアップの実際(2)+図表、表作成の説明と実際例
- 8回 第五章(日英発想の違い)+アンケート調査の説明と数量データの処理方法
- 9回 第六章(英文表現の差異)+論文評価のポイントと実際例
- 10回 第七章(構成カトレーニング)
- 11回 第八章(論理構成養成)
- 12回 第九章(広告表現)
- 13回 第十章(比喩表現の養成)
- 14回 卒論中間発表と議論 指定課題の意見発表の実習と評価基準による検証
- 15回 review+口頭試問の説明と実践指導、

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時のperformance...50% 課題プロジェクト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBII 【昼】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this seminar will be to give students practical experience in translating an entire literary text from Japanese to English and give students insights into the process of translation and the challenges faced by professional translators.

教科書 /Textbooks

To be determined after consultation with participants.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Seminar introduction
- 2回～3回 Discussion of professional translation standards
- 4回～14回 【Translation】 of selected literary work
- 15回 Semester wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：40% 小テスト：0% 期末試験：0% 課題：40% 態度：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to translate extended passages from the chosen text between 3 and 6 times a semester depending on the number of participants. Students will be expected to bring copies of their translation for each participant whenever they present. Approximately 6 pages of text will be translated in each class. After each class, students will be expected to make corrections to their translated section and send them to the instructor by e-mail for compilation into the master document and further editing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBII 【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学テキストの翻訳を体得する。
Anthony TrollopeのDr Thorneを翻訳する。
①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③視点的人物を意識した主語の統一、④読みやすい、理解しやすい、こなれた文体の確立、⑤訳註箇所適切な選定、以上5点がねらいである。

教科書 /Textbooks

Anthony Trollope: Dr Thorne (Penguin Classics) をテキストとする。
その他適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方。全体の各章1人の担当者が授業の2日前までに木下に提出する。
訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックし、プレゼンし、ゼミ生全員でそれを検討する。
- 2回 3 1章
3回 3 2章
4回 3 3章
5回 3 4章
6回 3 5章
7回 3 6章
8回 3 7章
9回 3 8章
10回 3 9章
11回 4 0章
12回 3 1 - 3 3章の翻訳仕上げ
13回 3 4 - 3 6章の翻訳仕上げ
14回 3 7 - 4 0章の翻訳仕上げ
15回 前期全体の翻訳仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 20% 課題... 80% 期末試験... しない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当章の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBII 【昼】

担当者名 /Instructor
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In the second semester of this seminar we will continue research and analysis of the social and cultural implications of words and phrases in making translations. Students will continue to focus on differences in grammar, culture, communication and writing styles while pursuing their research themes. A second goal for the second term will be to nurture cultural and communicative competence through fieldwork exercises with exchange students and members of the international community

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and return of papers.
- 2 回 Instructor-led discussion and workshop
- 3 回 Instructor-led discussion and workshop
- 4 回 Instructor-led discussion and workshop
- 5 回 Instructor-led discussion and workshop.
- 6 回 Student presentations and discussion.
- 7 回 Student presentations and discussion.
- 8 回 Student presentations and discussion.
- 9 回 Student presentations and discussion.
- 1 0 回 Student presentations and discussion.
- 1 1 回 Student presentations and discussion.
- 1 2 回 Student presentations and discussion.
- 1 3 回 Student presentations and discussion
- 1 4 回 Student presentations and discussion
- 1 5 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students should choose materials for translations from Japanese to English and make presentations in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials and translations in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究ゼミBII 【昼】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
後期は卒業論文指導を中心とする。ゼミの時間では、各自の卒論研究の報告をする。これとは別に、2週間に一度の個人面談を行う。一人1時間。毎回、進んだところまでの卒業論文原稿を持ってくること。それを読んで、問題点を指摘したり、さらに読むべき文献を指導したりする。

成績評価の方法 /Assessment Method
レポート、発表、ディスカッションへの参加

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミBII【昼】

担当者名 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of the course are: (1) to help you develop an understanding of basic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your business vocabularies in English. Also, you can learn the advanced tools in spread sheet(PC) to solve business problems.

教科書 /Textbooks

Learning MBA Basics in English
Masatsugu Fuji, Richard Sheehan,
NHK publishing
(英語で学ぶMBAベーシックス、NHK出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

I Human resources and organization
session1: corporate culture?
Session2: performance-based system
session3: discrimination in the workplace
II Strategy
Session4: Industry Analysis
Session5: Competitive Advantage
Session6: Global Strategies
Session7: Synergy / Diversification
Session8: presentation on strategy analysis of companies1
Session9: presentation on strategy analysis of companies2

Session 10: case-study Hong Kong Disneyland 1
Session 11: case-study Hong Kong Disneyland 2
Session 12: case-study Starbucks coffee
Session 13: how to write thesis in English 1
Session 14: how to write thesis in English 2
Session 15: how to write thesis in English 3

成績評価の方法 /Assessment Method

participation... 20% class quizzes ...30% presentation...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミBII 【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture

メディア英語ゼミB II follows on from メディア英語ゼミB I. The course offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Developing Research Skills
- 2回-4回 Instructor-led classes
- 5回-14回 Student-led classes (presentation + discussion)
- 15回 Final discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 2000-word essay ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミII 【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカのミュージカル映画研究が目的である。資料の分析と発表が主体になる。

教科書 /Textbooks

プリントが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 1960年代のミュージカル映画【ケネディの時代】【ベトナム戦争の時代】
- 3回 1960年代のミュージカル映画【『ウエスト・サイド・ストーリー』の周辺】
- 4回 1960年代のミュージカル映画【『マイ・フェア・レディ』の周辺】
- 5回 1960年代のミュージカル映画【『サウンド・オブ・ミュージック』の周辺】
- 6回 1960年代のミュージカル映画【プリティッシュ・インヴェイジョン】
- 7回 1960年代のミュージカル映画【ザ・ビートルズI】
- 8回 1960年代のミュージカル映画【ザ・ビートルズII】
- 9回 1960年代のミュージカル映画【パーミッシヴ・ソサイエティ】
- 10回 1960年代のミュージカル映画【人種の垣根から人種のサラダへ】
- 11回 1960年代のミュージカル映画【ロック文化】
- 12回 1960年代のミュージカル映画【ロック・ミュージカル】
- 13回 予備回
- 14回 予備回
- 15回 結び

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...50% エッセー...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンの時は、万全の準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The seminar will focus on the latter 20th and early 21st century, in particular, the end of the Cold War, the United States and the new globalism; the impact of new media; the USA and the war on terror; economic crisis and the Obama administration.

教科書 /Textbooks

For background discussion, printed materials provided by the instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Key themes: A 3rd Industrial Revolution?- America on the Global Stage
- 2回 Digital Culture
- 3回 War on Terror
- 4回 Neo-Conservatism
- 5回 Boom and Bust
- 6回 New Competitors
- 7回 Race and Class in the Age of Obama
- 8回 Values and Ideals in the 21st Century
- 9回 Student Presentations & Discussion
- 10回 Student Presentations & Discussion
- 11回 Student Presentations & Discussion
- 12回 Student Presentations & Discussion
- 13回 Student Presentations & Discussion
- 14回 Student Presentations & Discussion
- 15回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 25% Preparation ... 25% Presentation & Report ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学ゼミBII【昼】

担当者名 北峯 裕士 / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

個別に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者の研究経過を発表してもらう。そのため、具体的記載不能。

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究経過の発表①
- 3回 研究経過の発表②
- 4回 研究経過の発表③
- 5回 研究経過の発表④
- 6回 研究経過の発表⑤
- 7回 研究経過の発表⑥
- 8回 研究経過の発表⑦
- 9回 研究経過の発表⑧
- 10回 研究経過の発表⑨
- 11回 研究経過の発表⑩
- 12回 研究経過の発表⑪
- 13回 研究経過の発表⑫
- 14回 研究経過の発表⑬
- 15回 研究経過の発表⑭

成績評価の方法 /Assessment Method

研究経過... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will provide learners with an advanced treatment of key issues in task-based language teaching as they apply to effective teaching practice.

教科書 /Textbooks

Van den Branden, Bygate and Norris. 2009. Task-Based Language Teaching: A Reader

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Task-based teaching and assessment
- 2回 Issues in task-centered language assessment
- 3回 Project presentations and discussions
- 4回 Project presentations and discussions
- 5回 Project presentations and discussions
- 6回 Language learning needs in a task-based approach
- 7回 Task-based needs analysis in a Japanese context
- 8回 Project presentations and discussions
- 9回 Project presentations and discussions
- 10回 Project presentations and discussions
- 11回 A framework for the implementation of task-based instruction
- 12回 Analyzing second language performance on tasks
- 13回 Project presentations and discussions
- 14回 Project presentations and discussions
- 15回 Project presentations and discussions

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations 75% Final report 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will be responsible for weekly homework, three presentation and a final report

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、「文化」という言葉を、ごく日常的に使う。「日本文化」「アメリカ文化」「中国文化」から、「若者文化」「大学文化」「会社文化」まで・・・何でも「文化」であり、どこにも「文化」がある、といったありさまである。そして私達はしばしば、「文化」と名づけられたものは、人間にとって良きものである、というイメージをいだきがちである。しかし、人間は「文化」という御旗をかかげて、互いに諍い、排除しあい、また殺しあうことすらある。「文化」とは、何か？ 本講義では、「文化」の否定的側面にも向き合いながら、人間にとっての「文化」について検討したい。 キーワード 【差異】【ことば】【他者】【アイデンティティ】【国民国家】

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。参考文献は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 「文化」とは何か？
- 1回 「文化」って、何でしょう？
 - 2回 「文化」という言葉に何を託そうとしてきたか：「文化」という概念の変容
 - 3回 「文化」を語る時代・近代
 - 4回 「文化」の発見：博物館という装置から
 - 5回 「文化」が違う、とはどういうことか：文化相対主義から
 - 6回 語られるものとしての「文化」
 - 7回 「文化」の学はいかに可能か？
- 第二部 語られる<沖縄>・語る<沖縄>：文化の政治性を問うために
- 8回 <沖縄>という場所と近代
 - 9回 <沖縄>の「文化」への視線：「日琉同祖」という物語
 - 10回 「詩の国・夢の国」という物語
 - 11回 「国語」と沖縄の桎梏
 - 12回 沖縄方言論争と<沖縄>の「文化」の位置
 - 13回 抗争する「文化」というアリーナ：「文化と政治」へ
 - 14回 まとめ
 - 15回 質問日

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポート... 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。
 授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウエイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習)レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・ 実習)によって教室・ 多目的ホール・ 体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 第 1 回 自己管理I総論【保健師】：自己管理に必要な青年期の心身両面からの問題を総論する。
- 第 2 回 防犯の心得【警察官】：被害にあわないための具体的な自己防衛法を学び生活に役立てる。
- 第 3 回 自己管理II体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す。
- 第 4 回 若者にもっとも大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的な栄養の知識を身につける。
- 第 5 回 歯と口の健康を保つセルフケア【歯科医師】：歯及び口腔のセルフケアを学び豊かな人生を送るための基礎を養う。
- 第 6 回 薬と健康【薬剤師】：薬の効果、サプリメントなど健康のための薬の知識を学ぶ。
- 第 7 回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ。
- 第 8 回 自己管理III心の健康【保健師】：心と身体の関係から起こる疾病の予防や対策を学ぶ。
- 第 9 回 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ。
- 第 10 回 救急法I【消防士】：救急法I、IIは講義と救急救命の実技を組み合わせて行う。
- 第 11 回 救急法II火災や自然発生災害時での身の守り方救急法などを学習する
- 第 12 回 障害とノーマラジエーション【作業療法士】：障害者の自立生活を支援するための資源、サービス、情報など身近な事柄として紹介する。
- 第 13 回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害・ハラスメント防止などの知識と予防対策を学ぶ。
- 第 14 回 自己管理まとめ【保健師】：ポイント・記述などで総合的に理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

①出席：60% (出席と毎回のミニレポート) ②まとめ(ポイント・記述など)：40%、①②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布したレジュメをよく読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考になさってください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 梶 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【規範の特性】【法の機能】【法の実在形式】【法源】【罪法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑法】【法の適用】【憲法と刑法の関係】【法の解釈】
- 6回 民事判例を読む①【判例】【先例】【認定事実】
- 7回 民事判例を読む②【判例研究の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 8回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 9回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 10回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 11回 民法の視点から社会を読む②【相続】【遺言】【失権】
- 12回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 13回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 14回 民法と刑法の交錯する世界を読む【民事責任】【慰謝料】【制裁】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'10』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(1)
- 3回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(2)
- 4回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(3)
- 5回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(4)
- 6回 サービスの基礎練習(1)
- 7回 サービスの基礎練習(2)
- 8回 ボレーやスマッシュの基礎練習(1)
- 9回 ボレーやスマッシュの基礎練習(2)
- 10回 ルール・戦術の説明
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 フライト練習(1) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 3回 フライト練習(2) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 4回 フライト練習(3) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 5回 サーブ練習<ショートサービス、ロングサービス>
- 6回 攻めと守りのコンビネーション練習(1)
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(2)
- 8回 ルール説明(1) <シングルス>
- 9回 ルール説明(2) <ダブルス>
- 10回 シングルスゲーム(1)
- 11回 シングルスゲーム(2)
- 12回 ダブルスゲーム(1)
- 13回 ダブルスゲーム(2)
- 14回 ダブルスゲーム(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バレーボールの基礎(1) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 3回 バレーボールの基礎(2) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 4回 バレーボールの基礎(3) <サーブ編>
- 5回 バレーボールの基礎(4) <サーブ編>
- 6回 バレーボールの基礎(5) <アタック編>
- 7回 バレーボールの基礎(6) <アタック編>
- 8回 バレーボールの基礎(7) <ルール編> ルールの習得
- 9回 バレーボールの応用(1) フォーメーション
- 10回 バレーボールの応用(2) ゲーム展開
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 基本技術(フライト)の学習(1)
- 4回 基本技術(フライト)の学習(2)
- 5回 基本技術(フライト)の学習(3)
- 6回 基本技術(サービス)の学習
- 7回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(1)
- 8回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(2)
- 9回 ルールの説明
- 10回 ゲームの練習
- 11回 リーグ戦形式の試合(1)
- 12回 リーグ戦形式の試合(2)
- 13回 リーグ戦形式の試合(3)
- 14回 リーグ戦形式の試合(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習 (フォアハンド・ バックハンド)
- 3回 フライトの基礎練習 (1) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 4回 フライトの基礎練習 (2) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 5回 フライトの基礎練習 (3) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 6回 フライトの基礎練習 (4) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 7回 サービスの基礎練習
- 8回 ラリーゲームでの応用練習 (クリアー・ ドロップ・ ヘアピンのコンビネーション)
- 9回 ルール・ 戦術の説明
- 10回 攻めと守りのコンビネーション練習
- 11回 シングルスゲーム (1)
- 12回 シングルスゲーム (2)
- 13回 ダブルスゲーム (3)
- 14回 ダブルスゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1、3対2) (1)
- 6回 応用練習 (2対1、3対2) (2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド、速攻など) (1)
- 10回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド、速攻など) (2)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム (2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム (3)
- 14回 ゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 基本的なインサイドステップのシュートパス練習
- 3回 トラッピングからのパス練習
- 4回 リフティング
- 5回 ミニゲーム(1) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 6回 ミニゲーム(2) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 7回 ミニゲーム(3) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 8回 ミニゲーム(4) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 9回 ルール説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、レクリエーションスポーツ種目も含め、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、受講上の注意
- 2回 バレーボール(1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン(1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール(1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス(2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目(1)
- 13回 選択種目(2)
- 14回 選択種目(3)
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。授業とあわせて以下の本をよんでほしい。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 ○『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第一講 「今西錦司と自然学」
- 二講 「私とあなたの自然学」
- 第三講 「バックミンスターフラーと自然学」
- 第四講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
- 第五講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
- 第六講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
- 第七講 「風の谷のナウシカの自然学」 第八講 「人の進化と自然学」
- 岩松
- 第九講 人々はどのように自然に親しんできたか - 自然の中の旅と観光
- 第十講 人々はどのように自然を観てきたか - 自然風景の感じ方
- 第十一講 人々はどのように自然を利用してきたか - 日本の竹文化史
- 第十二講 人々はどのように自然を利用していけるか - 日本の竹産業と政策
- 第十三講 人々はどのように自然の中で暮らしているか - 日本の木造民家の生活
- 第十四講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか - 中国文化との比較
- 第十五講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

竹川 自分が生きている世界について野に出て考えてみたくなったか 50%
岩松 平常点&小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読んでほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球は今から約46億年前に誕生した。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。この授業では、現在の地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

丸山茂徳・磯崎行雄『生命と地球の歴史』岩波書店
川上紳一『生命と地球の共進化』日本放送出版協会NHKブックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回 生きている地球2【ウェゲナーと大陸移動説】
- 4回 地球惑星の起源と進化【太陽系の起源】
- 5回 水の惑星の誕生と地球生命の起源【生命の起源】
- 6回 目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 7回 凍りついた地球【全球凍結】
- 8回 生物進化史上最大の事変【カンブリア爆発】
- 9回 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%，ミニ課題・レポート：30%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミニ課題・レポートは提出期限を厳守のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然史へのいざない【昼】

担当者名
/Instructor

重信 幸彦 / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地です。また、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している当博物館を、まずみなさんに知ってもらうことが、この授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的にを行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができると思います。よりグローバルな視点から、自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各担当者の講義のテーマは下記のとおりです（【 】内はキーワード、()内は担当学芸員の名前です）。講義の順番は未定です。下記の講義以外に、博物館見学も予定しています。

- ・ 昆虫分類学の歴史（上田）：【分類】【化石昆虫】
- ・ 化石が語る魚類の進化（籾本）：【魚類化石】
- ・ 二次的自然と哺乳類（馬場）：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- ・ 絶滅危惧と鳥類（武石）：【絶滅危惧】
- ・ ちょっと前の自然～植物の世界を例に（真鍋）：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- ・ 化石記録が語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）：【化石】【生命史】【絶滅】
- ・ カエルとサンショウウオのおはなし（山根）：【両生類】【身近な生き物たち】
- ・ 宝石鉱物の魅力と不思議（森）：【宝石】【鉱物】
- ・ 深海生物～その形と適応的意義～（下村）：【深海】
- ・ 日本列島のおいたち：付加体の重要性（御前）：【プレートテクトニクス】【日本の地質】

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ： <http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート... 80% 博物館見学レポート 20...% なお、予め定められた2回の博物館見学を、レポート提出の条件とし、単位取得の必須条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 竹之下 芳也 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、中国食品への化学物質の混入等で社会問題になっています。私たちの生活・環境にとって、化学物質は重大な関心事になっています。また、サプリメントの中には怪しい化学を歌っているものも多いです。このような中で、正しい判断力を磨くのも、現代人の資質だと思います。

教科書 /Textbooks

E.Jhon (渡邊正訳) 『逆説・化学物質...あなたの常識に挑戦する』 丸善 (1996) ¥2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R.Carson (青木梁一訳) 『沈黙の春』 新潮社 (1974年)
T.Colbon,D.Dumanoski&P.Myers (長尾力訳) 『奪われし未来』 翔詠社 (1997年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 化学の基礎①
- 2回 化学の基礎②
- 3回 香水.....うるわしい、かぐわしい、においの正体は？【香水】
- 4回～5回 砂糖と人工甘味料.....砂糖を科学する【単糖類】【オリゴ糖】
- 6回 アルコール.....上手につきあうためには【エチルアルコール】【アセトアルデヒド】
- 7回 コレステロール、脂肪、繊維.....メタボ対策の秘策は
- 8回 くすり.....アスピリンは万能薬【鎮痛剤】【鎮静剤】【麻薬】
- 9回～10回 ポリ塩化ビニール.....【プラスチック】【ポリマー】【環境問題】
- 11回～12回 ダイオキシン.....史上最強の毒物【ダイオキシン類】【環境汚染】
- 13回 無機窒素肥料.....有機肥料との違いは【窒素サイクル】【硝酸イオン】
- 14回 二酸化炭素.....地球温暖化の元凶【地球温暖化】【炭素サイクル】
- 15回 化学の時代へ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2006年度以前入学生は、授業科目「薬とくらし」、「栄養とくらし」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。
2007年度以降入学生は、授業科目「自己管理論」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 小松 佐穂子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今現在，“心理学”の分野で明らかになっていることについて学ぶことを通して，自分や他者の“こころ”について考える。基本的に，心理学についての新たな知識の獲得を目指す，獲得した知識をふまえて，自ら，現代社会の問題に取り組み，考える態度を学んで欲しい。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【心理学】
- 2回 心理学の研究法【実験法】【観察法】【調査法】
- 3回 ものの見え方，感じ方(1)【知覚】
- 4回 ものの見え方，感じ方(2)
- 5回 学習のしくみ【条件づけ】【学習】
- 6回 人間の記憶のしくみ(1)【記憶】【認知】
- 7回 人間の記憶のしくみ(2)
- 8回 母と子の結びつき【愛着】
- 9回 対人コミュニケーション【感情】【表情】
- 10回 心の病【心身症】【神経症】
- 11回 気分のコントロール【うつ病】【認知のゆがみ】
- 12回 高齢化社会【中年期】【老年期】
- 13回 女性の社会進出に伴う生き方【アイデンティティ】
- 14回 こころの知能指数【情動性知能】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題)...30% ミニレポート...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて展開されてきた主要な思想の流れを解説する。この時代が「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想に着目してゆく。これらの発想をヒントにして、自我の成立、他者との関係性を考え直すことが、本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存主義の思想(1) 概説
- 3回 実存主義の思想(2) キルケゴール
- 4回 実存主義の思想(3) ハイデガー
- 5回 実存主義の思想(4) サルトル
- 6回 実存主義の思想(5) メルロ=ポンティ
- 7回 中間テスト
- 8回 精神分析の思想(1) フロイト1
- 9回 精神分析の思想(2) フロイト2
- 10回 精神分析の思想(3) メラニー・クライン
- 11回 精神分析の思想(4) ジャック・ラカン
- 12回 フェミニズムの思想(1)
- 13回 フェミニズムの思想(2)
- 14回 フェミニズムの思想(3)
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※中間テストを受験していない者は期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第七回に中間テスト(第三回~第六回の確認テスト)を実施するので、受講希望者は遅くとも第三週目から出席しておく必要がある。このテストを受験していない者には単位を認めない。
また、授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペなど)が発覚したレポートは即座に零点となるので、十分に注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名
/Instructor

岩本 真理子 / 比較文化学科, 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科, 水本 弘文 / 比較文化学科
馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科, 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるだろうか。文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高い。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ、フランス語と生まれ変わることもある。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で日本語、英語、ドイツ語などで書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促す。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・詩とは何か
 - 2回 ドイツの詩
 - 3回 ドイツの詩
 - 4回 イギリスの詩
 - 5回 イギリスの詩
 - 6回 イギリスの詩
 - 7回 アメリカの詩
 - 8回 アメリカの詩
 - 9回 フランスの詩
 - 10回 フランスの警句とことわざ
 - 11回 言葉から形へ
 - 12回 言葉から形へ
 - 13回 日本の詩
 - 14回 日本の詩
 - 15回 まとめ
- (各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論 【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植、着床前診断、中絶といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)、○平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)、○川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版](有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは何か ~ 本講義の構成と概説
第2回~第8回 「正義」の応用問題
~ 生命倫理と法【安楽死・尊厳死】【着床前診断】【中絶】【脳死・臓器移植】
第9回~第13回 「現代正義論」【ロールズ】【ノジック】【共同体主義】【裁判員制度】
第14回~第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、ト・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社、2003年）
J・リンスほか『大統領制民主主義の失敗』（南窓社、2003年）
L・ダイヤモンドほか『シビリアン・コントロールとデモクラシー』（刀水書房、2006年）
中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞・グロバリゼーションとデモクラシー【第三の波】【市民社会】
- 第2 - 3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
- 第4 - 5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
- 第6 - 7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
- 第8 - 9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
- 第10 - 11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
- 第12 - 13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
- 第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席重視、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と出席などで総合評価
出席 10%、小テスト... 10% レポート(任意) 10% 試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人権といえば特別なことというイメージを持つかもしれない。しかし、実際には気付かない、知らないというだけで自分自身の人権が侵害されていたり、無意識のうちに他者の人権を侵害していることがある。

本講義では、識字問題や在日外国人問題など様々な事例から、現存する人権課題とその社会的背景を考察する。そして、人権とは非常に身近で重要なものであるということを実感していただきたい。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所 発行）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に提示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回テーマを決め、ビデオ等を交えながら授業を行う。
出席確認と授業の理解を深めるため、毎回「感想」を書き込む用紙を配布する。

(【 】はキーワード)

- 1回 わたしにとっての人権
- 2回 人権の歴史(1) 【近代革命】
- 3回 人権の歴史(2) 【国連】
- 4回 人権概念の整理(1) 【国家】 【憲法】
- 5回 人権概念の整理(2) 【国際人権】
- 6回 日本における人権課題(1) 【部落問題】
- 7回 日本における人権課題(2) 【冤罪】
- 8回 生活の中の人権(1) 【ハンセン病】
- 9回 生活の中の人権(2) 【平和】
- 10回 教育マイノリティの現状 【識字】
- 11回 教育マイノリティの現状と課題 【夜間中学】
- 12回 外国人の人権(1) 【国籍】
- 13回 外国人の人権(2) 【在日コリアン】
- 14回 海外における人権課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験と出席状況で評価する
出席 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

女性の名前に「美」が付くことが多いのはなぜか、工学部や法学部、経済学部に女子学生が少ないのはなぜか、子育ては母親の役割とされているのはなぜか、男女の賃金に差があるのはなぜか-そんな身の回りの「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。講義のキーワードは「ジェンダー」「ポリティクス」。

教科書 /Textbooks

伊藤公雄・樹村みのり・国信潤子『女性学・男性学-ジェンダー論入門』（有斐閣、2002/02、1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』岩波書店
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』明石書店
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 女であることの損・得 / 男であることの損・得【ジェンダー役割】【性の二重基準】
 - 2回 作られる<男らしさ><女らしさ>【男らしさ】【女らしさ】【メディア・リテラシー】
 - 3回 女性学って何?【女性の視点】【周縁化】【名前のない病】
 - 4回 あなたとわたし【ジェンダー】【セクシュアリティ】
 - 5回 ジェンダー・フリーな教育のために【隠れたカリキュラム】【ジェンダー・トラッキング】
 - 6回 恋愛の女性学・男性学【ロマンティック・ラブ・イデオロギー】【デートDV】
 - 7回 男性学って何?【男性の鏡】【自殺】【専業主夫】
 - 8回 ジェンダーと労働【賃金格差】【間接差別】【ワーク・ライフ・バランス】
 - 9回 花子さんの見た未来?【多様な生き方】【多様な働き方】【多様な家族】
 - 10回 多様な家族に向かって【近代家族】【婚姻制度】【選択的夫婦別姓】【婚外子差別】【DV】
 - 11回 育児はだれのもの【母性愛神話】【三歳児神話】【育児休業法】
 - 12回 国際化のなかの女性問題・男性問題【グローバル化】【移住労働の女性化】【人身取引】
 - 13回 平和の思想と<男らしさ>【平和】【暴力】【軍事化】
 - 14回 ジェンダー・フリー社会の見取り図【男女共同参画社会】【国連女性差別撤廃条約】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席と授業中の積極的な発言...25%、ワークショップでのプレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

メディア表現、法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発表、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。
ワークショップでのプレゼンにはパワーポイント資料を用いるため、スキルを見つけておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 山本 光英 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科, 落合 俊行 / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 國武 英生 / 法律学科
 中山 布紗 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
 狭間 直樹 / 政策科学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年						
対象入学年度 /Year of School Entrance				1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
												○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、さまざまな極めて複雑な関係から成り立っている。我々は個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えなければならない。我々の生活が、およそ一人では成り立たない以上、他者との関係、すなわち、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係などさまざまな関係の中で成り立っていることを考えなければならない。他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルール、平たくいえばマナー（作法とってよい）を知ることが必要である。今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えるのが本講座の目的である。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第2回 人間社会とルール（マナーとルール、社会と規範、規範と法則、法と社会、法と道德の違いなど）（山本）
- 第3回 裁判とは何か（民事裁判、刑事裁判、行政裁判、裁判の関係者など）（岡本）
- 第4回 民事少額訴訟とは何か（小池）
- 第5回 基本的人権とは何か（基本的人権と公共の福祉、法の下での平等、プライバシーの権利、国民相互間の基本的人権など）（落合）
- 第6回 社会福祉の視点から（狭間）
- 第7回 雇用とは何か（雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了）（國武）
- 第8回 犯罪とは何か（構成要件、違法、責任、罪刑法定主義）（大杉）
- 第9回 契約とは何か（法律関係の主体、契約自由の原則、契約の成立と効力、契約の履行など）（矢澤）
- 第10回 財産とは何か（さまざまな財産、物権と債権、財産権の保障、財産権とその制約、財産権と公共の福祉など）（中山）
- 第11回 労働者の権利と生活の保障（労働法の出現、社会法の原理、労働法の内容、争議権と公共の福祉、社会保障など）（國武）
- 第12回 生存と環境保護（公害をめぐる法規制、環境保護政策の展開、循環型社会へ向けての法規制、個人・国境・世代をこえる環境問題など）（岡本）
- 第13回 国際社会と日本（二宮）
- 第14回 （予備日）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート（計3本）を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による（鉛筆書きは不可、パソコン・ワープロで書いたものは不可とする）。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

共生の作法【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北九州学【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、北九州の文化を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知と一と！？北九州？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 小倉郷土会①
- 3回 小倉郷土会②
- 4回 小倉郷土会③
- 5回 北九州の人と文学
- 6回 北九州の方言
- 7回 北九州の民話・伝承
- 8回 北九州の祭り
- 9回 海峡花火
- 10回 門司港の観光
- 11回 小倉城
- 12回 上野焼
- 13回 北九州の食文化
- 14回 北九州の農業
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容、スケジュールは一応の予定です。ゲストの都合等により変更になることがあります。詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメは事前に配布するつもりですので、配布したレジュメをよく読んで受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「市民活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 市民活動の戦後史
 - 4回～5回 市民活動の現代史
 - 6回～7回 市民活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 市民活動の争点①
 - 11回～12回 市民活動の争点②
 - 13回～14回 市民活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加も求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生を果たした。欧米から日本的経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。曰く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

そうすると社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちが資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジユメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理』（山内友三郎・塚崎智監訳）昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値(5)【自己意識】、【F L O】
- 7回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 8回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 9回 現代における差別の問題(3)【種差別】
- 10回 現代における差別の問題(4)【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義(1)【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義(4)【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小レポート含む)...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 /Instructor
山本 光英 / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡 邦信 / 法律学科, 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
落合 俊行 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「個人と国家との関係」(落合)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を思想的に考察する。講義全体のキーワードは【ポストコロニアリズムの思想課題】【国際情勢】

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロニアリズム』（知の攻略 思想読本4）、作品社、2003（第3刷）、2000円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

関連文献は授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 2~3回 なぜ今、ポストコロニアリズムなのか(1)(2)【ポストコロニアリズム】
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文 【ポスト構造主義】
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文 【カルチュラル・スタディーズ】【植民地主義】
【帝国】
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文 【フェミニズム】
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文 【植民地近代性】【ナショナリズム】
【グローバリズム】
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 轡田竜蔵論文 【オリエンタリズム】
- 11回 第III部の1、朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、趙慶喜論文 【アイデンティティ】【ジェンダー】
- 13回 第III部の3、高橋哲哉論文 【過去の克服】
- 14回 第III部の4、野村浩や・鄭暎恵論文 【他者】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（2~3本）、授業参加への熱意など

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書のなかに登場する概念、理論を勉強しつつ、関連文献を自主的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この科目では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを適宜配布するか、ホームページからのダウンロードを指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。
- 1回 グローバル化とは何か(定義、諸説、歴史)
 - 2～3回 日本・米国経済のグローバル化 【ブラザ合意】 【FTA】
 - 4～6回 EU経済とグローバル化 【ユーロ】 【安定成長協定】
 - 7～8回 アジア経済とグローバル化 【WTO】 【技術移転】
 - 9～10回 企業の国際的活動とグローバル化 【多国籍企業】 【直接投資】 【国際経営比較】
 - 11～13回 金融規制緩和とグローバル化 【証券化】 【為替制度】
 - 14回 グローバル化の展望と世界経済への影響 【貧富の差】 【経済発展】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布されるプリントの予習復習を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣 2006年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 神野志隆光『「日本」とは何か』(講談社現代新書、2005年)
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』(山川出版社、2006年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義とは?【過去との対話】【史料】
- 第2回 「日本」とは何か(1)【国号】【日本】【倭】
- 第3回 「日本」とは何か(2)【鎖国】
- 第4回 「日本」とは何か(3)【日本人】
- 第5回 境界から考える(1)【蝦夷】【アイヌ】
- 第6回 境界から考える(2)【北海道開拓】
- 第7回 境界から考える(3)【琉球】【薩摩】
- 第8回 境界から考える(4)【琉球処分】【沖縄】
- 第9回 境界から考える(5)【対馬】
- 第10回 境界から考える(6)【博多】
- 第11回 「帝国日本」の形成と解体(1)【日清戦争】【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成と解体(2)【日露戦争】【日韓併合】
- 第13回 「帝国日本」の形成と解体(3)【満蒙問題】【満洲国】
- 第14回 「帝国日本」の形成と解体(4)【敗戦】【引き揚げ】【講和条約】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成①【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成②【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成①【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成②【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開①【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開②【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 内田 直文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古来より中国は様々な民族を吸収しながら変容を繰り返しており、周辺諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきた。講義では、東アジアの歴史の変遷を考察することで、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにする。さらにそれを通じて②東アジア諸地域の未来像を自ら構想することのできる力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-講義の目標-
- 2回 モンゴル帝国の拡張 【チンギス=ハーン・分封・ケシク制】
- 3回 クビライ世界帝国の構想 【ジャムチ・大都】
- 4回 蒙古襲来と高麗・日本 【文永の役・弘安の役・石築地・鎌倉幕府】
- 5回 モンゴル帝国の遺産 【モンゴルシステム】
- 6回 明朝「中華世界システム」の形成(1)-朝貢・朝貢貿易・海禁 【前期倭寇・洪武帝】
- 7回 明朝「中華世界システム」の形成(2)-永楽帝とその時代 【鄭和・モンゴル親征】
- 8回 琉球王朝からみたアジア 【閩人三十六姓・万国津梁の鐘・唐営】
- 9回 明朝朝貢体制の崩壊(1)-国際交易の活発化と後期倭寇 【銀流通・王直】
- 10回 明朝朝貢体制の崩壊(2)-豊臣秀吉の「唐入り」と清朝政権の台頭 【文禄・慶長の役】
- 11回 明清交替とアジア諸地域の対応 【華夷変態・鄭成功】
- 12回 大清皇帝とその版図支配(1)-入関前の清朝政権 【ヌルハチ・ホンタイジ】
- 13回 大清皇帝とその版図支配(2)-入関後の清朝政権 【康熙帝・雍正帝・乾隆帝・軍機処】
- 14回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(1) 【華夷秩序・軍事政権】
- 15回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(2) 【朝貢・大君外交】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20% 定期試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

『現代の社会的解読』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～2回 社会学の基本的考え方【社会的行為】、【社会関係】、【社会構造】。
- 3回～4回 社会と個人 - デュルケムの方法『自殺論』【自己本位的自殺】【アノミー的自殺】
- 5回～6回 個人と社会 - ウェーバーの方法 - 『プロ論』【理解社会学】【行為の意味連関】
- 【意図せざる結果】
- 7回～8回 集団と組織【第1次集団】【準拠集団】
- 9回～10回 家族【家族】【機能】【産業化】【近代家族】
- 10回～13回 社会階層と社会移動【ジニ係数】【移動指標】【地位の非一貫性】
- 14回 グローバル化とエスニシティ【グローバリゼーション】【多文化共生】【統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、各回テキストならびに配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | | |
|------|--------------|---|------------------------|
| 第1回 | 憲法の意義 | - | 【国家権力の授権と制限】 |
| 第2回 | 憲法の展開 | - | 【近代から現代、そして未来へ】 |
| 第3回 | 人権総論 | - | 【自由の保障と制約】 |
| 第4回 | 人権各論①（幸福追求権） | - | 【プライバシー・名誉・自己決定】 |
| 第5回 | 人権各論②（平等原則） | - | 【人種・性と平等】 |
| 第6回 | 人権各論③（信教の自由） | - | 【信教の自由と政教分離】 |
| 第7回 | 人権各論④（表現の自由） | - | 【プライバシー・名誉・性表現】 |
| 第8回 | 国民主権論 | - | 【国民主権の意義】 |
| 第9回 | 日本の政治制度 | - | 【議院内閣制の本質】 |
| 第10回 | 平和主義論① | - | 【憲法9条の制定・意義】 |
| 第11回 | 平和主義論② | - | 【平和主義の現実と未来】 |
| 第12回 | 平和主義論③ | - | 【憲法9条と裁判所】 |
| 第13回 | 日本憲法史 | - | 【大日本帝国憲法と日本国憲法】 |
| 第14回 | 総括 | - | 講義を踏まえたくえで憲法状況に関して概説する |
| 第15回 | 総括 | - | 講義を踏まえたくえで憲法状況について概説する |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して倫理という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。思想の歴史において倫理学というジャンルがどのように発展してきたのかを学ぶことが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理 (補足)
- 9回 近代倫理学の誕生 (1) イギリス経験論
- 10回 近代倫理学の誕生 (2) 契約説の確立
- 11回 近代倫理学の発展 (1) カント
- 12回 近代倫理学の発展 (2) 功利主義
- 13回 近代倫理学への批判 (1) ニーチェ
- 14回 近代倫理学への批判 (2) 徳倫理
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小レポート含む) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。

教科書 /Textbooks

Cuong Huynh他著 CBS News Flash on DVD 2「CBSニュースフラッシュ2」(成美堂 ¥2415)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICと講義概要
- 2回 Chapter01 Security for Inauguration
- 3回 Chapter01
- 4回 Chapter02 President's First Day
- 5回 Chapter02
- 6回 不定詞・動名詞
- 7回 不定詞・動名詞
- 8回 不定詞・動名詞
- 9回 不定詞・動名詞
- 10回 不定詞・動名詞
- 11回 Chapter03 Auto Sales
- 12回 Chapter03
- 13回 Chapter05 Behind Wall street Bonuses
- 14回 Chapter05
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (20%) + 学期末試験 (80%) × TOEIC・TOEFL受験結果

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英1 - B
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

未定。テキストは生協の教科書販売リストを確認して、購入してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 25% 課題・小テスト ... 25% 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング 第1章
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング 第1章
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング 第1章
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング 第2章
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング 第2章
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング 第2章
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング 第3章
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング 第3章
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング 第4章
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング 第4章
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング 第5章
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング 第5章
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング 第5章
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Picture Questions Reading
- 2回 Picture Questions Reading
- 3回 Picture Questions Reading
- 4回 Question-Response Reading
- 5回 Question-Response Reading
- 6回 Question-Response Reading
- 7回 Short Conversations Reading
- 8回 Short Conversations Reading
- 9回 Short Conversations Reading
- 10回 Short Conversations Reading
- 11回 Short Talks Reading
- 12回 Short Talks Reading
- 13回 Short Talks Reading
- 14回 Short Talks Reading
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor Stephanie A.Houghton / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an intercultural communication course that also develops the four English language skills of listening, speaking, reading and writing. The main objectives of this course are to help you understand intercultural interaction and overcome cultural difference in real life. In addition, you will study and take the TOEIC test independently to help you function effectively in international society using English after you have graduated.

教科書 /Textbooks

Teaching materials will be provided by the teacher.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Teacher and student self-introductions, and course overview
- 2 回 What is culture?
- 3 回 Power and achievement
- 4 回 Universalism and benevolence
- 5 回 Tradition, security and conformity
- 6 回 Stimulation, self-direction and hedonism
- 7 回 Speeches & discussion
- 8 回 Speeches & discussion
- 9 回 Speeches & discussion
- 10 回 Film Review (Cultural Difference)
- 11 回 Film Review (Cultural Difference)
- 12 回 Intercultural negotiation
- 13 回 Intercultural mediation
- 14 回 Stereotypes
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grade = Teacher grade + your actual TOEIC (TOEFL) score (balanced)
TOEIC(TOEFL)スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力をさらに伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

未定。テキストは生協の教科書販売リストを確認して、購入してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 25% 課題・小テスト ... 25% 期末試験 ... 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions Reading
- 2 回 Picture Questions Reading
- 3 回 Picture Questions Reading
- 4 回 Question-Response Reading
- 5 回 Question-Response Reading
- 6 回 Question-Response Reading
- 7 回 Short Conversations Reading
- 8 回 Short Conversations Reading
- 9 回 Short Conversations Reading
- 1 0 回 Short Conversations Reading
- 1 1 回 Short Talks Reading
- 1 2 回 Short Talks Reading
- 1 3 回 Short Talks Reading
- 1 4 回 Short Talks Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング 第1章
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング 第1章
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング 第1章
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング 第2章
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング 第2章
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング 第2章
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング 第3章
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング 第3章
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング 第4章
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング 第4章
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング 第5章
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング 第5章
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング 第5章
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance =50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Development of practical communication skills through study of various English materials. Keywords for the course: Communicate, make friends, have fun.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (Pre-Intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Orientation
- 2 回 Timed English Speeches and Q&A sessions.
- 3 回 Unit 1 and discussion in English
- 4 回 Unit 2 and discussion in English
- 5 回 Presentations in class
- 6 回 Unit 3 and discussion in English
- 7 回 Unit 4 and discussion in English
- 8 回 Unit 5 and discussion in English
- 9 回 Presentations in class
- 1 0 回 Unit 6 and discussion in English
- 1 1 回 Unit 7 and discussion in English
- 1 2 回 Unit 8 and discussion in English
- 1 3 回 Presentations in class
- 1 4 回 End of semester review
- 1 5 回 Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance ... 30% Homework ... 30% Examination ...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Strategies, techniques and exercises to improve reading speed and comprehension in English.

教科書 /Textbooks

Reading Pass 2
Supplemental reading materials as given by the teacher.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation and Introductions
- 2 回 Text Unit 1 "One Laptop Per Child"
- 3 回 Text Unit 2 "Green Profits"
- 4 回 Text Unit 3 "Well-Loved Pets"
- 5 回 Text Unit 4 "Italy's Fashion Kings"
- 6 回 Text Unit 5 "Viral Marketing"
- 7 回 Review
- 8 回 Text Unit 6 "The NBA Goes Global"
- 9 回 Text Unit 7 "The Gossip Media"
- 1 0 回 Game Day!
- 1 1 回 Text Unit 8 "Replanting the World's Forests"
- 1 2 回 Text Unit 9 "Adventure Tourism"
- 1 3 回 Text Unit 10 "The Cannes Film Festival"
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語III). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques
- Week 8 Control Techniques
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting
- Week 11 Charting
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Development of practical communication skills through study of various English materials. Keywords for the course: Communicate, make friends, have fun.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (Pre-Intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Timed Speeches and Q&A sessions
- 2 回 Unit 9 and discussion in English
- 3 回 Unit 10 and discussion in English
- 4 回 Unit 11 and discussion in English
- 5 回 Presentations in class
- 6 回 Unit 12 and discussion in English
- 7 回 Unit 13 and discussion in English
- 8 回 Unit 14 and discussion in English
- 9 回 Presentations in class
- 1 0 回 Unit 15 and discussion in English
- 1 1 回 Unit 16 and discussion in English
- 1 2 回 Unit 17 and discussion in English
- 1 3 回 Presentations in class
- 1 4 回 End of semester review
- 1 5 回 Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance ... 30% Homework ... 30% Examination ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor
ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The course aims to provide students with opportunities to activate their knowledge and improve their confidence and ability to use everyday English in a variety of situations. In addition to using the core text, students will be expected to participate in activities such as discussing daily events, task solving, role-play, presentations and semi-formal discussions. They will work alone, in pairs and in groups. The focus will be on speaking and listening, however students will also be required to complete several written reports on class activities and discussions.

教科書 /Textbooks

To be announced

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary, access to the internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and Goal Setting
- 2 回 Unit 1, Conversation Strategies
- 3 回 Unit 2, Notes on Public Speaking
- 4 回 Discussion round #1
- 5 回 Unit 3, Short Presentation Topics Part A
- 6 回 Review of Units 1 to 3
- 7 回 Unit 4, Independent Study Skills
- 8 回 Discussion round # 2
- 9 回 Unit 5 Short Presentations Part B
- 1 0 回 Unit 6, Story Telling Experiences through narrative
- 1 1 回 Unit 7, Sharing experience through conversation
- 1 2 回 Discussion round # 3
- 1 3 回 Unit 8, Speculation about future events
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Course Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance and Participation 30%, Scheduled tasks 30%, Mini-test and folio 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to prepare in advance for scheduled activities.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Strategies, techniques and exercises to improve reading speed and comprehension in English.

教科書 /Textbooks

Reading Pass 2
Supplemental reading materials as given by the teacher.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation "My Summer"
- 2 回 Text Unit 11 "Giving Away Billions"
- 3 回 Text Unit 12 "Computer Actors"
- 4 回 Text Unit 13 "New York City"
- 5 回 Text Unit 14 "Fresh Water: A Growing Crisis"
- 6 回 Text Unit 15 "Exporting Culture"
- 7 回 Review
- 8 回 Text Unit 16 "Aging Populations"
- 9 回 Text Unit 17 "The Power of YouTube"
- 1 0 回 Christmas Lesson!
- 1 1 回 Text Unit 18 "Credit-Card Slaves"
- 1 2 回 Text Unit 19 "Yoga"
- 1 3 回 Text Unit 20 "Crime-Fighting Scientists"
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : 時事英語を読み、世界情勢を知ると共にReadingのスピードアップをめざす。

教科書 /Textbooks

Listening : "Total Strategy for the TOEIC Test" 成美堂
Reading : "The Half-Edition of English through the News Media 2010" 朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、プリントによるListening演習
- 2回 授業前半 : TOEIC : Chapter1から順次進める。
授業後半 : Unit 1 から順次進める。
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ...30% 平常の学習状況 ... 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

未定。テキストは生協の教科書販売リストを確認して、購入してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 25% 課題・小テスト ... 25% 期末試験 ... 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

様々なトピックの英文を読みながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習も行う。

教科書 /Textbooks

Nancy Douglas 『Reading Explorer 3』 CENGAGE Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Sport and Fitness
- 3回 Skin Deep
- 4回 Animals in Danger
- 5回 Violent Earth
- 6回 Islands and Beaches
- 7回 Ancient Mysteries
- 8回 Global Addictions
- 9回 Legendary Voyages
- 10回 Stories of Survival
- 11回 All in the Mind
- 12回 Art and Life
- 13回 Medical Challenges
- 14回 TOEIC演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)のスコアをあわせて最終評価を出します。TOEICスコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、指定された箇所の予習をして授業に出席すること。基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指す。講義全体のキーワードは、「精読・精聴」、「語彙力強化」です。

教科書 /Textbooks

各回で資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Pre-test
- 3回 時事英語 (News and Features) ①
- 4回 時事英語 (News and Features) ②
- 5回 時事英語 (News and Features) ③
- 6回 時事英語 (Opinion) ①
- 7回 時事英語 (Opinion) ②
- 8回 時事英語 (Opinion) ③
- 9回 時事英語 (Arts and Entertainment) ①
- 10回 時事英語 (Arts and Entertainment) ②
- 11回 アカデミックリーディング (人文)
- 12回 アカデミックリーディング (社会)
- 13回 アカデミックリーディング (経済)
- 14回 アカデミックリーディング (自然科学)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

[講義評価] 期末試験 ... 40% 平常の学習状況 (小テストなどを含む) ... 60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)スコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 英2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力をさらに伸ばすことをテーマとする。時事英語を教材として、語彙力を伸ばし、迅速な内容把握ができるよう努める。

教科書 /Textbooks

未定。テキストは生協の教科書販売リストを確認して、購入してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 25% 課題・小テスト ... 25% 期末試験 ... 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指す。講義全体のキーワードは、「精読・精聴」、「語彙力強化」です。

教科書 /Textbooks

各回で資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Pre-test
- 3回 時事英語 (News and Features) ①
- 4回 時事英語 (News and Features) ②
- 5回 時事英語 (News and Features) ③
- 6回 時事英語 (Opinion) ①
- 7回 時事英語 (Opinion) ②
- 8回 時事英語 (Opinion) ③
- 9回 時事英語 (Arts and Entertainment) ①
- 10回 時事英語 (Arts and Entertainment) ②
- 11回 アカデミックリーディング (人文)
- 12回 アカデミックリーディング (社会)
- 13回 アカデミックリーディング (経済)
- 14回 アカデミックリーディング (自然科学)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

[講義評価] 期末試験 ... 40% 平常の学習状況 (小テストなどを含む) ... 60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)スコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

様々なトピックの英文を読みながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習も行う。

教科書 /Textbooks

Nancy Douglas 『Reading Explorer 3』 CENGAGE Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Sport and Fitness
- 3回 Skin Deep
- 4回 Animals in Danger
- 5回 Violent Earth
- 6回 Islands and Beaches
- 7回 Ancient Mysteries
- 8回 Global Addictions
- 9回 Legendary Voyages
- 10回 Stories of Survival
- 11回 All in the Mind
- 12回 Art and Life
- 13回 Medical Challenges
- 14回 TOEIC演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)のスコアをあわせて最終評価を出します。TOEICスコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、指定された箇所の予習をして授業に出席すること。基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical comprehension and speaking skills developed through study of various English materials. Students will also have opportunities to practice academic presentation. Keywords for the course: Communicate, make friends, have fun.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (Pre-Intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Orientation
- 2 回 Timed English Speeches and Q&A sessions
- 3 回 Unit 1 and discussion in English
- 4 回 Unit 2 and discussion in English
- 5 回 Presentations in class
- 6 回 Unit 3 and discussion in English
- 7 回 Unit 4 and discussion in English
- 8 回 Unit 5 and discussion in English
- 9 回 Presentations in class
- 1 0 回 Unit 6 and discussion in English
- 1 1 回 Unit 7 and discussion in English
- 1 2 回 Unit 8 and discussion in English
- 1 3 回 Presentations in class
- 1 4 回 End of semester review
- 1 5 回 Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance ... 30% Homework ... 30% Examination ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Law majors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Person Longman- Third Edition (the student will also need a memory stick)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions - Picture Story Speech
- 第2回 Delivering Your Message
- 第3回 Putting Your Speech Together
- 第4回 Speech - Self-Introduction - Outlining and Writing
- 第5回 Speech - Self-Introduction - Delivery
- 第6回 Speech - A personal Experience - Delivery
- 第7回 Speech - A Meaningful Object - Delivery
- 第8回 Speech - A specific Fear - Delivery
- 第9回 Speech - A Personal Opinion - Delivery
- 第10回 Speaking to Inform - Outlining and Writing
- 第11回 Delivery - 1
- 第12回 Speaking to Inform - Outlining and Writing
- 第13回 Delivery - 2
- 第14回 Delivery - 3
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor
ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英2 - C
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The course aims to provide students with opportunities to activate their knowledge and improve their confidence and ability to use everyday English in a variety of situations. In addition to using the core text, students will be expected to participate in activities such as discussing daily events, task solving, role-play, presentations and semi-formal discussions. They will work alone, in pairs and in groups. The focus will be on speaking and listening, however students will also be required to complete several written reports on class activities and discussions.

教科書 /Textbooks

To be announced

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary, access to the internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and Goal Setting
- 2 回 Unit 1, Conversation Strategies
- 3 回 Unit 2, Notes on Public Speaking
- 4 回 Discussion round #1
- 5 回 Unit 3, Short Presentation Topics Part A
- 6 回 Review of Units 1 to 3
- 7 回 Unit 4, Independent Study Skills
- 8 回 Discussion round # 2
- 9 回 Unit 5 Short Presentations Part B
- 1 0 回 Unit 6, Story Telling Experiences through narrative
- 1 1 回 Unit 7, Sharing experience through conversation
- 1 2 回 Discussion round # 3
- 1 3 回 Unit 8, Speculation about future events
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Course Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance and Participation 30%, Scheduled tasks 30%, Mini-test and folio 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to prepare in advance for scheduled activities.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is a discussion course. It will develop critical thinking and self-expression by discussing a wide variety of personal and social issues.

教科書 /Textbooks

Day, Richard et al. Impact Issues 3. Pearson Longam. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Cosmetic Surgery
- 3回 Unit 2 Friends or Lovers?
- 4回 Unit 3 I Don't Care. Global Warming.
- 5回 Review
- 6回 Unit 4 Rules, Rules, Rules.
- 7回 Unit 5 Plagiarism
- 8回 Unit 6 Housework. Who Should Do It?
- 9回 Review
- 10回 Unit 7 The Unborn Child
- 11回 Unit 8 Earning Money
- 12回 Unit 9 Body Art
- 13回 Unit 10 Adult Children
- 14回 Review
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Tests 30% Assignments 40% Term exam 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Before each lesson students must read the textbook unit and become familiar with the vocabulary. Students may ask about unfamiliar expressions in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical comprehension and speaking skills developed through study of various English materials. Students will also have opportunities to practice academic presentation. Keywords for the course: Communicate, make friends, have fun.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (Pre-Intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Timed Speeches and Q&A sessions
- 2 回 Unit 9 and discussion in English
- 3 回 Unit 10 and discussion in English
- 4 回 Unit 11 and discussion in English
- 5 回 Presentations in class
- 6 回 Unit 12 and discussion in English
- 7 回 Unit 13 and discussion in English
- 8 回 Unit 14 and discussion in English
- 9 回 Presentations in class
- 1 0 回 Unit 15 and discussion in English
- 1 1 回 Unit 16 and discussion in English
- 1 2 回 Unit 17 and discussion in English
- 1 3 回 Presentations in class
- 1 4 回 End of semester review
- 1 5 回 Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance ... 30% Homework ... 30% Examination ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 英2 - B
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Law majors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Person Longman- Third Edition (the student will also need a memory stick)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 Introduction to Persuasive Speaking
- 第3回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第4回 Dilivery - 1
- 第5回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第6回 Delivery - 2
- 第7回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第8回 Delivery - 3
- 第9回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第10回 Delivery - 4
- 第11回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第12回 Delivery - 5
- 第13回 Symposium - Outling and Writing
- 第14回 Delivery
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 英2 - D
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is a discussion course. It will develop critical thinking and self-expression by discussing a wide variety of personal and social issues.

教科書 /Textbooks

Day, Richard et al. Impact Issues 3. Pearson Longam. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Review of First Semester
- 2回 Unit 11 Naomi's Dilemma. Work relations.
- 3回 Unit 12 No Place Like Home? Culture Shock.
- 4回 Unit 13 Career Choice
- 5回 Review
- 6回 Unit 14 Save Our Country. Immigrants
- 7回 Unit 15 High-Tech Toys
- 8回 Unit 16 A Woman's Place
- 9回 Review
- 10回 Unit 17 The Art of Compromise
- 11回 Unit 18 Can War Make Peace?
- 12回 Unit 19 One-Side Love
- 13回 Unit 20 My Split Family
- 14回 Review
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Tests 30% Assignments 40% Term exam 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Before each lesson students must read the textbook unit and become familiar with the vocabulary. Students may ask about unfamiliar expressions in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。

講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音【声調】【母音】【子音】
- 2回 発音、練習問題
- 3回 発音、練習問題
- 4回 発音、練習問題
- 5回 第1課 北京は中国の首都【代詞】【形容詞述語文】【主述述語文】【是構文】
- 6回 第1課 北京は中国の首都、練習問題
- 7回 第2課 美しい杭州【動詞述語文】【的の用法】【時間の表し方】
- 8回 第2課 美しい杭州、練習問題
- 9回 第3課 端午節【名詞述語文】【方位詞】【存在の表現】【所有の表現】
- 10回 第3課 端午節、練習問題
- 11回 第4課 中国老師教我們中文【了の用法】【二重目的語】【連動文】
- 12回 第4課 中国老師教我們中文、練習問題
- 13回 第5課 中国的“情人節”【是～的構文】【動作の進行】【動作・状態の持続】
- 14回 第5課 中国的“情人節”、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む)...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。

講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 九州非常有意思【過去の経験】【動量】【時量】
- 2回 第6課 九州非常有意思、練習問題
- 3回 第7課 八月十五中秋節【助動詞】【完全否定】【部分否定】
- 4回 第7課 八月十五中秋節、練習問題
- 5回 第8課 泡温泉賞紅葉【前置詞】【助動詞】
- 6回 第8課 泡温泉賞紅葉、練習問題
- 7回 第9課 “福倒”与“福到”【結果補語】【存現文】
- 8回 第9課 “福倒”与“福到”、練習問題
- 9回 第10課 閩門海峡【方向補語】【把構文】【複文】
- 10回 第10課 閩門海峡、練習問題
- 11回 第11課 月光族【様態補語】【程度補語】【複文】
- 12回 第11課 月光族、練習問題
- 13回 第12課 日本跟中国都是亞州国家【比較の表現】【複文】
- 14回 第12課 日本跟中国都是亞州国家、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説【中国と中国語について】
- 2回 発音【母音】
- 3回 発音【子音】
- 4回 発音【声調など】
- 5回 発音の総合練習
- 6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 8回 総合練習
- 9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 11回 総合練習
- 12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 13回 第6課【過去の経験など】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課【完全否定と部分否定】
- 2回 第8課【助動詞、前置詞】
- 3回 総合練習
- 4回 第9課【結果補語、存現文】
- 5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 6回 総合練習
- 7回 第11課【様態補語、程度補語、複文2】
- 8回 第12課【比較の表現、複文3】
- 9回 総合練習
- 10回 第13課【可能補語、使役表現】
- 11回 第14課【“被”構文、複文4】
- 12回 総合練習
- 13回 第15課、復習【複文5】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む) ...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず一年次に学んだ文法事項を再確認し定着をはかる。次に長文読解の中で、より複雑な表現ができるよう、中級レベルの語彙力と文法及び自然な言い回しを身につけていく。同時に中国の風俗習慣や様々な局面についての理解を深めていく。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、中国への理解である。

教科書 /Textbooks

山下輝彦・蘇英霞著『中国を語る～文化と生活～』金星堂（2008年1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文法確認【状態補語】【結果補語】【方向補語】【動量】【時量】【把構文】【被構文】等
- 2回 文法確認
- 3回 文法確認
- 4回 文法確認
- 5回 第1課 上有天堂【蘇州と杭州】【累加】【使役】【仮定】【条件】【並列】
- 6回 第1課 上有天堂、練習問題
- 7回 第2課 長寿面【誕生日】【把構文】【条件】【並列】【継起】
- 8回 第2課 長寿面、練習問題
- 9回 第3課 七夕【累加】【補語】【被構文】【仮定】【因果】
- 10回 第3課 七夕、練習問題
- 11回 第4課 春節晚会【正月】【条件】【継起】
- 12回 第4課 春節晚会、練習問題
- 13回 第5課 国球【卓球】【因果】【前置詞】【状態の持続】
- 14回 第5課 国球、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

長文読解する中で、より複雑な表現ができるよう、中級レベルの語彙力と文法及び自然な言い回しを身につけていく。同時に中国の風俗習慣や様々な局面についての理解を深めていく。

講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、中国への理解である。

教科書 /Textbooks

山下輝彦・蘇英霞著『中国を語る～文化と生活～』金星堂（2008年1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 高考【大学受験】【数字】【比較の表現】【逆接】【少しも~ない】【条件】
- 2回 第6課 高考
- 3回 第6課 高考、練習問題
- 4回 第7課 北京的“的哥”【タクシー運転手】【比較の表現】【条件】【慣用表現】
- 5回 第7課 北京的“的哥”
- 6回 第7課 北京的“的哥”、練習問題
- 7回 第8課 海帰【海外からの帰国者】【因果】【目的】【条件】【比較の表現】
- 8回 第8課 海帰
- 9回 第8課 海帰、練習問題
- 10回 第9課 跳槽【転職】【比較選択】【慣用表現】
- 11回 第9課 跳槽
- 12回 第9課 跳槽、練習問題
- 13回 第10課 独生子女【一人っ子政策】【条件】【常用表現】
- 14回 第10課 独生子女、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む)...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成することを主眼とするので、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

兵頭和美など著『中国世界遺産めぐり』白帝社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 1回 第1課 長城【動詞+“過”】【好像】【逆接複文】【算】
- 2回 発表
- 3回 第2課 故宮【從】【如果】【動詞+着】
- 4回 発表
- 5回 第3課 敦煌莫高窟【連～都】【終于】【為了】
- 6回 発表
- 7回 第4課 秦の始皇帝陵と兵馬俑坑【被】【総】【由于】【只】
- 8回 発表
- 9回 第5課 黄山【以～為】【除了】【因為】【用】
- 10回 第6課 九寨溝【必須】【尽管～但是...】【不光】
- 11回 発表
- 12回 第7課 孔廟、孔府、孔林【而且】【可以】【使役表現】
- 13回 第8課 ポタラ宮【～的】【～才】【比較表現の“跟”】
- 14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度(出席を含む)...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成することを主眼とするので、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

兵頭和美など著『中国世界遺産めぐり』白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 第9課 峨眉山と泰山大仏【相当于】【按照】
 - 2回 発表
 - 3回 第10課 麗江【一～就...】【像～一様】
 - 4回 発表
 - 5回 第11課 蘇州の古典的園林【正如】【和～一様】【就是說】
 - 6回 発表
 - 7回 第12課 天壇公園【曾經】【即使】【属于】
 - 8回 発表
 - 9回 第13課 頤和園【使～】【通過】【怎麼】
 - 10回 発表
 - 11回 第14課 龍門石窟【值得】【对】
 - 12回 発表
 - 13回 第15課 雲崗石窟【可能補語】【不管】【正是】
 - 14回 発表
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度(出席を含む)...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『しっかり初級韓国語』（金 貞愛他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典（必携）

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第1課 自己紹介
- 13回 第2課 周りにあるものについて尋ねてみよう（1）
- 14回 第2課 周りにあるものについて尋ねてみよう（2）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級段階に必要な文法や基本文型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『しっかり初級韓国語』（金 貞愛他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 指で指しながらいろいろ尋ねてみよう【人称・所有代名詞】
- 4回 場所や位置を尋ねてみよう【存在の有無】【助詞】
- 5回 今日のスケジュールを話してみよう【丁寧な表現】【助詞】(1)
- 6回 今日のスケジュールを話してみよう【丁寧な表現】【助詞】(2)
- 7回 1週間のスケジュールを話してみよう【動詞・形容詞の否定形】
- 8回 夏休みのスケジュールを話してみよう【願望形】
- 9回 ホテルの予約をしてみよう【漢数詞】【年月日の言い方】(1)
- 10回 ホテルの予約をしてみよう【漢数詞】【年月日の言い方】(2)
- 11回 連絡先を聞いてみよう【電話番号の言い方】【補助語幹-ㄴ】
- 12回 時間や年齢を尋ねてみよう【時間・年齢の言い方】(1)
- 13回 時間や年齢を尋ねてみよう【時間・年齢の言い方】(2)
- 14回 近況を親しみをこめて話してみよう【打ち解けた丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『チャレンジ！韓国語』白水社 (2009年3月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音1】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といたします】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

正確な発音の能力を高めながら、初級文法をもとに会話表現を学び、基礎レベルでの日常会話の能力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『チャレンジ！韓国語』白水社 (2009年3月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 3回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 4回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 5回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 6回 何時ですか【固有数詞】【時間】【助数詞】
- 7回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 8回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 9回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 10回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 11回 週末には何をしましたか【過去形】【接続詞1】
- 12回 週末には何をしましたか【過去形】【接続詞1】
- 13回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 14回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中級レベルの文型を無理なく駆使できるようになることを目標とする。日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『もっとチャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 空港に出迎え【再会のあいさつ】(1)
- 3回 空港に出迎え【再会のあいさつ】(2)
- 4回 部屋探し【状況をより詳しく説明する】(1)
- 5回 部屋探し【状況をより詳しく説明する】(2)
- 6回 自己紹介【自分について語る】(1)
- 7回 自己紹介【自分について語る】(2)
- 8回 ビデオ上映
- 9回 友たちの家で【目上の人への話し方】【尊敬の表現】(1)
- 10回 友たちの家で【目上の人への話し方】【尊敬の表現】(2)
- 11回 帰り道【様子から推測、判断する】(1)
- 12回 帰り道【様子から推測、判断する】(2)
- 13回 百日記念日【素直な気持ちを表明する】(1)
- 14回 百日記念日【素直な気持ちを表明する】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、中級レベルの文型を無理なく駆使できるようになることを目指す。日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『もっとチャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 引越しパーティーの日【注意や指示をする】(1)
- 3回 引越しパーティーの日【注意や指示をする】(2)
- 4回 汽車に乗ってお出かけ【やりもらいの表現】(1)
- 5回 汽車に乗ってお出かけ【やりもらいの表現】(2)
- 6回 村の風景【説明や描写】(1)
- 7回 村の風景【説明や描写】(2)
- 8回 韓国文化とのふれあい
- 9回 友たちを訪ねて【忠告やアドバイス】(1)
- 10回 友たちを訪ねて【忠告やアドバイス】(2)
- 11回 診察を受ける【許可と禁止】(1)
- 12回 診察を受ける【許可と禁止】(2)
- 13回 悲しみよ、さようなら【コミュニケーションの幅を広げる】(1)
- 14回 悲しみよ、さようなら【コミュニケーションの幅を広げる】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

李昌圭 『韓国語を学ぼう 中級』朝日出版社 (2007年4月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 何を食べましょうか【注文に関する表現】
- 3回 何を食べましょうか【提案と勧誘の表現】
- 4回 何を食べましょうか【意志の表現】
- 5回 電話番号を教えてください【電話に関する表現】
- 6回 電話番号を教えてください【理由の表現】
- 7回 電話番号を教えてください【可能、不可能の用言】
- 8回 趣味は何ですか【趣味に関する表現】
- 9回 趣味は何ですか【仮定形の表現】
- 10回 趣味は何ですか【連体形の表現】
- 11回 韓国ドラマ
- 12回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】
- 13回 仁寺洞にはどのように行きますか【意図、助言の表現】
- 14回 仁寺洞にはどのように行きますか【意志、約束の表現】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 発表・課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

李昌圭 『韓国語を学ぼう 中級』朝日出版社 (2007年4月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 風邪は治りましたか【病気に関する表現】
- 3回 風邪は治りましたか【前置きの表現】
- 4回 風邪は治りましたか【禁止、可能の表現】
- 5回 連休には何をするつもりですか【予定の表現】
- 6回 連休には何をするつもりですか【譲歩、同時進行の表現】
- 7回 雨がたくさん降っているようです【推測に関する表現】
- 8回 雨がたくさん降っているようです【引用・伝聞の表現】
- 9回 雨がたくさん降っているようです【意向を尋ねる表現】
- 10回 韓国ドラマ
- 11回 焼肉を作ることができますか【方法、可能の表現】
- 12回 焼肉を作ることができますか【経験の有無の表現】
- 13回 このズボン、着てみてもいいですか【当然・義務の表現】
- 14回 このズボン、着てみてもいいですか【状態、許容の表現】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 発表・課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション 【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え 【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課① 【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課② 【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課① 【教室でロシア語】
- 9回 第2課② 【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③ 【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課① 【家族の紹介】
- 12回 第3課② 【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③ 【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 英1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】 「
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2 回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3 回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4 回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5 回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6 回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7 回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8 回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9 回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10 回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11 回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12 回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13 回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14 回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15 回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 英2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
 ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 2回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 3回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 4回 第10課①【モスクワの町】
- 5回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 6回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 7回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 8回 ビデオ学習④【ИСТОРИЯ С УЧЕБНИКОМ ИСТОРИИ】
- 9回 ビデオ学習⑤ 会話【В МАГАЗИНЕ】、【ПОКУПКА КНИГИ】
- 10回 ビデオ学習⑥ 作文
- 11回 読み物 【СОВЕТ ВРАЧА】
- 12回 読み物 【ДВА ТОВАРИЩА】
- 13回 読み物 【ЛЕГЕНДА ОБ АНГАРЕ】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎文法の習得を目標とします。具体的には品詞・文型・文の種類・時制・法（モード）を学びます。音声化を重視するので、つづり字の読み方を早く覚え、積極的に発音し、文を音で覚えるようにしましょう。6月に実施される実用フランス語技能検定試験（仏検）5級に合格すれば成績Cを保証します。その場合でも定期試験を必ず受験してください。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉 他 『フランス語を12の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み方、母音の発音の方法
- 2回 つづり字の読み方
- 3回 名詞と不定冠詞、定冠詞、エリズイオンについて
- 4回 <-er> 動詞の活用
- 5回 文の種類（否定文・疑問文）
- 6回 形容詞と<etre>の活用
- 7回 限定詞（指示形容詞と所有形容詞）
- 8回 <avoir>の活用と部分冠詞
- 9回 <aller> <venir>の活用
- 10回 縮約形
- 11回 <-ir> 動詞の活用
- 12回 命令文
- 13回 疑問代名詞・疑問形容詞・疑問副詞
- 14回 副詞的代名詞 yとen
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、小テストなど ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一学期に続いて文法の基礎知識を広げて表現力の充実を目標とします。11月の仏検4級を合格すれば、成績Cを保証します。その場合でも期末試験を必ず受験してください。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉 他 『フランス語を12の3』 (白水社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習
- 2回 比較級、最上級
- 3回 目的語人称代名詞の形と語順
- 4回 代名動詞
- 5回 複合過去の形と用法1
- 6回 複合過去 つづき
- 7回 単純未来
- 8回 半過去の形と用法
- 9回 受動態
- 10回 関係代名詞
- 11回 モード1 条件法
- 12回 中性代名詞
- 13回 現在分詞とジェロンディフ
- 14回 モード2 接続法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席と小テストなど ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。講義全体のキーワードは、修得表現250。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則各回1課進み、1学期で終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍をいう
- 3回 名前・持ち物をいう
- 4回 友人・家族を紹介する
- 5回 人・物を説明する
- 6回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 7回 人、物、場所、時についてたずねる
- 8回 食べ物・飲み物についていう
- 9回 時刻・天候をいう
- 10回 物を比較する
- 11回 人称代名詞目的語を使った表現
- 12回 過去のことを話す
- 13回 未来のことを話す
- 14回 実用フランス語5級模擬試験（5級模擬試験は別の回に実施するかもしれませんが）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 期末試験...80%

（仏検受験者へ：今年6月の仏検5級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。講義全体のキーワードは、修得表現250。

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話II』（加藤雅郁著、駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全10課、配列に従って原則毎回3ページずつ進む。

簡単な会話のスケッチの聞き取りと解説の後、書かれた質問に答えて会話内容の確認と書く練習を行い、次いで聞こえてきた質問に答えて聞き取り練習を行う。

- 1回 映画を見に行く
- 2回 家族の誕生日について話す
- 3回 レストランで注文する
- 4回 住んでいた町について話す
- 5回 昨日したことを話す
- 6回 宿題について話す
- 7回 知っている人・好きな人のことを話す
- 8回 電話をする
- 9回 将来のことを話す
- 10回 頼みごとをする
- 11回 明日のことを話す
- 12回 会う約束をする
- 13回 自分の趣味・意見を言う
- 14回 自らの考え・気持ちを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 期末試験...80%

(仏検受験者へ：今年11月の仏検4級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語の運用能力を身につけてもらうことを目標にしています。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランス語の「音」についての復習
- 2回 再帰代名詞
- 3回 再帰代名詞の複合過去
- 4回 過去分詞の一致のまとめ
- 5回 半過去と大過去
- 6回 半過去と複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 補語人称代名詞
- 9回 命令法と補語人称代名詞
- 10回 現在分詞とジェロンデフ(1)
- 11回 現在分詞とジェロンデフ(2)
- 12回 疑問代名詞 le quel
- 13回 受動態
- 14回 最上級と副詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点、もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また6月の仏検3級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期と同様に、1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語を完全に身につけてもらうことを目標にしています。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 強調構文
- 2回 中性代名詞 (1)
- 3回 中性代名詞 (2)
- 4回 条件法現在
- 5回 条件法過去
- 6回 接続法現在
- 7回 接続法過去
- 8回 直接話法と間接話法
- 9回 時制の一致 (1)
- 10回 時制の一致 (2)
- 11回 前置詞と接続詞 (時の表現)
- 12回 前置詞と接続詞 (場所の表現)
- 13回 前置詞と接続詞 (論理の表現)
- 14回 単純過去
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします (ただし練習問題の評点もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また11月の仏検準2級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検3級の問題を解いて行きます。しかし、仏検対策を主たる目的としているわけではありません。既習の文法事項や語彙等を確認し発展させるのが目的です。仏検の厳選された問題群は、そのような目的のための宝の山と言えます。レベルは3級から始めますが、柔軟に対応します。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない(適宜プリント使用)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：実用フランス語技能検定試験問題を解く。【仏検】【文法】【語彙】
- 2回：同上。
- 3回：同上。
- 4回：同上。
- 5回：同上。
- 6回：同上。
- 7回：同上。
- 8回：同上。
- 9回：同上。
- 10回：同上。
- 11回：同上。
- 12回：同上。
- 13回：同上。
- 14回：同上。
- 15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 25% 課題... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には必ず1年次使用の文法テキストおよび仏和辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検2級の問題を解いて行きます。しかし、仏検対策を主たる目的としているわけではありません。既習の文法事項や語彙等を確認し発展させるのが目的です。仏検の厳選された問題群は、そのような目的のための宝の山と言えます。レベルは2級から始めますが、柔軟に対応します。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない(適宜プリント使用)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：実用フランス語技能検定試験問題を解く。【仏検】【文法】【語彙】
- 2回：同上。
- 3回：同上。
- 4回：同上。
- 5回：同上。
- 6回：同上。
- 7回：同上。
- 8回：同上。
- 9回：同上。
- 10回：同上。
- 11回：同上。
- 12回：同上。
- 13回：同上。
- 14回：同上。
- 15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 25% 課題... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には必ず1年次使用の文法テキストおよび仏和辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19（プラス1自治領）あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいるhispanicの人たちも含めると3億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続き、ロシア語と同じか、やや多いと言われています。ラテン語（ローマ帝国の言語）を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間に入ります。コロンブスのアメリカ大陸発見（1492年）以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。スペイン、メキシコ、キューバなど、どの国の方の間でもコミュニケーションには問題は生じません。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずですよ。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発音とアクセントの仕組み
- 2回 発音とアクセントの仕組み
- 3回 発音とアクセントの仕組み
- 4回 発音とアクセントの仕組み
- 5回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 6回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 7回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 8回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 9回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法
- 10回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法
- 11回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法
- 12回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法。
- 13回 復習とスペイン語圏の文化に触れる視聴覚教材の提示
- 14回 復習とスペイン語圏の文化に触れる視聴覚教材の提示
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に上記で述べた平常点を最大30点まで加算します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。また、代返や中途の退学が見つかった場合は即座に失格とします。辞書については最初の講義で話しをします。電子辞書も奨めます。詳しく説明するので、辞書の購入は最初の講義まで待っててください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Iのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作るようなレベルまで進みます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史 (川成洋、中西省三編: 河出書房新社)
 スペインの歴史 (立石、関、中川、中塚著: 昭和堂)
 スペイン (増田監修: 新潮社)
 スペインの社会 (寿里、原編: 早稲田大学出版)
 スペインの政治 (川成、奥島編: 早稲田大学出版)
 スペインの経済 (戸門、原編: 早稲田大学出版)
 スペイン語基礎文法 (口ボ、大森、広康共訳: ピアソンエデュケーション)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2 回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3 回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4 回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 5 回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 6 回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 7 回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8 回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 9 回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 10 回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 11 回 従属節を含む文の理解。
- 12 回 従属節を含む文の理解。
- 13 回 スペイン語圏の国々について: 視聴覚教材を用いて
- 14 回 スペイン語圏の国々について: 視聴覚教材を用いて
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に上記で述べた平常点を最大30点まで加算します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。また、代返や中途の退室が見つかった場合は即座に失格とします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方からはじめ、テキストの簡単な会話表現を覚えていきます。スペイン語の発音は日本語話者に易しいので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。
文法事項を押さえながら学ぶ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

教科書 /Textbooks

エウヘニオ・デル・プラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 発音 アクセント、母音、子音
- 3回 発音 アクセント、二重子音
- 4回 挨拶、名詞の性・数
- 5回 冠詞、主格人称代名詞
- 6回 ser動詞、活用と用法
- 7回 ser動詞、疑問文・否定文
- 8回 estar動詞、活用と用法
- 9回 estar動詞とhay、疑問詞(1)
- 10回 ser/estar動詞と形容詞
- 11回 時刻の表現、疑問詞(2)
- 12回 -ar動詞
- 13回 主な前置詞、所有形容詞(前置形)
- 14回 -er / -ir 動詞、指示形容詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 70% 平常点 ... 30% (出席 ... 20%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
(エウヘニオ・テル・ブラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ⅲの復習、-ar / -er/ -ir動詞
- 2回 直説法現在、1人称単数不規則動詞とその用法
- 3回 直接目的格人称代名詞、天候表現
- 4回 直説法現在、語幹母音変化動詞とその用法
- 5回 不定詞表現(1)、疑問詞(3)
- 6回 所有形容詞(後置形)
- 7回 直説法現在、不規則動詞とその用法
- 8回 不定詞表現(2)、感嘆文
- 9回 間接目的格人称代名詞
- 10回 動詞gustar、gustar型動詞
- 11回 再帰動詞
- 12回 比較級と最上級
- 13回 直説法現在完了
- 14回 不定語と否定語
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 70% 平常点 ... 30% (出席 ... 20%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 直説法未来の活用と用法
- 2回 直説法条件未来の活用と用法
- 3回 直説法過去完了の活用と用法
- 4回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 5回 再帰動詞とは?
- 6回 再帰動詞の用法
- 7回 接続法とは何か
- 8回 接続法現在の活用
- 9回 接続法現在の用法
- 10回 命令形と命令法
- 11回 感嘆文
- 12回 比較級と最上級
- 13回 SEの受身と無人称のSE
- 14回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主にスペインの歴史を織り込んだ中級程度の文章を読んで行きます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の講読部分。（持っていない人にはプリントを配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テキストの6課以降の講読・説明
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。テキストの文法事項を押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。

教科書 /Textbooks

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳのテキストの続きから使用します。(前年度テキスト:エウヘニオ・デル・プラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)
また、ビデオ・DVD・音声教材なども利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習
- 2回 直説法点過去(1)
- 3回 直説法点過去(2)
- 4回 直説法点過去(3)
- 5回 直説法線過去
- 6回 直説法点過去と直説法線過去、その用例
- 7回 現在分詞
- 8回 直説法未来
- 9回 直説法過去未来
- 10回 直説法過去完了
- 11回 接続法(1)
- 12回 命令形
- 13回 DVD教材(会話を聞き取る)
- 14回 DVD教材(会話を聞き取る)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 平常点 ... 40% (出席 ... 30%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語VIIを更に発展させていきます。テキストの文法事項を繰り返し押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。

教科書 /Textbooks

スペイン語VIIのテキストを引き続き参照します。(スペイン語VII: エウヘニオ・デル・ブラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008) また、読み物、ビデオ・DVD・音声教材などを利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----|---------------------|
| 1回 | スペイン語VIIの復習 |
| 2回 | 接続法(2) |
| 3回 | 関係詞 |
| 4回 | DVDなどで会話練習 |
| 5回 | 会話練習 |
| 6回 | 接続法現在完了・過去・過去完了 |
| 7回 | 接続法まとめ |
| 8回 | 受身文、感嘆文 |
| 9回 | 短編教材(DVDなど)と聞き取り |
| 10回 | 短編教材(ラジオ、CDなど)と聞き取り |
| 11回 | 短編教材(DVDなど)と会話練習 |
| 12回 | スペイン語でDVDなどを見る(1) |
| 13回 | スペイン語でDVDなどを見る(2) |
| 14回 | スペイン語でDVDなどを見る(3) |
| 15回 | まとめ |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 平常点 ... 40% (出席 ... 30%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共通の目標は、普段使っている日本語について、ごく基本的なトレーニングを積むと同時に、大学生活についての話題に触れ、入学当初に必要な知識を身につけること。また、個人の目標に応じるため、チュートリアルを導入する。

教科書 /Textbooks

世界思想社編集部編『大学生の日本語トレーニング』世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【チューター】
- 2回 高校・日本語学校と大学の違い【アカデミックジャパニーズ】【チュートリアル】
- 3回 履修登録とシラバス【必修】【教養】【専門】【時間割】
- 4回 キャンパスツアー【教務課】【学生課】【学生相談室】【生協】【図書館】【自習室】
- 5回 チュートリアルとは何か(1)【学習者オートノミー】【ポートフォリオ】
- 6回 チュートリアルとは何か(2)【リソース】【大学生の学習】
- 7・9・11・13・15・17・19・21・23・25・27回 チュートリアル
- 8回 講義の受け方【講義を聴く】【ノートを取る】【レジュメ】
- 10回 模擬講義による実践練習
- 12・14回 大学教員・職員との付き合い方【メール】【掲示板】【敬語】
- 16・18回 情報の探し方【掲示板】【図書館】【インターネット】
- 20・22回 勉強以外のこと【部活】【サークル】【アルバイト】【ビジターセッション】
- 24・26回 将来のこと【キャリア】【就職】【ビジターセッション】
- 28回 友人を作ろう
- 29回 自己評価
- 30回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 学習者評価 ... 20 % 教員評価 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学生活への準備のつもりで、気軽に取り組んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 A 【昼】

担当者名 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共通の目標は、普段使っている日本語について、ごく基本的なトレーニングを積むと同時に、大学生活についての話題に触れ、入学当初に必要な知識を身につけること。また、個人の目標に応じるため、チュートリアルを導入する。

教科書 /Textbooks

世界思想社編集部編『大学生の日本語トレーニング』世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【チューター】
- 2回 高校・日本語学校と大学の違い【アカデミックジャパニーズ】【チュートリアル】
- 3回 履修登録とシラバス【必修】【教養】【専門】【時間割】
- 4回 キャンパスツアー【教務課】【学生課】【学生相談室】【生協】【図書館】【自習室】
- 5回 チュートリアルとは何か(1)【学習者オートノミー】【ポートフォリオ】
- 6回 チュートリアルとは何か(2)【リソース】【大学生の学習】
- 7・9・11・13・15・17・19・21・23・25・27回 チュートリアル
- 8回 講義の受け方【講義を聴く】【ノートを取る】【レジュメ】
- 10回 模擬講義による実践練習
- 12・14回 大学教員・職員との付き合い方【メール】【掲示板】【敬語】
- 16・18回 情報の探し方【掲示板】【図書館】【インターネット】
- 20・22回 勉強以外のこと【部活】【サークル】【アルバイト】【ビジターセッション】
- 24・26回 将来のこと【キャリア】【就職】【ビジターセッション】
- 28回 友人を作ろう
- 29回 自己評価
- 30回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 学習者評価 ... 20 % 教員評価 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学生活への準備のつもりで、気軽に取り組んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での研究活動に必要な「プレゼンテーション力」を中心に、総合的な日本語運用能力の育成を目指します。講義を聞き取る聴解スキルや、発表に必要な語彙・表現を身に付け、さらに、実際に課題テーマのプレゼンテーションをおこなうことで、「発表」の方法を学びます。また、口頭発表の準備や練習をピア (仲間) で行うことによって、自律的に学ぶ体験をします。

教科書 /Textbooks

犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
上村和美・内田充美『プラクティカル・プレゼンテーション』くろしお出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三浦香苗他『アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 授業オリエンテーション
- ② ノートテイキング【メモ】【構成】
- ③ 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
- ④ 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
- ⑤ 「不登校」【予告】【本論】【データ提示】
- ⑥ 「高校生とバイク」【データの説明】【データの解釈】
- ⑦ 「食料自給率」【データ比較】
- ⑧ 応用練習テーマ「少子化」【序論・本論・結論の構成確認】
- ⑨ プレゼンテーションの基礎【プレゼンテーションとは】【構成】【表現】
- ⑩ クラスメイト紹介【他者紹介】
- ⑪ セルフチェック【姿勢・表情・視線】【身振り・手振り】【声】【服装】
- ⑫ 施設紹介【視点コントロール】【サンドイッチ構成】
- ⑬ 案内状を作る【5W1H】
- ⑭ 日常生活で目にするものを説明する【比較】【マトリックス】
- ⑮ ポスター発表【ポスター発表】【ポスターの構成】
- ⑯ 1年間をふりかえる【時系列】【トピック】
- ⑰ まとめ【評価】【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 … 40% 発表・課題 … 40% 自己評価…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

レポートを作成することは学生にとっても、指導する教員にとっても挑戦的なことである。1篇の長いレポート(論証型)を作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成にいたる一連の過程を学ぶことを目標とする。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

大島弥生他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アカデミック・ジャパニーズ研究会『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』アルク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1・2回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 3・4回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 5・6回 レポートのテーマを考える【構想マップ】【練る】
- 7・8回 情報をカード化する【情報の信頼性】【調べる】
- 9・10回 目標を仮に規定する【情報の整理】【絞る】
- 11・12回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】【組み立てる】
- 13～16回 パラグラフライティング【中心文】【支持文】【説明文】【書く】
- 17～20回 文章を点検する【校正】【表現の点検】【形式の点検】
- 21～22回 レポートの完成【体裁】
- 23～24回 発表を準備する【レジュメの作成】【発表の練習】【発表の意義】
- 25～28回 発表する【話し手】【聞き手】
- 29・30回 学習プロセスを振り返り、自己評価する【自己評価】【振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(課題の提出を含む) ... 40% レポート・発表 ... 40% 自己評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師, 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、学術論文を読むための基礎的な読解力を育成します。論理的な文章をピア(同僚の学習者)同士で読むことで、それぞれの学びから、論理的思考による理解が深まることを期待します。また、授業の半分を使って、学習者の自律を目指した個別対応型の「チュートリアル」を導入した授業をおこないます。学習者が自身の学習内容・方法・リソースを選択し、その選択に基づいて計画・実行・評価を行うことによって、自分の学習を自分自身で管理できる力を身に付けることを目的としています。

教科書 /Textbooks

アカデミックジャパニーズ研究会編著『大学・大学院留学生の日本語3論文読解編』アルク

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

産能短期大学『日本語を学ぶ人たちのための日本語を楽しく読む本中・上級』凡人社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 「ピアラーニング」
- ①第I部 基本編 異文化適応【書き言葉】【和語】【漢語】
 - ②第I部 基本編 多様化の中のテレビ【論の展開①】【文の構造】
 - ③第I部 基本編 安全でおいしい水を飲むために【論の展開②】【未知語処理】【推測】
 - ④第I部 基本編 がん告知【要約】【慣用表現】【重要語句】
 - ⑤第II部 実践編 論文を読む①【全体構成】【序論】
 - ⑥第II部 実践編 論文を読む②【本論】
 - ⑦第II部 実践編 論文を読む③【副詞】
 - ⑧第II部 実践編 論文を読む④【結論】
 - ⑨第II部 実践編 論文を読む⑤総合練習
 - ⑩振り返る【自己評価】【他者評価】
- 「チュートリアル」
- ①現在の自分の状況を認識する【意識する】
 - ②実践する内容を具体的計画する【学習目標】【学習計画】【評価方法】【リソース】
 - ③実行する【学習管理】【修正】
 - ④振り返る【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 40% 発表・課題 ... 40% 自己評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生諸君は、日本のことが知りたくて本学の学生となったことと思う。
そこでこの講義では日本についてのさまざまなテーマを講義したい。
具体的には日本の政治、経済、歴史、文化、慣習などを韓国、中国、オーストラリア、イギリスと比較することによってより分かり易くする。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 .北九州空港と韓国仁川国際空港の役割
- 第3回 お伊勢参りから宇宙旅行までの日本人の旅行ブーム
- 第4回 T O T O のウオッシュレット開発
- 第5回 私のデートコース案内-イギリスと北九州-
- 第6回 新幹線を作った男たち
- 第7回 トロンの世界
- 第8回 秀吉の朝鮮出兵と九州の窯元
- 第9回 安川電機とロボット産業軍事とアジアを読み解く
- 第10回 日本の経営の特徴とその変化
- 第11回 戦後日本経済 (1)
- 第12回 戦後日本経済 (2)
- 第13回 戦後日本経済 (3)
- 第14回 軍事とアジアを読み解く
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績だけでなく
出席と毎回提出するレポートを重視

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義テーマは、変更することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生諸君は、日本のことが知りたくて本学の学生となったことと思う。
そこでこの講義では日本についてのさまざまなテーマを講義したい。
具体的には日本の政治、経済、歴史、文化、慣習などを韓国、中国、オーストラリア、イギリスと比較することによってより分かり易くする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「北九州市立大学の就職状況について」
- 第3回 洞海湾クルージング 小倉港 13 ; 00 集合
北九州市役所 16 ; 00 - 17 ; 00
- 第4回 「宮本武蔵の精神」
- 第5回 「日本の文化-本音と建前-」
- 第6回 「寿司作り実演を通じて日本文化を語る」
- 第7回 「日本の文化-洋間のある日本の家」
- 第8回 「私の青春時代-日伯に掛ける橋-」
- 第9回 今日の日本を取り巻く世界経済
- 第10回 「脳の科学-認識と行動」
- 第11回 憲法第9条と世界の軍備
- 第12回 「中国とはどんな国? - 留学体験から」
- 第13回 学長を囲んで大学のあり方についての意見交換
- 第14回 戸畑図書館長から見た日本の図書館
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績だけでなく
出席と毎回提出するレポートを重視

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義テーマは、変更することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論I【夜】

担当者名 /Instructor 立石 揚志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。
日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。
あまり、「貿易理論」に重きをおかず、貿易を巡る現状を解説する。

教科書 /Textbooks

小峰隆夫『貿易の知識』（2版）日経文庫（2004年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志『海外直接投資とアジアの貿易循環』ふくろう出版（2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 貿易とは何か。現代の貿易と経済。貿易の基礎理論
- 2回 貿易と経済・社会
- 3回 貿易と国際収支、為替レート
- 4回 貿易を巡る国際的枠組みとIMF体制
- 5回 GATTからWTO体制へ
- 6回 FTA/EPAを巡る国際的動き
- 7回 東アジア共同体構想の現状と将来
- 8回 日本経済と貿易の歩み
- 9回 貿易摩擦の変遷と日本の対応
- 10回 アジアとの生産分業が進んだ90年代以降の貿易
- 11回 貿易を巡る新しい動き
- 12回 グローバル化と反グローバル化
- 13回 直接投資の増大と貿易
- 14回 日本の貿易の将来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を中心とする貿易に関する情報に常に興味をもつこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論II【夜】

担当者名 /Instructor 立石 揚志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。
日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。
あまり、「貿易理論」に重きをおかず、貿易を巡る現状を解説する。

教科書 /Textbooks

小峰隆夫『貿易の知識』（2版）日経文庫（2004年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志『海外直接投資とアジアの貿易循環』ふくろう出版（2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 直接投資の増大と貿易
- 2回 同上
- 3回 アジアを中心とするFTA, EPAの動き
- 4回 同上
- 5回 東アジア共同体構想の推移
- 6回 同上
- 7回 東アジア共同体の現状
- 8回 同上
- 9回 東アジア共同体の課題
- 10回 同上
- 11回 国際経済学と国際貿易論
- 12回 同上
- 13回 国際貿易に関するトピックス
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を中心とする貿易に関する情報に常に興味をもつこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、直接投資を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 比較優位の理論I【絶対優位】【貿易パターン】
- 3回 比較優位の理論II【リカードモデル】【比較優位】【貿易の利益】
- 4回 ミクロ経済学の復習【生産可能性曲線】【無差別曲線】
- 5回 一般均衡分析【貿易三角形】【オファー曲線】
- 6回 要素賦存の理論I【ヘクシャー＝オリーン・モデル】【要素賦存】【要素集約度】
- 7回 要素賦存の理論II【リプチンスキーの定理】【ストルパー＝サムエルソンの定理】
- 8回 規模の経済と不完全競争
- 9回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 10回 小国の貿易政策【関税政策】、【補助金政策】
- 11回 小国の貿易政策【数量割当政策】
- 12回 大国の貿易政策【最適関税の理論】
- 13回 経済統合【自由貿易地域】
- 14回 国際要素移動【海外直接投資】
- 15回 国際要素移動【労働の国際移動】

成績評価の方法 /Assessment Method

(授業中の) 小テスト 50 % 期末試験 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の基礎知識を習得した上に履修してください。
国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論II 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 国際収支表【経常収支】【資本収支】
- 3回 異時点取引としての国際金融取引【時間選好率】【利子率】
- 4回 外国為替の基礎【為替相場制度】【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 5回 為替レートの決定要因I【購買力平価】
- 6回 為替レートの決定要因II【金利平価】
- 7回 為替レートの決定理論【フロー・アプローチ】【アセット・アプローチ】
- 8回 為替介入【不胎化政策】
- 9回 開放経済の45度線分析【国民所得決定】
- 10回 開放経済下のマクロ経済政策I【IS曲線】、【LM曲線】、【BP曲線】
- 11回 開放経済下のマクロ経済政策II【マンデル＝フレミングモデル】【固定相場制】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策III【マンデル＝フレミングモデル】【変動相場制】
- 13回 国際金融システムI【通貨危機の構造】
- 14回 国際金融システムII【国際通貨制度の考え方】
- 15回 国際金融システムIII【通貨統合の論理】

成績評価の方法 /Assessment Method

(授業中の) 小テスト 50 % 期末試験 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学の基礎知識を習得した上に履修してください。
国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文学概論【夜】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、イギリス文学の流れを追いつつ、具体的な作品の内容にまで踏み込むことで、文学の面白さを皆さんと共有します。イギリス文学の歴史はそれなりに長く、詩から劇、そして小説へと発展してきたわけですが、その始まりから説き起こし、今日に至るまでの流れを追いつつ、更に具体的に作品の抜粋を読みつつ、それらを生み出した時代背景、文化背景との関わりを探っていきます。伝統あるイギリス文学の作品を文化事項と絡めながら見ていき、その面白さを共に味わえればと思います。また同時に本講義においては、人間に関する様々なテーマについて問題提起をします。一緒に考えていきましょう！！

教科書 /Textbooks

An Outline of English Literature by G.C.Thornley and Gwyneth Roberts (Longman)
(テキストは、速読ができるほどの、非常に易しい英語で書かれています。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 導入(文学の勤め、【文学の面白さ】、イギリスについて、評価方法などの説明)
 - 2回 『ベオウルフ』(古英語) 【想像力】と文学、頭韻など
 - 3回 『キャンタベリー物語』by チョーサー (中英語) 脚韻など
 - 4回 『エヴリマン』(中英語) 死と人間
 - 5回 『失楽園』by ミルトン 宗教の影響
 - 6回 シェイクスピアの4大悲劇(『ハムレット』、『リア王』)
 - 7回 シェイクスピアの4大悲劇(『マクベス』、『オセロ』)
 - 8回 散文、日記文学(自意識の芽生え)
 - 9回 『ロビンソン・クルーソー』(デフォー、勃興期の小説)
 - 10回 『ガリヴァー旅行記』by スウィフト (【風刺文学】)
 - 11回 『パメラ』by リチャードソン、『シャメラ』by フィールディング
 - 12回 『高慢と偏見』by オースティン、『テス』by ハーディ
 - 13回 ロレンス、オプライエン(問題小説)
 - 14回 ドラブル、イングリク(伝統回帰)
 - 15回 まとめ(イギリス文学の流れ: 【詩】→【劇】→【小説】、宗教との関連)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 or レポート(受講者数により決定します)...90%、平常点(課題、授業への参加度等)...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布する資料は、よく目を通して下さい。本講義で扱う作品に限らず、様々な文学作品をたくさん読んで下さい。イギリス文学の中でも現代に近い作品に関心を持っている人は「イギリスの現代文学」の受講をおすすめします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの18-19世紀文学 【夜】

担当者名 /Instructor 杉本 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古典といわれる作品が、現在もなお読み継がれ、映画化されて脚光を浴びている。その理由は、時代を超えて高く評価される価値があるのみならず、今を生きる私たちだからこそできる「新しい読み」が開かれているからである。
本講義では、イギリスの18-19世紀文学から、受講生にも比較的になじみのある作家の作品を毎回1冊とりあげて解説する。作品への理解を深めるために、作家の人となり、作品成立時の時代背景や文化的背景、主題の分析、文学理論を応用する可能性など、多角的な視点を提供したい。

教科書 /Textbooks

日本イギリス文学・文化研究所編『イギリス文学ガイド』荒地出版社
* 最初の授業はテキストを持参のうえ、聴講すること。
授業中に随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 ダニエル・デフォー (5 2)
- 第3回 ジョナサン・スウィフト (5 8)
- 第4回 ジェイン・オースティン (6 6)
- 第5回 ウィリアム・ワーズワス (7 2)
- 第6回 チャールズ・ディケンズ (8 8)
- 第7回 シャーロット・ブロンテ (9 8)
- 第8回 エミリー・ブロンテ (10 4)
- 第9回 ジョージ・エリオット (11 2)
- 第10回 トマス・ハーディ (11 8)
- 第11回 ルイス・キャロル (13 0)
- 第12回 ジョージ・マクドナルド (14 2)
- 第13回 コナン・ドイル (14 8)
- 第14回 オスカー・ワイルド (15 4)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 20% 小テストと提出物... 20% 定期試験の成績で総合的に評価する... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 毎回、指定されたテキストの箇所を読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習 A 【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年夜間主クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 This course will build students' oral and aural English skills through a task-based, English for Specific Purposes approach. Students' practice will focus on the language of tourism and the tourism industry. The class will help students enrich their experiences traveling in countries where they need to communicate in English. The class will also prepare students who may be interested in working in travel or travel-related fields. The course will also be useful for developing general listening proficiency and speaking fluency in English

教科書 /Textbooks
 S. Hall and T. Blappert, First Class: English for Tourism, Thomson, 2002.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 Handouts to be supplied by the instructor. 授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions
- 2 回 Talking about Jobs
- 3 回 Likes and Dislikes
- 4 回 Giving and asking for information
- 5 回 Giving and asking for information
- 6 回 Giving and asking for information
- 7 回 Dealing with Customers (reservations)
- 8 回 Dealing with Customers (checking in)
- 9 回 Dealing with Customers (requests)
- 1 0 回 Dealing with Customers (food orders)
- 1 1 回 Dealing with Customers (complaints and intentions)
- 1 2 回 Discussing Prices and Rates
- 1 3 回 Discussing Prices and Rates
- 1 4 回 Discussing Prices and Rates
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況 (宿題 / 小テスト含む) ... 50% 中期 / 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習 A 【夜】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年夜間主クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①与えられた日本語に相当する英文を作文するトレーニングを行う。受講者にはその時点で持っている英語の知識をフルに使って、正確な英文を書くことが求められる。
- ②基礎的な英語力を高め、英単語や構文や文法的な事柄に関する正確な知識を出来るだけ増やし、英作文に使える英語の「引き出し」を増やす。
- ③日本語の文章が、フォーマルなものか、インフォーマルなものか、カジュアルなものかにより、英作文をする際、訳し分ける。なお、教職を目指す学生が、一定数存在していることも考慮し、牧雅夫早稲田大学名誉教授の下記の教科書を選んだ。

教科書 /Textbooks

牧雅夫著 大学応用英作文(北星堂) ※変更の可能性あり

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記の教科書を、毎回1章ずつ進む予定である。

- 1回 導入
- 2回 第一章。【動詞+方位語】
- 3回 第二章。【動詞+方位語+目的語】
- 4回 第三章。【be+方位語】
- 5回 第四章。【be+不定詞to...】
- 6回 第五章。【「・・・するために」の不定詞to...】
- 7回 第六章。【名詞+不定詞to...】
- 8回 第七章。【関係代名詞who / which】
- 9回 第八章。【関係代名詞what】
- 10回 第九章。【関係副詞where】
- 11回 第十章。【「・・・に足りるほどの(数量・程度)」enough】
- 12回 第十一章。【過度→不可能のtoo】
- 13回 第十二章。【同・不同の言い方】
- 14回 第十三章。【比較級と最上級】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 期末試験 ...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をやること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学概論 【夜】

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 英語学に関する基礎知識の習得。

教科書 /Textbooks
 『英語学概論 - 三大文法の流れと特徴 - 』朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 K. Takami(1992)等。講義中に別途指示、またはプリントを配布する。
 『英語学へのファーストステップ』有村 (他) 英宝社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 文は単語の配列で構成されているが、単語と単語の関係は線の順序だけではなく、階層的關係が存在することを理解してもらう。

- 1回 ガイダンス
- 2回 言語学の諸分野
- 3回 歴史比較言語学によるインド=ヨーロッパ祖語の再構築及び英語史の概略説明
- 4回 英文法の歴史の概略説明 (規範文法から記述文法への流れ)
- 5回 音声と音素
- 6回 語と形態素
- 7回 アメリカ構造主義による複数個の形態素から成り立つ語のIC分析
- 8回 伝統文法、アメリカ構造主義、生成文法における、それぞれの語の分類方法
- 9回 統語論その1 (品詞の分類に基づいた伝統文法における統語構造の分析方法とアメリカ構造主義における統語構造のIC分析の欠点、利点)
- 10回 統語論その2 (生成文法における統語構造の分析方法)
- 11回 意味論 (オグデン、リチャーズの意味の三角形の概略説明等)
- 12回 認知言語学の概略説明
- 13回 S. Kuno等が提案している機能文法の概略説明 (前置詞残留現象を例に取り)
- 14回 述語が持つ項構造 (不定詞等に見られる発音されない意味上の主語を仮定する根拠の概略説明)
- 15回 まとめ

10回程度、講義の終わりに小テストを行う。

成績評価の方法 /Assessment Method
 試験40% 小テスト20% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法I【夜】

担当者名 /Instructor 田村 水幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に英語教育を目指す人を対象に、英語の仕組みそのものを平易な切り口で理解してもらうことを目的とする。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal著 Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Types of sentences
- 3 回 Clause types
- 4 回 The verb element, The subject element
- 5 回 The object element, The complement element
- 6 回 The adverbial element
- 7 回 Verb phrase structure
- 8 回 Finite and nonfinite
- 9 回 Auxiliary verbs
- 1 0 回 The moods of the verb phrase
- 1 1 回 Active and passive
- 1 2 回 Verb tenses
- 1 3 回 Verb aspects
- 1 4 回 Modal meanings
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 80% 参加状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習 A 【夜】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年夜間主クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

オーディオ教材を利用してリスニングスキルの上達を目的とした授業を行う。ニュースの映像を扱ったDVD教材を用い、語彙、表現、聴き取り等の練習を行なう。特に必要な情報を聴き取る練習に重点を置く。

教科書 /Textbooks

Yukitoshi Watanabe他著 『CBS News Flash on DVD2』 (成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Chapter 1 Security for inauguration
- 3 回 Chapter 2 President's first day
- 4 回 Chapter 3 Auto sales
- 5 回 Chapter 4 Leading by example
- 6 回 Chapter 5 Behind Wall Street bonuses
- 7 回 Chapter 6 Six years later in Iraq
- 8 回 Chapter 7 Giving
- 9 回 Chapter 8 Rising rivers
- 10 回 Chapter 9 Commercial real estate
- 11 回 Chapter 10 China's economy
- 12 回 Chapter 11 Emergency room visits
- 13 回 Chapter 12 Looking up
- 14 回 Chapter 13 Selling gold
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習B 【夜】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年夜間主クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1) 両面から物事を考えるdebate的視点を訓練し、あらゆるテーマを理論的に考え、口頭で自分の立場をはっきりと表現していく方法を学習する。
- (2) 国際的問題に目を向け、環境問題、人権問題など、さまざまな社会問題を読み、自分の意見や批評が論理的に話せるようにする。

教科書 /Textbooks

Debating Current Issues by Toru Nishimoto & Beryl Hawkins published by Seibido

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

価値観の衝突する2方向のargumentを理解し、ディベートを行う中で、論理的な思考を深め表現するん方法を学んでいく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方とディベートのやり方、新聞記事の要約の仕方を説明。ディベートの割り当てを決める。
- 第2回 “Cell Phones”をディベートする。
- 第3回 “Student Evaluations”をディベートする。
- 第4回 “The gender Gap”をディベートする。
- 第5回 “Japanese Manga and Anime”をディベートする。
- 第6回 “Global Food Shortage”をディベートする。
- 第7回 “The Oil Crisis”をディベートする。
- 第8回 “The True Spirit of the Olympics”をディベートする。
- 第9回 “Global Population Growth”をディベートする。
- 第10回 “Robots”をディベートする。
- 第11回 “The Internet”をディベートする。
- 第12回 “New York Styles”をディベートする。
- 第13回 “Handling Stress”をディベートする。
- 第14回 “Management Positions”をディベートする。
- 第15回 Review Exercises

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト 80点
ディベートの評価点 20点
欠席は3回までしか認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【夜】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 2年夜間主クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners with a range of idiomatic expressions with their socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, they will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

The text to be read each term will be chosen each semester by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 5 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 6 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 7 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 8 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 9 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 0 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 1 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 5 回 Review of the key elements of the work in preparation for the final examination

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly homework 35% Weekly participation 15% Final examination 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read at least 10 pages of authentic English each week and complete the accompanying homework assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Reading and Discussion I 【夜】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 2年夜間主クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners with a range of idiomatic expressions with their socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, they will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

The text to be read each term will be chosen each semester by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 5 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 6 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 7 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 8 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 9 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 0 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 1 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 2 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 3 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 4 回 Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 5 回 Review of the key elements of the work in preparation for the final examination

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly homework 35% Weekly participation 15% Final examination 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read at least 10 pages of authentic English each week and complete the accompanying homework assignments.

Reading and Discussion II 【夜】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習B 【夜】

担当者名 /Instructor 江口 雅子 / EGUCHI MASAKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年夜間主クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ映画『海辺の家』(Life as a House, 2001)の脚本を使用して、映像を鑑賞するなかで、生きたスピード感のある口語的表現を学び、リスニング能力のいっそうの向上をめざす。現代アメリカ文化の理解を視野に入れる。

教科書 /Textbooks

Life as a House (英宝社)
edited with notes by Motoko Aimoto et al.

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要なものは授業中に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 Unit 1 海辺のボロ家、サムと継父 (消える音(1))
- 3回 Unit 2 母親の悩み、リストラ (消える音(2))
- 4回 Unit 3 人のぬくもり、ジョージの決意 (応答の予測)
- 5回 Unit 4 崖からジャンプ (1つになる音)
- 6回 Unit 5 思い出の家 (音の短縮)
- 7回 Unit 6 庭の冷水シャワー (つながる音(1))
- 8回 Unit 7 父子の和解 (つながる音(2))
- 9回 Unit 8 建築開始、懐かしの曲 (無声化する音)
- 10回 Unit 9 おやじが起こした交通事故 (有声化する音)
- 11回 Unit 10 まだ愛してる (弱くなる音)
- 12回 Unit 11 病気は背中じゃない (音の弱形)
- 13回 Unit 12 サムへの告白、トラブル (音の強形)
- 14回 Unit 13 倒れるジョージ、あと、もう少し…、自分の人生を (区別しにくい音)
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況…30% 期末試験…70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

リスニングの学習の場合、特に復習を必須とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語スピーキング演習【夜】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor
アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年夜間主クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語スピーキング演習 aims to develop speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English language patterns and using them to generate accurate and efficient spoken personal expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

David Paul, Further Communication Strategies (Thomson, 2004)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Attitudes
- 2回 Money
- 3回 Health
- 4回 Education
- 5回 Crime
- 6回 The Environment
- 7回 Aliens
- 8回 History
- 9回 Women in Society
- 10回 The Developing World
- 11回 Violence
- 12回 Politics
- 13回 Economics
- 14回 Happiness
- 15回 Globalization

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework Assignments (60%) Oral Presentation (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習I【夜】

担当者名 /Instructor 田吹 長彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 3年夜間主クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ: 「イギリス・ロマン派とスイス」
風光明媚なスイスを背景に、Lord Byronを中心とするイギリス・ロマン派の作家の動向を探索する。産業革命・フランス革命・ナポレオン戦争といった激動の時代を経てスイスを旅した人々の中にByron、P.B.Shelley、Mary Shelley、William Polidoriなどがいる。テキストの背景は、スイスのBaselから入国、同国内各地を旅してイタリアとの国境にあるSimplon峠まで、現在の観光地をほぼ網羅する。内容には名所旧蹟・風物・歴史・文化なども含む。「英語リーディング演習I」では主にスイス・レマン湖畔西部およびChamonix-Mont-Blanc地方を背景とする部分の動向について精読する。

教科書 /Textbooks

Elma Dangerfield: Byron and the Romantics in Switzerland.
テキストについては授業の冒頭で説明する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

和書
○ 上杉文世 『バイロン研究』 研究社
○ 楠本哲夫 『永遠の巡礼詩人バイロン』 三省堂
○ 阿部知二 『バイロン』 研究社
○ 田吹長彦 『ヨーロッパ夢紀行、詩人バイロンの旅—ベルギー・ライン河・スイス編』 丸善出版サービスセンター
原書は多数あるが授業で必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のテキストを精読。各種の映像・地図などを必要に応じて随時活用する予定。
テキストは全部で約100ページ(挿入画等を含む)があるが、「英語リーディング演習I」では、その前半を授業コマ数に分けて精読する予定。
語学力増強のために、各授業の確実な予習をすること。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(出席率・欠席回数・遅刻回数・予習・積極性・理解度を含む)...30% 期末試験...70%。
なお授業開講回数の2/3以上の出席回数がないと単位認定作業ができないので十分注意して下さい

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習B 【夜】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年夜間主クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop students' practical writing skills. Develop basic skills in essay writing in preparation for writing academic papers. Starting with paragraphs of various types, we will work up to full essays.

教科書 /Textbooks

Success with College Writing: From Paragraphs to Essay. Zemach & Rumisek. Macmillan LanguageHouse. 2003.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – Writing Methods
- 2 回 Punctuation and Grammar Review
- 3 回 Pre-writing: Gathering Ideas and Narrowing a Topic
- 4 回 Paragraph Structure
- 5 回 Paragraph Development
- 6 回 Descriptive and Process Paragraphs
- 7 回 Opinion Paragraphs
- 8 回 Comparison / Contrast Paragraphs
- 9 回 Problem / Solution Paragraphs
- 1 0 回 Essay Structure
- 1 1 回 Outlining an Essay: Purpose and Style
- 1 2 回 Introductions and Conclusions: Purpose and Information Types
- 1 3 回 Essay Unity: Creating Coherence
- 1 4 回 Essays for Examinations
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40 % Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review previous week's material. Read the introductory material for the coming week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語演習【夜】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年夜間主クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of cross-cultural communication as a businessperson, and (2) to help you develop your business presentation in English.

教科書 /Textbooks

Mary Munter. "Cross-Cultural Communication for Managers". Business Horizons.
(当方で配布します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Harvard Business essentials. "Business Communication".
Edward T. Hall. "Hidden Differences" Anchor Books.
八代京子他. "異文化コミュニケーションワークブック". 三修社
Mary Munter. "Guide to Managerial communication". Prentice Hall.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: setting communication objective
Session 3: choosing a communication style
Session 4: assenting and enhancing credibility
Session 5: selecting and motivating audiences
Session 6: setting a message strategy
Session 7: overcoming language difficulties
Session 8: using appropriate nonverbal behaviors
Session 9: mid-term quiz
Session10: presentation competition: country presentation1
Session11: presentation competition: country presentation2
Session12: negotiations role-play: transnational manager assignment1
Session13: negotiations role-play: transnational manager assignment2
Session14: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China1
Session15: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China2

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation:(weight 20%): class participation will be evaluated on attendance and attentive.
Class quiz:(weight 30%): this will occur midway through the course.
Presentation:(weight 40%):you will be assigned make a presentation on cross-cultural management and case of negotiation.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グローバルに活躍する多国籍企業に興味を持っていただき、他の企業、経営関係の科目を受講していれば、この講義をさらに深く理解できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究I (音声学・音韻論) 【夜】

担当者名 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

音声学・音韻論の基礎知識を学ぶとともに、実践的な訓練により、英語の正しい発音を習得する。
英語の強勢、リズム、イントネーションについても学び、英語らしい英語の音声について明らかにする。

教科書 /Textbooks

堀口俊一監修、加賀屋弘司、矢田裕士、野田哲雄著 『現代英語音声学』 英潮社ファニックス

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてプリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction 音声学・音韻論の定義、IPA
- 2回 発声メカニズム、母音の種類(1)
- 3回 母音の種類(2)、二重母音
- 4回 子音の種類(1)鼻音、閉鎖音
- 5回 子音の種類(2)摩擦音
- 6回 子音の種類(3)破擦音、側音、半母音
- 7回 紛らわしい子音、紛らわしい母音
- 8回 音の強勢
- 9回 音の縮小、同時調音
- 10回 リズム
- 11回 イントネーション(1)
- 12回 イントネーション(2)
- 13回 音響音声学
- 14回 音変化
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、提出物 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

カセットテープおよびUSBメモリを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究II (統語論) 【夜】

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語と英語の統語構造の違い。

教科書 /Textbooks

特に無し。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 英語と日本語の統語構造の違い
- 3回 英語と日本語の統語構造の違い
- 4回 理論的背景の概要
- 5回 語彙範疇①
- 6回 語彙範疇②
- 7回 語彙範疇③
- 8回 機能範疇①
- 9回 機能範疇②
- 10回 機能範疇③
- 11回 語彙範疇と機能範疇の違い
- 12回 英語と日本語の統語構造の違いの理論的説明
- 13回 英語と日本語の統語構造の違いの理論的説明
- 14回 理論的説明における問題点等の指摘
- 15回 まとめ

全講義回数の8割程度の割合で、講義終了前に小テストを行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 40 % 小テスト... 20% レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語史【夜】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

担当者名 /Instructor 松崎 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講座では、国際語としての地位を確立したといえる英語の、その誕生（5世紀）から近世（16世紀）に至るまでの歴史を概観する。特に、他のヨーロッパ諸言語と比べて現代英語の際立った特徴とされる（1）語彙の豊富さ（2）語尾変化の少なさ、の2点に焦点を当て、こうした特徴がフランス語を中心とした諸外国語の影響によるものが大きいことを、具体例を通して概観し、英語の発達の歴史はいわば異質の言語・文化との交流の歴史であることを学んでいく。

教科書 /Textbooks

見馬修『ファンダメンタル英語史』ひつじ書房、1996年、1500円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバス配布 & 英語史導入問題の解答と解説
- 2回 はしがき & はじめに【外面史】、【内面史】
- 3回 英語史の概観（1）【アングロサクソン人】
- 4回 英語史の概観（2）【ケルト人】
- 5回 印欧祖語（1）【ウィリアム・ジョーンズ】
- 6回 印欧祖語（2）【印欧語族】
- 7回 古英語の文献・特殊文字（1）【ルーン文字】、【ローマンアルファベット】
- 8回 古英語の文献・特殊文字（2）【古英語】
- 9回 海賊と英語（1）【ヴァイキング】
- 10回 海賊と英語（2）【借用語】
- 11回 海賊と英語（3）【地名】
- 12回 ノルマン人の征服と英語（1）【ノルマン人の征服】
- 13回 ノルマン人の征服と英語（2）【英語の危機】
- 14回 ノルマン人の征服と英語（3）【フランス語借用語】
- 15回 まとめ～英語史を学んで～

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎講義の冒頭に前回の講義内容に関する質問を受講生に口頭でおこなうので、講義開始時までに前回の講義内容を復習しておくこと。この口頭質問は重要なクラス活動と位置づけるので、平常点として成績評価の対象とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究 【夜】

担当者名 /Instructor 江口 雅子 / EGUCHI MASAKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義はアメリカ文化を様々な視点から検討します。独立宣言、政治演説など、多数の歴史的資料を取り上げることを通して、アメリカが辿ってきた道、そして現代における意義を検証していきます。

教科書 /Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要なものは授業中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 The New World
- 3回 The Original Colonies
- 4回 British Influence
- 5回 Early Expansion to the Mississippi
- 6回 The Moving Frontier
- 7回 【The Civil War】 and the 【Civil Rights Movement】
- 8回 The US System of 【Government】
- 9回 The Second World War
- 10回 The 1960s Counterculture
- 11回 Economic Values
- 12回 Lifestyle
- 13回 Popular Culture
- 14回 Continuing 【Immigration】
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：60% 課題：0% 態度：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The course will be taught using a combination of English and Japanese. Lecture notes will be provided to aid student review.
The examination will be in Japanese but will include some English vocabulary.
Students are expected to read the English-language textbook chapter relating to each week's topic to gain historical background information so as to fully appreciate the lecture.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究【夜】

担当者名 /Instructor 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

映画や文学、新聞を中心にイギリスの文化を読み解く。階級、ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティ、宗教、王室等をキーワードとして、歴史的な視点、現代的な視点の両方から考えてみたい。

教科書 /Textbooks

特に中心とするテキストはないが、必要に応じてプリント資料を用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

担当教員が、各テーマ毎に参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 映画『キンキーブーツ』を題材に、ジェンダー / セクシュアリティとイギリス経済について考える。(その1) ジェンダーとセクシュアリティ
【ジェンダー】【セクシュアリティ】【ファッション】【市場経済】
- 2回 映画『キンキーブーツ』を題材にジェンダー / セクシュアリティとイギリス経済について考える。(その2) ファッション
【ジェンダー】【セクシュアリティ】【ファッション】【市場経済】
- 3回 映画『キンキーブーツ』を題材に、ジェンダー / セクシュアリティとイギリス経済について考える。(その3) 経済
- 4回 イギリスにおける宗教その歴史と現代。
(その1) カトリックと中世
【プロテスタント】【カトリック】【イスラム】【資本主義】【中世】【近代】【現代】
- 5回 イギリスにおける宗教その歴史と現代。
(その2) プロテスタントと資本主義
【プロテスタント】【カトリック】【イスラム】【資本主義】【中世】【近代】【現代】
- 6回 イギリスにおける宗教その歴史と現代。
(その3) エスニックマイノリティとイスラム教
【プロテスタント】【カトリック】【イスラム】【資本主義】【中世】【近代】【現代】
- 7回 『プラス!』(あるいは『リトルダンサー』)を題材にイギリスの炭鉱問題、労働者問題について考える。(その1) 階級
【炭鉱経済】【労働者】【階級】【言語】
- 8回 『プラス!』(あるいは『リトルダンサー』)を題材にイギリスの炭鉱問題、労働者問題について考える。(その2) 労働者と言語
【炭鉱経済】【労働者】【階級】【言語】
- 9回 『プラス!』(あるいは『リトルダンサー』)を題材にイギリスの炭鉱問題、労働者問題について考える。(その3) 石炭経済
【炭鉱経済】【労働者】【階級】【言語】
- 10回 イギリスの王室とメディアについて考える。
【王室】【大衆】【新聞】【テレビ】
- 11回 「ロンドンに世界を集めること」の意味について考える。
(その1) ロンドンオリンピック、ロンドン万博
【オリンピック】【万博】【デパート】【動植物園】【図鑑】
- 12回 「ロンドンに世界を集めること」の意味について考える。
(その2) デパート、ロンドン動物園、キューガーデン、図鑑
【オリンピック】【万博】【デパート】【動植物園】【図鑑】
- 13回 映画『ベッカムに恋して』を題材にイギリス社会とエスニシティの問題について考える。(その1) エスニシティ
【エスニシティ】【ホモソーシャルボンド】【ジェンダー】
- 14回 映画『ベッカムに恋して』を題材にイギリス社会とエスニシティの問題について考える。(その2) ホモソーシャルボンド
【エスニシティ】【ホモソーシャルボンド】【ジェンダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業コメント含む)... 25% 課題... 0~25% 期末試験... 50~75%

イギリス研究 【夜】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英米学科の教育の柱として、「語学力の養成」、「英語のこころを学ぶ」、「英語の先にある世界を学ぶ」を挙げることができます。この授業は、このうち「英語のこころ」を学ぶために用意されたものです。まずは比較文化学の方法論を踏まえ、異文化を読み解くにはどのようなことに注意を払えばよいのかを確認します。それに続いて、英語文化の背後にあるイギリス、アメリカの文化を見つめ、さらに英米以外の英語圏の国々についても理解を深めたいと思います。最後に、それによってあきらかとされてきた日本文化のさまざまな特質を、英語で語る練習をしてみたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。授業の中でプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で折に触れて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文化を読み解くとは？3つの「赤ずきんちゃん」を比較します。
- 2回 イギリスとアメリカの素顔を知る。
- 3回 マザーグースと児童文学
- 4回 中世演劇に見るユーモア精神
- 5回～ 6回 シェイクスピア
- 7回～ 8回 アメリカ音楽の系譜
- 9回～ 10回 イギリス音楽の系譜
- 11回 聖地デイズニーランド
- 12回～ 13回 英語圏諸国の素顔
- 14回 日本文化を英語で語ろう。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験の成績のみで評価します。ただし、欠席が極端に多い、あるいは授業時間数の半分以上欠席の人は不可、もしくは極端に低い評価とします。逆にすべて、もしくはほとんどすべて出席している人には、ボーナス点を加点します。したがって、割合では表示しにくいのですが、出席を非常に重視していると理解して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この授業は、予習を前提に考えていませんので、特に何か準備をして臨んでいただく必要はありません。しかし、復習は十分にさせていただきたいです。授業の中で配布するプリントを読み直し、できればそれをもとに、自分なりにさらにリサーチを続けていただければと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced Reading and Discussion 【夜】

担当者名 /Instructor 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年夜間主クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代のさまざまな問題に関する英文をよみ、それらの原因、解決策について討論できるための英語コミュニケーション力を養成する。また、リサーチの内容を英語でプレゼンテーションする能力も養成する。授業は主に英語で行う。

教科書 /Textbooks

David Peaty 著 You, Me and the World 金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書を持参すること

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course
- 2回 Waste and Recycling
- 3回 Endangered Species, Rainforests
- 4回 Global Warming
- 5回 Presentation #1 Environment
- 6回 Energy
- 7回 Developing Countries
- 8回 Human Rights
- 9回 Presentation #2 Advanced countries vs. developing countries
- 10回 Tourism
- 11回 Peace and Conflict
- 12回 Gender Issues
- 13回 Refugees
- 14回 Presentation #3 Promotion of world peace
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、討論参加、プレゼンテーション 60% 期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に討論ができるように予習を行っておくこと。プレゼンテーションにはパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行うので、USBメモリなどの媒体を準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語研究【夜】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ビジネスの初歩的な外書を講読する事で、ビジネス、経済用語に慣れ、さらに高いレベルのビジネス関係洋書を読む為の準備とする。3年次以降に国際金融、国際貿易、国際経済を受講する予定の方はこのコースを強く勧める。

教科書 /Textbooks

Daniel R. Fusfeld. "The Age of the Economist". 洋版出版
(テキストはこちらで用意します)
授業で適宜通知する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: fundamentals of Economics1
Session 3: fundamentals of Economics2
Session 4: fundamentals of Economics3
Session 5: fundamentals of Economics4
Session 6: chapter 1 of The Age of Economist
Session 7: chapter 2 of The Age of Economist
Session 8: chapter 3 of The Age of Economist
Session 9: chapter 4 of The Age of Economist
Session 10:chapter 5 of The Age of Economist
Session 11:chapter 6 of The Age of Economist
Session 12:chapter 7 of The Age of Economist
Session 13:chapter 8 of The Age of Economist
Session 14:chapter 9 of The Age of Economist
Session 15:chapter 10 of The Age of Economist

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 10 Presentation:30 Midterm quiz:20 Final examination : 40

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミ AI 【夜】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリス小説の翻訳テキストを分析し、翻訳方法、鑑賞の仕方を体得する。

教科書 /Textbooks

1学期はIan McEwanの代表作Atonementを扱う。
2学期はJames Joyceの代表作A Portrait of the Artist as a Young Manを扱う。
イアン・マキューアン『贖罪』（新潮社）
ジェイムズ・ジョイス『若い芸術家の肖像』（新潮文庫）
その他適宜プリントを配布してテキストとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 序論
- 2回 pp.6 - 41.
- 3回 pp.42 - 76.
- 4回 pp.77 - 111.
- 5回 pp.112 - 146.
- 6回 pp.147 - 181.
- 7回 pp.182 - 216.
- 8回 pp.217 - 251.
- 9回 pp.252 - 286.
- 10回 pp.287 - 321.
- 11回 pp.322 - 356.
- 12回 pp.357 - 391.
- 13回 pp.392 - 426.
- 14回 pp.427 - 439.
- 15回 結論とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% 課題...80% 期末試験...しない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをしっかりと読み込んでおく。議長と発表者として議論の展開に積極的にとりくんでもらう。各学期課題にword file (2、800字) で回答する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミAI 【夜】

担当者名 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分の考え等を表現する領域（話し言葉・書き言葉を含む）に関する知識・技術の獲得に関することを目標にする。通訳訓練に関する一般的な技術にふれた後、関連する科目との融合・強化について説明して、実習等を通して自分の経験則をつくることも目的とする。
メディア機器との連携を通して、字幕翻訳や音声録音の方法など実際に英語が利用されている場面を想定して総合的な学習を念頭におく。原則として3年次のゼミは毎回の授業は教材を用いた解説・練習のセクションとトピック毎の実演デモのセクションの二部構成からなる。

教科書 /Textbooks

『ウイスパリング同時通訳』 柴田バネッサ著 南雲堂
『通訳・翻訳』 月間誌 イカロス出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Lesson 1+英語ニュースの口頭要約（日本語）練習
- 2回 Lesson 2+英語ニュースの口頭要約（英語文）練習
- 3回 Lesson 3+reproduction, retentionの説明と練習
- 4回 Lesson 4+summarizing, paraphrasingの説明と練習
- 5回 Lesson 5+「発想」の違いの発見的学習の説明と練習
- 6回 Lesson 6+Shadowingの説明と練習
- 7回 Lesson 7+Whisperingの説明と練習
- 8回 同時通訳もしくは逐次通訳講演会の見学とその課題検討
- 9回 Lesson 8, 9+デジタル録音による訳文吹き込みの実演と課題検討
- 10回 Lesson 10+日本の文化用語の英語による説明の練習
- 11回 Lesson 11+制限時間枠での英語原文のrewritingの説明と練習
- 12回 Lesson 12+BS放送を聴きながらのnote takingの方法と練習
- 13回 Lesson 13+note takingと英文速記の違いと練習
- 14回 Lesson 14+テープ録音（日本語）を聞いてのnumbering方式の要約の練習
- 15回 まとめとプロジェクト（夏休み用）の説明及び前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト課題...40% + 試験...60%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『英語プレゼンテーション演習』などの表現を扱う専門科目を同時か前もって履修しておく
学習効果があがる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究ゼミAI 【夜】

担当者名 /Instructor
デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The American Studies Seminar offers an opportunity to conduct research on topics related to American history, culture, literature, and media, including film and television. Range of topics include immigrants, race & ethnicity; role of religion; family, gender & rise of feminism; influence of media and the arts; subcultures & dissident movements.

Background readings and discussion in the 1st semester focus on the relation between America today and early history, beginning with period of discovery and exploration and first settlements. significant events and figures, and will consider origin and place of American ideals (freedom, individualism, equality, pioneering) as Americans emerged as nation.

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – America today
- 2 回 Europe and the Americas – era of discovery and exploration
- 3 回 Settlement
- 4 回 Colonization
- 5 回 Religion and early ideals
- 6 回 Native Americans
- 7 回 African Americans
- 8 回 Growing Diversity
- 9 回 A New People?
- 1 0 回 Presentations and discussion
- 1 1 回 Presentations and discussion
- 1 2 回 Presentations and discussion
- 1 3 回 Presentations and discussion
- 1 4 回 Presentations and discussion
- 1 5 回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 30 % Preparation ... 30 % Presentation & Final essay ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミAI 【夜】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期では言葉の変化とバリエーションを扱う代表的な研究（英語、日本語、その他）を紹介・解説し、変化や変異を引き起こす社会的要因や言語的要因を学びます。また方法論にも重点を置き、インフォ・マントの選定、データ収集の方法、データの分析方法、結果の提示方法など、実際に言語調査を行うための基礎知識を学びます。

教科書 /Textbooks

○中尾俊夫他. (1997). 『社会言語学概論-日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』くろしお出版.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○田中春美他. (1996). 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 社会言語学とは
- 3回～4回 イギリス英語のバリエーション
- 5回～6回 アメリカ英語のバリエーション
- 7回 オーストラリア英語のバリエーション
- 8回 調査方法
- 9回 会話データ収集
- 10回 会話データ書き起こし
- 12回 データのコーディング・分析
- 13回 アンケート作成
- 14回 ディスカッション
- 15回 レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表50%、ゼミ論文50%。出席・授業への参加状況も考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『社会言語学研究』を既に受講した場合は、本ゼミの理解がより深いものとなる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミ AII 【夜】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリス小説の翻訳テキストを分析し、翻訳方法、鑑賞の仕方を体得する。

教科書 /Textbooks

1学期はIan McEwanの代表作Atonementを扱う。
2学期はJames Joyceの代表作A Portrait of the Artist as a Young Manを扱う。
イアン・マキューアン『贖罪』（新潮社）
ジェイムズ・ジョイス『若い芸術家の肖像』（新潮文庫）
その他適宜プリントを配布してテキストとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 序論
- 2回 pp.5 - 37.
- 3回 pp.38 - 70.
- 4回 pp.71 - 103.
- 5回 pp.104 - 136.
- 6回 pp.137 - 169.
- 7回 pp.170 - 202.
- 8回 pp.203 - 235.
- 9回 pp.236 - 268.
- 10回 pp.269 - 301.
- 11回 pp.302 - 334.
- 12回 pp.335 - 367.
- 13回 pp.368 - 396.
- 14回 全体の技法分析
- 15回 結論とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% 課題...80% 期末試験...しない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをしっかりと読み込んでおく。議長と発表者として議論の展開に積極的にとりこんでもらう。各学期課題にword file (2、800字) で回答する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミAII 【夜】

担当者名 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分の考え等を表現する領域（話し言葉・書き言葉を含む）に関する知識・技術の獲得に関することを目標とする。通訳訓練に関する一般的な技術にふれた後、関連する科目との融合・強化について説明して、実習等を通して自分の経験則をつくることも目的とする。
メディア機器との連携を通して、字幕翻訳や音声録音の方法など実際に英語が利用されている場面を想定して総合的な学習を念頭におく。原則として、3年次のゼミは、毎回の授業が教材を用いた解説・練習のセクションと実演・デモのセクションの二部構成でなされる。

教科書 /Textbooks

『ウイスパリング同時通訳』 柴田バネッサ著 南雲堂
『通訳・翻訳』 月間誌 イカロス出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Lesson 15+テープ録音（英語）を聞いてnumbering方式に要約する練習
- 2 回 Lesson 16+ビジネス文書（Eメール文を含む）の説明と練習
- 3 回 Lesson 17+指定された課題文に対する質問事項の設定の仕方と練習
- 4 回 Lesson 18+presentationの方法の解説と練習(1)
- 5 回 Lesson 19+presentationの方法の解説と練習(2)
- 6 回 Presentationの実習とその反省課題の検討
- 7 回 Lesson 20+「テープ起し」の説明と練習
- 8 回 音声教材を用いた「区切り聞き」と「区切り訳」の説明と練習
- 9 回 工夫した語彙の増やし方（vocabulary building）の説明と練習
- 10 回 readingの各種練習の説明と実習（速読、黙読、音読の比較）
- 11 回 映像翻訳の説明と練習(1)
- 12 回 映像翻訳の説明と練習(2)
- 13 回 listeningの各種練習と実習（voice over, shadowing, whisperingの比較）
- 14 回 TOEIC, TOEFL, 英検 1級、通訳ガイド試験の対策の立て方の構築について
- 15 回 春休みのプロジェクト課題の説明および後期内容の要約

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト課題...40% + 試験...60%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『英語プレゼンテーション演習』などの表現をあらかじめ専門科目を同時か前もって履修しておくこと学習効果があがる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究ゼミAll 【夜】

担当者名 /Instructor
デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The American Studies Seminar offers students opportunity to conduct research in wide range of subjects related to American history and culture: the role of immigration; ethnicity; race; religion; education: political system; family, gender & rise of feminism; impact of technology; the arts, literature, media (movies, television, music); leisure and sports; impact of violence; subcultures.
2nd Semester: Readings and discussion focus on Revolution, westward movement, conflict between North and South, Civil War, technology and news media, and growing role of the United States in global context.

教科書 /Textbooks

For background discussion printed materials will be provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Revolution
- 3回 A New Nation
- 4回 The Age of Jackson
- 5回 North and South
- 6回 The Civil War
- 7回 Industrialization
- 8回 Immigration
- 9回 Expansionism
- 10回 Presentations and discussion
- 11回 Presentations and discussion
- 12回 Presentations and discussion
- 13回 Presentations and discussion
- 14回 Presentations and discussion
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 30% Preparation ... 30% Presentation & Essay ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミAII 【夜】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期で言葉の変化とバリエーションを扱う代表的な研究や方法論を学んだ上で、後期は学生が各自テーマを決め、自分達で言語調査を行ないます。授業時に言語データの収集方法や分析方法、調査結果を発表し、その内容について全員で議論します。

教科書 /Textbooks

○中尾俊夫他. (1997). 『社会言語学概論-日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』くろしお出版.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○田中春美他. (1996). 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 3年後期の言語調査プロジェクト
- 3回 研究発表の仕方
- 4回 文献検索
- 5回 プロジェクトのテーマ発表
- 6回～7回 学生による研究発表(第1回)
- 8回 日本語の論文を読む
- 9回～10回 学生による研究発表(第2回)
- 11回 レポートの書き方
- 12回～13回 学生による研究発表(第3回)
- 14回 ディスカッション
- 15回 まとめ、ゼミレポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表50%、ゼミ論文50%。出席・授業への参加状況も考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『社会言語学研究』を既に受講した場合は、本ゼミの理解がより深いものとなる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学ゼミBI【夜】

担当者名 北峯 裕士 / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

個別に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者の研究経過を発表してもらう。そのため、具体的記載不能。

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究経過の発表①
- 3回 研究経過の発表②
- 4回 研究経過の発表③
- 5回 研究経過の発表④
- 6回 研究経過の発表⑤
- 7回 研究経過の発表⑥
- 8回 研究経過の発表⑦
- 9回 研究経過の発表⑧
- 10回 研究経過の発表⑨
- 11回 研究経過の発表⑩
- 12回 研究経過の発表⑪
- 13回 研究経過の発表⑫
- 14回 研究経過の発表⑬
- 15回 研究経過の発表⑭

成績評価の方法 /Assessment Method

研究経過... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミBI 【夜】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカのミュージカル映画研究が目的である。資料の分析と発表が主体になる。

教科書 /Textbooks

プリントが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 ミュージカル映画成立以前～1940年代まで
- 3回 1950年代のミュージカル映画【アイクの時代】【保守主義】【アメリカ的生活様式】
- 4回 1950年代のミュージカル映画【ファム・アンファンI】
- 5回 1950年代のミュージカル映画【ファム・アンファンII】
- 6回 1950年代のミュージカル映画【ファム・アンファンIII】
- 7回 1950年代のミュージカル映画【MGMミュージカル】
- 8回 1950年代のミュージカル映画【MGMミュージカルの終焉】
- 9回 1950年代のミュージカル映画【ロカビリーとエルヴィス・プレスリー】
- 10回 1950年代のミュージカル映画【ティーン文化の開花】
- 11回 1950年代のミュージカル映画【レナード・バーンスタインのアメリカ】
- 12回 1950年代のミュージカル映画【ディズニーのアニメーション】
- 13回 予備回
- 14回 予備回
- 15回 結び

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...50% エッセー...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンの時は、万全の準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBI 【夜】

担当者名 /Instructor
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

. Students will continue research and analysis of the social and cultural implications of words and phrases in making translations. Our goal will be an even deeper realization of problems in translating from Japanese to English followed by the application of methods for solution. Students will continue to focus on differences in grammar, culture, communication and writing styles while pursuing their research themes.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Instructor-led discussions.
- 3 回 Instructor-led discussions.
- 4 回 Instructor-led discussions.
- 5 回 Student-led discussion and presentation.
- 6 回 Workshop on individual materials for analysis and presentation.
- 7 回 Student-led discussion and presentation.
- 8 回 Student-led discussion and presentation.
- 9 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 0 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 1 回 Student-led discussion and presentation..
- 1 2 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 3 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 4 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 5 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students should choose materials for translations from Japanese to English and make presentations in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials and translations in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語教育ゼミBI 【夜】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will provide learners with an advanced treatment of key issues in task-based language teaching as they apply to effective teaching practice.

教科書 /Textbooks

Van den Branden, Bygate and Norris. 2009. Task-Based Language Teaching: A Reader

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Approaches to second language syllabus design
- 2回 Giving the learner space to acquire the language
- 3回 Project presentations and discussions
- 4回 Project presentations and discussions
- 5回 Project presentations and discussions
- 6回 The interactive demands of tasks
- 7回 Information distribution and goal orientation
- 8回 Research on pre-task planning time
- 9回 Research on task repetition
- 10回 Task repetition in a Japanese context
- 11回 Project presentations and discussions
- 12回 Project presentations and discussions
- 13回 Project presentations and discussions
- 14回 Learner contributions to task design
- 15回 Research on personal investment in task design

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations 50% Final report 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will be responsible for weekly homework, two presentation and a final report

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学ゼミBII【夜】

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

個別に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者の研究経過を発表してもらう。そのため、具体的記載不能。

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究経過の発表①
- 3回 研究経過の発表②
- 4回 研究経過の発表③
- 5回 研究経過の発表④
- 6回 研究経過の発表⑤
- 7回 研究経過の発表⑥
- 8回 研究経過の発表⑦
- 9回 研究経過の発表⑧
- 10回 研究経過の発表⑨
- 11回 研究経過の発表⑩
- 12回 研究経過の発表⑪
- 13回 研究経過の発表⑫
- 14回 研究経過の発表⑬
- 15回 研究経過の発表⑭

成績評価の方法 /Assessment Method

研究経過... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミII 【夜】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカのミュージカル映画研究が目的である。資料の分析と発表が主体になる。

教科書 /Textbooks

プリントが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 1960年代のミュージカル映画【ケネディの時代】【ヴェトナム戦争の時代】
- 3回 1960年代のミュージカル映画【『ウエスト・サイド・ストーリー』の周辺】
- 4回 1960年代のミュージカル映画【『マイ・フェア・レディ』の周辺】
- 5回 1960年代のミュージカル映画【『サウンド・オブ・ミュージック』の周辺】
- 6回 1960年代のミュージカル映画【プリティッシュ・インヴェイジョン】
- 7回 1960年代のミュージカル映画【ザ・ビートルズI】
- 8回 1960年代のミュージカル映画【ザ・ビートルズII】
- 9回 1960年代のミュージカル映画【パーミッシヴ・ソサイエティ】
- 10回 1960年代のミュージカル映画【人種の垣根から人種のサラダへ】
- 11回 1960年代のミュージカル映画【ロック文化】
- 12回 1960年代のミュージカル映画【ロック・ミュージカル】
- 13回 予備回
- 14回 予備回
- 15回 結び

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...50% エッセー...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンの時は、万全の準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBII 【夜】

担当者名 /Instructor
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In the second semester of this seminar we will continue research and analysis of the social and cultural implications of words and phrases in making translations. Students will continue to focus on differences in grammar, culture, communication and writing styles while pursuing their research themes. A second goal for the second term will be to nurture cultural and communicative competence through fieldwork exercises with exchange students and members of the international community

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and return of papers.
- 2 回 Instructor-led discussion and workshop
- 3 回 Instructor-led discussion and workshop
- 4 回 Instructor-led discussion and workshop
- 5 回 Instructor-led discussion and workshop.
- 6 回 Student presentations and discussion.
- 7 回 Student presentations and discussion.
- 8 回 Student presentations and discussion.
- 9 回 Student presentations and discussion.
- 1 0 回 Student presentations and discussion.
- 1 1 回 Student presentations and discussion.
- 1 2 回 Student presentations and discussion.
- 1 3 回 Student presentations and discussion
- 1 4 回 Student presentations and discussion
- 1 5 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students should choose materials for translations from Japanese to English and make presentations in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials and translations in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will provide learners with an advanced treatment of key issues in task-based language teaching as they apply to effective teaching practice.

教科書 /Textbooks

Van den Branden, Bygate and Norris. 2009. Task-Based Language Teaching: A Reader

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Task-based teaching and assessment
- 2回 Issues in task-centered language assessment
- 3回 Project presentations and discussions
- 4回 Project presentations and discussions
- 5回 Project presentations and discussions
- 6回 Language learning needs in a task-based approach
- 7回 Task-based needs analysis in a Japanese context
- 8回 Project presentations and discussions
- 9回 Project presentations and discussions
- 10回 Project presentations and discussions
- 11回 A framework for the implementation of task-based instruction
- 12回 Analyzing second language performance on tasks
- 13回 Project presentations and discussions
- 14回 Project presentations and discussions
- 15回 Project presentations and discussions

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations 75% Final report 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will be responsible for weekly homework, three presentation and a final report

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、「文化」という言葉を、ごく日常的に使う。「日本文化」「アメリカ文化」「中国文化」から、「若者文化」「大学文化」「会社文化」まで・・・何でも「文化」であり、どこにも「文化」がある、といったありさまである。そして私達はしばしば、「文化」と名づけられたものは、人間にとって良きものである、というイメージをいだきがちである。しかし、人間は「文化」という御旗をかかげて、互いに諍い、排除しあい、また殺しあうことすらある。「文化」とは、何か？ 本講義では、「文化」の否定的側面にも向き合いながら、人間にとっての「文化」について検討したい。 キーワード 【差異】【ことば】【他者】【アイデンティティ】【国民国家】

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。参考文献は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 「文化」とは何か？
- 1回 「文化」って、何でしょう？
 - 2回 「文化」という言葉に何を託そうとしてきたか：「文化」という概念の変容
 - 3回 「文化」を語る時代・近代
 - 4回 「文化」の発見：博物館という装置から
 - 5回 「文化」が違う、とはどういうことか：文化相対主義から
 - 6回 語られるものとしての「文化」
 - 7回 「文化」の学はいかに可能か？
- 第二部 語られる<沖縄>・語る<沖縄>：文化の政治性を問うために
- 8回 <沖縄>という場所と近代
 - 9回 <沖縄>の「文化」への視線：「日琉同祖」という物語
 - 10回 「詩の国・夢の国」という物語
 - 11回 「国語」と沖縄の桎梏
 - 12回 沖縄方言論争と<沖縄>の「文化」の位置
 - 13回 抗争する「文化」というアリーナ：「文化と政治」へ
 - 14回 まとめ
 - 15回 質問日

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポート... 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然科学のまなざし【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代において生命科学は広く社会に浸透・貢献しているとともに、遺伝子操作や生命操作等、生命倫理に新たな問題を投げかけている。本講では「生命科学と現代社会」をテーマとし、生命科学についての基礎教養を身につけるとともに、研究をとりまく社会や文化背景についての知識を身につけ、将来に向けた研究のあり方・考え方を学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東京大学生命科学教科書編集委員会『文系のための生命科学入門』羊土社2008年、福岡伸一『生物と無生物のあいだ』講談社2007年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 私たちの生活と遺伝子【遺伝】、【遺伝子】、【DNA】
 - 2回 生物の基本単位【細胞】、【核】
 - 3回 生命の誕生【ウイルス】、【DNA】、【進化】
 - 4回 遺伝子と染色体【細胞分裂】、【遺伝】、【ゲノム】
 - 5回 遺伝子の発見と研究の歴史(1)【DNA】、【RNA】、【タンパク質】
 - 6回 遺伝子の発見と研究の歴史(2)【転写】、【翻訳】
 - 7回 遺伝子操作の原理【遺伝子操作】
 - 8回 遺伝子と生命操作【ES細胞】、【iPS細胞】
 - 9回 医療分野における貢献(1)【がん】、【免疫】
 - 10回 医療分野における貢献(2)【生活習慣病】、【老化】
 - 11回 遺伝子と個人情報【DNA鑑定】、【遺伝子診断】
 - 12回 産業分野における貢献【遺伝子組換え作物】
 - 13回 生命観と生命科学研究【クローン胚】、【倫理】
 - 14回 娯楽作品にみる生命科学【映画】、【小説】、【クローン人間】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校生物を履修していない者は関連する項目について教科書や参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【夜】

担当者名 /Instructor 竹之下 芳也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、中国食品への化学物質の混入等で社会問題になっています。私たちの生活・環境にとって、化学物質は重大な関心事になっています。また、サプリメントの中には怪しい化学を歌っているものも多いです。このような中で、正しい判断力を磨くのも、現代人の資質だと思います。

教科書 /Textbooks

E.Jhon (渡邊正訳) 『逆説・化学物質...あなたの常識に挑戦する』 丸善 (1996) ¥2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R.Carson (青木梁一訳) 『沈黙の春』 新潮社 (1974年)
T.Colbon,D.Dumanoski&P.Myers (長尾力訳) 『奪われし未来』 翔詠社 (1997年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 化学の基礎①
- 2回 化学の基礎②
- 3回 香水.....うるわしい、かぐわしい、においの正体は？【香水】
- 4回～5回 砂糖と人工甘味料.....砂糖を科学する【単糖類】【オリゴ糖】
- 6回 アルコール.....上手につきあうためには【エチルアルコール】【アセトアルデヒド】
- 7回 コレステロール、脂肪、繊維.....メタボ対策の秘策は
- 8回 くすり.....アスピリンは万能薬【鎮痛剤】【鎮静剤】【麻薬】
- 9回～10回 ポリ塩化ビニール.....【プラスチック】【ポリマー】【環境問題】
- 11回～12回 ダイオキシシン.....史上最強の毒物【ダイオキシシン類】【環境汚染】
- 13回 無機窒素肥料.....有機肥料との違いは【窒素サイクル】【硝酸イオン】
- 14回 二酸化炭素.....地球温暖化の元凶【地球温暖化】【炭素サイクル】
- 15回 化学の時代へ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2006年度以前入学生は、授業科目「薬とくらし」、「栄養とくらし」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。
2007年度以降入学生は、授業科目「自己管理論」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学・心理士の立場から、発達障害リスク児への地域支援について考える。発達障害リスク児の早期スクリーニングとその後の療育的支援・就学移行支援について、行政・医療・教育・福祉・心理などの専門家と子ども本人やその家族が一緒になって地域支援体制を整えてきた具体例を参考に、発達障害リスク児に対する乳児期から小学校への移行支援について“地域で支える”地域連携の視点も踏まえて検討する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大神英裕(2008)『発達障害の早期支援 研究と実践を紡ぐ新しい地域連携』ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : オリエンテーション
- 第2回 : 早期幼児特別支援教育を巡る施策と研究の動向
- 第3回 : 乳幼児健診事業と心理・発達アセスメント(1)
- 第4回 : 乳幼児健診事業と心理・発達アセスメント(2)
- 第5回 : 乳幼児期コミュニケーション行動の定型発達過程(1)
- 第6回 : 乳幼児期コミュニケーション行動の定型発達過程(2)
- 第7回 : 発達障害リスク児の早期スクリーニング(1)
- 第8回 : 発達障害リスク児の早期スクリーニング(2)
- 第9回 : 発達障害リスク児の早期支援(1)
- 第10回 : 発達障害リスク児の早期支援(2)
- 第11回 : 発達障害リスク児の早期支援(3)
- 第12回 : 小学校への移行支援(1)
- 第13回 : 小学校への移行支援(2)
- 第14回 : 移行支援における地域連携の重要性と課題
- 第15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植、着床前診断、中絶といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)、○平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)、○川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版](有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは何か ~ 本講義の構成と概説
- 第2回~第8回 「正義」の応用問題 ~ 生命倫理と法【安楽死・尊厳死】【着床前診断】【中絶】【脳死・臓器移植】
- 第9回~第13回 「現代正義論」【ロールズ】【ノジック】【共同体主義】【裁判員制度】
- 第14回~第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「市民活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 市民活動の戦後史
 - 4回～5回 市民活動の現代史
 - 6回～7回 市民活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 市民活動の争点①
 - 11回～12回 市民活動の争点②
 - 13回～14回 市民活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加も求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【夜】

担当者名 /Instructor
山本 光英 / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡 邦信 / 法律学科, 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
落合 俊行 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「個人と国家との関係」(落合)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この科目では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを適宜配布するか、ホームページからのダウンロードを指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。
- 1回 グローバル化とは何か(定義、諸説、歴史)
 - 2～3回 日本・米国経済のグローバル化 【ブラザ合意】 【FTA】
 - 4～6回 EU経済とグローバル化 【ユーロ】 【安定成長協定】
 - 7～8回 アジア経済とグローバル化 【WTO】 【技術移転】
 - 9～10回 企業の国際的活動とグローバル化 【多国籍企業】 【直接投資】 【国際経営比較】
 - 11～13回 金融規制緩和とグローバル化 【証券化】 【為替制度】
 - 14回 グローバル化の展望と世界経済への影響 【貧富の差】 【経済発展】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布されるプリントの予習復習を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいつて経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣 2006年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【夜】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 神野志隆光『「日本」とは何か』(講談社現代新書、2005年)
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』(山川出版社、2006年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義とは?【過去との対話】【史料】
- 第2回 「日本」とは何か(1)【国号】【日本】【倭】
- 第3回 「日本」とは何か(2)【鎖国】
- 第4回 「日本」とは何か(3)【日本人】
- 第5回 境界から考える(1)【蝦夷】【アイヌ】
- 第6回 境界から考える(2)【北海道開拓】
- 第7回 境界から考える(3)【琉球】【薩摩】
- 第8回 境界から考える(4)【琉球処分】【沖縄】
- 第9回 境界から考える(5)【対馬】
- 第10回 境界から考える(6)【博多】
- 第11回 「帝国日本」の形成と解体(1)【日清戦争】【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成と解体(2)【日露戦争】【日韓併合】
- 第13回 「帝国日本」の形成と解体(3)【満蒙問題】【満洲国】
- 第14回 「帝国日本」の形成と解体(4)【敗戦】【引き揚げ】【講和条約】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成①【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成②【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成①【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成②【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開①【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開②【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史 【夜】

担当者名 /Instructor 内田 直文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古来より中国は様々な民族を吸収しながら変容を繰り返しており、周辺諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきた。講義では、東アジアの歴史の変遷を考察することで、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにする。さらにそれを通じて②東アジア諸地域の未来像を自ら構想することのできる力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-講義の目標-
- 2回 モンゴル帝国の拡張 【チンギス=ハーン・分封・ケシク制】
- 3回 クビライ世界帝国の構想 【ジャムチ・大都】
- 4回 蒙古襲来と高麗・日本 【文永の役・弘安の役・石築地・鎌倉幕府】
- 5回 モンゴル帝国の遺産 【モンゴルシステム】
- 6回 明朝「中華世界システム」の形成(1)-朝貢・朝貢貿易・海禁 【前期倭寇・洪武帝】
- 7回 明朝「中華世界システム」の形成(2)-永楽帝とその時代 【鄭和・モンゴル親征】
- 8回 琉球王朝からみたアジア 【閩人三十六姓・万国津梁の鐘・唐営】
- 9回 明朝朝貢体制の崩壊(1)-国際交易の活発化と後期倭寇 【銀流通・王直】
- 10回 明朝朝貢体制の崩壊(2)-豊臣秀吉の「唐入り」と清朝政権の台頭 【文禄・慶長の役】
- 11回 明清交替とアジア諸地域の対応 【華夷変態・鄭成功】
- 12回 大清皇帝とその版図支配(1)-入関前の清朝政権 【ヌルハチ・ホンタイジ】
- 13回 大清皇帝とその版図支配(2)-入関後の清朝政権 【康熙帝・雍正帝・乾隆帝・軍機処】
- 14回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(1) 【華夷秩序・軍事政権】
- 15回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(2) 【朝貢・大君外交】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20% 定期試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

『現代の社会的解釈』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～2回 社会学の基本的考え方【社会的行為】、【社会関係】、【社会構造】。
- 3回～4回 社会と個人 - デュルケムの方法『自殺論』【自己本位的自殺】【アノミー的自殺】
- 5回～6回 個人と社会 - ウェーバーの方法 - 『プロ論』【理解社会学】【行為の意味連関】
- 【意図せざる結果】
- 7回～8回 集団と組織【第1次集団】【準拠集団】
- 9回～10回 家族【家族】【機能】【産業化】【近代家族】
- 10回～13回 社会階層と社会移動【ジニ係数】【移動指標】【地位の非一貫性】
- 14回 グローバル化とエスニシティ【グローバリゼーション】【多文化共生】【統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、各回テキストならびに配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して倫理という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。思想の歴史において倫理学というジャンルがどのように発展してきたのかを学ぶことが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理 (補足)
- 9回 近代倫理学の誕生 (1) イギリス経験論
- 10回 近代倫理学の誕生 (2) 契約説の確立
- 11回 近代倫理学の発展 (1) カント
- 12回 近代倫理学の発展 (2) 功利主義
- 13回 近代倫理学への批判 (1) ニーチェ
- 14回 近代倫理学への批判 (2) 徳倫理
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小レポート含む) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions Reading
- 2 回 Picture Questions Reading
- 3 回 Picture Questions Reading
- 4 回 Question-Response Reading
- 5 回 Question-Response Reading
- 6 回 Question-Response Reading
- 7 回 Short Conversations Reading
- 8 回 Short Conversations Reading
- 9 回 Short Conversations Reading
- 1 0 回 Short Conversations Reading
- 1 1 回 Short Talks Reading
- 1 2 回 Short Talks Reading
- 1 3 回 Short Talks Reading
- 1 4 回 Short Talks Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング インタロダクション
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【夜】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are reading and discussing essays. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors.

教科書 /Textbooks

All written materials will be furnished by the teacher. Written materials for the next class will be handed to student by the teacher at the end of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 "Essay - 1 Under the Blossoms By Kaori Shoji
- "
- 第3回 "Essay - 2 The Edo Spirit By Kaori Shoji
- "
- 第4回 "Essay - 3 Tough to Swallow By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第5回 "Essay - 4 Caveat Emptor By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第6回 "Essay - 5 I will survive By Anita Lee
- "
- 第7回 "Essay - 6 Going on ten ... By Anita Lee
- "
- 第8回 "Essay - 7 Honing Appreciation By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第9回 "Essay - 8 Leaving it all behind By Samantha Loong
- "
- 第10回 "Essay - 9 The Halloween Exorcise Plan By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第11回 "Essay - 10 Promoting reading By Joel Assogba
- "
- 第12回 "Essay - 11 Abandoned buildings By Samantha Loong
- "
- 第13回 "Essay - 12 History, is it worth it? By Garry Bassin
- "
- 第14回 "Essay - 13 No ifs, ands, or butts By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【夜】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are reading and discussing essays. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors.

教科書 /Textbooks

All written materials will be furnished by the teacher. Written materials for the next class will handed to student by the teacher at the end of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 "Essay - 1 Earthquake Weather By Samantha Loong
- "
- 第3回 "Essay - 2 Enjoy Every Sandwich By Steve Ford
- "
- 第4回 "Essay - 3 Summer Preserves By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第5回 "Essay - 4 The Island Monologues By Garry Bassin
- "
- 第6回 "Essay - 5 It's tough being a man, but it's a whole new ball game By Kaori Shoji
- "
- 第7回 "Essay - 6 Thriller By Kit Pancoast Nagamur
- "
- 第8回 "Essay - 7 Dialect Diversity By Samantha Loong
- "
- 第9回 "Essay - 8 Fear of the Unknown By Garry Bassin
- "
- 第10回 "Essay - 9 Flee! Fly! Flu! By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第11回 "Essay - 10 The Birds By Garry Bassin
- "
- 第12回 "Essay - 11 Blowing smoke By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第13回 "Essay - 12 Don't Kill the Messenger By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第14回 "Essay - 13 Restore, Not Raze By Karen Severns
- "
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：日本文化とイギリス文化
ねらい：① 英語教材を通して、日本文化と英米文化の異同を考える
② TOEICなどに必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方・ Unit 1
- 第2回 Unit 2
- 第3回 Unit 3
- 第4回 Unit 4
- 第5回 Unit 5
- 第6回 Unit 6
- 第7回 Unit 7
- 第8回 Unit 8
- 第9回 Unit 9
- 第10回 Unit 10
- 第11回 Unit 11
- 第12回 Unit 12
- 第13回 Unit 13
- 第14回 Unit 14
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業への参加度...15% 期末試験...80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：日本文化とアメリカ文化
ねらい：① 英語教材を通して、日本文化とアメリカ文化の異同を考える
② TOEICなどに必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の進め方・Unit 1
第2回 Unit 2
第3回 Unit 3
第4回 Unit 4
第5回 Unit 5
第6回 Unit 6
第7回 Unit 7
第8回 Unit 8
第9回 Unit 9
第10回 Unit 10
第11回 Unit 11
第12回 Unit 12
第13回 Unit 13
第14回 Unit 14
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業への参加度...15% 期末試験...80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【夜】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction to the course: Self introduction
- 第2回 My favourite place in Japan
- 第3回 My important friends
- 第4回 The sports I enjoy to watch and play
- 第5回 The places I want to visit
- 第6回 The food I like and what I can make
- 第7回 My favourite movies and actors/actresses
- 第8回 Countries of the world
- 第9回 What I would buy with 10 million yen
- 第10回 My family
- 第11回 The music I like
- 第12回 What I want to have for my dinner
- 第13回 What I do in the morning (routine)
- 第14回 The season I like
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 英夜2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) My summer holiday
- 第2回 The pets I like / the animals I hate
- 第3回 Health and fitness
- 第4回 The crossword puzzle
- 第5回 The person I want to meet
- 第6回 What I want for Christmas this year
- 第7回 My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回 Sporting heroes
- 第9回 The TV programmes I like to watch
- 第10回 My skills
- 第11回 My future dream
- 第12回 How I get the news in my life
- 第13回 My three most important possessions
- 第14回 My biggest worry at the moment
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか?【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか?【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか?【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検5級が受験できる程度以上の文法知識を習得する。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉・玉田健二『フランス語を1、2の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 不定冠詞、定冠詞
- 3回 リエゾン
- 4回 主語人称代名詞、第1群規則動詞
- 5回 第1群規則動詞、疑問文
- 6回 否定文、疑問文への答え方、形容詞(1)
- 7回 所有形容詞、動詞(être)
- 8回 動詞(avoir)、冠詞の変形
- 9回 第2群規則動詞、指示形容詞、形容詞(2)
- 10回 冠詞の宿約、部分冠詞
- 11回 動詞(aller)
- 12回 動詞(venir)、命令法
- 13回 疑問代名詞、直接目的語代名詞
- 14回 間接目的語代名詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出欠含む) ... 40% 期末試験... 40% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめテキストを熟読しておくこと。
動詞変化を宿題として出すので、覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検4級が受験できる程度以上の文法知識を習得する。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉・玉田健二『フランス語を1、2の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 比較級、最上級
- 2回 代名動詞
- 3回 複合過去
- 4回 単純未来
- 5回 関係代名詞(1)、半過去
- 6回 大過去
- 7回 条件法現在
- 8回 条件法過去
- 9回 現在分詞、ジェロンディフ
- 10回 過去分詞の一致、疑問形容詞、人称代名詞強勢形
- 11回 非人称構文、受動態、指示代名詞
- 12回 関係代名詞(2)、中性代名詞
- 13回 接続法現在
- 14回 接続法過去
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出欠含む) ... 40% 期末試験... 40% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめテキストを熟読しておくこと。
動詞変化を宿題として出すので、覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の初歩的な会話表現を学びます。文法のクラス(「フランス語I・基礎I」と併せて受講し6月の仏検で5級に合格できる力をつけることを目指します。
キーワード・・・ 仏検5級

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話I(CD付き)』(加藤雅郁著、駿河台出版社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは会話文を学ぶ10課構成。進度の目安は一回一課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 フランス語と授業のやり方についての説明。
- 2回 1課
- 3回 2課
- 4回 3課
- 5回 4課
- 6回 5課
- 7回 6課
- 8回 7課
- 9回 8課
- 10回 9課
- 11回 10課
- 12回 復習1
- 13回 復習2
- 14回 復習3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%

※6月の仏検で5級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の初歩的な会話表現を学びます。文法クラスの授業と併せて11月の仏検で4級に合格できる力をつけることを目指します。
キーワード・・・ 仏検4級

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話II (CD付き)』 (加藤雅郁著、駿河台出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは会話文を学ぶ10課構成。進度の目安は一回一課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 1課
- 2回 2課
- 3回 3課
- 4回 4課
- 5回 5課
- 6回 6課
- 7回 7課
- 8回 8課
- 9回 9課
- 10回 10課
- 11回 復習1
- 12回 復習2
- 13回 復習3
- 14回 復習4
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%
※11月の仏検で4級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords